

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
	1年				
	家族を問う 小野 憲昭	1学期	1	2	2
	1年				
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	3
	1年				
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	4
	1年				
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	5
	1年				
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
	1年				
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	7
	2年				
	家族の再生 小野 憲昭	2学期	2	2	8
	2年				
文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	9	
2年					
言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	10	
2年					
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	11	
2年					
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	12	
2年					
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	13	
1年					
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
2年					
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	15
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 徳永 政夫	1学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	19
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	20
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	21
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	22
		1年			
	自己管理論 生田カツ工、稲月正	2学期	1	2	23
		1年			
	キャリア・デザイン 真鍋 和博	1学期	1	2	24
	1年				
キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	25	
	1年				
コミュニケーションと思考法 真鍋 和博	2学期	1	2	26	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	27	
	2年				
大学論・学問論 休講	1学期	1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	28	
	1年				
社会調査 稲月 正	2学期	1	2	29	
	1年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	統計を読む・統計をつくる	集中	1	2	30
	山本 努	1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー)	1学期	1	1	31
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス)	1学期	1	1	32
	原田 守治	1年			
	フィジカル・エクササイズI(バスケットボール)	1学期	1	1	33
	原田 守治	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	34
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	35
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	36
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	37
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	38
	徳永 政夫	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	39
	磯貝 浩久	1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	40	
原田 守治	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	41	
原田 守治	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	42	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	43	
鯨 吉夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	44	
鯨 吉夫	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	45
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ)	2学期	1	1	46
	加倉井 美智子	1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I	1学期	1	2	47
	日高 京子	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	48
	小林 道彦	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	49
	神原 ゆうこ	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	50
	徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	51
	稲月 正	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	52
	小野 憲昭	1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー)	1学期	1	2	53
	戸蒔 仁司	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	54
	伊原木 大祐	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	55
	二宮 正人	1年			
教養基礎演習I	1学期	1	2	56	
高西 敏正	1年				
教養基礎演習I	1学期	1	2	57	
伊野 憲治 他	1年				
教養基礎演習II	2学期	1	2	58	
日高 京子	1年				
教養基礎演習II	2学期	1	2	59	
小林 道彦	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II	2学期	1	2	60
	神原 ゆうこ	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	61
	徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	62
	稲月 正	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	63
	小野 憲昭	1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー)	1学期	1	2	64
	戸蒔 仁司	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	65
	伊原木 大祐	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	66
	二宮 正人	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	67
	高西 敏正	1年			
教養基礎演習II	2学期	1	2	68	
伊野 憲治 他	1年				
教養基礎演習II	2学期	1	2	69	
眞鍋 和博 他	1年				
教養演習AI	1学期	2	2	70	
日高 京子	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	71	
小林 道彦	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	72	
神原 ゆうこ	2年				
教養演習AI (防衛セミナー)	1学期	2	2	73	
戸蒔 仁司	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	74	
稲月 正	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習 A I 伊原木 大祐	1学期	2	2	75
		2年			
	教養演習 A I 伊野 憲治 他	1学期	2	2	76
		2年			
	教養演習 A I 徳永 政夫 他	1学期	2	2	77
		2年			
	教養演習 A I 小野 憲昭	1学期	2	2	78
		2年			
	教養演習 A II 日高 京子	2学期	2	2	79
		2年			
	教養演習 A II 小林 道彦	2学期	2	2	80
		2年			
	教養演習 A II 神原 ゆうこ	2学期	2	2	81
		2年			
	教養演習 A II (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	82
		2年			
	教養演習 A II 稲月 正	2学期	2	2	83
		2年			
	教養演習 A II 伊原木 大祐	2学期	2	2	84
		2年			
教養演習 A II 伊野 憲治 他	2学期	2	2	85	
	2年				
教養演習 A II 徳永 政夫 他	2学期	2	2	86	
	2年				
教養演習 A II 小野 憲昭	2学期	2	2	87	
	2年				
教養演習 B I 日高 京子	1学期	3	2	88	
	3年				
教養演習 B I 小野 憲昭	1学期	3	2	89	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ 小林 道彦	1学期	3	2	90
		3年			
	教養演習BⅠ 神原 ゆうこ	1学期	3	2	91
		3年			
	教養演習BⅠ(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	92
		3年			
	教養演習BⅠ 稲月 正	1学期	3	2	93
		3年			
	教養演習BⅠ 伊原木 大祐	1学期	3	2	94
		3年			
	教養演習BⅠ 伊野 憲治 他	1学期	3	2	95
		3年			
	教養演習BⅠ 徳永 政夫 他	1学期	3	2	96
		3年			
	教養演習BⅡ 日高 京子	2学期	3	2	97
		3年			
教養演習BⅡ 小野 憲昭	2学期	3	2	98	
	3年				
教養演習BⅡ 小林 道彦	2学期	3	2	99	
	3年				
教養演習BⅡ 神原 ゆうこ	2学期	3	2	100	
	3年				
教養演習BⅡ(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	101	
	3年				
教養演習BⅡ 稲月 正	2学期	3	2	102	
	3年				
教養演習BⅡ 伊原木 大祐	2学期	3	2	103	
	3年				
教養演習BⅡ 伊野 憲治 他	2学期	3	2	104	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII 徳永 政夫 他	2学期	3	2	105
		3年			
	プロジェクト演習I 見館 好隆	2学期	2	2	106
		2年			
	プロジェクト演習II 見館 好隆	1学期	3	2	107
		3年			
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	108
		1年			
	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	109
		1年			
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	110
		1年			
	自然史へのいざない 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	111
		1年			
	くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	112
		1年			
	現代人のこころ 田島 司	1学期	1	2	113
		1年			
	数のたのしみ 高妻 倫太郎	集中	1	2	114
		1年			
	私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	115
	1年				
思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	116	
	1年				
ものがたりと人間 休講		1	2		
	1年				
文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	117	
	1年				
言語とコミュニケーション 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	芸術と人間 花田 伸一	2学期	1	2	118
		1年			
	文学を読む 休講	1学期	1	2	
		1年			
	戦争と人間 戸蒔 仁司 他	1学期	1	2	119
		1年			
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	120
		1年			
	民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	121
		1年			
	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	122
		1年			
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	123
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	124
		1年			
	共生の作法 山本 光英 、法学部教員	2学期	1	2	125
		1年			
	北九州学 小野 憲昭	2学期	1	2	126
		1年			
市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	127	
	1年				
企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	128	
	1年				
つながりの人間学 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁	1学期	1	2	129	
	1年				
現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	130	
	1年				
現代社会の諸問題 山本 光英 、法学部法律学科教員	2学期	1	2	131	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代の国際情勢 金 鳳 珍	1学期	1	2	132
		1年			
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	133
		1年			
	国際紛争と国連 戸蒔 仁司	1学期	1	2	134
		1年			
	民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	135
		1年			
	開発と統治 三宅 博之 他	1学期	1	2	136
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	2学期	1	2	137
		1年			
	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	138
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	139
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	140
		1年			
歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	141	
	1年				
そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	142	
	1年				
戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	143	
	1年				
都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	144	
	1年				
ものと人間の歴史 中野 博文	1学期	1	2	145	
	1年				
人物と時代の歴史 新村昭雄 (文)、三宅博之 (法)、乗口眞一郎、山崎勇治	1学期	1	2	146	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	教養特講I 田村 慶子 他	1学期	1	2	147	
		1年				
	教養特講II 日高 京子 他	2学期	1	2	148	
		1年				
	教養特講III 小野 憲昭	2学期	1	2	149	
		1年				
	教養特講IV 大杉 一之 他	2学期	1	2	150	
		1年				
	■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	151
			1年			
		西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	152
			1年			
東洋史 藤野 月子		2学期	1	2	153	
		1年				
社会学 稲月 正		1学期	1	2	154	
		1年				
人文地理学 吉津 直樹		2学期	1	2	155	
		1年				
土地地理学 野井 英明		1学期	1	2	156	
		1年				
地誌学 吉津 直樹		1学期	1	2	157	
		1年				
倫理学 伊原木 大祐		2学期	1	2	158	
	1年					
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 光藤 雄一	2学期	1	2	159	
		1年				
	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	160	
		1年				
	データ処理 佐々木 実	1学期	1	2	161	
		1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■情報教育科目	データ処理 光藤 雄一	1学期	1	2	162
		1年			
	データ処理 棚次 奎介	1学期	1	2	163
		1年			
	情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	164
		2年			
	情報表現 浅羽 修丈	2学期	2	2	165
		2年			
	プログラミング基礎 中尾 泰士	2学期	2	2	166
		2年			
	プログラミング基礎 中尾 泰士	1学期	2	2	167
		2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 下條 かおり	1学期	1	1	168
		律政群1 - A			
	英語I 葛西 宏信	1学期	1	1	169
		律政群1 - B			
	英語I 永末 康介	1学期	1	1	170
		律政群1 - C			
	英語I 石田 由希	1学期	1	1	171
		律政群1 - D			
	英語I 安丸 雅子	1学期	1	1	172
		律政群1 - E			
英語I 野上 良子	1学期	1	1	173	
	律政群1 - F				
英語I 酒井 秀子	1学期	1	1	174	
	律政群1 - G				
英語I 十時 康	1学期	1	1	175	
	律政1 - H				
英語I 木梨 安子	1学期	1	1	176	
	律政群1 - I				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語II ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	177
		律政群 1 - A			
	英語II 永末 康介	2学期	1	1	178
		律政群 1 - B			
	英語II 葛西 宏信	2学期	1	1	179
		律政群 1 - C			
	英語II 石田 由希	2学期	1	1	180
		律政群 1 - D			
	英語II 安丸 雅子	2学期	1	1	181
		律政群 1 - E			
	英語II 下條 かおり	2学期	1	1	182
		律政群 1 - F			
	英語II 酒井 秀子	2学期	1	1	183
		律政群 1 - G			
	英語II 十時 康	2学期	1	1	184
		律政 1 - H			
	英語II 木梨 安子	2学期	1	1	185
		律政群 1 - I			
英語III ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	1	1	186	
	律政群 1 - A				
英語III デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	187	
	律政群 1 - B				
英語III ジャマール・ミラー	1学期	1	1	188	
	律政群 1 - C				
英語III アレクサンダー・ボードナー	1学期	1	1	189	
	律政群 1 - D				
英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	190	
	律政群 1 - E				
英語III ホセ・クルーズ	1学期	1	1	191	
	律政群 1 - F				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	192
		律政群 1 - G			
	英語III ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	193
		律政 1 - H			
	英語III 船方 浩子	1学期	1	1	194
		律政群 1 - I			
	英語IV リズ・クレシーニ	2学期	1	1	195
		律政群 1 - A			
	英語IV デビッド・アダム・ストット	2学期	1	1	196
		律政群 1 - B			
	英語IV ジャマール・ミラー	2学期	1	1	197
		律政群 1 - C			
	英語IV アレクサンダー・ボードナー	2学期	1	1	198
		律政群 1 - D			
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	199
		律政群 1 - E			
	英語IV ホセ・クルーズ	2学期	1	1	200
		律政群 1 - F			
英語IV デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	201	
	律政群 1 - G				
英語IV 永末 康介	2学期	1	1	202	
	律政 1 - H				
英語IV 船方 浩子	2学期	1	1	203	
	律政群 1 - I				
英語V 薬師寺 元子	1学期	2	1	204	
	律政群 2 - A				
英語V 三宅 啓子	1学期	2	1	205	
	律政群 2 - B				
英語V 木梨 安子	1学期	2	1	206	
	律政群 2 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語V 漆原 郎子	1学期	2	1	207
		律政群 2 - D			
	英語V 十時 康	1学期	2	1	208
		律政群 2 - E			
	英語V 安丸 雅子	1学期	2	1	209
		律政群 2 - F			
	英語V 村田 希巳子	1学期	2	1	210
		律政群 2 - G			
	英語V 中島 美穂子	1学期	2	1	211
		律政 2 - H			
	英語V 大塚 由美子	1学期	2	1	212
		律政群 2 - I			
	英語VI アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	213
		律政群 2 - A			
	英語VI 三宅 啓子	2学期	2	1	214
		律政群 2 - B			
	英語VI 木梨 安子	2学期	2	1	215
		律政群 2 - C			
	英語VI 薬師寺 元子	2学期	2	1	216
		律政群 2 - D			
英語VI 十時 康	2学期	2	1	217	
	律政群 2 - E				
英語VI 安丸 雅子	2学期	2	1	218	
	律政群 2 - F				
英語VI 村田 希巳子	2学期	2	1	219	
	律政群 2 - G				
英語VI 中島 美穂子	2学期	2	1	220	
	律政 2 - H				
英語VI 大塚 由美子	2学期	2	1	221	
	律政群 2 - I				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VII デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	2	1	222
		律政群2 - A			
	英語VII ホセ・クルーズ	1学期	2	1	223
		律政群2 - B			
	英語VII アレクサンダー・ボードナー	1学期	2	1	224
		律政群2 - C			
	英語VII ロバート・マーフィ	1学期	2	1	225
		律政群2 - D			
	英語VII ケネス・ギブソン	1学期	2	1	226
		律政群2 - E			
	英語VII アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	227
		律政群2 - F			
	英語VII マーニー・セイディ	1学期	2	1	228
		律政群2 - G			
	英語VII 船方 浩子	1学期	2	1	229
		律政2 - H			
	英語VII 薬師寺 元子	1学期	2	1	230
		律政群2 - I			
	英語VIII デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	2	1	231
		律政群2 - A			
英語VIII ホセ・クルーズ	2学期	2	1	232	
	律政群2 - B				
英語VIII アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	233	
	律政群2 - C				
英語VIII ロバート・マーフィ	2学期	2	1	234	
	律政群2 - D				
英語VIII ケネス・ギブソン	2学期	2	1	235	
	律政群2 - E				
英語VIII アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	236	
	律政群2 - F				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VIII マーニー・セイテイ	2学期	2	1	237
		律政群2 - G			
	英語VIII クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	238
		律政2 - H			
	英語VIII 薬師寺 元子	2学期	2	1	239
		律政群2 - I			
	英語IX 伊藤 晃	1学期	3	1	240
		済営律政3年			
	英語X 杉山 智子	2学期	3	1	241
		済営律政3年			
	英語XI ダニー・ミン	1学期	3	1	242
		済営律政3年			
英語XII ダニー・ミン	2学期	3	1	243	
	済営律政3年				
■第二外国語	中国語I 野村 和代	1学期	1	1	244
		律群1年			
	中国語II 野村 和代	2学期	1	1	245
		律群1年			
	中国語III 李 東輝	1学期	1	1	246
		律群1年			
	中国語IV 李 東輝	2学期	1	1	247
		律群1年			
中国語V 野村 和代	1学期	2	1	248	
	済営人律政群2年				
中国語VI 野村 和代	2学期	2	1	249	
	済営人律政群2年				
中国語VII 馮 雅蓮	1学期	2	1	250	
	済営人律政群2年				
中国語VIII 王 晨	2学期	2	1	251	
	済営人律政群2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語Ⅰ 金 貞淑	1学期	1	1	252
		律政 1年			
	朝鮮語Ⅱ 金 貞淑	2学期	1	1	253
		律政 1年			
	朝鮮語Ⅲ 金 光子	1学期	1	1	254
		律政 1年			
	朝鮮語Ⅳ 金 光子	2学期	1	1	255
		律政 1年			
	朝鮮語Ⅴ 金 貞愛	1学期	2	1	256
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅵ 金 貞愛	2学期	2	1	257
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅶ 金 貞淑	1学期	2	1	258
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語Ⅷ 金 貞淑	2学期	2	1	259
		済営比人律政群 2年			
	ロシア語Ⅰ 芳之内 雄二	1学期	1	1	260
		律政 1年			
ロシア語Ⅱ 芳之内 雄二	2学期	1	1	261	
	律政 1年				
ロシア語Ⅲ ナタリア・シエスタコーフ	1学期	1	1	262	
	律政 1年				
ロシア語Ⅳ ナタリア・シエスタコーフ	2学期	1	1	263	
	律政 1年				
ロシア語Ⅴ 芳之内 雄二	1学期	2	1	264	
	済営比人律政 2年				
ロシア語Ⅵ 芳之内 雄二	2学期	2	1	265	
	済営比人律政 2年				
ロシア語Ⅶ ナタリア・シエスタコーフ	1学期	2	1	266	
	済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語VIII ナタリア・シエスタコーフ	2学期	2	1	267
		済営比人律政2年			
	ドイツ語I 山下 哲雄	1学期	1	1	268
		律政1年			
	ドイツ語II 山下 哲雄	2学期	1	1	269
		律政1年			
	ドイツ語III 山下 哲雄	1学期	1	1	270
		律政1年			
	ドイツ語IV 山下 哲雄	2学期	1	1	271
		律政1年			
	ドイツ語V 山下 哲雄	1学期	2	1	272
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VI 山下 哲雄	2学期	2	1	273
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VII 山下 哲雄	1学期	2	1	274
		済営比人律政2年			
	ドイツ語VIII 山下 哲雄	2学期	2	1	275
		済営比人律政2年			
	フランス語I 坂田 由紀	1学期	1	1	276
		律政1年			
フランス語II 坂田 由紀	2学期	1	1	277	
	律政1年				
フランス語III 山下 広一	1学期	1	1	278	
	律政1年				
フランス語IV 山下 広一	2学期	1	1	279	
	律政1年				
フランス語V 中川 裕二	1学期	2	1	280	
	済営比人律政2年				
フランス語VI 中川 裕二	2学期	2	1	281	
	済営比人律政2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語VII 山下 高之	1学期	2	1	282
		済営比人律政2年			
	フランス語VIII 山下 高之	2学期	2	1	283
		済営比人律政2年			
	スペイン語I 青木 文夫	1学期	1	1	284
		律政1年			
	スペイン語II 青木 文夫	2学期	1	1	285
		律政1年			
	スペイン語III 辻 博子	1学期	1	1	286
		律政1年			
スペイン語IV トマス・マリン・アルビ	2学期	1	1	287	
	律政1年				
スペイン語V 辻 光博	1学期	2	1	288	
	済営比人律政2年				
スペイン語VI 辻 光博	2学期	2	1	289	
	済営比人律政2年				
スペイン語VII 辻 博子	1学期	2	1	290	
	済営比人律政2年				
スペイン語VIII トマス・マリン・アルビ	2学期	2	1	291	
	済営比人律政2年				
■留学生特別科目	日本語A 小林 浩明 他	1学期(ペア)	1	2	292
		留学生1年			
	日本語B 則松 智子	1学期(ペア)	1	2	293
		留学生1年			
	日本語C 小林 浩明 他	2学期(ペア)	1	2	294
		留学生1年			
日本語D 清水 順子	2学期(ペア)	1	2	295	
	留学生1年				
日本事情(人文)A 小林 浩明	1学期	1	2	296	
	留学生1年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本事情(人文)B ジェームズ・バスキンド	2学期	1	2	297
		留学生1年			
	日本事情(社会)A 国際教育交流センター 山崎 勇治	1学期	1	2	298
		留学生1年			
	日本事情(社会)B 国際教育交流センター 山崎 勇治	2学期	1	2	299
		留学生1年			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習I 今泉 恵子	1学期	1	2	300
		1年			
	法学基礎演習I 植木 淳	1学期	1	2	301
		1年			
	法学基礎演習I 大杉 一之	1学期	1	2	302
		1年			
	法学基礎演習I 岡 邦信	1学期	1	2	303
		1年			
	法学基礎演習I 岡本 博志	1学期	1	2	304
		1年			
	法学基礎演習I 小池 順一	1学期	1	2	305
		1年			
	法学基礎演習I 重松 博之	1学期	1	2	306
		1年			
法学基礎演習I 高橋 衛	1学期	1	2	307	
	1年				
法学基礎演習I 中山 布紗	1学期	1	2	308	
	1年				
法学基礎演習I 二宮 正人	1学期	1	2	309	
	1年				
法学基礎演習I 朴 元奎	1学期	1	2	310	
	1年				
法学基礎演習I 福本 忍	1学期	1	2	311	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習Ⅰ 山本 光英	1学期	1	2	312
		1年			
	法学基礎演習Ⅰ 吉村 弘	1学期	1	2	313
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 今泉 恵子	2学期	1	2	314
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 植木 淳	2学期	1	2	315
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 大杉 一之	2学期	1	2	316
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 岡 邦信	2学期	1	2	317
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 岡本 博志	2学期	1	2	318
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 小池 順一	2学期	1	2	319
		1年			
	法学基礎演習Ⅱ 重松 博之	2学期	1	2	320
		1年			
法学基礎演習Ⅱ 高橋 衛	2学期	1	2	321	
	1年				
法学基礎演習Ⅱ 中山 布紗	2学期	1	2	322	
	1年				
法学基礎演習Ⅱ 二宮 正人	2学期	1	2	323	
	1年				
法学基礎演習Ⅱ 朴 元奎	2学期	1	2	324	
	1年				
法学基礎演習Ⅱ 福本 忍	2学期	1	2	325	
	1年				
法学基礎演習Ⅱ 山本 光英	2学期	1	2	326	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習II	2学期	1	2	327
	吉村 弘	1年			
	外国文献研究I	1学期	2	2	328
	岡 邦信	2年			
	外国文献研究I	1学期	2	2	329
	矢澤 久純	2年			
	外国文献研究I	1学期	2	2	330
	福本 忍	2年			
	外国文献研究II	2学期	2	2	331
	吉村 弘	2年			
	外国文献研究II	2学期	2	2	332
	中山 布紗	2年			
	外国文献研究II	2学期	2	2	333
	津田 小百合	2年			
	法哲学専門演習I	1学期	3	2	334
	重松 博之	3年			
	法哲学専門演習II	2学期	3	2	335
	重松 博之	3年			
	法制史専門演習I	1学期	3	2	336
	岡 邦信	3年			
法制史専門演習II	2学期	3	2	337	
岡 邦信	3年				
憲法専門演習I	1学期	3	2	338	
植木 淳	3年				
憲法専門演習II	2学期	3	2	339	
植木 淳	3年				
行政法専門演習I	1学期	3	2	340	
岡本 博志	3年				
行政法専門演習II	2学期	3	2	341	
岡本 博志	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	刑法専門演習I	1学期	3	2	342
	山本 光英	3年			
	刑法専門演習I	1学期	3	2	343
	大杉 一之	3年			
	刑法専門演習II	2学期	3	2	344
	山本 光英	3年			
	刑法専門演習II	2学期	3	2	345
	大杉 一之	3年			
	刑事訴訟法専門演習I	1学期	3	2	346
	吉村 弘	3年			
	刑事訴訟法専門演習II	2学期	3	2	347
	吉村 弘	3年			
	刑事学専門演習I	1学期	3	2	348
	朴 元奎	3年			
	刑事学専門演習II	2学期	3	2	349
	朴 元奎	3年			
	社会保障法専門演習I	休講	3	2	
	3年				
	社会保障法専門演習II	休講	3	2	
	3年				
労働法専門演習I	休講	3	2		
3年					
労働法専門演習II	休講	3	2		
3年					
国際法専門演習I	二宮 正人	1学期	3	2	350
3年					
国際法専門演習II	二宮 正人	2学期	3	2	351
3年					
民法専門演習I	福本 忍	1学期	3	2	352
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	民法専門演習I 中山 布紗	1学期	3	2	353
		3年			
	民法専門演習II 福本 忍	2学期	3	2	354
		3年			
	民法専門演習II 中山 布紗	2学期	3	2	355
		3年			
	民事訴訟法専門演習I 小池 順一	1学期	3	2	356
		3年			
	民事訴訟法専門演習II 小池 順一	2学期	3	2	357
		3年			
	企業法専門演習I 今泉 恵子	1学期	3	2	358
		3年			
	企業法専門演習I 高橋 衛	1学期	3	2	359
		3年			
	企業法専門演習II 今泉 恵子	2学期	3	2	360
		3年			
	企業法専門演習II 高橋 衛	2学期	3	2	361
		3年			
	個別研究指導I 今泉 恵子	1学期	4	2	362
		4年			
個別研究指導I 植木 淳	1学期	4	2	363	
	4年				
個別研究指導I 大杉 一之	1学期	4	2	364	
	4年				
個別研究指導I 岡 邦信	1学期	4	2	365	
	4年				
個別研究指導I 岡本 博志	1学期	4	2	366	
	4年				
個別研究指導I 小池 順一	1学期	4	2	367	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	個別研究指導I 重松 博之	1学期	4	2	368
		4年			
	個別研究指導I 高橋 衛	1学期	4	2	369
		4年			
	個別研究指導I 中山 布紗	1学期	4	2	370
		4年			
	個別研究指導I 二宮 正人	1学期	4	2	371
		4年			
	個別研究指導I 朴 元奎	1学期	4	2	372
		4年			
	個別研究指導I 福本 忍	1学期	4	2	373
		4年			
	個別研究指導I 山本 光英	1学期	4	2	374
		4年			
	個別研究指導I 吉村 弘	1学期	4	2	375
		4年			
	個別研究指導II 今泉 恵子	2学期	4	2	376
		4年			
	個別研究指導II 植木 淳	2学期	4	2	377
		4年			
個別研究指導II 大杉 一之	2学期	4	2	378	
	4年				
個別研究指導II 岡 邦信	2学期	4	2	379	
	4年				
個別研究指導II 岡本 博志	2学期	4	2	380	
	4年				
個別研究指導II 小池 順一	2学期	4	2	381	
	4年				
個別研究指導II 重松 博之	2学期	4	2	382	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■総合科目	個別研究指導II 高橋 衛	2学期	4	2	383
		4年			
	個別研究指導II 中山 布紗	2学期	4	2	384
		4年			
	個別研究指導II 二宮 正人	2学期	4	2	385
		4年			
	個別研究指導II 朴 元奎	2学期	4	2	386
		4年			
	個別研究指導II 福本 忍	2学期	4	2	387
		4年			
	個別研究指導II 山本 光英	2学期	4	2	388
		4年			
	個別研究指導II 吉村 弘	2学期	4	2	389
		4年			
法学総論 堀田 泰司	1学期	1	2	390	
	1年				
現代法曹論I 川上 修	2学期	1	2	391	
	1年				
現代法曹論II 中野 敬一	1学期	2	2	392	
	2年				
法律実務論I 仰木 伸介	1学期	3	2	393	
	3年				
法律実務論II 細川 眞二	2学期	3	2	394	
	3年				
■理論法学科目	法思想史 重松 博之	1学期	2	2	395
		2年			
	外国法 森谷 克之	1学期	2	2	396
	2年				
	日本法制史 岡 邦信	2学期 (ハア)	2	4	397
		2年			

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■理論法学科目	法社会学		2	2	
	休講	2年			
	法哲学	1学期	3	2	398
	重松 博之	3年			
	比較法文化論	集中	3	2	399
	篠森 大輔	3年			
紛争処理論	2学期	3	2	400	
林田 幸広	3年				
■公法科目	日本国憲法原論	1学期	1	2	401
	植木 淳	1年			
	憲法人権論	2学期	1	2	402
	植木 淳	1年			
	憲法機構論	1学期	2	2	403
	森脇 敦史	2年			
	憲法訴訟論	2学期	2	2	404
	村上 英明	2年			
	行政法総論	1学期(ヘア)	2	4	405
	岡本 博志	2年			
	行政争訟法	2学期	2	2	406
	岡本 博志	2年			
	国家補償法	1学期	3	2	407
	岡本 博志	3年			
地方自治法	1学期(ヘア)	3	4	408	
村上 英明	3年				
情報公開・個人情報保護法	1学期	3	2	409	
森脇 敦史	3年				
■刑事法科目	刑法犯罪論	2学期(ヘア)	1	4	410
	山本 光英	1年			
	刑法犯罪各論I	1学期	2	2	411
山本 光英	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■刑事法科目	刑法犯罪各論II 大杉 一之	2学期	2	2	412
	2年				
	刑事訴訟法総論 吉村 弘	2学期	2	2	413
	2年				
	刑事訴訟法各論 吉村 弘	1学期	3	2	414
	3年				
	犯罪学 朴 元奎	1学期(ヘア)	3	4	415
3年					
刑事司法政策I 朴 元奎	1学期	3	2	416	
3年					
刑事司法政策II 朴 元奎	2学期	3	2	417	
3年					
■社会法科目	社会法総論 柴田 滋	2学期	1	2	418
	1年				
	社会サービス法 津田 小百合	2学期	2	2	419
	2年				
	所得保障法 津田 小百合	2学期	2	2	420
	2年				
	雇用関係法 柳澤 旭	1学期	2	2	421
	2年				
	労使関係法 柳澤 旭	2学期	2	2	422
	2年				
独占禁止法 高場 俊光	1学期	3	2	423	
3年					
知的財産法 木村 友久	1学期	3	2	424	
3年					
環境法 生野 正剛	集中	3	2	425	
3年					
社会法の現代的展開 休講		3	2		
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■国際関係法科目	国際法I 二宮 正人	1学期	2	2	426
		2年			
	国際法II 二宮 正人	2学期	2	2	427
		2年			
	国際私法 中林 啓一	集中	3	2	428
		3年			
	国際取引法 大隈 一武	集中	3	2	429
		3年			
	現代国際関係法 中川 智治	2学期	3	2	430
		3年			
■民事法科目	民法総則 中山 布紗	1学期(ペア)	1	4	431
		1年			
	物権法 矢澤 久純	1学期	1	2	432
		1年			
	家族法 小野 憲昭	1学期	2	2	433
		2年			
	債権総論 福本 忍	1学期(ペア)	2	4	434
		2年			
	債権各論 河津 八平	2学期(ペア)	2	4	435
		2年			
	民事訴訟法総論 小池 順一	1学期	2	2	436
		2年			
	民事訴訟法各論 小池 順一	2学期	2	2	437
		2年			
倒産処理法 小池 順一	1学期	3	2	438	
	3年				
民事執行法 中村 仁	2学期	3	2	439	
	3年				
消費者法 山根 聡恵	集中	3	2	440	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■商事法科目	会社法I 高橋 衛	1学期	2	2	441
	2年				
	会社法II 高橋 衛	2学期	2	2	442
	2年				
	企業活動と法 今泉 恵子	1学期	2	2	443
	2年				
	企業取引法I 今泉 恵子	2学期	2	2	444
	2年				
	企業取引法II 前越 俊之	2学期	3	2	445
	3年				
	証券市場と法 前越 俊之	2学期	3	2	446
	3年				
	企業法の現代的展開 木村 友久	2学期	3	2	447
	3年				
■関連科目A	政策構想論 休講		1	2	
	1年				
	公共政策論 檜原 真二	1学期	2	2	448
	2年				
	政策過程論 申 東愛	1学期	2	2	449
	2年				
	政策評価論 檜原 真二 他	2学期	2	2	450
	2年				
	地方自治論 森 裕亮	1学期	2	2	451
	2年				
	福祉国家論 狭間 直樹	2学期	1	2	452
	1年				
	政治学 松田 憲忠	集中	1	2	453
	1年				
政治過程論 濱本 真輔	2学期	1	2	454	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	西洋政治史		1	2	
	休講	1年			
	現代政治思想	1学期	2	2	455
	中道 壽一	2年			
	政治文化論	2学期	2	2	456
	中道 壽一	2年			
	政党政治論	1学期	2	2	457
	五月女 律子	2年			
	都市環境論	1学期	1	2	458
	三宅 博之	1年			
	政策理論特講	集中	2	2	459
	鶴田 芳貴	2年			
	行政組織論	1学期	2	2	460
	横山 麻季子	2年			
	比較政策論	1学期	2	2	461
	坂本 隆幸	2年			
	都市政策論	2学期	2	2	462
	古賀 哲矢	2年			
福祉政策論	1学期	2	2	463	
狭間 直樹	2年				
環境政策論		2	2		
休講	2年				
自治体政策研究	2学期	2	2	464	
楢原 真二	2年				
都市経済論	1学期	1	2	465	
古賀 哲矢	1年				
都市経営論	2学期	2	2	466	
古賀 哲矢	2年				
地方行政改革論		2	2		
休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■関連科目A	日本政治論	2学期	1	2	467
	濱本 真輔	1年			
	日本行政論	2学期	1	2	468
	森 裕亮	1年			
	公共経営論	2学期	2	2	469
	狭間 直樹	2年			
	NPO論	1学期	1	2	470
	植原 真二 他	1年			
	途上国開発論		2	2	
	休講	2年			
	地域統合論	2学期	2	2	471
	五月女 律子	2年			
	アジア地域社会論	1学期	2	2	472
	三宅 博之	2年			
	応用政策特講	集中	2	2	473
	越智 敏夫	2年			
	対外政策論		2	2	
	休講	2年			
	国際機構論I	1学期	3	2	474
	山本 直	3年			
国際機構論II	2学期	3	2	475	
山本 直	3年				
国際人権論	1学期	3	2	476	
山本 直	3年				
国際協力論I	1学期	3	2	477	
藤井 大輔	3年				
国際協力論II	2学期	3	2	478	
千知岩 正継	3年				
国際紛争論	1学期	3	2	479	
菅 英輝	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
		備考				
■専門教育科目 ■関連科目A	障害者福祉論I 小賀 久	1学期	3	2	480	
		3年				
	障害者福祉論II 小賀 久	2学期	3	2	481	
		3年				
	老人福祉論I 石塚 優	1学期	3	2	482	
		3年				
	老人福祉論II 石塚 優	2学期	3	2	483	
		3年				
	■関連科目B	ビジネス英語研究 松田 智	2学期	3	2	484
			3年			
		世界経済論I 尹 明憲	1学期	3	2	485
			3年			
世界経済論II 尹 明憲		2学期	3	2	486	
		3年				
ミクロ経済学I 朱 乙文		2学期	1	2	487	
		1年				
ミクロ経済学II 朱 乙文		1学期	2	2	488	
		2年				
マクロ経済学I 田中 淳平		2学期	1	2	489	
		1年				
マクロ経済学II 田中 淳平		1学期	2	2	490	
		2年				
産業組織論I 後藤 宇生		1学期	2	2	491	
		2年				
産業組織論II 後藤 宇生	2学期	2	2	492		
	2年					
経済地理学I 柳井 雅人	1学期	2	2	493		
	2年					
経済地理学II 柳井 雅人	2学期	2	2	494		
	2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	国際経済論I	1学期	2	2	495
	魏 芳	2年			
	国際経済論II	2学期	2	2	496
	魏 芳	2年			
	公共経済学	2学期	3	2	
	休講	3年			
	財政学I	1学期	3	2	497
	安岡 匡也	3年			
	財政学II	2学期	3	2	498
	安岡 匡也	3年			
	金融論I	1学期	2	2	
	休講	2年			
	金融論II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	国際貿易論I	1学期	3	2	499
	水戸 康夫	3年			
	国際貿易論II	2学期	3	2	500
	水戸 康夫	3年			
	都市財政I	1学期	3	2	
	休講	3年			
都市財政II	2学期	3	2		
休講	3年				
国際金融論I	1学期	3	2		
休講	3年				
国際金融論II	2学期	3	2		
休講	3年				
経営戦略	2学期	2	2	501	
浦野 恭平	2年				
経営組織論	1学期	2	2	502	
下川 進	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	人事管理論 福井 直人	2学期	2	2	503
		2年			
	企業ファイナンスI 松本 守	1学期	2	2	504
		2年			
	企業ファイナンスII 松本 守	2学期	2	2	505
		2年			
	財務会計論I 西澤 健次	1学期	2	2	506
		2年			
	財務会計論II 西澤 健次	2学期	2	2	507
		2年			
証券市場論 山岡 敏秀	1学期	3	2	508	
	3年				
中小企業論 休講	1学期	3	2		
	3年				
コーポレートガバナンス 晴山 英夫	2学期	3	2	509	
	3年				
会計監査論 任 章	1学期	3	2	510	
	3年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	511
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	512
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	513
		2年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	514
	3年				
社会科教育法A 休講	1学期	2	2		
	2年				
社会科教育法B 休講	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	公民科教育法 A	1学期	2	2	515
	飯田 直弘	2年			
	公民科教育法 B	2学期	2	2	516
	飯田 直弘	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	517
	黒田 耕司	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	518
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	519
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	520
	大塚 一徳	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	521
	黒田 耕司 他	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	522
	恒吉 紀寿 他	4年			
	教育実習 3	1学期	4	2	523
	恒吉 紀寿 他	4年			
	教育相談	1学期	2	2	524
	楠 凡之	2年			
生徒・進路指導論	2学期	2	2	525	
楠 凡之	2年				
社会科教育法 C	1学期	2	2	526	
坂口 一隆	2年				
社会科教育法 D	2学期	2	2	527	
坂口 一隆	2年				
教職実践演習	2学期	4	2	528	
未開講	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	528
	村上 太郎	2年			

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	教育法規	2学期	3	2	
	休講	3年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	529
	税田 慶昭	2年			
	教育社会学	1学期	2	2	530
見玉 弥生	2年				
■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	531
	弓野 勝族	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	532
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	2学期	1	2	533
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	534
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	535
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	536
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	2学期	1	2	537
		1年			
	可能性としての歴史 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	家族の再生 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	文化と政治 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
言語と認知 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
共生社会論 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
戦争と平和 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	538	
	1年				
共同体と身体 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	539
		1年			

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	
	休講	1年			
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	540
	内田 若希	1年			
	自己管理論		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	キャリア・デザイン		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	コミュニケーションと思考法		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	プロフェッショナルの仕事		2	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	2年			
大学論・学問論		1	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年				
法律の読み方		1	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年				
社会調査	2学期	1	2	541	
稲月 正	1年				
統計を読む・統計をつくる		1	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	542	
徳永 政夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1		
休講	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	教養基礎演習II		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	教養演習AⅡ		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	教養演習BⅠ		3	2	
	(昼のみ開講)	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	543
	二宮 正人	3年			
	プロジェクト演習Ⅰ		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	プロジェクト演習Ⅱ		3	2	
	(昼のみ開講)	3年			
■テーマ科目	自然学のまなざし	1学期	1	2	
	休講	1年			
	動物のみかた		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	地球の生いたち	2学期	1	2	544
	長井 孝一	1年			
	自然史へのいざない		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	くらしと化学	1学期	1	2	
	休講	1年			
	現代人のこころ	1学期	1	2	
	休講	1年			
数のたのしみ		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
私たちと宗教		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
思想と現代	1学期	1	2	545	
伊原木 大祐	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ものがたりと人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	文化と表象		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	言語とコミュニケーション		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	芸術と人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	文学を読む	1学期	1	2	
	休講	1年			
	戦争と人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民主主義とは何か	1学期	1	2	546
	中道 壽一	1年			
	人権論	1学期	1	2	547
	柳井 美枝	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	548
	カ武 由美	1年			
障がい学	2学期	1	2		
休講	1年				
共生の作法		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
北九州学	2学期	1	2	549	
小野 憲昭	1年				
市民活動論	2学期	1	2	550	
西田 心平	1年				
企業と社会	1学期	1	2	551	
山岡 敏秀	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	つなぐりの人間学		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	現代社会と倫理	1学期	1	2	552
	伊原木 大祐	1年			
	現代社会の諸問題	2学期	1	2	
	休講	1年			
	現代の国際情勢	1学期	1	2	553
	金 鳳珍	1年			
	国際社会論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	国際紛争と国連	1学期	1	2	554
	戸蒔 仁司	1年			
	民族・エスニシティ問題		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	開発と統治	1学期	1	2	555
	三宅 博之 他	1年			
	グローバル化する経済	2学期	1	2	
	休講	1年			
	テロリズム論		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
国際社会と日本	1学期	1	2		
休講	1年				
歴史の読み方I	1学期	1	2	556	
小林 道彦	1年				
歴史の読み方II	1学期	1	2		
休講	1年				
そのとき世界は		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
戦後の日本経済		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
	(昼のみ開講)				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	557
		1年			
	もとと人間の歴史 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	人物と時代の歴史 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治	1学期	1	2	558
		1年			
	教養特講I (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養特講II (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養特講III (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養特講IV (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
■教職関連科目	日本史 休講	2学期	1	2	
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	559
		1年			
	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	560
		1年			
	社会学 休講	1学期	1	2	
		1年			
	人文地理学 休講	2学期	1	2	
		1年			
	土地地理学 休講	1学期	1	2	
		1年			
	地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	561
		1年			
倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	562	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 廣渡 栄寿	2学期	1	2	563
		1年			
	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	564
		1年			
	情報表現 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	プログラミング基礎 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 杉山 智子	1学期	1	1	565
		律政夜 1年			
	英語II 杉山 智子	2学期	1	1	566
		律政夜 1年			
	英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	567
		律政夜 1年			
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	568
		律政夜 1年			
	英語V 伊藤 晃	1学期	2	1	569
		律政夜 2年			
	英語VI 伊藤 晃	2学期	2	1	570
		律政夜 2年			
	英語VII ダニー・ミン	1学期	2	1	571
		律政夜 2年			
	英語VIII ダニー・ミン	2学期	2	1	572
		律政夜 2年			
■第二外国語	中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	573
		済営律政夜 1年			
	中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	574
		済営律政夜 1年			
	中国語III 王 占華	1学期	1	1	575
		済営律政夜 1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語Ⅳ	2学期	1	1	576
	王 占華	済営律政夜 1年			
	朝鮮語Ⅰ	1学期	1	1	577
	金 貞愛	済営律政夜 1年			
	朝鮮語Ⅱ	2学期	1	1	578
	金 光子	済営律政夜 1年			
	朝鮮語Ⅲ	1学期	1	1	579
	金 光子	済営律政夜 1年			
	朝鮮語Ⅳ	2学期	1	1	580
	金 光子	済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅰ	1学期	1	1	581
	芳之内 雄二	済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅱ	2学期	1	1	582
	芳之内 雄二	済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅲ	1学期	1	1	583
	芳之内 雄二	済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅳ	2学期	1	1	584
	芳之内 雄二	済営律政夜 1年			
	ドイツ語Ⅰ	1学期	1	1	585
	山下 哲雄	済営律政夜 1年			
ドイツ語Ⅱ	2学期	1	1	586	
山下 哲雄	済営律政夜 1年				
ドイツ語Ⅲ	1学期	1	1	587	
山下 哲雄	済営律政夜 1年				
ドイツ語Ⅳ	2学期	1	1	588	
山下 哲雄	済営律政夜 1年				
フランス語Ⅰ	1学期	1	1	589	
福島 勲	済営律政夜 1年				
フランス語Ⅱ	2学期	1	1	590	
福島 勲	済営律政夜 1年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語III 山下 高之	1学期	1	1	591
		済営律政夜 1年			
	フランス語IV 山下 高之	2学期	1	1	592
		済営律政夜 1年			
	スペイン語I 岡住 正秀	1学期	1	1	593
		済営律政夜 1年			
スペイン語II 岡住 正秀	2学期	1	1	594	
	済営律政夜 1年				
スペイン語III 岡住 正秀	1学期	1	1	595	
	済営律政夜 1年				
スペイン語IV 岡住 正秀	2学期	1	1	596	
	済営律政夜 1年				
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習I 休講		1	2	
		1年			
	法学基礎演習II 休講		1	2	
		1年			
	外国文献研究I 今泉 恵子	1学期	2	2	597
		2年			
	外国文献研究II 山本 光英	2学期	2	2	598
		2年			
	法哲学専門演習I 重松 博之	1学期	3	2	599
		3年			
	法哲学専門演習II 休講		3	2	
		3年			
法制史専門演習I 休講		3	2		
	3年				
法制史専門演習II 岡 邦信	2学期	3	2	600	
	3年				
憲法専門演習I 植木 淳	1学期	3	2	601	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	憲法専門演習II	2学期	3	2	602
	植木 淳	3年			
	行政法専門演習I	1学期	3	2	603
	岡本 博志	3年			
	行政法専門演習II		3	2	
	休講	3年			
	刑法専門演習I	1学期	3	2	604
	山本 光英	3年			
	刑法専門演習II	2学期	3	2	605
	山本 光英	3年			
	刑事訴訟法専門演習I		3	2	
	休講	3年			
	刑事訴訟法専門演習II		3	2	
	休講	3年			
	刑事学専門演習I		3	2	
	休講	3年			
	刑事学専門演習II		3	2	
	休講	3年			
	社会保障法専門演習I		3	2	
	休講	3年			
社会保障法専門演習II		3	2		
休講	3年				
労働法専門演習I		3	2		
休講	3年				
労働法専門演習II		3	2		
休講	3年				
国際法専門演習I	1学期	3	2	606	
二宮 正人	3年				
国際法専門演習II	2学期	3	2	607	
二宮 正人	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	民法専門演習I 福本 忍	1学期	3	2	608
		3年			
	民法専門演習II 中山 布紗	2学期	3	2	609
		3年			
	民事訴訟法専門演習I 休講		3	2	
		3年			
	民事訴訟法専門演習II 休講		3	2	
		3年			
	企業法専門演習I 今泉 恵子	1学期	3	2	610
		3年			
	企業法専門演習I 高橋 衛	1学期	3	2	611
		3年			
	企業法専門演習II 今泉 恵子	2学期	3	2	612
		3年			
	個別研究指導I 昼のみ開講		4	2	
		4年			
	個別研究指導II 昼のみ開講		4	2	
		4年			
	法学総論 徳永 達哉	1学期	1	2	613
		1年			
現代法曹論I 迫田 学	2学期	1	2	614	
	1年				
現代法曹論II 休講		2	2		
	2年				
法律実務論I 昼のみ開講		3	2		
	3年				
法律実務論II 昼のみ開講		3	2		
	3年				
■理論法学科目	法思想史 休講		2	2	
		2年			

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■理論法学科目	外国法		2	2	
	昼のみ開講	2年			
	日本法制史		2	4	
	休講	2年			
	法社会学	2学期	2	2	615
	林田 幸広	2年			
	法哲学	1学期	3	2	616
	重松 博之	3年			
	比較法文化論		3	2	
	昼のみ開講	3年			
紛争処理論		3	2		
休講	3年				
■公法科目	日本国憲法原論		1	2	
	休講	1年			
	憲法人権論	2学期	1	2	617
	植木 淳	1年			
	憲法機構論	1学期	2	2	618
	植木 淳	2年			
	憲法訴訟論		2	2	
	休講	2年			
	行政法総論	2学期 (ペア)	2	4	619
	福重 さと子	2年			
行政争訟法		2	2		
休講	2年				
国家補償法	1学期	3	2	620	
岡本 博志	3年				
地方自治法		3	4		
休講	3年				
情報公開・個人情報保護法		3	2		
昼のみ開講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■刑事法科目	刑法犯罪論 大杉 一之	1学期 (ペア)	1	4	621
		1年			
	刑法犯罪各論I 休講		2	2	
		2年			
	刑法犯罪各論II 休講		2	2	
		2年			
	刑事訴訟法総論 休講		2	2	
		2年			
	刑事訴訟法各論 吉村 弘	1学期	3	2	622
		3年			
犯罪学 休講		3	4		
	3年				
刑事司法政策I 朴 元奎	1学期	3	2	623	
	3年				
刑事司法政策II 朴 元奎	2学期	3	2	624	
	3年				
■社会法科目	社会法総論 柴田 滋	2学期	1	2	625
		1年			
	社会サービス法 津田 小百合	2学期	2	2	626
		2年			
	所得保障法 休講		2	2	
		2年			
	雇用関係法 休講		2	2	
		2年			
	労使関係法 柳澤 旭	2学期	2	2	627
		2年			
独占禁止法 高場 俊光	1学期	3	2	628	
	3年				
知的財産法 昼のみ開講		3	2		
	3年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■社会法科目	環境法		3	2	
	昼のみ開講	3年			
	社会法の現代的展開		3	2	
	昼のみ開講	3年			
■国際関係法科目	国際法I		2	2	
	休講	2年			
	国際法II	2学期	2	2	629
	二宮 正人	2年			
	国際私法		3	2	
	休講	3年			
国際取引法	集中	3	2	630	
大隈 一武	3年				
現代国際関係法		3	2		
昼のみ開講	3年				
■民事法科目	民法総則		1	4	
	休講	1年			
	物権法		1	2	
	休講	1年			
	家族法	1学期	2	2	631
	小野 憲昭	2年			
	債権総論	1学期(ペア)	2	4	632
	矢澤 久純	2年			
	債権各論		2	4	
	休講	2年			
民事訴訟法総論	1学期	2	2	633	
小池 順一	2年				
民事訴訟法各論		2	2		
休講	2年				
倒産処理法	2学期	3	2	634	
小池 順一	3年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■民事法科目	民事執行法		3	2	
	休講	3年			
	消費者法		3	2	
	昼のみ開講	3年			
■商事法科目	会社法I	1学期	2	2	635
	高橋 衛	2年			
	会社法II	2学期	2	2	636
	高橋 衛	2年			
	企業活動と法		2	2	
	休講	2年			
	企業取引法I	2学期	2	2	637
	今泉 恵子	2年			
	企業取引法II		3	2	
	休講	3年			
	証券市場と法		3	2	
	休講	3年			
企業法の現代的展開		3	2		
昼のみ開講	3年				
■関連科目A	政策構想論	1学期	1	2	638
	中道 壽一	1年			
	公共政策論		2	2	
	休講	2年			
	政策過程論		2	2	
	休講	2年			
	政策評価論		2	2	
	休講	2年			
地方自治論	1学期	2	2	639	
森 裕亮	2年				
福祉国家論	2学期	1	2	640	
狭間 直樹	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	政治学		1	2	
	休講	1年			
	政治過程論		1	2	
	休講	1年			
	西洋政治史	2学期	1	2	641
	五月女 律子	1年			
	現代政治思想		2	2	
	休講	2年			
	政治文化論		2	2	
	休講	2年			
	政党政治論		2	2	
	休講	2年			
	都市環境論		1	2	
	休講	1年			
	政策理論特講		2	2	
	昼のみ開講	2年			
	行政組織論		2	2	
	休講	2年			
	比較政策論		2	2	
	休講	2年			
都市政策論		2	2		
休講	2年				
福祉政策論		1学期	2	2	642
狭間 直樹	2年				
環境政策論		2学期	2	2	643
申 東愛	2年				
自治体政策研究		2	2		
休講	2年				
都市経済論		1	2		
休講	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■関連科目A	都市経営論 古賀 哲矢	2学期	2	2	644
		2年			
	地方行政改革論 森 裕亮	2学期	2	2	645
		2年			
	日本政治論 休講		1	2	
		1年			
	日本行政論 休講		1	2	
		1年			
	公共経営論 休講		2	2	
		2年			
	NPO論 檜原 真二 他	1学期	1	2	646
		1年			
	途上国開発論 三宅 博之	1学期	2	2	647
		2年			
	地域統合論 休講		2	2	
		2年			
	アジア地域社会論 休講		2	2	
		2年			
	応用政策特講 昼のみ開講		2	2	
		2年			
対外政策論 坂本 隆幸	2学期	2	2	648	
	2年				
国際機構論I 山本 直	1学期	3	2	649	
	3年				
国際機構論II 山本 直	2学期	3	2	650	
	3年				
国際人権論 休講	1学期	3	2		
	3年				
国際協力論I 休講	1学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■関連科目A	国際協力論II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	国際紛争論		3	2	
	昼のみ開講	3年			
	障害者福祉論I	1学期	3	2	651
	小賀 久	3年			
	障害者福祉論II		3	2	
	昼のみ開講	3年			
	老人福祉論I	1学期	3	2	
	休講	3年			
	老人福祉論II		3	2	
	昼のみ開講	3年			
■関連科目B	ビジネス英語研究	1学期	3	2	652
	松田 智	3年			
	世界経済論I	1学期	3	2	653
	尹 明憲	3年			
	世界経済論II	2学期	3	2	654
	尹 明憲	3年			
	ミクロ経済学I	2学期	1	2	655
	朱 乙文	1年			
	ミクロ経済学II	1学期	2	2	656
	朱 乙文	2年			
	マクロ経済学I	2学期	1	2	657
	田中 淳平	1年			
マクロ経済学II	1学期	2	2	658	
田中 淳平	2年				
産業組織論I	1学期	2	2	659	
後藤 宇生	2年				
産業組織論II	2学期	2	2	660	
後藤 宇生	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	経済地理学I	1学期	2	2	661
	柳井 雅人	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	662
	柳井 雅人	2年			
	国際経済論I	1学期	2	2	663
	魏 芳	2年			
	国際経済論II	2学期	2	2	664
	魏 芳	2年			
	公共経済学	2学期	3	2	665
	牛房 義明	3年			
	財政学I	1学期	3	2	
	休講	3年			
	財政学II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	金融論I	1学期	2	2	666
	後藤 尚久	2年			
	金融論II	2学期	2	2	667
	後藤 尚久	2年			
	国際貿易論I	1学期	3	2	668
	立石 揚志	3年			
国際貿易論II	2学期	3	2	669	
立石 揚志	3年				
都市財政I		3	2		
昼のみ開講	3年				
都市財政II		3	2		
昼のみ開講	3年				
国際金融論I	1学期	3	2	670	
前田 淳	3年				
国際金融論II	2学期	3	2	671	
前田 淳	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	経営戦略 浦野 恭平	2学期	2	2	672
	2年				
	経営組織論 下川 進	1学期	2	2	673
	2年				
	人事管理論 福井 直人	2学期	2	2	674
	2年				
	企業ファイナンスI 内田 交謹	1学期	2	2	675
	2年				
	企業ファイナンスII 内田 交謹	2学期	2	2	676
	2年				
	財務会計論I 西澤 健次	1学期	2	2	677
	2年				
	財務会計論II 昼のみ開講		2	2	
	2年				
証券市場論 休講	1学期	3	2		
3年					
中小企業論 別府 俊行	1学期	3	2	678	
3年					
コーポレートガバナンス 晴山 英夫	2学期	3	2	679	
3年					
会計監査論 休講	1学期	3	2		
3年					
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	680
	1年				
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	681
	1年				
発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	682	
2年					
教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	683	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	社会科教育法 A	1学期	2	2	684
	坂口 一隆	2年			
	社会科教育法 B	2学期	2	2	685
	坂口 一隆	2年			
	公民科教育法 A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	公民科教育法 B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	道徳教育の研究	1学期	2	2	686
	黒田 耕司	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	687
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	688
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	689
	大塚 一徳	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	690
	黒田 耕司	3年			
	教育実習 2	1学期	4	2	691
	恒吉 紀寿	4年			
教育実習 3	1学期	4	2	692	
恒吉 紀寿	4年				
教育相談	1学期	2	2	693	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	694	
楠 凡之	2年				
社会科教育法 C	1学期	2	2		
休講	2年				
社会科教育法 D	2学期	2	2		
休講	2年				

法学部 法律学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■選択科目	教育心理学 田島 司	2学期	2	2	695
		2年			
	教育法規 児玉 弥生	2学期	3	2	696
		3年			
	障害児の心理と指導 休講	2学期	2	2	
		2年			
	教育社会学 休講	1学期	2	2	
		2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	697
		2年			

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航 (1853) から55年体制の成立 (1955) までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○岡義武『山県有朋』(岩波新書)、○岡義武『近衛文麿』(岩波新書)、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

使用しません。レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いだろう。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。
グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なる。本講義では、(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学一年生という受講者が現在考えている「文化」を、世界各地の文化のありかたを参照することで相対化し、身の回りの現代社会について考察するひとつの手段を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
作道伸介(編)2008『近代化のフィールドワーク』東信堂
宮島喬(編)2000『講座社会学7 文化』東京大学出版会
※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を想像するために
第2回 異文化の「発見」：文化を考察する視点について
第3回 文化の基礎としての環境との<共生>
第4・5回 経済活動にみる文化：贈与と交換から地域通貨まで
第6回 資本主義の受容と貧困
第7回 開発の現場における「文化の差異」
第8・9回 個人と集団：生殖医療の時代に家族・親族関係を考える
第10回 親族・家族関係から社会関係への拡張
第11回 ジェンダー
第12・13回 日常生活の中の儀礼からみえる世界観
第14回 宗教・呪術・占いの機能
第15回 まとめ：グローバル化のなかのローカルな文化と普遍的価値観

成績評価の方法 /Assessment Method

エッセイによる授業貢献20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。来年度に2年次対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、環境、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」「歴史の読み方II」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

相当量の板書をするので、ノートはこまめにとること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族の再生【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代家族の状況、家族の形成、再生の試みを紹介しながら今後の家族の行方を探り、家族の可能性、家族とともに生きることを考えてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-ガイダンス
- 2回 家族を見つめる①
- 3回 家族を見つめる②
- 4回 家族を見つめる③
- 5回 家族モデルを考える①
- 6回 家族モデルを考える②
- 7回 家族モデルを考える③
- 8回 家族の危機を回避する①
- 9回 家族の危機を回避する②
- 10回 家族の危機を回避する③
- 11回 家族の危機を回避する④
- 12回 家族の危機を回避する⑤
- 13回 家庭裁判所の利用を考える①
- 14回 家庭裁判所の利用を考える②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の対立がしばしば政治的な問題となり、その解決のために異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義はそのための基礎的な考え方を身につけることを目的とする。講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半はその応用として、文化と政治が結びついて立ち現われる具体的な場に注目して講義を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、以下の参考文献（参考までにどの学部にもふさわしいか記しているが）各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくこと。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 青木保ほか（編）1997 『民族の生成と論理（岩波講座文化人類学5）』 岩波書店（文・外）
- 青木保ほか（編）1997 『紛争と運動（岩波講座文化人類学6）』 岩波書店（法・文・外）
- 岩竹美加子 1996 『民俗学の政治性』 未来社（文・群）
- ジョセフ・E・ステイグリッツ 2002 『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』 徳間書店（経・外）
- 陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社（法・文・外・群）
- デヴィッド・ヘルド 2002 『グローバル化とは何か』 法律文化社（経・法・外・群）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか
- 第2・3回 自文化を知ることの政治性：ナショナリズムと文化
- 第4回 自文化を知らないことの政治性：先住民・少数民族の文化に関して
- 第5・6回 異文化を知ることの政治性：「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第7回 異文化を知らないことの政治性：人権の概念は世界共通か？
- 第8回 中間試験 / 講義前半のまとめ・講義後半の導入
- 第9回 文化的「他者」への憎悪のメカニズム：ナショナリズム・エスノナショナリズム
- 第10・11・12回 共生のための政治
- 第13・14回 記憶の政治学と文化
- 第15回 まとめ：ネイションとエスニシティの時代を超えて

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

第8回目に中間試験を行うが、中間試験を受けていない学生は期末試験を受けることができないので注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文化と政治の問題は学際性の強い分野です。自分の専門の興味関心と結び付けながら、授業に臨んでください。

キーワード /Keywords

ナショナリズム、エスノナショナリズム、グローバリゼーション、多文化共生

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター
日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 視覚と言語1 (未定)
- 第3回 視覚と言語2 (未定)
- 第4回 視覚と言語3 (未定)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか：言語習得 (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか：失語症・失文法 (漆原)
- 第7回 ことばはどのように処理されるのか：文法と脳科学 (漆原)
- 第8回 前半のまとめ (漆原)
- 第9回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子1 (日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子2 (日高)
- 第11回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子3 (日高)
- 第12回 特別講義 (外部講師)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの：文法形式と意味の類像性 (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら？：ことばと思考・言語相対論 (杉山)
- 第15回 まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への姿勢・取り組み...20% 課題...16% × 5
外部講師を含む5名の担当教員の課題をすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫って生きたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 安全保障とは何か
- 3回～6回 第1テーマ 20世紀の戦争I～世界大戦
 - A.戦争と平和(戦争を学ぶ必要性、戦争の定義、戦争と平和)
 - B.戦争の経歴(絶対主義時代の戦争、革命戦争、近代戦争)
 - C.両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
 - D.戦争の変質(勢力均衡、アメリカの戦争観)
- 7回～10回 第2テーマ 20世紀の戦争II～核兵器の時代
 - A.原爆の出現(開発、完成、投下)
 - B.核兵器の種類と威力
 - C.核兵器出現に伴う変化
 - D.代理戦争(国際内戦)
 - E.核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 9回～10回 第3テーマ 21世紀の戦争I
 - A.冷戦終焉と「安全保障の終焉」?(「歴史の終焉?」「文明の衝突?」)
 - B.米国の脅威認識(911、国土安全保障戦略、ブッシュドクトリン、民主主義の拡大)
- 11回～14回 第4テーマ 21世紀の戦争II
 - A.「テロとの戦争」
 - B.破綻国家と人道的介入
 - C.正戦論の復権
 - D.対アフガニスタン武力行使の評価
 - E.イラク戦争
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 【近代科学と現象学】
- 7回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 8回 確認テストとその解説
- 9回 生活世界論のひろがり(1) 【アーレント、人と思想】
- 10回 生活世界論のひろがり(2) 【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける政治】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと(昨年度は約2~3割の受講者が不合格となっている)。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。

この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを精神的な観点から考察する。継続的な受講により、生活世界と自己とのつながりが以前よりもはつきりと理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○B・スネル『精神の発見——ギリシア人におけるヨーロッパ的思考の発生に関する研究』（新井靖一訳）、創文社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本的身体のイメージI
- 3回 日本的身体のイメージII
- 4回 近代社会の勃興と心身二元論
- 5回 古代ギリシャの身体観I（プラトンからホメロスへ）
- 6回 古代ギリシャの身体観II（ソポクレス）
- 7回 古代ギリシャの身体観III（通時的総括）
- 8回 キリスト教共同体と身体
- 9回 中間考査（2回～8回の内容確認テストを実施）
- 10回 映画の中の身体I
- 11回 映画の中の身体II
- 12回 文学作品の中の身体
- 13回 現代社会と身体問題の変容I
- 14回 現代社会と身体問題の変容II
- 15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

内容確認テスト...40% 期末レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。

「生活世界の哲学」、もしくは担当者による「倫理学」の授業をすでに受けている場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

昨年度は課題提出に際していくつかの深刻な不正が発覚したため、今年度から本授業はより一層厳格かつ厳密な成績評価法に変更している。それゆえ、この授業に登録予定の諸君には、ダンテ『神曲』の中から以下の有名な言葉を贈っておきたい。

「Lasciate ogne speranza, voi ch'intrate.（ここに入るあなたがたは一切の希望を捨てよ。）」

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガ - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特になし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール(【 】はキーワード)
 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー心理学】
 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
 キャリアプラン 【仕事】【遊び】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・ 実習)によって教室・ 多目的ホール・ 体育館と毎回場所が変わるので、次回の子告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習) レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 生田カツ工、稲月正

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 第 1 回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2 回 防犯の心得【警察官】：安心・安全とは何か。被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3 回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4 回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5 回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6 回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7 回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8 回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9 回 健康な体と感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10 回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせで行う。
- 第 11 回 救急法II応急手当の方法、心肺蘇生法の手順など、事故・災害時での身の守り方、人命救助の具体的方法を学習する。
- 第 12 回 障害とノーマラージュエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13 回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14 回 自己管理まとめ【保健師】：小試験・ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回のミニレポート：60% ②まとめ(小試験・ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布するレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

- 1 1回目の総論で「自己管理のプログラム」を配布する。
- 2 外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室禁止する。私語をしない。
- 3 毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- 4 欠席した場合は正直に自己管理授業用の欠席届を提出する。
- 5 救急法の実技時には、上靴、スラックスなど着用する。
- 6 最終回の「自己管理まとめ」授業は小試験のため必ず出席する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学生の就職だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 授業内のレポート...30% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また有意義な大学生活を営むために、

- ①様々な業界や企業、そして働き方など社会について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る
- ③初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
 以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア (社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 進路について (就職活動や公務員試験、教員試験、大学院進学など)
- 4回 自分を知る① (働く価値観や仕事へのこだわり)
- 5回 自分を知る② (一皮むける経験、経験学習)
- 6回 自分を知る③ (自分の対人特性、自分の強みを伸ばす、自分の弱みを受け入れる)
- 7回 仕事をするということ (仕事を考える視点、仕事のやりがい)※社会人ゲストを予定
- 8回 キャリアとお金 (雇用形態と賃金、生活費シミュレーション)
- 9回 大学生活を面白くする方法 (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 10回 地域活動とインターンシップ (地域活動やインターンシップ経験した先輩とのディスカッション)
- 11回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 12回 就職活動を知る① (就職活動や公務員試験を体験した先輩とのディスカッション)
- 13回 就職活動を知る② (実際の就職試験を体験、その他面接など選考方法)
- 14回 学生生活を考える (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 まとめ (総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な準備は必要ありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

必修ではありませんが、将来の進路のために大学生生活をどう営むかを考える、主に1年生向けの授業です。真鍋先生の「キャリアデザイン」が本講義いずれかを履修することをお勧めします。また、毎回、授業開始直後にグループワークがあります。よって、遅刻すると他のメンバーに迷惑がかかりますので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でポイントになります。また、複雑化・成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく問題を発見し解決に導いていくための『考える力』が求められます。授業の前半では、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングしていきます。後半では、仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用します。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 全体ガイダンス	【授業の目的、授業のルール】
2回 会話とストレートトーク	【コミュニケーションとは、大切さ】
3回 言動の基本、伝え方	【話力とは、聞き手に心を開いて話をする】
4回 話し方に心理学を応用する(1)	【行動パターンによるコミュニケーション】
5回 話し方に心理学を応用する(2)	【良い人間関係を作るコミュニケーション】
6回 話し方に心理学を応用する(3)	【日常会話、スピーチ、プレゼンテーション】
7回 応対マナー	【どう話すのか、話す時の立ち振る舞い】
8回 電話応対	【電話・手紙のマナー】
9回 敬語を上手に使い話力を高める	【敬語の使い方】
10回 話し方 TPO	【シチュエーションを考える】
11回 プレゼンテーションをやってみる	【考えをまとめて発表する】
12回 思考法(1)	【ロジカルシンキング、演繹法、帰納法】
13回 思考法(2)	【ロジカルシンキング、ロジックツリー】
14回 思考法(3)	【クリティカルシンキング】
15回 まとめ	【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。しかし、抽選に当たったにも関わらず、授業に参加しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、論理的思考法、帰納法、演繹法、クリティカルシンキング

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立ち頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実と成長する秘訣 ③将来のヒントを学びます。

<進め方> 講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果> 将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることが出来ます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。

以下は2010年度の実績です。

ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

以下書籍はその参考例です。

○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

○中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社

○モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社

見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2～14回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

第15回 まとめ

※2010年度の実績

ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講演者が所属する企業・団体および仕事について必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。

履修上の注意 /Remarks

※1学期の「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。

※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の4項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁(マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の実在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 民事判例を読む①【判例】【先例】【認定事実】
- 7回 民事判例を読む②【判例研究の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 8回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 9回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 10回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 11回 民法の視点から社会を読む②【相続】【遺言】【失権】
- 12回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 13回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 14回 民法と刑法の交錯する世界を読む【民事責任】【慰謝料】【制裁】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'11』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（1）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（2）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（3）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成（1）
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成（2）
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計を読む・統計をつくる【昼】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々は新聞やテレビを通して、膨大な統計データや調査結果に日々、さらされている。統計をつくるに際して種々の社会調査が行われるが、社会調査の手順を示して、社会調査の生み出す統計データを批判的に読み込む力を培う。

教科書 /Textbooks

別途、掲示で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷・山本編『よくわかる質的社会調査(プロセス編)』ミネルヴァ書房、轟・杉野『入門・社会調査法—2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査のよい例、わるい例
- 2回 社会調査とは何か
- 3回 社会調査の種類
- 4回 量的(統計)調査の方法
- 5回 質問文の作り方
- 6回 量的(統計)調査の難点
- 7回 質的調査の方法
- 8回 質的調査のフィールドの実際
- 9回 質的調査の意義、量的(統計)調査との関係
- 10回 量的(統計的)社会調査の作品群の概要
- 11回 ミクロの量的(統計)分析の代表事例
- 12回 マクロの量的(統計)分析の代表事例
- 13回 ミクロの実験(統計)の代表事例
- 14回 質的・量的(統計)調査の作品の対比
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート又は試験 ... 80 % 授業での参加(質疑応答など) ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを購入しておくこと。社会科学の入門的講義を受講しておくこと好ましい。

履修上の注意 /Remarks

テキストを持参して授業に出席のこと。(テキストなしでは、授業はまったく理解できません。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世の中の様々に興味を持つこと。新聞、書物などを読むこと。

キーワード /Keywords

社会調査、統計(量的)調査、質的調査

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、テニスの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(1)
- 3回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(2)
- 4回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(3)
- 5回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(4)
- 6回 サービスの基礎練習(1)
- 7回 サービスの基礎練習(2)
- 8回 ボレーやスマッシュの基礎練習(1)
- 9回 ボレーやスマッシュの基礎練習(2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ドロップ・ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技をとって、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム (1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム (2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム (3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム (4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム (1)
- 11回 ゲーム (2)
- 12回 ゲーム (3)
- 13回 ゲーム (4)
- 14回 ゲーム (5)
- 15回 スキル獲得の確認テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修についての諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D・サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
 毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習Ⅱ」とセットで履修することを希望します。
 この演習は2年生・3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門： 本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、身近な現象について論じているテキスト『下流社会第2章』の批判的読解を試みることを通して、レジュメの作りかた、議論の行い方、論点の見つけ方を学び、後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000～4000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

三浦展 2007 『下流社会 第2章：なぜ男は女に“負けた”のか』光文社新書

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：大学の授業とは / ノートの取りかた
第2回 思考を発展させる読書のしかた：本を探しかたと読書ノートの活用について
第3回 レジュメの作りかた
第4・5・6・7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
テキスト：三浦展 『下流社会 第2章』
第8・9回 レポートの書きかた
第10・11・12・13・14回 レポート構想報告
第15回 文章を推敲する：レポートの相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第15回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・出席者の報告、レポート添削と再提出のプロセスを重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・現代社会に関する問題に興味のある学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループディスカッション (1)
- 2回 グループディスカッション (2)
- 3回 グループディスカッション (3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 人を理解すること
- 9回 集団で克服していくトレーニング
- 10回 キャンプのオリエンテーション (1)
- 11回 キャンプのオリエンテーション (2)
- 12回 キャンプのオリエンテーション (3)
- 13回 キャンプのオリエンテーション (4)
- 14回 キャンプのオリエンテーション (5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する。
 キャンプ実習は別途実習費 (約 4000円) かかりますので注意してください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(4000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析事例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析事例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析事例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジュメを準備すること。
報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、内容に応じて積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養基礎演習IIもあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習II」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習II」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的な教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
今年度より、思想史上の古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期はフロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・テネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。
授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377~436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。また、この演習は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！基礎編」です。
このクラスでは、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めていってほしいと思います。
座学と調査・実習を組み合わせ実施します。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス,バレーボールとアナリストの役割
- 第2回 スキルチェック

【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】

- 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
- 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか

【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】

- 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
- 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか

【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】

- 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）

- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

10人程度を予定（最大で12人まで）しています。受講希望者が多い場合は、初回の授業時に選考を行います。したがって受講希望者は、最初の授業には必ず出席するようにしてください。
原則としてIとIIはセットで受講してください。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』を伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

【アナリスト】 【レセプション】 【ディグ】 【トランジッション】 【記号化：技術・エリア】 【評価】 【データ分析】

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力(人間関係力)を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。
また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは?
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやPDCAサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D・サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
(毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2~7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2~7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
- 8~14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
明治時代に書かれた小説(森鷗外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練： 教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行う。具体的には、教養基礎演習Iのレポートをもとに、より関心の近い受講者同士のグループワークやディスカッションを通して、各自のテーマをより掘り下げることを試みる。その成果を活かし、学期末にはIのレポートをブラッシュアップすることを目指す。この演習を通して、ひとつのテーマについてじっくり取り組むという、研究の基礎的な姿勢を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：研究の入り口としての考えるを深める作業
第2・3回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評
第4・5回 グループワークの説明/視点を広げるためのミニ・ワークショップの企画
第6・7・8回
ミニ・ワークショップの実行(グループワーク)
第9・10・11回
テキスト輪読と議論
第12・13・14回
レポート構想報告
第15回 文章を推敲する：レポート相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言など)50%
レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループワークでは、場合によっては授業時間以外もメンバーとの打ち合わせが必要になることがあります。

履修上の注意 /Remarks

原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とするが、教養基礎演習IIのみ受講したい者は、必ず事前に相談すること(受講のためのレポート課す場合がある)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

共同作業を通して、自分の能力を最大限引き延ばすことは、大学を出てからも必要です。積極的な授業参加を期待します。

キーワード /Keywords

グループワーク、多角的視野、レポートの書き方

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 学生自身によるスキー計画 (2) 期間
- 11回 学生自身によるスキー計画 (3) 金額
- 12回 学生自身によるスキー計画 (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成 (1)
- 14回 スキープログラムの作成 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。
 スキー実習は別途実習費が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

II（2学期）では、まず、教養基礎演習Iで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

Iと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジюмеを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習I」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的な教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
今年度より、思想史上の古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期はフロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17(1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（議事録作成）...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある（税込760円）。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」（指定ページの読解、分からない単語の調査）と「復習」（授業議事録の作成）が必須となります。また、この演習は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！応用編」です。
このクラスでは、Iで習得した「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を駆使し、実際のゲームを分析していくことで、応用力の涵養を目指します。分析対象としては、FIVB World Cup 2011の全日本の試合を題材とすることを予定しています。試合の流れを正しく掴み、チームの特徴やゲームの勝因・敗因の分析、攻略策だけでなく今後の課題（チーム・個人の強化策）の検討などを通じ、戦術理解も含めたバレーボールを科学する力をさらに高めていてもらいたいと思っています。
またこのプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力、⑥問題解決のための構想を練る力、⑦プレゼン能力、⑧質疑応答力を、みなさんには身につけ、高めていてほしいと思っています。
座学と調査・実習を組み合わせ実施します。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 FIVB World Cup 2011【分析対象チーム・試合の選定：グループ分け】
- 第3回 事例①『FIVB World Grand Prix 2010 JPN-NED』【ゲーム観賞】
- 第4回 事例②『FIVB World Grand Prix 2010 JPN-NED』【プレゼンの例】
- 第5回 ゲーム分析の基礎①：映像の収集と利用
- 第6回 ゲーム分析の基礎②：公式記録の探し方とその見方
- 第7回 ゲーム分析の基礎③：戦評等の集め方とその活用方法
- 第8回 グループ作業①：映像に基づくゲーム分析
- 第9回 グループ作業②：抽出したデータ等を基にした攻略策・強化策の検討
- 第10回 グループ作業③：プレゼン内容の最終確認
- 第11回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション①
- 第12回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション②
- 第13回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション③
- 第14回 グループ・プレゼンテーションとフロア・ディスカッション④
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

10人程度（最大で12人まで）を予定しています。
IとIIはセットで受講してもらうことを原則とします。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

教養基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

【ゲーム分析】 【FIVB】 【World Cup 2011】 【全日本】 【公式記録】 【攻略策】 【強化策】

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内と離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現 (3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現 (4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現 (5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現 (6)
- 12回 スキー実習についての講義 (1)
- 13回 スキー実習についての講義 (2)
- 14回 スキー実習についての講義 (3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定回スーツを着用しての受講となります。

履修上の注意 /Remarks

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。

「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思っております。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」 D . サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
 (毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AIII」とセットで履修することを希望します。
 この演習は1年生、3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会へのアプローチ法を考える①：本演習では、質的調査から何を知ることができるのか、その可能性を考えたい。漠然と卒業論文で（インタビュー調査、参与観察などの）質的調査をとりいれてみたいと考えている学生は多いと思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、社会調査法のみを学ぶのではなく、その前段階として質的調査を研究にどのように活かすかから学ぶことを目的とする。

教科書 /Textbooks

佐藤郁哉 2006 『フィールドワーク 増訂版：書を持って街へ出よう』 新曜社
 ※このほか、受講者の関心に合わせて民族誌を2冊程度読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社
 ※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：本演習の目的
 第2回 質的調査についての基本的説明
 第3・4・5・6・7・8回 民族誌を2冊程度輪読し、質的調査の特性について議論する。
 （第1回の出席者の関心に応じて読む民族誌を選択する。候補としては、佐藤郁哉『暴走族のエスノグラフィー』、ジェニファー・ロバートソン『踊る帝国主義』、工藤正子『越境の人類学』など）
 第9・10・11回 これまで読んだ民族誌が記述される裏側を考察する。
 テキスト：佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版：書を持って街へ出よう』
 第12・13・14回 実習：記憶を語ること、記録されること
 （インタビュー調査、参与観察の手法からわかることとその限界を考察する。）
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告25%、期末レポート50%、その他の提出物25%
 第12・13・14回の実習欠席者は単位を出さないで注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取ることが求められる。具体的な説明は第1回で行う。

履修上の注意 /Remarks

実習の成果を教養演習AIIでフィードバックするので、教養演習AIIも続けて受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 受講する段階で明確な研究関心を持っている必要は特にありませんが、演習を通して研究関心を見つけようとする意志は持ってください。
- ・ グループワークを取り入れるので、受講者同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。

キーワード /Keywords

質的調査、民族誌

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なもの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なもの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なもの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なもの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析実例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析実例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析実例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期は、フロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377~436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。
同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「B」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養ってきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、内容に応じて積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養演習 A II もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
 (毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
- 7～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

明治時代に書かれた小説(森鴎外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AI」とセットで履修することを希望します。
AIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会へのアプローチ法を考える②：本演習では、教養演習 AI を踏まえて、質的調査から何を知ることができるのか、その可能性をさらに考えたい。演習の前半では教養演習 AI でとirkんだ実習の経験を踏まえ、研究対象や問題設定に応じて、インタビューや観察をより効果的に行うための質的調査の方法を学ぶ。演習の後半では、これまでの演習のまとめとして、自分の興味関心に適した質的調査を行うためのデザインの仕方を検討する。

教科書 /Textbooks

箕浦康子 (編) 1999 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房
 谷岡一郎 2000 『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』 文藝春秋
 ※このほか受講者の関心に合わせて民族誌をもう1冊読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社
 ※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1・2・3回 聞き取りや観察の方法について：教養演習 AI のレポートから
 第4回 実習(再)：記憶を語ること、記録されること
 第5回 調査をデザインするために：エスノグラフィーと調査者の立場のいくつかのパターン
 第6・7回 マイクロエスノグラフィーの手法について
 テキスト：箕浦康子(編) 『フィールドワークの技法と実際』
 第8・9・10回 日常世界を分析するエスノグラフィー(輪読と議論)
 (受講者の関心にに応じて読む民族誌を選択する。候補としては、A.R. ホックシールド2000『管理される心』、ロバート・J・スミス『須恵村の女たち』など。)
 第11・12・13回 事前準備のために(輪読と議論)
 テキスト：谷岡一郎 『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』
 第14・15回 まとめとレポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告25%、中間レポート25%、期末レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第4回のあとに、インタビューや観察を用いた質的調査についての中間レポートを課します。教養演習 AI の復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養演習 AI を受講していること。やむを得ない事情で教養演習 AII のみの受講を希望する者は必ず事前に相談すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文、ゼミ論文などに、質的調査を取り入れてみたいと考える学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

質的調査、民族誌、

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジユメを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期は、フロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17(1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% 課題(議事録作成)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある(税込760円)。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。
同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「B」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 10 回健康増進プログラムの実施
- 11 回健康増進プログラムの評価
- 12 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 13 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 14 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養演習 AI もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」D. サダウア他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNA鑑定実験1】
- 6回 実験と実習【DNA鑑定実験2】
- 7回 実験と実習【DNA鑑定実験3】
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
 (毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣(2008年10月)2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 3,800円。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への積極的参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIIもあわせて受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学は受講生が主体的に取り組むのでなければその成果は上がりません。自ら進んで研究報告に取り組むとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告の際には、レジユメを用意してください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

瀧井一博『伊藤博文 - 知の政治家』（中公新書、2010年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習A1・II」「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。
 A1・IIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国家と社会についての重要文献読解：卒業論文の執筆を来年に控え、専門性の高い論文を読み始めた学生が、論文を読み進めるにあたってぶつかる壁のひとつは、文中に引用される古典文献を理解することであると思われる。本演習では、メインテキストである『社会とは何か』を読み進めつつ、言及されている論点の一つである国家と社会に関する引用古典文献を読み進めることを試みる。この作業を通して、原典に当たりながら論文を読み、考察することの重要性を実感してもらおう。

教科書 /Textbooks

竹沢尚一郎 2010 『社会とは何か』中公新書
ユルゲン・ハーバーマス1994 『公共性の構造転換：市民社会の一カテゴリーについての探究（第2版）』細谷貞雄、山田正行（訳）未来社
ベネディクト・アンダーソン 2007 『定本 想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや（訳）書籍工房早山

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで輪読と議論を進める。

- 第1回 導入(1)：演習の説明
- 第2回 導入(2)：社会と国家の概念について背景説明
- 第3回 『社会とは何か』1章
- 第4回 『社会とは何か』2章
- 第5・6・7・8回 『公共性の構造転換』
- 第9回 『社会とは何か』3章
- 第10回 『社会とは何か』4章
- 第11・12・13・14回 『想像の共同体』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の報告50%、提出物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

多少難解なテキストを含むので、受講者の理解度を確認するために読書ノートの提出を義務付ける。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIも続けて受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

哲学思想の基礎を踏まえて論じられている文献を独力で読みこなすのは大変ですが、人文社会科学系の研究には重要なことです。上記のテーマに興味のある学生の出席を歓迎します。

キーワード /Keywords

社会、国家、公共性、ナショナリズム

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析実例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析実例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析実例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期は、フロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教——進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、第三回か第四回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。授業前の準備事項として、訳者の中山元氏による「解説文」および「フロイト年譜」(テキスト377~436頁) を読み込んでくること。

履修上の注意 /Remarks

本演習は1・2年生との合同演習となる。「教養演習BI」に授業登録をした3年生以上の方には、演習における議長を務めてもらうことがある。また、いわゆる『標準版 (Standard Edition) 』を用いて、上記テキストの英訳を日本語に翻訳してもらう場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしても自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養ってきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回リーダーとリーダーシップ
- 3 回安全性と有効性
- 4 回キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5 回キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6 回キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7 回キャンプ実習の実施
- 8 回キャンプ実習の評価
- 9 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの実施（1）
- 13 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの実施（2）
- 14 回中高齢者にあつた身体活動プログラムの評価
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。DNAとは何か？ 遺伝子とは何をしているものなのか？ 本演習では「DNA・遺伝子・生命」を主たるテーマとし、関連図書・DVDを用いて学習するほか、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。さらに関連した科学記事やニュースを読み取る力・自ら考える力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」 D . サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の説明【細胞】【遺伝】【染色体】
- 3回 基本的事項の説明【DNA】【RNA】【タンパク質】
- 4回 基本的事項の説明【遺伝子】【ゲノム】
- 5回 実験と実習【DNAの構造】
- 6回 実験と実習【DNAの抽出】
- 7回 科学記事よりトピックを選んで解説(1)
- 8回 科学記事よりトピックを選んで解説(2)
- 9回 科学記事よりトピックを選んで解説(3)
- 10回 科学記事よりトピックを選んで解説(4)
- 11回 科学記事よりトピックを選んで解説(5)
- 12回 関連映画作品等鑑賞(1)
- 13回 関連映画作品等鑑賞(2)
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・80%、課題・・・20%
 (毎回カードを配布する。授業中の発表のほかに、カードに記入したコメント・質問を重視する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉 久雄 『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 3,800円。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への積極的参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIもあわせて受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学は受講生が主体的に取り組むのでなければその成果は上がりません。自ら進んで研究報告に取り組むとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告の際には、レジユメを用意してください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。なお、そのための準備として、第2～7回の演習では近代文書の解読も練習する。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～7回 各自の研究報告と近代文書の解読の練習。
第7回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

明治時代に書かれた小説(森鴎外など)を読んで下さい。とにかく、旧字体・旧かな遣いに慣れること。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習AⅠ・Ⅱ」「教養演習BⅠ」とセットで履修することを希望します。
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共同体と排除についての重要文献読解： 本演習は、教養演習BⅠの続きである。BⅠで取りあげたメイン・テキスト『社会とは何か』のもう一つの論点である、共同体と排除について、隣接する近年の文献と古典文献を関連付けながら理解を深める。この作業を通して、一つの文献から関連する他の文献へと思考を広げる訓練を行う。

教科書 /Textbooks

竹沢尚一郎 2010 『社会とは何か』 中公新書
 田辺繁治 2008 『ケアのコミュニティ』 岩波書店
 ミシェル・フーコー 1977 『監獄の誕生』 田村俶（訳）新潮社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで輪読と議論を進める。

- 第1回 導入：共同体と排除の概念について
- 第2回 『社会とは何か』 第5章
- 第3・4・5・6回 『ケアのコミュニティ』
- 第7・8・9・10・11・12・13回 『監獄の誕生』
- 第14・15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、 演習中の報告50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

BⅡのみの受講を希望する場合は、開講初日までに『社会とは何か』の第1章から4章まで読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BⅠを受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フーコーの『監獄の誕生』は、哲学や社会学の研究者に限らず、その周辺分野の研究者にとっても重要な文献となっています。ですが、ヨーロッパの歴史的・思想的背景を知らずに、また彼の概念がどのような研究に用いられているのかわ知らずに、独力で理解するのはなかなか難しいです。演習を通して、数人で読むことにより、理解が深まると思います。この演習では、受け身でなく、自ら文章を読み込む意思のある学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

共同体・ コミュニティ・ 監視・ 排除・ 統治

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
 /Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 3年次
 /Year

単位 2単位
 /Credits

学期 1学期
 /Semester

授業形態 演習
 /Class Format

クラス 3年
 /Class

対象入学年度
 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年(1学期・2学期)受講を義務づける。

BII(2学期)では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告(テキスト批評)をしてもらい、議論を行う。なお、1~2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会(4)
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会(5)
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会(6)
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題(レポート)...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジюмеを準備すること。
報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期は、フロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17 (1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 復習と補助学習I
- 14回 復習と補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望する者は、初回の授業までに各自で上記のテキストを購入しておく必要がある (税込760円) 。
本演習は1学期からの続きである。授業前の準備事項として、1学期に読了した「幻想の未来」をきちんと読み直しておくことが全員に求められる。

履修上の注意 /Remarks

本演習は1・2年生との合同演習となる。「教養演習 B I」に授業登録をした3年生以上の方には、演習における議長を務めてもらうことがある。また、いわゆる『標準版 (Standard Edition) 』を用いて、上記テキストの英訳を日本語に翻訳してもらう場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことのない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 1 0 回健康増進プログラムの実施
- 1 1 回健康増進プログラムの評価
- 1 2 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 1 3 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 1 4 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 1 5 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2010年度実績：JOB×HUNTER 2012、キャリアーナ、オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※原則、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。
- ※参加募集は随時行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。メンバーで相談して設定してください。
- ※教室は学生プラザのプロジェクトルームを予約して使用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト期間中は他の課外活動との両立は難しくなりますのでご注意ください。途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいます。また、特に応募者が多いプロジェクトであれば、応募に外れた学生の気持ちも台無しにします。やり遂げる意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

経験から学ぶ力、キャリア、成長

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2010年度実績：JOB×HUNTER 2012、キャリアーナ、オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※この演習を履修できるのは、原則2年次に『プロジェクト演習I』を履修した人です。ただし、オープンキャンパスなど期間限定のタイプは単独でも履修可能です。
- ※参加募集は随時行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。メンバーで相談して設定してください。
- ※教室は学生プラザのプロジェクトルームを予約して使用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト期間中は他の課外活動との両立は難しくなりますのでご注意ください。途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいます。また、特に応募者が多いプロジェクトであれば、応募に外れた学生の気持ちも台無しにします。やり遂げる意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

経験から学ぶ力、キャリア、成長

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第一講 「今西錦司と自然学」
 - 第二講 「私とあなたの自然学」
 - 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
 - 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
 - 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
 - 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
 - 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」
 - 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
 - 第九講 人々はどのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
 - 第十講 人々はどのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
 - 第十一講 人々はどのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
 - 第十二講 人々はどのように自然を利用していけるか - 日本の竹産業と政策
 - 第十三講 人々はどのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
 - 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
 - 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたかったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみや成り立ちを正しく理解し、地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。

この授業の目標は、現在の地球のしくみと地球史を正しく理解することを通して、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 凍りついた地球【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, 小テスト・ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地です。また、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している当博物館を、まずみなさんに知ってもらうことが、この授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的にを行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思っています。よりグローバルな視点から、自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【】内はキーワード、()内は担当学芸員名）。講義の順番は変更となる場合があります。北方キャンパスでの13回の講義のほか、北九州市立自然史・歴史博物館での講義および見学（学期内の特定の日曜日を使い2回実施）を予定しています。

- 1回 ガイダンス
 - 2回 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【化石昆虫】
 - 3回 化石が語る魚類の進化（藪本）：【魚類化石】
 - 4回 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
 - 5回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石）：【絶滅危惧】【生物多様性】
 - 6回 ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
 - 7回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
 - 8回 カエルとサンショウウオのはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
 - 9回 宝石鉱物の魅力と不思議（森）：【宝石】【鉱物】
 - 10回 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
 - 11回 アンモナイトの古生物学（御前）：【系統進化】【携帯と機能】【恐竜】
 - 12回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）：【化石】【進化】【古生態】
 - 13回 まとめ
- ※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

2回の博物館見学は必須となります。レポートで成績評価を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。

履修上の注意 /Remarks

講義に遅れてきたり、出席確認後に退席したりすることがないように、各自マナーを守るよう心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

化学知識は生活に不可欠な知識です。化学物質は身近な物質として生活を豊かにするのに貢献しています。また”生命とは宇宙とは”豊かな発想や、豊かな未来社会を展望する上での必要な知識です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また金銭を中心とする消費社会では、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養でなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

化学的知識の理解は、情報を受ける側の基礎知識と情報提供者の工夫によって進みます。化学の専門家でない者には、一つの知識の習得には多面的アプローチが重要です。したがって、講義は、高校理科・化学のまとめと補足のあと教科書より与えられるテーマをもとに、色々補足を加えて、身近な化学知識への興味と理解が進むように努めたい。

教科書 /Textbooks

学説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳 (丸善)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「沈黙の春」 R. Carson著、青木梁一訳 (新潮社)
「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾力著 (翔泳社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は、入門的に高校の理科・化学のまとめと補足を行い。引き続いて、教科書に与えられたテーマに基づき、補足、関連話題や解説を進めて理解の促進をはかる。

- 1) 化学の基礎1
- 2) 化学の基礎2
- 3) 香水(香料)・・・ においの正体、対置する消臭
- 4) 砂糖と甘味料・・・ 甘味料の役割
- 5) 味と調味料・・・ 味覚と化学 (教科書外)
- 6) アルコール・・・ 酒と百薬の長・・・ アルコールの体内挙動
- 7) コレステロール、脂肪、食物繊維・・・ ダイエットとメタボ対策
- 8) くすり・・・ 毒と薬は紙一重
- 9) 洗剤・・・ 洗浄、きれいさ、その歴史と洗剤の多機能性 (教科書外)
- 10) 塩化ビニル・・・ プラスチックと高分子の歴史
- 11) プラスチック・・・ 環境問題 (教科書+教科書外)
- 12) ダイオキシン・・・ 化学汚染、大気汚染・・・ 都市問題
- 13) 無機窒素肥料・・・ 化学肥料と有機肥料
- 14) 二酸化炭素・・・ 二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、地球温暖化、地球の歴史
- 15) 未来社会と化学 (教科書+教科書外)

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポートや小テスト30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。テレビ新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義することがあるので、ノートはきちんととること。小テストやレポートが、ノートのに基づくこともある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間は社会的な存在であり、集団や社会から影響を受けて個人が成り立っていると同時に、各個人が集団や社会を成り立たせている。授業への参加が、このことを考えるきっかけになってほしい。日常生活における問題と心理学研究における問題とのつながりを理解することによって、自分、他者、集団、社会、というものの見方に深みが増すことを期待する。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、心理学とは何か
- 第2回 心をどうとらえるか
- 第3回 心の柔軟性1(進化)
- 第4回 心の柔軟性2(脳)
- 第5回 心の柔軟性3(本能)
- 第6回 人間は世界をどう理解するか1(知覚)
- 第7回 人間は世界をどう理解するか2(記憶)
- 第8回 人間は世界をどう理解するか3(学習)
- 第9回 自分を顧みる1(親子関係)
- 第10回 自分を顧みる2(自己評価、自尊心)
- 第11回 自分達を顧みる1(消費と生産)
- 第12回 自分たちを顧みる2(性と年齢)
- 第13回 集団の心理
- 第14回 社会と自己
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(数回行います)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数のたのしみ 【昼】

担当者名 /Instructor 高妻 倫太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中学校・高校で習う「数学」とは違い、文化的観点を取り入れた「数楽」を目標とする。
 1. 数の世界に対する関心・興味を持ってもらうこと。
 2. 数学的思考法を体感し、「考えることは楽しい」感覚を呼び覚ますこと。
 講義全体のキーワードは、数との親しみ・愉しみ。それらを通して世の中に数学的精神が息づいていることを伝えたい。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回準備するため、テキストの指定は特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

心躍る、3世紀にわたる数学者たちの、挫折と栄光と感動の物語として次を推奨する。
 ○サイモン・シン著・青木薫訳『フェルマーの最終定理』新潮社(2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 数の世界はどのようにして発見、発展させられてきたか。数学史を織り交ぜながら述べる。
2. 数学的な考え方の紹介。数(や図形)の問題を皆で考える。ただし、予備知識をなるべく仮定せず考えて欲しいと思われる問題。
 - 1回 古代の数学【バビロニア】、【エジプト】、【中国】、【インド】
 - 2回 かぞえること【数の発見】、【数の表記法】、ギリシャ数学のはじまり【ピタゴラス学派】
 - 3回 古代ギリシャの数学者・哲学者たち【ギリシャ三大作図問題】
 - 4回 円周率とは【 π の歴史】、【ビュフォンの針】
 - 5回 ギリシャ数学の末期【ディオファントスの「算術」】、中世の中国
 - 6回 中世の数学【インド】、【イスラーム】、【ヨーロッパ】、ふしぎの黄金比
 - 7回 いろいろな記号の起源、未知数がXになるまでの道のり、方程式の解法をめぐって
 - 8回 究極の折り紙
 - 9回 ルネサンスの絵画と幾何、17世紀の幾何学・確率論・数論
 - 10回 和算について【江戸時代】、19世紀の代数学・数論、19世紀までの主な数学分野
 - 11回 「テーマから考えてみよう」
 - 12回 フェルマーの最終定理が解かれるまで
 - 13回 暗号のはなし【公開鍵暗号】、【法の世界】
 - 14回 技術に生きる現代数学【RSA暗号】
 - 15回 技術に生きる現代数学【ISBN】

成績評価の方法 /Assessment Method

アンケート(毎回)およびレポートによる総合評価。
 「アンケート40%+レポート60%-欠席点数」で評価。3回以上の無断欠席は不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識は特に仮定しない。数をたのしんでみようという心構え・やる気が必要である。
 上記の参考文献を読まれるとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中の飲食・私語は禁止。
 携帯電話の電源は切り、鞆の中にしまっておくこと。

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要について
- 2回 問題提起—宗教とはなにか？
- 3回 宗教の諸類型と世界の諸宗教
- 4回 一神教について1（一神教の発生）
- 5回 一神教について2（ユダヤ教）
- 6回 一神教について3（キリスト教）
- 7回 日本人の「宗教」観
- 8回 仏教について1（インドの仏教）
- 9回 仏教について2（中国の仏教）
- 10回 仏教について3（日本の仏教）
- 11回 神道について1（神道の特色）
- 12回 神道について2（神道の形成）
- 13回 神道について3（神道の特色）
- 14回 日本の宗教風土
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% レポート... 20% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布した資料は下読みしておくこと。
レポートの作成には数冊の本を読んでもらうことになります。それなりの時間とお金を必要とします。計画的に作業を進めてレポートを提出して下さい。

履修上の注意 /Remarks

レポートを提出しない者は、期末試験を受験することができません。
レポート提出の遅延は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを理解し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

キーワード /Keywords

宗教 一神教 多神教 神道 仏教

思想と現代【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 期末レポート...50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに来る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。
本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピー等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明や、現代の商業的、歴史上の風刺画などをとりあげてイメージとしての〈日本〉について多様な角度から言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。さらに、後半では、テーマ研究として具体的なテーマに焦点を絞り、表象についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 イメージとしての〈日本〉①
- 4回 イメージとしての〈日本〉②
- 5回 イメージとしての〈日本〉③
- 6回 中間テスト
- 7回 【表象分析事始め】方法としての「比較」
- 8回 映画分析①
- 9回 映画分析②
- 10回 【テーマ研究】 表象を論じるためのテーマ
- 11回 戦争と表象①
- 12回 戦争と表象②
- 13回 戦争と表象③
- 14回 テーマ研究をふりかえって
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 10% 中間・期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、2回の試験において十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国内外の現代美術の事例を、鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして紹介します。必要に応じて美術以外の諸分野も取り上げます。

教科書 /Textbooks

ナシ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』(講談社現代新書)
佐々木健一『美学への招待』(中公新書)
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)
ほか、できるかぎり近辺の展覧会に足を運び、現場での実体験をすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品鑑賞1：学内作品鑑賞
- 3回 作品鑑賞2：抽象美術作品鑑賞
- 4回 美術の現場1：美術館展覧会の舞台裏
- 5回 美術の現場2：アートプロジェクトとは
- 6回 美術と近代化1：近代日本美術の成立
- 7回 美術と近代化2：東南アジアの現在：ラオス、カンボジア
- 8回 美術と近代化3：東南アジアの現在：タイ
- 9回 芸術と権力：ファシズムと祝祭性について
- 10回 芸術と宗教：ニューエイジについて
- 11回 美術と教育：美術教育の現場から
- 12回 芸術と生活：限界芸術、民芸
- 13回 美術と地域：福岡県内プロジェクト事例紹介
- 14回 北九州・福岡アートシーン紹介1
- 15回 北九州・福岡アートシーン紹介2

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は予告なしに変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の美術館・ギャラリー等で行われる展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と人間【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「戦争」は、人類が抱え込んできた難問であり続けている。「獣」は人間のような過剰な殺戮をおこなわないという観察的事実から、過剰な殺戮・すなわち虐殺こそが人間の特色であるという見方も、不可能ではない。戦争とは、人間にとってどのような営みなのか、という根源的な問いを踏まえ、近代の総力戦以降、私たちはどのように戦争を遂行し、またどのような体験をしてきたのか、幅広く戦争という営みを見据えたい。そして人間にとっての戦争を、政治、文化、記憶と歴史そして哲学と倫理等の側面から多角的に検証し、戦争と共生のはざままで今日の我々が共有すべき問いについて考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料はプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員が各々の専門と関心から同一テーマに従って輪番で講義を進行させてゆく「オムニバス授業」である。政治学(戸蒔)、政治・外交史(小林)、哲学・倫理学(伊原木)を中心とし、他学部の教員も加えて授業展開してゆく予定である。授業テーマや担当者については初回授業で説明するので、必ず出席すること。参考までに、昨年度の共通テーマは「敵概念」であった。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート 80% 授業内小レポート 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上) (下)』（早川書房）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房）
- 平井亮輔編『正義』（嵯峨野書院）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 本講義の構成と概説
- 第2回 現代正義論とは(続)
- 第3回 「正義」の応用問題(生命倫理と法) [~ 第7回まで]
脳死・臓器移植①
- 第4回 脳死・臓器移植②
- 第5回 脳死・臓器移植③
- 第6回 安楽死・尊厳死① 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義と多文化主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルティア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 狭義の現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送され、話題となったマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）（○）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）（○）
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）（○）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）（○）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞・グローバル化と民主主義【第三の波】【市民社会】
- 第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
- 第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
- 第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
- 第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
- 第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
- 第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
- 第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組状況考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『不思議な力 夜間中学』（宇多出版企画発行）

『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 「部落問題について」
- 6 「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 「在日外国人と人権課題」
- 8 「在日コリアンについて」
- 9 「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「戦争と人権 / 女性と戦争」
- 14 「アジアの人権状況」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人権論 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を認識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、なぜ「男は仕事、女は家事・育児・介護」は自然な役割だと思われているのか、なぜ男女の賃金格差があるのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（牟田和恵編）大阪大学出版会 2,520円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『岩波女性学事典』（井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編）岩波書店 4,830円
『フェミニズム理論辞典』（マギー・ハム著）明石書店 7,140円
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity, 2003 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 日本語とジェンダー-日本の戦後から現代までの歌謡曲【女言葉・男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウエイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別役割分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャルな関係】【性のダブル・スタンダード】
- 7回 学校教育の今昔-学園ものTVドラマの系譜【ジェンダー・トラッキング】【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-米映画『フローズン・リバー』【シングル・マザー】【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【家族経営協定】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-比映画『ケア・ギバー』【移住労働】【性別分業の再配置】
- 14回 テートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書、資料は事前に読んでおくこと。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイントを使用するため、プレゼンおよびパソコンPPT作成スキルを身につけておくこと。PPTは8枚にまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メディア表現、ジェンダー不平等な法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

ジェンダー論【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「グローバル化」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor 山本 光英、法学部教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なのであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法といってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第2回 裁判とは何か（民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など）（岡本）
- 第3回 相隣関係とは何か（隣接する土地所有権相互の利用を調整することの意味）（福本）
- 第4回 民事少額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 基本的人権とは何か（基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など）（植木）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（津田）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など）（中山）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（中山）
- 第11回 労働者の権利と生活の保障（労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など）（津田）
- 第12回 生存と環境保護（公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など）（岡本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 Pacta sunt servanda とは何か（「契約」と「約束の違い、契約の成立から終了までのプロセス）（福本）
- 第15回（予備日）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート（計3本）を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による（鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする）。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容に合わせて必要と思われる情報を収集しておくこと。復習が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定しますから、全て授業に出席していなければ、レポートは書けないこととなりますので注意してください。

共生の作法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、「北九州の政治行政」を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知っとーと！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 北九州の歴史-小倉藩の治世
- 3回 北九州の歴史-小倉の五街道
- 4回 北九州の歴史-軍都小倉
- 5回 北九州市誕生
- 6回 北九州の政治
- 7回 北九州の住民自治
- 8回 北九州の教育行政
- 9回 北九州の交通行政
- 10回 北九州の環境行政
- 11回 北九州の安全対策
- 12回 北九州の福祉行政
- 13回 北九州のスポーツ行政
- 14回 北九州の観光行政
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容は一応の予定です。現在検討中です。講義内容の詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。その後、欧米から日本の経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（＝ライフタイム・コミットメント、広義には職場共同体感）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。日く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。そこでは、市場から脱離・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものが、こうした人々を支えるセーフティネットをもっていたと判断される。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである。

そうすると行き着くところ、社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちと資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【現代社会における二者闘争性（白と黒）】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜紹介

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す小レポート(50点)
期末レポート試験(50点)
合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

つながりの人間学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

2011年度から初めて地域共生教育センターが担当します。詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、2010年度に開設された地域共生教育センターが提供する初めての科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、より深く地域活動をとらえて学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア観形成

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【FLO】
- 7回 小テスト+解説
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(3)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今年度より本授業の期末試験は持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となる。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 山本 光英、法学部法律学科教員
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。

本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「民法(債権法)改正とその問題点」(福本)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第15回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容に応じて情報を収集し、復習をしておくことが必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定しますから、全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意してください。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を、ポストコロナリズムという現代思想の問題提起に沿って考察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』知の攻略、思想読本4 (作品社、2003) 2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか (1) (2)
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 嚮田竜蔵論文
- 11回 第III部の1 朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文
- 13回 第III部の3、高橋哲也論文
- 14回 第III部の4、野村・鄭論文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告レジュメ1回(10%)、レポート3回(90%、1回30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書に登場する概念、理論などを自主的に勉強すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
グローバル化の進展に伴って、定住外国人の「統合」や多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。こうした課題について考えるための基礎知識を提供する。また、グローバルな現象をローカルな場（地域）において実証的に把握していく方法についても学ぶ。
授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察する。

教科書 /Textbooks

なし（プリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの紹介
- 第2回 グローバル化の進展と国際労働力移動【グローバル化】【エスニシティ】
- 第3回 出入国管理について【外国人登録】【出入国管理】
- 第4回 エスニシティ理論【道具主義】【原初主義】【分断労働市場】【オリエンタリズム】
- 第5回 在日韓国・朝鮮人と日系ブラジル人について【特別永住者】【定住者】【永住者】
- 第6回 日本と朝鮮半島の近現代史①（外国語学部総田先生による講義）
- 第7回 日本と朝鮮半島の近現代史②（外国語学部総田先生による講義）
- 第8回 日本と朝鮮半島の近現代史③（外国語学部総田先生による講義）
- 第9回 在日韓国・朝鮮人と日本社会①【民族関係】
- 第10回 在日韓国・朝鮮人と日本社会②【剥奪仮説】
- 第11回 日系ブラジル人と日本社会①【国境を越えた雇用システム】
- 第12回 日系ブラジル人と日本社会②【顔の見えない定住化】
- 第13回 日系ブラジル人と日本社会③【非正規雇用】【教育達成】
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ・人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション / アメリカ合衆国における移民・エスニシティ
- 2回 同化・統合の諸概念 【るつぽ】【サラダ・ポウル】
- 3回 黒人史と公民権運動 【アフリカ系アメリカ人】【公民権運動】
- 4回 マイノリティをめぐる政策：アフーマティブ・アクション(1)【起源】
- 5回 マイノリティをめぐる政策：アフーマティブ・アクション(2)【展開】
- 6回 自らを知る：日系アメリカ人 【強制収容】【第二次世界大戦】
- 7回 今日のエスニシティ状況 【ヒスパニック】【不法移民】
- 8回 欧州における「ネイション」と「エスニシティ」【ネイション】【エスニシティ】
- 9回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1)【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 10回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2)【オルダム暴動】【多文化主義】
- 11回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3)【ブリクストン暴動】【スカーマン報告】
- 12回 イギリスにおける民族とエスニシティ(4)【サッチャー主義】【イスラム嫌い】
- 13回 フランスにおける民族とエスニシティ(1)【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 14回 フランスにおける民族とエスニシティ(2)【ライシテ】【スカーフ問題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例	【援助】	担当：チョウドリ・三宅
6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動	【バングラデシュ】	担当：チョウドリ・三宅
7回 途上国と一村一品運動	【一村一品運動】	担当：チョウドリ・三宅
8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化	【グラミン銀行】	担当：チョウドリ・三宅
9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動	【韓国】	担当：申
10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策	【環境政策】	担当：申
11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス	【米国】	担当：申
12回 地域社会から見たガバナンス	【地域社会】	担当：三宅
13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
14回 ガバナンスに関するグループ・ワーク		担当：指名教員
15回 まとめ		担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 子供会 グループ・ワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

木暮太一(2010)『経済が世界—シンプルにつかめる本』明日香出版社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田稔(監修)(2010)『ポン!とわかる日本経済』宝島SUGOI文庫。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。

第1回	シラバス詳細版配布、授業の説明、イントロダクション	【グローバル化】
第2回	世界で何が起きている?	【サブプライム問題】
第3回	世界で何が起きている?	【WTO】【BRICs】
第4回	商品にまつわる話	【海外進出】【立地】
第5回	商品にまつわる話	【人件費】【為替レート】
第6回	食べ物にまつわる話	【食料自給率】
第7回	食べ物にまつわる話	【エコビジネス】【脱炭素燃料】
第8回	生活環境にまつわる話	【円高・円安】【人件費】
第9回	生活環境にまつわる話	【雇用慣行】【労働移動】
第10回	人の力にまつわる話	【人口減少】【貯蓄率】
第11回	人の力にまつわる話	【年金】
第12回	国の持ち物にまつわる話	【自由貿易】
第13回	国の持ち物にまつわる話	【多国籍企業】
第14回	お金と為替にまつわる話	【基軸通貨】
第15回	お金と為替にまつわる話	【変動相場制】

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニテスト(6、7回実施): 20~30%、学期末試験: 70~80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、必要に応じて配布されるプリントも予習・復習の際に参考にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』新版(有斐閣 2007年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習復習をしっかりとください。

キーワード /Keywords

日本政治 歴史 第二次世界大戦後

歴史の読み方【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日でも「サムライ日本」「武士の情け」「武士に二言はない」という言葉にあらわれるように、日本の社会と風土の中に「武士」という存在が大きな影響を与えています。

ここでは古代における武士の登場以来、800年間におよぶ武士の歴史から、中世の武士と近世の武士のモラルの違いやわれわれが知っている「武士道」が江戸時代ではなく近代になって作られたものであることを学びます。

また我が国における近代国家の形成の意味を「廃藩置県」「国語」をキーワードとして学びます。

教科書 /Textbooks

レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口実『武家の棟梁の条件』（中公新書）
- 関幸彦『武士の誕生』（日本放送協会出版）
- 元木泰雄『武士の成立』（吉川弘文館）
- 池上英子『名誉と順応-サムライ精神の歴史社会学-』（NTT出版）
- R・ベネディクト『菊と刀』（社会思想社）
- 勝田政治『廃藩置県-「明治国家」が生まれた日』（講談社）
- 長志珠絵『近代日本と国語ナショナリズム』（吉川弘文館）他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 【武士道】の成立①新渡戸稲造の武士道
 - 3回 【武士道】の成立②『鸚鵡籠中記』と『葉隠』
 - 4回 【武士道】の成立③【名誉型個人主義】
 - 5回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 6回 『平家物語』を読む②【言葉戦】
 - 7回 武士の起源-【領主】か【職能民】か
 - 8回 東日本型武士団と西日本型武士団-源平の歴史-
 - 9回 【征夷大將軍】とは何か
 - 10回 【廃藩置県】
 - 11回 【戊辰戦争】
 - 12回 【国語】の成立①
 - 12回 【国語】の成立②
 - 13回 【国語】の成立③
 - 14回 【国語】の成立④
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の人数によって筆記試験もしくは筆記試験と毎回の授業レポートにより評価する。筆記試験と毎回の授業レポートによる場合は、原則として筆記試験50%、授業レポート50%の配分とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジユメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。桂と言えば、「非立憲的政治家」として有名ですが、その実像はどうだったのか。この講義では、木戸孝允から「政府にとって軍隊とは一体何か」ということを学び、やがて、政党政治家に転身しようとして果たせなかった桂の運命的生涯を辿っていきます。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房、3,000円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

桂太郎 政党政治 陸軍 大正デモクラシー

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1960年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、ベトナム、フランス、ドイツ、アメリカ、中国といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2・3回 日本(小林)【60年安保】、【所得倍増政策】
- 第4・5回 ベトナム(伊野)【ベトナム戦争】
- 第6・7回 フランス(伊原木)【パリ五月革命】
- 第8・9回 ドイツ(中道)【学生運動】
- 第10・11回 アメリカ(寺田)【公民権運動】
- 第12・13回 中国(下野)【文化大革命】
- 第14回 1970年代への展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20%小テスト...20%レポート...60%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「感想文」を提出してもらいます。一回でも未提出があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題を当時のニュースビデオなどを利用して解説してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジュメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第1回授業で参考文献を挙げます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 戦後改革
- 2回 経済復興
- 3回 産業政策の効果
- 4回 メインバンクシステム
- 5回 安定株主化
- 6回 重化学工業化
- 7回 農工間人口移動
- 8回 大衆消費社会
- 9回 エネルギー革命
- 10回 石油危機
- 11回 赤字国債
- 12回 サービス経済化と産業構造の変化
- 13回 債権大国
- 14回 アジアの成長と日本経済
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前回のレジュメによってしっかり復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史 【昼】

担当者名 /Instructor 福岡 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自由で豊かな暮らしを求めて、人々が都市への集住を強めた20世紀。各地で都市化が進み、農村も相応の変化を強いられてきた。これを「向都離村」という言葉で説明することがあり、都市集住がすべてバラ色ではなかったことを示してきた。にもかかわらず、この傾向は現代においても未だに続いている。果たして、人々を幻惑する都市の魅力とは何か、また農村から都市へと移動する人々が直面した困惑と持ち帰った文化的価値とは何か。

この講義では、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない生活の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。必要な資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 「都市の誘惑」 ガイダンス
- 第2回 「都市と農村 / 都会と田舎」 都市と農村のイメージ
- 第3回 「都市の言葉と話芸の誕生」 言葉から都市と農村を見る
- 第4回 「都会という感覚」 都会の指標としての祭礼
- 第5回 「都会のハビトゥス1」 出会いと社交の技法
- 第6回 「都会のハビトゥス2」 結集の理法
- 第7回 「都会のハビトゥス3」 不文律の妙
- 第8回 「都会人の気質」
- 第9回 「三つ子の魂、百まで」 ある日本画家の原風景
- 第10回 「都市の人生と漁村」 人と物の交流と人生儀礼
- 第11回 「都鄙連続論」 都市と農村の繋がりを考える方法
- 第12回 「都鄙連続論の検証」 山笠に見る文化伝播
- 第13回 「都市の再生産」
- 第14回 「都市と農村の身体性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「話を聞く」ことを重視する。授業をしっかりと聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 カと近代【蒸気機関、内燃機関、原子力】
- 第3回 自動車の時代の終わり？【ICT、高付加価値生産】
- 第4回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会、トクヴィル】
- 第5回 ヘンリー・フォードとアメリカ【ヘンリー・フォード】
- 第6回 内燃機関と身体【職人文化】
- 第7回 フォード・システムと大衆【フォーディズム】
- 第8回 フォード対GM 【柔軟な大量生産システム】
- 第9回 ポスト・フォーディズムへ【ポスト・フォーディズム】
- 第10回 自動車と国家【産業政策、安全保障政策】
- 第11回 自動車と都市政治【住宅開発、道路建設、交通事故】
- 第12回 「家庭」という価値と自動車【新中間層】
- 第13回 自動車とメディア【広告、メディア】
- 第14回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

四人の教員が、日本・アメリカ・インド・英国の代表的な人物について、人物と時代について語る。
はじめに、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。
江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が繁栄したのか。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。
次に今や中国とともに、次世代を握るインドの話である。まず、マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史について語る。「ガンディ」の映画を鑑賞したのち、マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?について考える。
最後は、世界大学ランキング1位を維持し続けているケンブリッジ大学を擁する英国について、「世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ」、「湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター」、「『イギリス病』を救った鉄の女、M.サッチャー」について語る。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

それぞれの人物について、自伝や歴史書などを中心に読んでおくこと。
山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで>—』(ミネルヴァ書房、2008年6月)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

- 第1回 はじめに。「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と幕末・明治維新
- 第2回 江戸時代、壊滅的な藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 幕府の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
- 第4回 親鸞と平安・鎌倉時代
- 第5回 聖徳太子と飛鳥・奈良時代
- 第6回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
- 第7回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
- 第8回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
- 第9回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史
- 第10回 「ガンディ」の映画鑑賞
- 第11回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?
- 第12回 明治維新を側面から支援したスコットランド人、トーマス・グラバー
- 第13回 湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター
- 第14回 世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ
- 第15回 「イギリス病」を救った鉄の女、M.サッチャー—総まとめ—

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

人物と時代の歴史【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【ラスト・サムライ】【武士道】【幕末・明治維新】【壊滅的な藩の財政を立て直した】【儒教的経営とは】【江戸幕府の礎を築いた】家光の弟・保科正之【民衆に根ざした仏教】【平安・鎌倉時代】【一七条の憲法】【聖徳太子（厩戸皇子）】【飛鳥時代】【オバマ大統領】【ノーベル平和賞】【奴隷解放運動の歴史】【アメリカ歴代大統領】【マハトマ・ガンディ】【イギリス植民地史】【なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか】【ヘアトリクス・ポター】【湖水地方】【湯布院】【ケインズと世界恐慌】【サッチャー】【英国病】

教養特講I【昼】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義名：東南アジアを知ろう！

現代東南アジア諸国の政治を、独立まで遡って、国民国家建設、民主化、経済発展などのプロセスと問題点、アジア経済危機のインパクトとその後の体制変動などを概観する。東南アジア諸国の急激な経済発展や社会変動、アジア経済危機の影響など政治と経済の相互作用とともに、貧困層、女性や子供など弱者に対する視点も講義する。ダイナミックに変動する東南アジアを学ぶ面白さを味わってもらいたい。

テキストには、清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治』（ミネルヴァ書房）を使用する。講義担当者はすべてこの本の執筆者であり、若手・中堅の東南アジア研究者である。受講生は執筆者の講義を直接受けることができるだけでなく、執筆者の東南アジアとの関わりなど興味深いエピソードも聞くことができよう。

教科書 /Textbooks

○清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治』ミネルヴァ書房、2011年3月、予定価格2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

上記教科書の各章末に参考文献、読書案内が明記されている。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	授業の説明、オリエンテーション	田村慶子
第2回	東南アジア概論(1)：東南アジアとは何か	田村慶子
第3回	東南アジア概論(2)：国民国家の創造と課題	田村慶子
第4回	マレーシア(1)：独立と国家建設	篠崎香織
第5回	マレーシア(2)：開発体制とその溶解	篠崎香織
第6回	インドネシア(1)：独立と国家建設	横山豪志
第7回	インドネシア(2)：開発体制とその溶解	横山豪志
第8回	ミャンマー(1)：独立と国家建設	伊野憲治
第9回	ミャンマー(2)：独裁政治体制と民主化	伊野憲治
第10回	シンガポール(1)：独立と国家建設	田村慶子
第11回	シンガポール(2)：開発体制と民主化	田村慶子
第12回	ASEAN(1)：ASEANの結成と発展	清水一史
第13回	ASEAN(2)：アジア地域統合に向けて	清水一史
第14回	(講演)「東南アジアの人身取引被害者保護・自立支援プロジェクト」未定	
第15回	まとめと補足	

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト100%・・・各担当者の2回目の講義終了時に30分ほどのテストを実施する。
病気などのやむを得ない理由でテストを受験できなかった受講生にのみ、レポート提出を認める。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各講義の前に、必ず『東南アジア現代政治』の該当する章を読んで予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義を通して、多様な民族、言語、文化、宗教が存在する豊穡で国際色豊かな東南アジアを好きになってください！

キーワード /Keywords

東南アジア、植民地支配、国民国家建設、インドネシア、マレーシア、シンガポール、ミャンマー、ASEAN

教養特講II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

宇宙、生命、そして人間について、未知なるもののロマンから最先端の技術にいたるまでのトピックに触れながら、科学的なものの見方や考え、文系の学生にとって必要な理科系の素養、社会で通用する「科学力」を身につけることを目標とする。

20世紀後半から21世紀にかけて宇宙と生命の科学は飛躍的に進歩した。それによってもたらされた成果は先端技術という形で我々の身近な生活にすでに着々と根付いている。これらをただ享受するだけではなく、根底にある科学の面白さを理解し学ぶことは、これからの社会を生き抜くために極めて重要である。これまで理科系科目が苦手だった学生もそうでない学生も、本講によって新たな世界への扉を開き、視野の広い心豊かな人間形成の一助としてほしい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「宇宙と生命の起源 ビッグバンから人類誕生まで」 嶺重慎、小久保英一郎編著 岩波ジュニア新書、2004年
- 「アメリカ版大学生物学の教科書・第2巻」 D. サダヴァ他著、ブルーバックス、2010年
- 「文系のための生命科学」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編、2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

宇宙の話題は中尾、生命と人間の話題は日高が担当する。【】内はキーワード。

- 1回 ガイダンス
- 2回 この宇宙のすがた 【ビッグバン】 【銀河】 【太陽系】 【ダークマター・ダークエネルギー】
- 3回 星の一生と生命との関わり 【星の進化】 【元素】 【超新星爆発】 【ブラックホール】
- 4回 太陽の活動と地球の環境 【太陽黒点】 【コロナ】 【太陽風】 【オーロラ】 【地球磁場】
- 5回 天体の衝突と生物絶滅 【小惑星】 【彗星】 【クレータ】 【生物絶滅】
- 6回 もう1つの地球をさがす 【太陽系外惑星探査】 【地球外生命体】
- 7回 地球上の生物共通の文字DNAとは？ 【DNA】 【RNA】 【タンパク質】
- 8回 生命の誕生と生物の進化 【生物多様性】 【突然変異】
- 9回 人類のルーツを探れ 【ミトコンドリア】 【DNA鑑定】
- 10回 ヒトゲノム計画で何が見えたか 【DNA解析】 【遺伝情報】 【遺伝と疾患】
- 11回 遺伝子組換え作物は安全か 【遺伝子組換え技術】 【ベクター】
- 12回 ヒトは何歳まで生きられるか 【テロメア】 【老化】 【がん】
- 13回 クローン人間は作れるのか 【ES細胞・iPS細胞】 【再生医療】 【生命操作】
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50%、レポート50% (中尾25%・日高25%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講III 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本年度の「教養特講III」は、警察実務に携わっておられる方々によるオムニバス方式の講義です。警察実務家の立場から犯罪の発生状況及びその対策等について説明をしていただき、社会の安全・安心の確保に関する政策の一つである「犯罪等の統制に関する政策」の現状と課題を考察することを目的としています。警察本部長をはじめ、公共の安全と社会秩序を維持するために日々活動している現役警察官等の方々から、治安状況や警察活動・公務の重要性、法律が具体的に実社会でどのように役立っているかを学ぶとともに、安全で安心して生活できる社会を実現するにはどうすればよいかを考えていただきたいと思います。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 警察捜査
- 2回 科学捜査
- 3回 捜査をめぐる諸問題
- 4回 警察捜査の概要と福岡県警の取組み
- 5回 性犯罪等の身近な犯罪を抑止するために
- 6回 被害者支援の在り方
- 7回 少年犯罪と少年警察、暴走族・少年犯罪対策
- 8回 犯罪の起きにくい社会づくり
- 9回 組織犯罪対策① 暴力団対策
- 10回 組織犯罪対策② 外国人組織犯罪・テロ対策
- 11回 組織犯罪対策③ 薬物対策
- 12回 サイバー犯罪の現状と対策
- 13回 交通警察
- 14回 新しい犯罪対策
- 15回 まとめ

* 毎回講師をお招きしてお話を伺います。上記の内容、スケジュールは講師の都合等により変更になることがあります。変更があればその都度お伝えします。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取組み・・・10% 期末レポート・・・90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

教養特講Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「法律学の“い・ろ・は”」
 私たちが生活する現代社会では、非常に多くの事柄が「法」によって規律されています。普段はその存在すら感じられない「法」ですが、ひとたびトラブルが起きると、事態は「法」にしたがって解決されることとなります。このような社会では、多少なりとも法律知識があることで、日常生活において、あるいは仕事の場において、トラブルを避けることができ、またトラブルに適切に対処することができるようになります。そうした法律知識を必要に応じて探し出し、法律を活用し、場合によっては弁護士などの助力を受けるにも、法律学のスキル（技術）が必要となります。法律が「お約束の世界」だからです（これが法律を疎遠にしている主因でもあるのですが……）。
 平穏で快適な生活をおくるためにも、いざという時に「法」を味方にするのできる法律学の基礎技術を学んでいきましょう。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。必要に応じて、適宜、レジユメを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂・2010.04）ISBN：9784335313127
 和田寛伸ほか『法律学の礎』（八千代出版・2002.10）ISBN：9784842912530

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 3回 とても身近な日常の出来事と「法」との関係
- 4回 法律学への入門① 法律を学ぶ＝条文の暗記？
- 5回 法律学への入門② 法令の種類と体系
- 6回 法律学への入門③ 法律を使う～佐藤君は犬？～
- 7回 法律学への入門④ 考える材料を集めよう～なぜ資料が必要か～
- 8回 法律学への入門⑤ 法令を探す
- 9回 法律学への入門⑥ 文献資料を探す
- 10回 紛争を解決するには～訴訟と裁判外紛争解決手続～
- 11回～12回 裁判へ行ってみよう～民事裁判と刑事裁判～
- 13回～14回 法理論と紛争解決
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への取り組み...50% レポート...50%
 講義の中でさまざまな「問いかけ」がなされます。恥ずかしがらずに、自分の考えを明らかにしてください。内容の良し悪しではなく、「積極性」を評価したいと考えています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマを考える「素材（具体的事例）」を提供します。その事例を、自分だったら「どう解決する」のか、そう解決するのは「なぜか」をまとめてみてください。自分なりの考えの筋道と、講談（講壇？）で披露される解決策とを比較して、その違いを考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

この科目と並行して、「法律の読み方」「現代正義論」「現代社会の諸問題」「共生の作法」といった、法学系科目を履修されることをお勧めします。それらの科目で、ここで学んだスキルをさらに磨いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

具体的事例をもとに、法を用いた解決策を考えていきます。この科目で問われる問題に、残念ながら、「正解」はありません。「自分だったらどう解決するか」、「なぜその解決が支持されるのか」を、じっくり考えてみてください。そして、周りの人々と意見を交換してください。法の正当性は、社会、すなわち多数の人々の確信によって支えられていることです。だからこそ多数の人との意見交換が重要となります。

キーワード /Keywords

法学 法学入門

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・境域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』（講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年）
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』（山川出版社、2006年）
- 小熊英二『〈日本人〉の境界』（新曜社、1998年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「日本」の誕生
- 第3回 「鎖国」と「開国」
- 第4回 蝦夷地とアイヌ
- 第5回 近代化とアイヌ社会
- 第6回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第7回 幕藩体制下の琉球から沖縄へ
- 第8回 中世における対馬と朝鮮
- 第9回 対馬からみた日朝関係
- 第10回 〈日本人〉の境界
- 第11回 「帝国日本」の形成(1)【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成(2)【朝鮮】
- 第13回 「帝国日本」の形成(3)【満洲】
- 第14回 「帝国日本」の解体
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

境界、境域、国家

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観 【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル 【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」 【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出 【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成① 【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成② 【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成① 【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成② 【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭 【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編 【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開① 【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開② 【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の統一というと、単に国内のみの問題という向きがあるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収しつつ変容を繰り返している。また、近隣諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきており、こうした関わりは密接なものである。本講義では、東アジアを中心にその歴史の変遷を考察することにより、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにし、②さらにそれを通じて東アジア諸地域の今後のあり方を自ら模索出来る力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 中華思想・漢民族の形成 -
- 第3回 漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 冊封体制を中心に -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関わり -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と親魏倭王 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族の変遷 -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐と北方騎馬民族国家 - 唐の近隣支配体制の変遷 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20%・定期試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域について社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代の社会的解読』(山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006)
その他、講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 社会学の基本的な考え方
- 第3回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケムの方法1
- 第4回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケムの方法2
- 第5回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバーの方法1
- 第6回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバーの方法2
- 第7回 集団と組織1 - 集団・組織の種類と機能
- 第8回 集団と組織2 - 官僚制の逆機能
- 第9回 家族1 - 家族の種類と機能
- 第10回 家族2 - 近代化と家族
- 第11回 社会階層と社会移動1 - 階層化の趨勢
- 第12回 社会階層と社会移動2 - 階層化のメカニズム
- 第13回 グローバル化とエスニシティ1 - グローバル化の趨勢
- 第14回 グローバル化とエスニシティ2 - 統合のメカニズム
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学 【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異に注目し、それがなぜ生ずるのか、そのメカニズムを明らかにすることが重要な課題の一つである。本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与するか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

富田和暁『地域と産業 新版』原書房、2006年。
井関弘太郎『沖積平野』東京大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 日常の授業の取組み20% レポート10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳持参が望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

水河制海面変動 沖積層 貴族世界と武家世界 高速交通 産業構造

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を「地域的観点」から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習を行い、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし（適宜、プリントを配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院 3,675円)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書 2,625円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義・実習)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。
- 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI (講義・実習)。
- 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII (実習)。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 リモートセンシング、衛星データの利用。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 日常の授業への取組み20% レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域構造 過疎過密 産業再編成 九州 関門地域

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して「倫理」という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ--ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理(1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理(2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理(3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理(1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理(2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理(3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 小テスト+解説
- 9回 近代倫理学の誕生(1)【イギリス経験論】
- 10回 近代倫理学の誕生(2)【契約説】
- 11回 近代倫理学の発展(1)【功利主義】
- 12回 近代倫理学の発展(2)【カント】
- 13回 近代倫理学への批判(1)【ニーチェ】
- 14回 近代倫理学への批判(2)【徳倫理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。初回の授業では「小テスト」の日程・方法について詳しい説明するので、必ず出席すること。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 光藤 雄一 / Yuichi Mitsudo / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割を説明できるようになります。
- Webページを閲覧する際に、そのページの作成元や信頼度を判断する基準を理解できるようになります。
- データベースとはどのようなものか具体的な例に基づいて説明することができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【リスク分析】
- 8回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 9回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 10回 情報セキュリティ対策(2)【SSL】【クッキー】
- 11回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 12回 データベースの基礎(1)【正規化】【主キー】
- 13回 データベースの基礎(2)【SQL】
- 14回 データベースの基礎・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、データベース

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割を説明できるようになります。
- Webページを閲覧する際に、そのページの作成元や信頼度を判断する基準を理解できるようになります。
- データベースとはどのようなものか具体的な例に基づいて説明することができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【リスク分析】
- 8回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 9回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 10回 情報セキュリティ対策(2)【SSL】【クッキー】
- 11回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 12回 データベースの基礎(1)【正規化】【主キー】
- 13回 データベースの基礎(2)【SQL】
- 14回 データベースの基礎・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、データベース

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 佐々木 実 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，積極的な授業参加（タイピング，電子メール送受信，情報倫理の理解等を含む） ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作（キーボードで文字を入力する，マウス操作など）ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度，情報システムの状況によっては，「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので，タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 光藤 雄一 / Yuichi Mitsudo / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，積極的な授業参加（タイピング，電子メール送受信，情報倫理の理解等を含む）... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作（キーボードで文字を入力する，マウス操作など）ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度，情報システムの状況によっては，「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので，タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，積極的な授業参加（タイピング，電子メール送受信，情報倫理の理解等を含む） ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作（キーボードで文字を入力する，マウス操作など）ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度，情報システムの状況によっては，「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので，タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成、及び、発表用スライドを利用した発表を行います。本授業の目的は、文字や画像などのメディアを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- ・ HTMLの文字装飾や背景色、画像・表の挿入、リンクの貼り付け等の技術を活用したWebページの作成ができるようになります。
- ・ 作成したWebページを、Webサーバへアップロードできるようになります。
- ・ Microsoft PowerPointを使って、文字装飾やスライドのレイアウト・デザインの設定、画像、図形、表、グラフ、リンクといった授業で取り扱う技術を駆使した発表用スライドを作成できるようになります。
- ・ 発表するときのポイントや注意点等が考慮された発表を行なうことができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習1【Webページの構成】
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習2【Webページのデザイン】
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習
- 7回 グループ作業によるWebページ作成のまとめ
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【発表の心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表とプレゼンテーションのまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一度理解に躓くと、その先の授業についてこれなくなる可能性があります。難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、本授業では、グループによる学習も導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML、プレゼンテーション、マルチメディア

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成、及び、発表用スライドを利用した発表を行います。本授業の目的は、文字や画像などのメディアを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- ・ HTMLの文字装飾や背景色、画像・表の挿入、リンクの貼り付け等の技術を活用したWebページの作成ができるようになります。
- ・ 作成したWebページを、Webサーバへアップロードできるようになります。
- ・ Microsoft PowerPointを使って、文字装飾やスライドのレイアウト・デザインの設定、画像、図形、表、グラフ、リンクといった授業で取り扱う技術を駆使した発表用スライドを作成することができるようになります。
- ・ 発表するときのポイントや注意点等が考慮された発表を行なうことができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習1【Webページの構成】
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習2【Webページのデザイン】
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習
- 7回 グループ作業によるWebページ作成のまとめ
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【発表の心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表とプレゼンテーションのまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一度理解に躓くと、その先の授業についてこれなくなる可能性があります。難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、本授業では、グループによる学習も導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML、プレゼンテーション、マルチメディア

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書いてやる必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとはなにか【VBA】【マクロ】
- 2回 同じ操作をなんどもくりかえす【マクロの記録】【セキュリティ】
- 3回 プログラムの基本1：プログラミングに使う道具を知る【変数】【関数】
- 4回 プログラムの基本2：プログラムがおこなう動作を知る【演算】【メソッド】
- 5回 プログラムの処理の流れを理解する【フローチャート】
- 6回 プログラムの構造1：枝分かれする処理を行う【条件分岐】【if】
- 7回 プログラムの構造2：くりかえし処理を行う【ループ構造】【for】
- 8回 ユーザとのやりとりをデザインする【ユーザフォーム】【GUI】
- 9回 ユーザとのやりとりをプログラムする【イベント処理】
- 10回 変数の有効範囲を設定する【変数のスコープ】【配列変数】
- 11回 プログラミング課題1：サンプルプログラムを解説する
- 12回 プログラミング課題2：サンプルプログラムを変更する
- 13回 プログラミング課題3：オリジナルプログラムを作成する
- 14回 作品発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，プログラミング作品提出 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作（タイピング等）にある程度習熟しておくことをすすめます。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。
また、1年次配当科目の「データ処理」を受講しておくといでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的なことから授業します。

キーワード /Keywords

プログラミング マクロ フローチャート GUI

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書いてやる必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとはなにか【VBA】【マクロ】
- 2回 同じ操作をなんどもくりかえす【マクロの記録】【セキュリティ】
- 3回 プログラムの基本1：プログラミングに使う道具を知る【変数】【関数】
- 4回 プログラムの基本2：プログラムがおこなう動作を知る【演算】【メソッド】
- 5回 プログラムの処理の流れを理解する【フローチャート】
- 6回 プログラムの構造1：枝分かれする処理を行う【条件分岐】【if】
- 7回 プログラムの構造2：くりかえし処理を行う【ループ構造】【for】
- 8回 ユーザとのやりとりをデザインする【ユーザフォーム】【GUI】
- 9回 ユーザとのやりとりをプログラムする【イベント処理】
- 10回 変数の有効範囲を設定する【変数のスコープ】【配列変数】
- 11回 プログラミング課題1：サンプルプログラムを解説する
- 12回 プログラミング課題2：サンプルプログラムを変更する
- 13回 プログラミング課題3：オリジナルプログラムを作成する
- 14回 作品発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，プログラミング作品提出 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作（タイピング等）にある程度習熟しておくことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。
また、1年次配当科目の「データ処理」を受講しておくといでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的なことから授業します。

キーワード /Keywords

プログラミング マクロ フローチャート GUI

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Meet people.
- 第2回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 第3回 Talk about people and occupations. Video Journal : Last of the Woman Divers
- 第4回 Talk about work and free time activities.
- 第5回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 第6回 Video Journal : Hula. Identify possessions
- 第7回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 第8回 Share special travel tips. Video Journal : Beagle Patrol
- 第9回 Talk about food. Order a meal.
- 第10回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 第11回 Video Journal : Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 第12回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 第13回 Discuss adventure holidays. Video Journal : Cheese-Rolling Races
- 第14回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 第15回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments : 60%
Final examination : 40%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...50%、平常の学習状況（小テストを含む）...50%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式に慣れるために、教科書を使った問題練習をします。加えて、英字新聞・小説・絵本などを載せたハンドアウトや、映画のDVDを通して、英語の読解力・聴解力をつけます。

教科書 /Textbooks

安丸雅子ほか著『Seize the Essence of the TOEIC Test』(金星堂、2011年) ISBN 978-4-7647-3919-2

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(授業の流れ、成績評価の説明)
- 2回 Unit 1 Daily Life【名詞・主語と動詞の一致】
- 3回 Unit 1 Daily Life【名詞・主語と動詞の一致】
- 4回 Unit 2 Eating Out & Amusement【形容詞・副詞】
- 5回 Unit 2 Eating Out & Amusement【形容詞・副詞】
- 6回 Unit 3 Cooking and Purchasing【基本時制】
- 7回 Unit 3 Cooking and Purchasing【基本時制】
- 8回 Unit 4 Traffic & Travel【進行形・完了形】
- 9回 Unit 4 Traffic & Travel【進行形・完了形】
- 10回 Unit 5 Production & Logistics【受動態】
- 11回 Unit 5 Production & Logistics【受動態】
- 12回 Unit 6 Business & Economics【分詞・分詞構文】
- 13回 Unit 6 Business & Economics【分詞・分詞構文】
- 14回 Review Test 1
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...50%、期末試験...50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

実用的な英語運用能力を測定するTOEICの出題形式と連動して作成されたテキスト"Conquering the TOEIC Test"を用い、基本的な語彙、文法をマスターしながら、リスニング・リーディング両方にわたる総合的な英語運用能力を養成していくことが授業のねらいである。

また"The New York Times" "International Herald Tribune" etc. から抜粋された社会・文化・政治経済・情報などに関する記事(テキスト"The Half-Edition of English through the News Media 2001")を読み、世界で起きている出来事に触れながら、多角的に複眼的に英語能力が培われることを意図している。

教科書 /Textbooks

Conquering the TOEIC Test (著者: 河原真也他、出版社: 朝日出版社)

The Half-Edition of English through the News Media 2011 (著者: 高橋優身他、出版社: 朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜知らせる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEIC「写真描写問題」/ News Media「読書はネットで」
- 2回 TOEIC「応答問題」/ News Media「ヨーロッパで『マンガ』大ブーム」
- 3回 TOEIC「会話問題」/ News Media「黒人が白人か? 国勢調査が選択を迫る」
- 4回 TOEIC「説明文問題」/ News Media「日本、バラグアイにPK戦負け」
- 5回 TOEIC Practice for Listening Parts
- 6回 TOEIC「短文穴埋め問題」/ News Media「マグロ取引と象牙取引」
- 7回 TOEIC「長文穴埋め問題」/ News Media「イスラム教徒に生まれて」
- 8回 TOEIC「読解問題」/ News Media「ヨーロッパの金融危機」
- 9回 TOEIC Practice for Reading Parts
- 10回 TOEIC Mini Test 1 / News Media「英国自民党、保守党と連立を考慮」
- 11回 TOEIC Mini Test 2 / News Media「あのトバイが地域経済の足を引っ張る?」
- 12回 TOEIC Mini Test 3 / News Media「メコン川流域、水不足と相互不信」
- 13回 TOEIC Mini Test 4 / News Media「イスラエルはどこもロシアだらけ」
- 14回 TOEIC Mini Test 5 / News Media「ツイッターの普及で大統領の人気急落」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(60%)、小テスト及び課題(40%)であるが、出席状況や授業中の態度を加味し総合的に判断して決定。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は必須。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

「Seize the Essence of the TOEIC Test : TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit 1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit 2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit 2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit 3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit 3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit 4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit 4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit 5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit 5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit 6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit 6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit 1~6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点 (20%) と筆記試験 (80%) に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元ごとに単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 1995円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)、筆記試験(60%)、提出物等(20%)そしてTOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC問題を通して英語の基礎力（特にリスニング及びリーディング力）をつけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。毎回の授業でプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 英語力確認テスト（必ず出席のこと）
- 2回 リスニング（Part 1,2）/リーディング（Part 5）
- 3回 リスニング（Part 3,4）/リーディング（Part 6,7）
- 4回 リスニング（Part 1,2）/リーディング（Part 5）
- 5回 リスニング（Part 3,4）/リーディング（Part 6,7）
- 6回 リスニング（Part 1,2）/リーディング（Part 5）
- 7回 リスニング（Part 3,4）/リーディング（Part 6,7）
- 8回 リスニング（Part 1,2）/リーディング（Part 5）
- 9回 リスニング（Part 3,4）/リーディング（Part 6,7）
- 10回 リスニング（Part 1,2）/リーディング（Part 5）
- 11回 リスニング（Part 3,4）/リーディング（Part 6,7）
- 12回 リスニング（Part 1,2）/リーディング（Part 5）
- 13回 リスニング（Part 3,4）/リーディング（Part 6,7）
- 14回 リスニング（Part 3,4）/リーディング（Part 6,7）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト50% + 期末テスト50%
欠席2回まで。遅刻2回で1回で欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業毎に配布されたプリントで、各自復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際語 コミュニケーション 基礎力 インプット Step by Step

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...50%、平常の学習状況（小テストを含む）...50%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式に慣れるために、教科書を使った問題練習をします。加えて、英字新聞・小説・絵本などを載せたハンドアウトや、映画のDVDを通して、英語の読解力・聴解力をつけます。

教科書 /Textbooks

安丸雅子ほか著『Seize the Essence of the TOEIC Test』（金星堂、2011年）ISBN 978-4-7647-3919-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(授業の流れ、成績評価の説明)
- 2回 Unit 7 Employment 【関係詞】
- 3回 Unit 7 Employment 【関係詞】
- 4回 Unit 8 Business 【接続詞・前置詞】
- 5回 Unit 8 Business 【接続詞・前置詞】
- 6回 Unit 9 Finance & Banking 【特殊構文】
- 7回 Unit 9 Finance & Banking 【特殊構文】
- 8回 Unit 10
- 9回 Unit 10 Health & Welfare 【比較】
- 10回 Unit 11 Health & Welfare 【比較】
- 11回 Unit 11 Computer & The Internet 【仮定法】
- 12回 Unit 12 Computer & The Internet 【仮定法】
- 13回 Unit 12 Media 【イディオム】
- 14回 Review Test 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...50% 期末試験...50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks
World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Meet people.
- 第2回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 第3回 Talk about people and occupations. Video Journal : Last of the Woman Divers
- 第4回 Talk about work and free time activities.
- 第5回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 第6回 Video Journal : Hula. Identify possessions
- 第7回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 第8回 Share special travel tips. Video Journal : Beagle Patrol
- 第9回 Talk about food. Order a meal.
- 第10回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 第11回 Video Journal : Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 第12回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 第13回 Discuss adventure holidays. Video Journal : Cheese-Rolling Races
- 第14回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 第15回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method
Class work and assignments : 60%
Final examination : 40%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

「Seize the Essence of the TOEIC Test : TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit 7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit 8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit 8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit 9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit 9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit 10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit 10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit 11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit 11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit 12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit 12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit 7~12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元ごとに単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 1995円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)、筆記試験(60%)、提出物等(20%)そしてTOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEICの各パート問題に取り組むことによって、リスニング力及びリーディング力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

なし。各授業でプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテストを受験する学生は、授業とは別に個人のスコアにあった問題集で自習することを勧めます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
- 2回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 3回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 4回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 5回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 6回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 7回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 8回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 9回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 10回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 11回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 12回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 13回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 14回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト50% + 期末テスト50%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布されるプリント問題を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際語 コミュニケーション インプット Step by Step

担当者名
/Instructor

ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律政群 1 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to “frame” their English conversation performance within an ‘opening---preclosing/closing’ format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

"interchange 2" (3rd. Ed.) (Cambridge University Press ¥2700 税込み) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Conversation framework [openings, preclosings + closings]; 相づち
- 2 回 oral presentations and listening test
- 3 回 Unit 1 “A Time to Remember”/Past tense/ “Used to”/writing paragraphs
- 4 回 Unit 12 “It’s Been a Long Time!”/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5 回 Introductions and address systems/ oral presentations/ listening test
- 6 回 Unit 4 “I’ve Never Heard of That!”/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7 回 Unit 16 “What’s Your Excuse?”/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8 回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9 回 oral presentations/ listening test
- 1 0 回 Unit 3 “Time for a Change!”/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 1 1 回 Unit 7 “What’s this for?”/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 1 2 回 Thanking people and replying to thanks/ oral presentations/listening test
- 1 3 回 Unit 2 “Caught in the Rush”/Indirect questions from ‘Wh’ questions/ Adverbs of quantity
Unit 5 “Going Places”/ Future tense with ‘going to’ and ‘will’
- 1 4 回 Apologizing: making apologies and responding
- 1 5 回 oral presentations/ listening test; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (3-4 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don’t know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will improve their ability to use English for daily communication, especially when traveling overseas.
For example, students should be able to book hotel rooms, order meals and check in at airports.

教科書 /Textbooks

『First Class English for Tourism 1』 (Hall & Blappert 編 Thomson出版社 ¥1,900)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 May I have your name please? (part 1)
- 3 回 May I have your name please? (part 2)
- 4 回 Talking about travel jobs (part 1)
- 5 回 Talking about travel jobs (part 2)
- 6 回 Giving and receiving directions (part 1)
- 7 回 Giving and receiving directions (part 2)
- 8 回 Opening times (part 1)
- 9 回 Opening times (part 2)
- 1 0 回 Booking problems
- 1 1 回 Confirming reservations (part 1)
- 1 2 回 Confirming reservations (part 2)
- 1 3 回 Checking in (part 1)
- 1 4 回 Checking in (part 2)
- 1 5 回 Student presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% プレゼンテーション...20% 学期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy speaking English in class. Good luck in 2011-12!

キーワード /Keywords

トラベル英会話

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main Objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances.

教科書 /Textbooks

Interchange 2 by Jack C. Richards. Cambridge University Press. ISBN: 0-521-60203-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Past Tense
3. Wh-questions using adverbs of Quantity
4. Evaluations
5. Comparisons
6. Simple Past vs present perfect
7. Future plans
8. Giving Suggestions
9. Making Request
10. Infinitives and Gerunds
11. Apologizing and giving excuses
12. Imperatives and infinitives for giving suggestions
13. Relative clauses of time
14. Group Discussion on Given Topic
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 25% Participation 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent four or more times.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Fluency in English
This course involves practicing two way conversations in English. The aim is to become more aware of cultural codes of speaking and to sound more natural.

教科書 /Textbooks

Richmond, Stephen et al. Conversations in Class. Alma Publisher. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Unit 1: Introductions - Starting a Conversation
Week 2: Silence and conversation. Getting someone to repeat.
Week 3: Using "but" to show contrast. Silence and conversation. Cultural codes and strategies.
Week 4: Unit 2: Daily Life. Qualifying your speech.
Week 5: Showing interest with short responses. Rounding off numbers.
Week 6: Dynamic conversations. Longer answers and implicit questions.
Week 7: Unit 3: University Life
Week 8: Echo questions.
Week 9: Unit 4: Skills. Don't be over-humble.
Week 10: How long have you been playing the piano?
Week 11: What do you think is a good way to study English?
Week 12: Unit 5: Family. Asking Personal Questions
Week 13: Having children and getting married.
Week 14: Review.
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral assignments and class participation 70% Exam 30%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read text in advance of class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 律政群 1 - E
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course
- 第2回Unit 1: Me and You
- 第3回Meeting new people
- 第4回Unit 2: We get along
- 第5回Talking about families
- 第6回Unit 3: Too scared to watch
- 第7回Talking about the movies you like
- 第8回Review of units 1-3
- 第9回Unit 4: Hanging out
- 第10回Talking about lifestyle
- 第11回Unit 5: Short of cash
- 第12回Talking about how we use money
- 第13回Unit 6: My new place
- 第14回Talking about where you live
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 律政群 1 - F
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills developed through regular practice. While the primary focus is on verbal interaction, students will also be given training in reading and listening for general understanding. Training for academic presentation will be provided using a variety of topics and formats.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (pre-intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Orientation
- 第2回 : Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第3回 : Unit 1 and discussion in English
- 第4回 : Unit 2 focus on listening
- 第5回 : Unit 2 focus on speaking
- 第6回 : Unit 3 and discussion in English
- 第7回 : Unit 4 focus on listening
- 第8回 : Unit 4 focus on speaking
- 第9回 : Unit 5 focus on listening
- 第10回 : Unit 5 focus on speaking
- 第11回 : Unit 6 and discussion in English
- 第12回 : Unit 7 and discussion in English
- 第13回 : Unit 8 focus on listening
- 第14回 : Unit 8 focus on speaking
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Examination ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communication Brings Peace

キーワード /Keywords

Travel - Make friends - Have fun

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れ、出題傾向に即して学習し、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Essential Approach for the TOEIC Test 「TOEICテストへのニューアプローチ」 大須賀直子他著 成美堂 \2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre - Test及び解説
- 2回 Unit1 Arts & Amusement [名詞・代名詞]
- 3回 Unit2 Lunch & Parties [形容詞・冠詞]
- 4回 Unit3 Medicine & Health [副詞]
- 5回 Unit4 Traffic & Travel [比較]
- 6回 Unit5 Ordering & Shipping [動詞・時制]
- 7回 Unit6 Factories & Production [未来表現など]
- 8回 Unit7 Research & Development [主語と動詞の呼応・時制の一致]
- 9回 Unit8 Computers & Technology [能動態・受動態]
- 10回 Unit9 Employment & Promotions [不定詞・動名詞]
- 11回 Unit10 Advertisements & Personnel [分詞]
- 12回 Unit11 Telephone & Messages [助動詞]
- 13回 Unit12 Banking & Finance [接続詞]
- 14回 Unit13 Office Work & Equipment [関係代名詞・関係副詞]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(80%)、小テストによる平常点と出席状況・学習態度(20%)で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語小テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

リズ・クレシーニ / Riz CRESCINI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律政群 1 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to “frame” their English conversation performance within an ‘opening---preclosing/closing’ format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

“interchange 2” [3rd Ed.] (Cambridge University Press ¥2700 税込み) and materials prepared by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 6 “OK. No Problem!”/two-part verbs/ requests with modals/ ‘Would you mind...?’
- 2 回 Unit 10 “I Don’t Like Working on Weekends”/gerunds-/ clause with ‘because’;
Writing: paragraph---‘A job you would be good at’---(three reasons for support)
- 3 回 Expressing anger & resolving conflict/ oral presentations/ listening tests
- 4 回 Unit 8 “Let’s Celebrate”/relative clauses of time/adverbial clauses of time
- 5 回 Unit 14 “So That’s What It Means!”/ modals & adverbs/permission, obligation,
prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6 回 Giving compliments & replying to compliments
- 7 回 oral presentations/ listening tests
- 8 回 Unit 9 “Back to the Future”/time contrasts/conditional sentences using if clauses
Writing: paragraph---partner interview & writing partner’s hopes for the future
- 9 回 Unit 15 “What would you do?”/ unreal conditional sentences w/ if clauses/past modals
- 1 0 回 Getting people’s attention and interrupting/oral presentations/ listening test
- 1 1 回 Unit 11 “It’s Really Worth Seeing”/passive tense with & w/o by /
Writing: paragraph---a country you know
- 1 2 回 Unit 13 “A Terrific Book, but a Terrible Movie”/participles as adjectives/ relative
clauses
- 1 3 回 Agreeing and disagreeing/ oral presentations/ listening test
- 1 4 回 “Explaining ‘things Japanese’” + Getting information & Controlling the conversation
- 1 5 回; oral presentations/ listening test; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%

Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (3-4 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don’t know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will improve their ability to use English for daily communication, especially when traveling overseas. For example, students should be able to book hotel rooms, order meals and check in at airports.

教科書 /Textbooks

『First Class English for Tourism 1』 (Hall & Blappert 編 Thomson出版社 ¥1,900)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Student presentations - summer holidays
- 2 回 Transferring calls (part 1)
- 3 回 Transferring calls (part 2)
- 4 回 Travel itineraries (part 1)
- 5 回 Travel itineraries (part 2)
- 6 回 Ordering in restaurants (part 1)
- 7 回 Ordering in restaurants (part 2)
- 8 回 Complaining about problems (part 1)
- 9 回 Complaining about problems (part 2)
- 10 回 Taking messages
- 11 回 Asking and giving directions
- 12 回 Changing money
- 13 回 Extra charges
- 14 回 Thanking customers and staff
- 15 回 Student presentations - travel plans

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% プレゼンテーション...20% 学期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy speaking English in class. Good luck in 2011-12!

キーワード /Keywords

トラベル英会話

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main Objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances.

教科書 /Textbooks

Interchange 2 by Jack C. Richards. Cambridge University Press. ISBN: 0-521-60203-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Talking about Change
3. Describing Possibilities
4. Describing Abilities
5. Talking about Personality Traits
6. Talking about Landmarks and Monuments
7. Describing Countries
8. Inquiring about one's past
9. Describing Movies
10. Body Language and Gestures
11. Speculating about the past and future
12. Reporting what people say
13. Japan's Economic Situation
14. Group Discussion on Given Topic
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 25% Participation 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent four or more times.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Fluency in English
This course is a continuation from the first semester. It involves practicing two way conversations in English.
The aim is to become more aware of cultural codes of speaking and to sound more natural.

教科書 /Textbooks

Richmond, Stephen et al. Conversations in Class. Alma Publisher. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Unit 6: Travel. Asking follow-up questions.
Week 2: Spoken contractions.
Week 3: Giving and receiving recommendations.
Week 4: Unit 7: Free Time
Week 5: Stressing Important Information
Week 6: Don't say "play" with friends.
Week 7: Unit 8: Money. Giving a reason for your answer.
Week 8: Spending habits. What do you spend your money on?
Week 9: How much money do you spend?
Week 10: Unit 9: Hometown. Talking about weather.
Week 11: Distinguishing yourself from others.
Week 12: What's your hometown famous for?
Week 13: Unit 10: Future. Where will you be five years from now?
Week 14: Using transitions. Living overseas and dream job.
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral assignments and class participation 70% Exam 30%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read text in advance of class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer vacation / true or false.
- 第2回Unit 7: Time to eat
- 第3回Talking about where to eat tonight
- 第4回Unit 8: I found a job!
- 第5回Talking about part-time jobs
- 第6回Unit 9: I can't cope
- 第7回Talking about stress in your life
- 第8回Review of units 7-9
- 第9回Unit 10: What's up?
- 第10回Talking about things you love and hate
- 第11回Unit 11: Who's your type?
- 第12回Talking about dating
- 第13回Unit 12: What tomorrow brings
- 第14回Talking about your future plans
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques
Week 8	Control Techniques
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting
Week 11	Charting
Week 12	Group Conversation
Week 13	Group Conversation
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills developed through regular practice. While the primary focus is on verbal interaction, students will also be given training in reading and listening for general understanding.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (pre-intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Timed speeches and Q&A
- 第2回 : Unit 8 and discussion in English (review)
- 第3回 : Unit 9 focus on listening
- 第4回 : Unit 9 focus on speaking
- 第5回 : Unit 10 and discussion in English
- 第6回 : Unit 11 focus on listening
- 第7回 : Unit 11 focus on speaking
- 第8回 : Unit 12 and discussion in English
- 第9回 : Unit 13 focus on listening
- 第10回 : Unit 13 focus on speaking
- 第11回 : Unit 14 and discussion in English
- 第12回 : Unit 15 focus on listening
- 第13回 : Unit 15 focus on speaking
- 第14回 : End of semester review
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Examination ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communication Brings Peace

キーワード /Keywords

Travel - Make friends - Have fun

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力定着のため、英語によるコミュニケーション力の基盤作りを目的とする授業を行う。加えて、英語圏の文化知識の理解も深めることを目指したい。講義全体のキーワードは「会話のための文法力」、「異文化理解」、「コミュニケーション力」です。

教科書 /Textbooks

配布プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Pre-test
- 3回 Daily Life (1)
- 4回 Daily Life (2)
- 5回 Family Member
- 6回 Time Expression
- 7回 Place Expression (1)
- 8回 Place Expression (2)
- 9回 On the Telephone
- 10回 Student Housing
- 11回 Student Activities (1)
- 12回 Student Activities (2)
- 13回 Complaining
- 14回 Negotiations
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況 (小テストを含む)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れ、出題傾向に即して学習し、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

The Next Stage to the TOEIC Test : Intermediate 「CD-ROMで学習するTOEICテスト：中級編」 ハーバート久代他著 金星堂 \2100

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、プリント演習
- 2回 Unit1 Dining and Shopping [形容詞]
- 3回 Unit2 Computers [動詞]
- 4回 Unit3 Science and Technology [不定詞]
- 5回 Unit4 Entertainment [強調・倒置]
- 6回 Unit5 Advertisement [否定]
- 7回 Unit6 Medicine [使役]
- 8回 Unit7 Transportation [仮定法]
- 9回 Unit8 Business Trips [分詞]
- 10回 Unit9 Environment [助動詞]
- 11回 Unit10 Office Work (1) [副詞]
- 12回 Unit11 Economy [主語と動詞の一致]
- 13回 Unit12 Industry [関係詞]
- 14回 Unit13 Personnel [比較]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(80%)、小テストによる平常点と出席状況・学習態度(20%)で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に小テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
(1) 英語のReading及びListeningの能力を養う。
(2) 英語の資格試験に必要な文法事項を学習する。

教科書 /Textbooks

How to Receive a Better Score for the New TOEIC Test (松柏社)、2008年4月
「新TOEICテスト全パート得点のコツをレッスン」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集 Vol.4 (発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1 類似音、語彙、ビジネスレター
- 第3回 Chapter 2 Yes/No Question、語彙、記事
- 第4回 Chapter 3 プライベートな会話、品詞、広告
- 第5回 Chapter 4 部分的不一致、品詞、通知、告知
- 第6回 Chapter 5 Wh-questions、関係詞、図表
- 第7回 Chapter 6 ビジネス上の会話、関係詞、e-mail
- 第8回 Chapter 7 公共アナウンス、時制、ビジネスレター
- 第9回 Chapter 8 間接疑問文、時制、記事
- 第10回 Chapter 9 他人同士の会話、倒置構文、広告
- 第11回 Chapter 10 商業案内、倒置構文、通知、告知
- 第12回 Economic Growth
- 第13回 Automobile Society
- 第14回 小テスト (100)
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 小テスト、レポート (20%)
 - ・ 出席、授業参加 (20%)
 - ・ 期末考査 (60%)
- 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

教科書を忘れた場合は、授業開始前に必ずコピーをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。より実践的な方法で学習する。
 1. 語彙を増やす 2. リスニング力を強化する 3. 文法、語法の知識を身につける
 4. 速読の能力を高める 5. 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

教科書 /Textbooks

“THE TOEIC TEST TRAINER Target 780” by B. A. Smith. (センテージ ラーニング、2,000円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Pre-test
- 2回 Unit 1 申し出 (名詞・代名詞・冠詞)
- 3回 Unit 2 意見 (スキャニング)
- 4回 Unit 3 可能性 (比較)
- 5回 Unit 4 お知らせ・通知・注意 (主語と動詞の一致)
- 6回 Unit 5 理由 (フレーズリーディング)
- 7回 Unit 6 提案 (分詞構文)
- 8回 Unit 7 口論 (仮定法)
- 9回 Unit 8 天気予報 (視野を広げる)
- 10回 Unit 9 依頼 (動詞)
- 11回 Unit 10 雑談 (並列法・倒置法)
- 12回 Unit 11 Wh疑問文 (スキミング)
- 13回 Unit 12 発表・話 (速読練習 総合)
- 14回 Practice Test
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) ... 40%、 期末試験 ... 60%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に小テストや予習範囲等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC問題を扱った教材を通して、特にリスニング及びリーディング力の向上を目指します。1学期は、TOEICスコア500点を目標とします。

教科書 /Textbooks

「TOEICテスト：オン・ターゲット」 大賀 リエ 他著 南雲堂 ￥2000
「コクケーション英単語 記憶術」 清水 かつぞー 著 南雲堂 ￥1050

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大量に問題が出題されるTOEICテストで目標スコアを確実に取得する実力をつけるために、授業で使用するテキストとは別にTOEIC問題をレベル別に扱った問題集(スコア500~レベル)で自己学習をしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト(必ず出席のこと)
- 2回 Unit 1 各パート問題
- 3回 Unit 2 各パート問題
- 4回 Unit 3 各パート問題
- 5回 Unit 4 各パート問題
- 6回 Review
- 7回 Unit 5 各パート問題
- 8回 Unit 6 各パート問題
- 9回 Unit 7 各パート問題
- 10回 Unit 8 各パート問題
- 11回 Review
- 12回 Unit9 各パート問題
- 13回 Unit10 各パート問題
- 14回 Unit11 各パート問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア500点以上10%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。TOEIC400点未満単位取得不可。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習・復習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際語 コミュニケーション インプット Step by Step

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：法律と文化
ねらい：① 英語教材を通して、法律と文化を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・ Unit 1
- 第2回 Unit 2
- 第3回 Unit 3
- 第4回 Unit 4
- 第5回 Unit 5
- 第6回 Unit 6
- 第7回 Unit 7
- 第8回 Unit 8
- 第9回 Unit 9
- 第10回 Unit 10
- 第11回 Unit 11
- 第12回 Unit 12
- 第13回 Unit 13
- 第14回 Unit 14
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。調べていない場合は参加度から減点する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業はTOEIC対策とリーディングの2本立てである。TOEIC対策のテキストでは、TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。リーディングのテキストでは地球環境問題、技術革新、医療問題など世界で起こっているトピックについて学習する。また、受講生は文章全体の論理構成を捉えながら読み進めるパラグラフ・リーディングに関するスキル習得を目指す。英語学習を「英語トレーニング」として捉え、各種音読トレーニングを行う。

教科書 /Textbooks

- ①A World of Change on the Web「変貌する世界」渡辺節子他著 南雲堂 1300円
- ②Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2「新TOEIC Test 文法・リーディング対策中級問題集」David E. Bramley / 河合忠仁著 松柏社 1000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 ①Unit1 Ethnic Stereotypes / ②の範囲については各回の授業で指示する
- 3回 ①Unit2 Endangered Species 1
- 4回 ①Unit3 Endangered Species 2
- 5回 ①Unit4 Modern Masters of Art
- 6回 ①Unit5 Champions of Peace
- 7回 ①Unit6 Myspace and Wikipedia
- 8回 ①Unit7 Champions of Charity
- 9回 ①Unit8 Global Warming
- 10回 ①Unit9 Polar Bear on Thin Ice
- 11回 ①Unit10 Overpopulation
- 12回 ①Unit11 An Era of Adoption?
- 13回 ①Unit12 Are Diamonds Really a Girl's Best Friend?
- 14回 ①Review Test 1 (Unit1~6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)、筆記試験(60%)、提出物等(20%)としてTOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の四技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the ToEIC Test by Masako Yasumaru, Mayumi Yahiro, Malcolm Swanson, Noriko Sunagawa, NMiyuki Shibakura, Harumi Yahiro published by Kinseido

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . Listening 3 . 読解。

- 1回 Orientation
- 2回 Daily Life
- 3回 Cooking & Purchasing
- 4回 Traffic & Travel
- 5回 Production & Logistics
- 6回 Business & Economics
- 7回 Advertising & ICT
- 8回 Health & Environment
- 9回 Health and the Environment
- 10回 Employment & Personnel
- 11回 Finances and Banking
- 12回 Finance & Banking
- 13回 Finance &
- 14回 Office Work & Correspondence
- 15回 review

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 10% 試験 ... 90%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 CDを聞いて、予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 中島 美穂子 / nakashima mihoko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律政2 - H
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文法とリスニングに重きを置き英語の4技能をつけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

Start-up Course for the TOEIC Test 成美堂 ¥2,000
Primary Grammar Lessons for the TOEIC TEST センゲージラーニング ¥2,100

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成美堂		センゲージラーニング
1回 オリエンテーション		オリエンテーション
2回 交通と情報案内		Unit 1
3回 指示と説明	Unit 2	
4回 飲食	Unit 3	
5回 ビジネス	Unit 4	
6回 通信・コミュニケーション		Unit 5
7回 社交		Unit 6
8回 招待・案内	Unit 7	
9回 医療・保険	Unit 8	
10回 文化・娯楽	Unit 9	
11回 買い物	Unit 10	
12回 運動・フィットネス	Unit 11	
13回 トラブル・申請	Unit 12	
14回 小テスト		
15回 まとめ	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・・・40% 授業態度・・・10% 宿題・・・20% 期末試験・・・30%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習をしてくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からない事は先延ばしにしないで早めに解決すること

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

チャールズ・M・シュルツ氏の『スヌーピーとその仲間たち』のマンガを楽しみながら、ネイティブ・スピーカーが日常生活でよく使う英語表現を学び、文法事項を確認します。さらにディクテーション問題やライティング問題に取り組むことで、学んだ知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

小中秀彦編著
Life with Snoopy : A Writing and Listening Handbook 南雲堂、2010年11月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 That ball went right by you 「自動詞」
- 3回 She wants to talk to you. 「他動詞」
- 4回 Put it on, and let me see. 「句動詞」
- 5回 School starts again tomorrow. 「基本時制」
- 6回 I'm going into Needles to try to sell one of my western paintings. 「進行形」
- 7回 Review Test I (Units 1-5)
- 8回 My Grampa and Gramma have been married for fifty years. 「完了形」
- 9回 Maybe you should try to dream about me. 「助動詞」
- 10回 How I hate waiting for the school bus! 「名詞・冠詞」
- 11回 It's easy to apologize to an answering machine. 「代名詞」
- 12回 Especially after I get my sleeve caught in the pencil sharpener. 「受動態」
- 13回 Review Test II (Units 6-10)
- 14回 Presentation
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(20%)、復習テストや定期試験など(80%)。TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をして授業に臨みましょう。辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Law majors in regards to English communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute conversations in class and write 200 word reports as homework.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bi-lingual is preferable. The student will also need a memory stick.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Talk about past vacation trips. Exchange Information about vacations.
- 第2回 Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 第3回 Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
- 第4回 Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 第5回 Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking.
- 第6回 Make comparisons. Explain preferences.
- 第7回 Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 第8回 Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 第9回 Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 第10回 Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
- 第11回 Talk about today's chores. Interview for a job.
- 第12回 Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 第13回 Video journal: Spacewalk. Talk about managing your money.
- 第14回 Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 第15回 Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork and assignments: 60%
Final emamination: 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute coneverations in class and write 200 word reports as homework.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1) インターネットを利用したアクティビティを通して実践的な英語学習を行う
- (2) オンラインニュースを読み、語彙を増やすとともに速読の能力を高める
- (3) TOEICの練習問題を行う

教科書 /Textbooks

“Web-enhanced Reading & Writing!: Basic Internet Skills and Online News” by Keiko Miyake (イソース、1,800円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Basic Computer Terms/ Typing-1/ Online Dictionaries-1
- 3 回 Typing-2/ Online Dictionaries-2/ Search Engines-1
- 4 回 Search Engines-2/ News Sites-1
- 5 回 News Sites-2/ Headlines-1
- 6 回 Headlines-2
- 7 回 Headlines-3/ Abbreviations and Acronyms-1
- 8 回 Abbreviations and Acronyms-2
- 9 回 The Lead-1
- 1 0 回 The Lead-2/ News Summaries-1
- 1 1 回 News Summaries-2/ The Paragraph-1
- 1 2 回 The Paragraph-2/ Transitions-1
- 1 3 回 Transitions-2/ Paraphrasing and Summarizing
- 1 4 回 Supportive Information
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト、提出物を含む) ...40%、 期末試験 ... 60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に予習範囲や提出物等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に身につけた英語力を踏まえ、毎回のTOEIC問題模擬を通して、英語力の更なる向上を目指します。TOEIC目標スコア550点以上を目標とします。

教科書 /Textbooks

テキストなし。
TOEIC問題のプリントを各授業で配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期同様、授業での学習以外に、各個人の目標スコアに適したレベル別TOEIC問題集を使って自己学習をしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
2回	プリント模擬テスト & 各問題の解答確認
3回	"
4回	"
5回	"
6回	"
7回	"
8回	"
9回	"
10回	"
11回	"
12回	"
13回	"
14回	"
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 各授業模擬テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア500点以上10%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。TOEIC400点未満単位取得不可。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日TOEIC問題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際語 コミュニケーション インプット Step by Step

英語VI【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。具体的には、「ビジネス関連の語彙や表現」に慣れること、また「TOEICの試験形式」そのものに慣れること。

- (1) 英語のReading及びListeningの能力を養う。
- (2) 英語の資格試験に必要な文法事項を学習する。

教科書 /Textbooks

SEIZE THE ESSENCE OF THE TOEIC TEST (金星堂、2011年1月発行
「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 著者：安丸雅子、八尋真由美、Malcolm Swanson他

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集Vol. 3(発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Daily Life (日常生活) 名詞・主語と動詞の一致
- 第3回 Unit 2 Eating Out & Amusement (外食と娯楽) 形容詞・副詞
- 第4回 Unit 3 Cooking & Purchasing (料理と買い物) 基本時制
- 第5回 Unit 4 Traffic & Travel (交通と旅行) 進行形・完了形
- 第6回 Unit 5 Production & Logistics (製造と運輸) 受動態
- 第7回 Unit 6 Business & Economics (ビジネスと経済) 分詞・分詞構文
- 第8回 Unit 7 Advertising & ICT (広告と情報通信技術) 不定詞・動名詞
- 第9回 Unit 8 Health & the Environment (健康と環境) 助動詞
- 第10回 Unit 9 Law & Administration (司法と行政) 代名詞・関係詞
- 第11回 Unit 10 Employment & Personnel (雇用と人事)
- 第12回 Unit 11 Finance & Banking (財務と銀行業務)
- 第13回 Unit 12 Office Work & Correspondence (社内業務と通信) その他の講文
- 第14回 小テスト (100問)
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 小テスト、レポート(20%)
 - ・ 出席、授業参加(20%)
 - ・ 期末考査(60%)
- 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である

履修上の注意 /Remarks

教科書を忘れた場合は、授業開始前に必ずコピーをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、TOEIC対策とリーディングの2本立てで授業を進める。TOEIC対策のテキストでは、TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。リーディングのテキストでは地球環境問題、技術革新、医療問題など世界で起こっているトピックについて学習する。また、受講生は文章全体の論理構成を捉えながら読み進めるパラグラフ・リーディングに関するスキル習得を目指す。英語学習を「英語トレーニング」として捉え、各種音読トレーニングを行う。

教科書 /Textbooks

- ①Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 1995円
- ②A World of Change on the Web 「変貌する世界」 渡辺節子他著 南雲堂 1300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 ①Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞] / ②Gambling around the Globe
- 3回 ①Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞] / ②Our Bodies and Obesity
- 4回 ①Unit8 Health & the Environment [助動詞] / ②Growing Old--Living Long
- 5回 ①Unit8 Health & the Environment [助動詞] / ②Ever-Changing Energy
- 6回 ①Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞] / ②The Natural Way--Medicine and Trade
- 7回 ①Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞] / ②Copyright
- 8回 ①Unit10 Employment & Personnel [比較構文] / ②Veg-Out!
- 9回 ①Unit10 Employment & Personnel [比較構文] / ②HIV/AIDS around the World
- 10回 ①Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 ①Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 ①Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 ①Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 ①Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)、筆記試験(60%)、提出物等(20%)そしてTOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の四技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

新TOEICテスト全パート対応 ヴォキャブラリー徹底演習 by Satoru Huruya

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . Listening 3 . 読解。

- 1 回 Lesson1
- 2 回 lesson2
- 3 回 Lesson3
- 4 回 Lesson4
- 5 回 Lesson5
- 6 回 Lesson6
- 7 回 Lesson7
- 8 回 Lesson8
- 9 回 Lesson9
- 1 0 回 Lesson10
- 1 1 回 Lesson11
- 1 2 回 Lesson12
- 1 3 回 Lesson13
- 1 4 回 Lesson14
- 1 5 回 review

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 1 0 % 試験 ... 9 0 %

4 回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 CDを聞いて予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 中島 美穂子 / nakashima mihoko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政2 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文法とリスニングに重きを置き英語の4技能をつけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

SEIZE THE ESSENCE OF THE TOEIC TEST 金星堂 ¥1,900
Primary Grammar Lessons for the TOEIC TEST センゲージラーニング ¥2,100

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

金星堂	センゲージラーニング
1回 オリエンテーション	オリエンテーション
2回 名詞・主語と動詞の一致	Unit 13
3回 形容詞・副詞	Unit 14
4回 基本時制	Unit 15
5回 進行形・完了形	Unit 16
6回 受動態	Unit 17
7回 分詞・分詞構文	Unit 18
8回 復習テスト	Unit 19
9回 不定詞・動名詞	Unit 20
10回 助動詞	Unit 21
11回 代名詞・関係詞	Unit 22
12回 比較構文	Unit 23
13回 前置詞	Unit 24
14回 その他の構文	Unit 25
15回 まとめ	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・・・40% 授業態度・・・10% 宿題・・・20% 期末試験・・・30%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習をしてくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からない事は先延ばしにしないで早めに解決すること

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に続いて、チャールズ・M・シュルツ氏の『スヌーピーとその仲間たち』のマンガを楽しみながら、ネイティブ・スピーカーが日常生活でよく使う英語表現を学び、文法事項を確認します。さらにディクテーション問題やライティング問題に取り組むことで、学んだ知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

小中彦彦編著
Life with Snoopy : A Writing and Listening Handbook 南雲堂、2010年11月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 He's going to devote the rest of his life to making his cat happy. 「形容詞」
- 2回 I was already happy. 「副詞」
- 3回 I kept worrying about school. 「分詞」
- 4回 That must have been a hard decision to make. 「不定詞」
- 5回 They hate eating in a kennel. 「動名詞」
- 6回 I read it in French. 「前置詞」
- 7回 Review Test I (Units 11-16)
- 8回 No matter how hard you pretend, a rock is still a rock. 「接続詞」
- 9回 I fall in love with any girl who smells like library paste. 「関係詞」
- 10回 The anchor person looked better when she had long hair. 「比較・否定」
- 11回 If we had a little money, we could buy some more cookies. 「仮定法」(1)
- 12回 If we had a little money, we could buy some more cookies. 「仮定法」(2)
- 13回 Review Test II (Units 6-10)
- 14回 Presentation
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(20%)、復習テストや定期試験など(80%)。TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をして授業に臨みましょう。辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students in this course will study the four language skills. They will go systematically through the exercises in the textbook as the teacher sees fit. Each unit will take one whole class and part of another. The final 1/2 of the second class will be devoted to a dialog test, in which each student will memorize the dialog and then make small changes in it.

教科書 /Textbooks

Smart choice Book 2 by Ken Wilson published by Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

The course will be taught as follows. During the first semester Units One through Six will be completed, along with corresponding dialogs from the test booklet written and distributed by the teacher at the beginning of the semester. Fifty percent of the final grade will be based on dialog tests given every other week and the other fifty percent will come from an average the grammar review and cumulative dialog test give at the end of the course.

- 1回 Unit 1 Talking about Vacations
- 2回 Unit 1 completed & Dialog Test
- 3回 Unit 2 Giving Opinions
- 4回 Unit 2 completed & Dialog Test
- 5回 Unit 3 Talking about experiences
- 6回 Unit 3 completed & Dialog Test
- 7回 Unit 4 Describing Places
- 8回 Unit 4 completed & Dialog Test
- 9回 Unit 5 Describing Special events
- 10回 Unit 5 completed & Dialog Test
- 11回 Unit 6 Giving Advice
- 12回 Unit 6 completed & Dialog Test
- 13回 Grammar Review Test
- 14回 Preparation for Cumulative Dialog Quiz
- 15回 Cumulative Dialog Quiz Units 1 ~ 6

成績評価の方法 /Assessment Method

Students' marks will be made up of an average of marks from dialog quizzes, speeches, written grammar review tests etc. Unexcused absence and late arrival for class will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

N/A

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 律政群2 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Expressing Yourself in English
This course involves practicing two way conversations in English. The aim is to become more aware of cultural codes of speaking and to sound more natural.

教科書 /Textbooks

Richmond, Stephen et al. Conversations in Class. Alma Publisher. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Unit 1: Introductions - Starting a Conversation
Week 2: Silence and conversation. Getting someone to repeat.
Week 3: Using "but" to show contrast. Silence and conversation. Cultural codes and strategies.
Week 4: Unit 2: Daily Life. Qualifying your speech.
Week 5: Showing interest with short responses. Rounding off numbers.
Week 6: Dynamic conversations. Longer answers and implicit questions.
Week 7: Unit 3: University Life
Week 8: Echo questions.
Week 9: Unit 4: Skills. Don't be over-humble.
Week 10: How long have you been playing the piano?
Week 11: What do you think is a good way to study English?
Week 12: Unit 5: Family. Asking Personal Questions
Week 13: Having children and getting married.
Week 14: Review.
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral assignments and class participation - 70% Exam 30%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read text in advance of class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題に沿って、英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力また表現したい事柄を英語で流暢に表現できるようになることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Love-Introductions
- 第3回 Love-Building Skills
- 第4回 Love-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Justice-Introduction
- 第7回 Justice-Building Skills
- 第8回 Justice-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 Humanity-Introduction
- 第11回 Humanity-Building Skills
- 第12回 Humanity-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Synthesis

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各20% (計3回) 試験(essay) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンテーションを準備することが宿題になることがあります。工夫を凝らして、楽しんで制作してください。
テキストブックはModule 3 まで使用します。Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題に沿って自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class and being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework must be completed every week before class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded every class on how much you speak and how active you are.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Law majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Pearson Longman - Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回 Delivering Your Message
- 第3回 Putting Your Speech Together
- 第4回 Outlining and Writing - A Personal Experience
- 第5回 Delivery-Group 1 - A Personal Experience Speech - 1
- 第6回 Outlining and Writing - A personal Experience
- 第7回 Delivery-Group 2 - A Personal Experience - Speech 1
- 第8回 Outlining and Writing - A Meaningful Object
- 第9回 Delivery-Group 1 - A Meaningful Object - Speech 2
- 第10回 Outlining and Writing - A Meaningful Object
- 第11回 Delivery-Group 2 - A Meaningful Object - Speech 2
- 第12回 Speaking to Inform - Outlining and Writing - An Informative Speech
- 第13回 Delivery-Group 1 - An Informative Speech - Final Speech
- 第14回 Speaking to Inform - Outlining and Writing - An Informative Speech
- 第15回 Delivery-Group 2 - An Informative Speech - Final Speech

成績評価の方法 /Assessment Method

60% Class Work and 40% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Write and practice assigned speech.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 律政群2 - G
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for business and communication. Students will practice basic grammar and language skills, which will then be applied to specific business situations.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ORIENTATION / SYLLABUS REVIEW
- 2回 NAMES, TITLES, & INTRODUCTIONS
- 3回 NAMES, TITLES, & INTRODUCTIONS : EXPANSION ACTIVITY
- 4回 OCCUPATIONS & WORKPLACES
- 5回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES
- 6回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES : SPEAKING PRACTICE
- 7回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES : EXPANSION ACTIVITY
- 8回 NUMBERS & PRICES
- 9回 NUMBERS & PRICES : LISTENING
- 10回 COST OF LIVING
- 11回 BUSINESS COSTS & EXPENSES
- 12回 SPECIAL PROJECT : PREPARATION
- 13回 SPECIAL PROJECT : PRACTICE
- 14回 PROJECT PRESENTATION
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 45%, Homework 5%, Projects and Quizzes 30%, Final Examination 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Notebook and dictionary

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政2 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 4回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 5回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 6回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 7回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 8回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 9回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 10回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 11回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 12回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)・ 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(80%)、小テストによる平常点と出席状況・学習態度(20%)で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)すぐれた文学作品の持つ、ストーリー性の高さ、内容の面白さ、巧みな語彙表現を通して英語のスキルを磨いていく。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)特に英語の Reading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

Let's Learn English from American Literature (英宝社)、2010年1月発行
『アメリカ文学から英語を学ぼう』 編注者：早瀬博範、江頭理江

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Chapter 1 Louisa May Alcott, Little Women
- 第2回 Chapter 2 Sherwood Anderson, "Paper Pills"
- 第3回 Chapter 3 Henry James, The Daisy Miller
- 第4回 Chapter 4 Charlotte Gilman, "The Yellow Wallpaper"
- 第5回 Chapter 5 O. Henry, "After Twenty Years" (I)
- 第6回 Chapter 6 O. Henry, "After Twenty Years" (II)
- 第7回 Chapter 7 Kate Chopin, The Awakening
- 第8回 Chapter 8 F. Scott Fitzgerald, Great Gatsby (I)
- 第9回 Chapter 9 F. Scott Fitzgerald, Great Gatsby (II)
- 第10回 Chapter 10 Mark Twain, Adventurers of Huckleberry Finn (I)
- 第11回 Chapter 11 Mark Twain, Adventurers of Huckleberry Finn (II)
- 第12回 Chapter 12 Edgar Allan Poe, "The Black Cat"
- 第13回 Chapter 13 Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter
- 第14回 Chapter 14 Ralph Waldo Emerson, Nature
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席、発表 (20%)
- ・ レポート、小テスト (20%)
- ・ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

教科書を忘れた場合は、授業開始前に必ずコピーをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students in this course will study the four language skills. They will go systematically through the exercises in the textbook as the teacher sees fit. Each unit will take one whole class and part of another. The final 1/2 of the second class will be devoted to a dialog test, in which each student will memorize the dialog and then make small changes in it.

教科書 /Textbooks

Smart choice Book 2 by Ken Wilson published by Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

The course will be taught as follows. During the second semester Units Seven through Twelve will be completed, along with corresponding dialogs from the test booklet written and distributed by the teacher at the beginning of the semester. Fifty percent of the final grade will be based on dialog tests given every other week and the other fifty percent will come from an average the grammar review and cumulative dialog test give at the end of the course.

- 1回 Unit 7 Making Complaints
- 2回 Unit 7 completed & Dialog Test
- 3回 Unit 8 Describing preferences
- 4回 Unit 8 completed & Dialog Test
- 5回 Unit 9 Telling stories
- 6回 Unit 9 completed & Dialog Test
- 7回 Unit 10 Making Speculations
- 8回 Unit 10 completed & Dialog Test
- 9回 Unit 11 Talking about Past Habits
- 10回 Unit 11 completed & Dialog Test
- 11回 Unit 12 Explaining Possibilities
- 12回 Unit 12 completed & Dialog Test
- 13回 Grammar Review Test
- 14回 Preparation for Cumulative Dialog Quiz
- 15回 Cumulative Dialog Quiz Units 7 ~ 12

成績評価の方法 /Assessment Method

Students' marks will be made up of an average of marks from dialog quizzes, speeches, written grammar review tests etc. Unexcused absence and late arrival for class will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

N/A

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 律政群 2 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques
Week 8	Control Techniques
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting
Week 11	Charting
Week 12	Group Conversation
Week 13	Group Conversation
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Expressing Yourself in English
This course is a continuation of the first semester. It involves practicing two way conversation in English.
The aim is to become more aware of cultural codes of speaking and to sound more natural.

教科書 /Textbooks

Richmond, Stephen et al. Conversations in Class. Alma Publisher. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Unit 6: Travel. Asking follow-up questions.
Week 2: Spoken contractions.
Week 3: Giving and receiving recommendations.
Week 4: Unit 7: Free Time
Week 5: Stressing Important Information
Week 6: Don't say "play" with friends.
Week 7: Unit 8: Money. Giving a reason for your answer.
Week 8: Spending habits. What do you spend your money on?
Week 9: How much money do you spend?
Week 10: Unit 9: Hometown. Talking about weather.
Week 11: Distinguishing yourself from others.
Week 12: What's your hometown famous for?
Week 13: Unit 10: Future. Where will you be five years from now?
Week 14: Using transitions. Living overseas and dream job.
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Written assignments and oral participation 70% Exam 30%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read text in advance of class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題に沿って、英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力また表現したい事柄を英語で流暢に表現できるようになることをねらいとする。
2学期は加えてパラグラフライティングの技能を身につける。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2
Optimal Levels! Project Book 2
※Book 2 は 1 学期に使用したものと別本です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Happiness-Introductions
- 第 3 回 Happiness-Building Skills
- 第 4 回 Happiness-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Religion-Introduction
- 第 7 回 Religion-Building Skills
- 第 8 回 Religion-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Synthesis

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各20% (計3回) 試験(essay) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンテーションを準備することが宿題になることがあります。工夫を凝らして、楽しんで制作してください。
テキストブックはModule 3 まで使用します。Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題に沿って自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。
アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。
文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation "My Summer"
- 2 回 Text Unit 15 "Sports"
- 3 回 Text Unit 18 "Mysteries"
- 4 回 Text Unit 19 "Shopping"
- 5 回 Text Unit 21 "Long Life"
- 6 回 Text Unit 22 "Job Share"
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 "Take a Risk"
- 9 回 Text Unit 26 "On the Go"
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 "Behave Yourself"
- 1 2 回 Text Unit 28 "Jobs"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class or absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework must be completed every week before class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded every week on how much you speak and on how active you are in class.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Law majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Pearson Longman- Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 Introduction to Persuasive Speaking
- 第3回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第4回 Delivery - Group 1 - Speech 1
- 第5回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第6回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第7回 Delivery - Group 2 - Speech 1
- 第8回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第9回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第10回 Delivery - Group 1 - Speech 2
- 第11回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第12回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第13回 Delivery - Group 2 - Speech 2
- 第14回 Final Speech - Group 1
- 第15回 Final Speech - Group 2

成績評価の方法 /Assessment Method

60% Class Work and 40% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Write and practice assigned speech.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 律政群2 - G
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop critical thinking and express the pros and cons of various topics using appropriate discussion and debate language skills.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 SYLLABUS REVIEW AND CLASSROOM ENGLISH
- 2回 "HOW WAS YOUR SUMMER?" : SIMPLE PAST TENSE REVIEW
- 3回 "HOW WAS YOUR SUMMER?" : WH- QUESTIONS
- 4回 GIVING OPINIONS : SIMPLE AGREEING / DISAGREEING
- 5回 GIVING OPINIONS : FREQUENCY ADVERBS AND ADVERBS OF DEGREE
- 6回 DISCUSSION AND DEBATE LANGUAGE
- 7回 SCHOOL UNIFORM DISCUSSION
- 8回 SCHOOL UNIFORM DEBATE / PRESENTATION
- 9回 CELL PHONE DISCUSSION
- 10回 CELL PHONE DEBATE / PRESENTATION
- 11回 NEW TOPIC DISCUSSION
- 12回 NEW TOPIC DEBATE / PRESENTATION
- 13回 GROUP PROJECT : DEBATE PREPARATION
- 14回 GROUP PROJECT : DEBATE PRACTICE
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 45%, Homework 5%, Quizzes and Presentations 30%, Final Examination 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Notebook and dictionary

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政2 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction
- 第2回 Unit 1
- 第3回 Unit 2
- 第4回 Unit 3
- 第5回 Unit 4
- 第6回 Unit 5
- 第7回 Unit 6
- 第8回 Review of units 1-6
- 第9回 Unit 7
- 第10回 Unit 8
- 第11回 Unit 9
- 第12回 Unit 10
- 第13回 Unit 11
- 第14回 Unit 12
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40%, class participation and positive attitude 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)パラグラフレベル、更にパッセージレベルといったより大きな単位で、英語の速読のトレーニングに取り組む。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)英語のReading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

Power Reading 2 - Reading in Paragraphs 土屋武久、Bill Benfield他 (成美堂)、2010年1月発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Unite 1 English Rakugo (Reading Skill in Focus: Predicting)
- 第2回 Unite 2 Silent CEOs (Reading Skill in Focus: Phrase Reading)
- 第3回 Unite 3 Cappadocia (Reading Skill in Focus: Increasing WPM)
- 第4回 Unite 4 Eco-cars (Reading Skill in Focus: Finding Main Ideas)
- 第5回 Unite 5 Finance for Kids (Finding Main Ideas at the Passage Level)
- 第6回 Unite 6 Jazz (Scanning for Words)
- 第7回 Unite 7 Britain's National Trust (Scanning for Information)
- 第8回 Unite 8 How Fast Can Humans Run (Skimming for the Central Ideas)
- 第9回 Unite 9 Pitfalls of Statistics (Skimming for Point of View)
- 第10回 Unite 10 Hot Spring (Vocabulary Building)
- 第11回 Unite 11 Abraham Lincoln (Understanding Text Organization1: Time Oder)
- 第12回 Unite 12 Eating Oil (Understanding Text Organization2: Cause & Effect)
- 第13回 Unite 13 We Love Sitcoms (Understanding Text Organization3)
- 第14回 Unite 14 Regenerative Medicine (Evaluating Facts & Opinions)
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席、発表 (20%)
- ・ レポート、小テスト (20%)
- ・ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

教科書を忘れた場合は、授業開始前に必ずコピーをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 3 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また難解なエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング 序章
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング 第2章
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング 第3章
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング 第4章
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング 第5章
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング 第6章
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング 第7章
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング 第8章
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング 第9章
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング 第10章
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング 第11章
- 14回 リスニング 模擬問題演習、リーディング 第12章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 3年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』(2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor
ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Longman English Interactive Online, Level 3/American English Student Access』(2008) Rost, M., Pearson Education, ¥ 3500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course and online resources
- 2回 Registering in the online course
- 3回 Making plans, and accepting and declining invitations
- 4回 Telling people news or gossip and responding
- 5回 Proposing ideas and responding, and convincing people to accept ideas
- 6回 Confirming that you know someone and responding
- 7回 Giving orders and making requests
- 8回 Talking about possibilities
- 9回 Keeping a conversation going and asking follow-up questions
- 10回 Expressing certainty and uncertainty
- 11回 Asking, giving, and denying permission and offering help
- 12回 Asking for and giving opinions
- 13回 Expressing and asking questions about necessity
- 14回 Requesting clarification and responding
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州
- 14回 前期のまとめ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律群1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2 回 第九課 義烏
- 3 回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4 回 第十課 西安と洛陽
- 5 回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6 回 第十一課 成都
- 7 回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8 回 第十二課 昆明
- 9 回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10 回 第十三課 広州
- 11 回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12 回 第十四課 大連
- 13 回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14 回 第十五課 日本の紹介
- 15 回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 李 東輝
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律群1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』<試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 李 東輝
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律群1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』<試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)一年次に学びましたが、日本人にとって比較的把握が困難な文法事項を再確認し、定着させます。
 (2)長文読解や練習問題を通して、語彙力を増やし、中級レベルの文法と自然な言い回しを習得できます。(「読む・書く」面の強化)また中国の様々な現代事情について理解を深めます。
 (3)本文や会話のCDを聞く、練習することにより、「聞く・話す・読解」面の強化もはかります。

教科書 /Textbooks

『ときめき中国-ぼくらの新‘漢流’生活-』(張国璐・池上貞子著)朝日出版社 2000円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文法確認【結果補語】【方向補語】
- 2回 文法確認【様態補語】【可能補語】
- 3回 文法確認【把構文】【被構文】
- 4回 文法確認【比較表現】【複文】
- 5回 小テスト
- 6回 第一課 80後と90後 本文【複文】【副詞】【可能補語】
- 7回 第一課 80後と90後 会話
- 8回 第一課 80後と90後 練習問題 小テスト
- 9回 第二課 いまどきの大学生 本文【助動詞】【複文】【動作の回数】
- 10回 第二課 いまどきの大学生 会話
- 11回 第二課 いまどきの大学生 練習問題 小テスト
- 12回 第三課 若者と住宅問題 本文【語気助詞】【助動詞】【結果補語】
- 13回 第三課 若者と住宅問題 会話
- 14回 第三課 若者と住宅問題 練習問題 小テスト
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)長文読解や練習問題を通して、語彙力を増やし、中級レベルの文法と自然な言い回しを習得できます。（「読む・書く」面の強化）
- (2)中国の様々な現代事情について理解を深めます。
- (3)本文や会話のCDを聞く、練習することにより、「聞く・話す・読解」面の強化もはかります。

教科書 /Textbooks

『ときめき中国-ぼくらの新'漢流'生活-』（張国璠・池上貞子著）朝日出版社 2000円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第四課 中国人とお金 本文【副詞】【部分否定】【状態の持続】【助動詞】【結果補語】
- 2回 第四課 中国人とお金 会話
- 3回 第四課 中国人とお金 練習問題 小テスト
- 4回 第五課 金持ちだから 本文【副詞】【助動詞】【存在・所有】【複文】
- 5回 第五課 金持ちだから 会話
- 6回 第五課 金持ちだから 練習問題 小テスト
- 7回 第六課 中国人の面子 本文【助動詞】【強調】【二重目的語】
- 8回 第六課 中国人の面子 会話
- 9回 第六課 中国人の面子 練習問題 小テスト
- 10回 第七課 あるハリー族 本文【過去の経験】【様態補語】【前置詞の在】
- 11回 第七課 あるハリー族 会話
- 12回 第七課 あるハリー族 練習問題 小テスト
- 13回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 本文【助動詞】【複文】
- 14回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 会話
- 15回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 練習問題 小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営人律政群 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)ビジネスに必要な語彙を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语100句・公務類』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 挨拶・紹介 フレーズ 1～3
- 2回 挨拶・紹介 フレーズ 4～6
- 3回 挨拶・紹介 フレーズ 7～9
- 4回 挨拶・紹介 フレーズ 10～12
- 5回 事務用品の使用 フレーズ 13～15
- 6回 事務用品の使用 フレーズ 16～18
- 7回 スケジュールの手配 フレーズ 19～21
- 8回 スケジュールの手配 フレーズ 22～24
- 9回 スケジュールの手配 フレーズ 25～28
- 10回 場所の確認 フレーズ 29～31
- 11回 場所の確認 フレーズ 32～34
- 12回 称賛・褒め称える フレーズ 35～39
- 13回 連絡 フレーズ 40～42
- 14回 連絡 フレーズ 43～45
- 15回 招請・宴席への招待 フレーズ 46～48

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語VIII 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)ビジネスに必要な語彙を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语100句・公務类』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 招請・宴席への招待 フレーズ49～52
- 2回 招請・宴席への招待 フレーズ53～56
- 3回 感謝 フレーズ57～59
- 4回 クレーム・催促 フレーズ60～63
- 5回 クレーム・催促 フレーズ64～67
- 6回 要求・務め フレーズ68～70
- 7回 要求・務め フレーズ71～73
- 8回 要求・務め フレーズ74～77
- 9回 アポイント・変更 フレーズ78～80
- 10回 アポイント・変更 フレーズ81～83
- 11回 アポイント・変更 フレーズ84～87
- 12回 問い合わせ フレーズ88～90
- 13回 問い合わせ フレーズ91～94
- 14回 お別れ・見送り フレーズ95～97
- 15回 お別れ・見送り フレーズ98～100

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト・態度...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 3回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 4回 このコンピュータは誰のものですか【人称・所有代名詞】【助詞2】
- 5回 トイレはどこにありますか【存在の有無】【助詞3】
- 6回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 7回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 8回 二日間予約したいですが【漢数詞】【年月日の言い方】
- 9回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 10回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 11回 土曜日には会社に行きません【用言の否定形】
- 12回 海に行きたいです【願望形】
- 13回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 14回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト・態度...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基本文字について【基本母音と基本子音①】
- 2回 書き方と発音【基本子音と基本子音②】
- 3回 書き方と発音【激音と濃音】【合成母音字】
- 4回 バッチム【終声①】
- 5回 バッチム【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 単語と音の変化【その他の発音法則】
- 9回 尋ねる時の表現（～ですか？）【指定詞の丁寧形①】
- 10回 自己・物を紹介する時の表現①（～です、～ではありません）【指定詞の丁寧形②】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現②（～といいます）
- 12回 存在の有無を尋ねる時の表現（～がありますか？～いますか？）
【存在詞のうちとけた丁寧形①】【場所をあらわす助詞】
- 13回 存在の有無を尋ねる時の表現（～に～があります。います）
【存在詞のうちとけた丁寧形②】【時を表す単語および助詞】
- 14回 物・場所を尋ねる時の表現（～は何ですか？～はどこですか？）
【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回前期のまとめ
- 2 回「これは何ですか?」①【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 3 回「これは何ですか?」②【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 4 回「日曜日に何をしますか?」①【曜日】【助数詞】【動詞・形容詞のうちけた丁寧形】
- 5 回「日曜日に何をしますか?」②【漢数詞】【時間】【月日】【電話番号】
- 6 回「何が好きですか?」①【動詞・形容詞の否定形①】
- 7 回「何が好きですか?」②【動詞・形容詞の変則】
- 8 回「週末に何をしましたか?」①【動詞の過去形】【時を表す単語】
- 9 回「週末に何をしましたか?」②【願望表現】【形容詞の過去形】
- 10 回「一週間の予定」【接続詞①】【確認表現】
- 11 回「明日は何をするつもりですか?」①【意思表現】【推測表現】
- 12 回「明日は何をするつもりですか?」②【進行や状態の継続表現】【接続詞②】
- 13 回「スープが冷たくておいしいです」①【動詞・形容詞の否定形②】【逆説表現】
- 14 回「スープが冷たくておいしいです」②【並列表現】【比較表現】
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『韓国語を学ぶ 中級』（李昌圭、朝日出版社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 何を食べましょうか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(1)
- 3回 何を食べましょうか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(2)
- 4回 電話番号を教えてください【理由の表現】【否定文】(1)
- 5回 電話番号を教えてください【理由の表現】【否定文】(2)
- 6回 趣味は何ですか【仮定・連体形】(1)
- 7回 趣味は何ですか【仮定・連体形】(2)
- 8回 ビデオ上映
- 9回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】【地下鉄の路線図を読む】(1)
- 10回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】【地下鉄の路線図を読む】(2)
- 11回 風邪はすっかり治ったんですか【前置き・禁止・可能の表現】【病気に関する表現】(1)
- 12回 風邪はすっかり治ったんですか【前置き・禁止・可能の表現】【病気に関する表現】(2)
- 13回 連休に何をするつもりですか【予定の表現】【譲歩・同時進行の表現】(1)
- 14回 連休に何をするつもりですか【予定の表現】【譲歩・同時進行の表現】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『韓国語を学ぶ 中級』（李昌圭、朝日出版社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 雨が結構降っているみたいですね【推測の表現】【引用・伝聞の表現】(1)
- 3回 雨が結構降っているみたいですね【推測の表現】【引用・伝聞の表現】(2)
- 4回 プルゴギを作ることができますか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(1)
- 5回 プルゴギを作ることができますか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(2)
- 6回 このズボン、履いてみてもいいですか【理由の表現】【否定文】(1)
- 7回 このズボン、履いてみてもいいですか【理由の表現】【否定文】(2)
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 テーマに沿って自由会話(1)
- 10回 テーマに沿って自由会話(2)
- 11回 発表(1)
- 12回 発表(2)
- 13回 発表(3)
- 14回 発表(4)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『ちょこっとチャレンジ!』白水社(2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 魚は焼かないでください。【きまりを言う】
- 7回 魚は焼かないでください。【きまりを言う】
- 8回 花火を見にいこうと思います。【チャレンジ】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 道を渡って左にずっと言ってください。【道案内をする】
- 12回 道を渡って左にずっと言ってください。【道案内をする】
- 13回 ファンの集いへ行ってみたんですけど...【感想を言う】
- 14回 ファンの集いへ行ってみたんですけど...【感想を言う】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他 『ちょこっとチャレンジ!』 白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 3回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 4回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 5回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 6回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 7回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 8回 いちど行ってみてください。【チャレンジ】
- 9回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 10回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 11回 今日は来られないそうです。【話を伝える<間接話法>】
- 12回 今日は来られないそうです。【話を伝える<間接話法>】
- 13回 久しぶりに来てみて、どうですか?【思い出を話す】
- 14回 久しぶりに来てみて、どうですか?【思い出を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 律政1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済誉比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

済営比人律政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物 【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物 【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物 【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には、簡単な文をつくるために必要な要素である名詞・代名詞・動詞・形容詞・冠詞・前置詞について、また文の種類（肯定文・否定文・疑問文）を学びます。音声化を重視してつづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにします。6月に実施される実用フランス語技能検定試験5級に合格すれば成績Cが保証されます。その場合でも、定期試験は必ず受験すること。

教科書 /Textbooks

太田浩一他著、『フランス語文法の基礎』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音の方法とつづり字の読み方
- 2回 名詞、冠詞、エリズイオン
- 3回 人称代名詞（主語）、動詞 <etre>、形容詞
- 4回 動詞 <avoir>、il y a 構文、否定文の作り方
- 5回 1群動詞 <-er> の活用
- 6回 疑問文 1 疑問詞のない疑問文の作り方
- 7回 指示形容詞、所有形容詞
- 8回 中間まとめ
- 9回 動詞 <aller> の活用、前置詞の縮約、近接未来について
- 10回 動詞 <venir> の活用、前置詞の縮約、近接過去について
- 11回 疑問文 2 疑問代名詞・疑問形容詞・疑問副詞を用いる疑問文の作り方
- 12回 2群動詞 <-ir> の活用
- 13回 比較級・最上級
- 14回 非人称構文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、平常の授業への取り組み 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に引き続き文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。具体的には、過去時制・複文・法（モード）について学びます。11月の仏検4級を合格すると成績Cが保証されます。その場合でも定期試験は必ず受験すること。

教科書 /Textbooks

太田浩一 他著 『フランス語文法の基礎』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期の復習
- 2回 人称代名詞(2) 直接目的語、その語順
- 3回 人称代名詞(2) 間接目的語 その語順
- 4回 直説法複合過去
- 5回 代名動詞
- 6回 直説法単純未来
- 7回 特殊な代名詞(中性代名詞)
- 8回 直説法半過去
- 9回 過去時制のまとめ
- 10回 受動態
- 11回 法(1) 条件法
- 12回 法(2) 接続法
- 13回 関係代名詞
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊! 1』 (藤田裕二著 朝日出版社 ¥2500)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 人・物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 代名動詞を使った表現
- 14回 未来のことを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 定期試験...80%

(仏検受験者へ: 今年6月の仏検5級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。
遅くとも3回目の講義までには教科書を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
授業中の飲食・私語は禁止します。
遅刻・途中退室は欠席扱いとします。
携帯電話の電源は切り、机の上には置かずにしまっておくこと。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II』（加藤雅郁著 駿河台出版社 ￥2310）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

簡単な会話のスケッチの聞き取りと解説の後、書かれた質問に答えて会話内容の確認と書く練習を行い、次いで聞こえてきた質問に答えて聞き取り練習を行う。

- 1回 映画を見に行く
- 2回 家族の誕生日について話す
- 3回 レストランで注文する
- 4回 住んでいた町について話す
- 5回 昨日したことを話す
- 6回 宿題について話す
- 7回 知っている人・好きな人のことを話す
- 8回 電話をする
- 9回 将来のことを話す
- 10回 頼みごとをする
- 11回 明日のことを話す
- 12回 会う約束をする
- 13回 自分の趣味・意見を言う
- 14回 自らの考え・気持ちを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 定期試験...80%

(仏検受験者へ：今年11月の仏検4級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

教科書は1回目の講義には用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の飲食・私語は禁止します。

遅刻・途中退室は欠席とします。

携帯電話の電源は切り、机の上には置かずにしまっておくこと。

キーワード /Keywords

様々な会話の場面

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に学んだ初級文法の復習に比べ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語の運用能力を身につけてもらうことを目標としています。また教科書とは別に、フランス映画『アメリ』を鑑賞したいと考えています。そのさいフランスのユーモアを知り、フランス語らしい表現を学んでもらえればと思います。

教科書 /Textbooks

『新・エスカルゴ 2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	フランス語の「音」についての復習、	『アメリ』より	L'enfance d'Aémié
2回	再帰代名詞、	『アメリ』より	Monmartre(1)
3回	再帰代名詞の複合過去、	『アメリ』より	Monmartre(2)
4回	過去分詞の一致のまとめ、	『アメリ』より	La boîte aux souvenirs(1)
5回	半過去と大過去、	『アメリ』より	La boîte aux souvenirs(2)
6回	半過去と複合過去、	『アメリ』より	A la recherche de Bretodeau(1)
7回	関係代名詞、	『アメリ』より	A la recherche de Bretodeau(2)
8回	補語人称代名詞、	『アメリ』より	Amélie, ange gardien(1)
9回	命令法と補語人称代名詞、	『アメリ』より	Amélie, ange gardien(2)
10回	現在分詞とジェロンデフ(1)、	『アメリ』より	L'âme soeur(1)
11回	現在分詞とジェロンデフ(2)、	『アメリ』より	L'âme soeur(2)
12回	疑問代名詞 lequel、	『アメリ』より	Amélie a encore frappé(1)
13回	受動態、	『アメリ』より	Amélie a encore frappé(2)
14回	最上級と副詞、	『アメリ』より	Colignon crêpe chignon
15回	まとめ		

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点、もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また6月の仏験3級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次に学んだ初級文法を確認しておいてください。この講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期と同様に、1年次に学んだ初級文法の復習にくわえ、さらに上の段階の文法を習得することで、中級レベルのフランス語を完全に身につけてもらうことを目標としています。またひき続きフランス映画『アメリ』を鑑賞しながら、フランス語らしい表現を学んでいきます。

教科書 /Textbooks

『彼女は食いしん坊2』（藤田裕二、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	強調構文、	『アメリ』より	Amélie cherche Nino(1)
2回	中性代名詞(1)、	『アメリ』より	Amélie cherche Nino(2)
3回	中性代名詞(2)、	『アメリ』より	Jeux de piste
4回	条件法現在、	『アメリ』より	Nouveaux stratagèmes
5回	条件法過去、	『アメリ』より	L'inconnu démasqué(1)
6回	接続法現在、	『アメリ』より	L'inconnu démasqué(2)
7回	接続法過去、	『アメリ』より	Où est quand(1)
8回	直接話法と間接話法、	『アメリ』より	Où est quand(2)
9回	時制の一致(1)、	『アメリ』より	RDV au photomaton(1)
10回	時制の一致(2)、	『アメリ』より	RDV au photomaton(2)
11回	前置詞と接続詞(時の表現)、	『アメリ』より	Le kouing amann(1)
12回	前置詞と接続詞(場所の表現)、	『アメリ』より	Le kouing amann(2)
13回	前置詞と接続詞(論理の表現)、	『アメリ』より	Saisir sa chance(1)
14回	単純過去、	『アメリ』より	Saisir sa chance(2)
15回	まとめ		

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的に出席を絶対条件とします。その上で、宿題として課される練習問題の評点を50%、期末試験の結果を50%とします(ただし練習問題の評点もしくは期末試験の結果で著しい成果を上げた場合には、別途考慮します)。また11月の仏検準2級以上の合格者には最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

一年次に学んだ初級文法を確認しておいてください。講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストは入門者用のものを使用するが、内容は長文や練習問題が充実しているので、上記の目標を達成するのに適切であると思われる。

特に基礎文法事項を徹底的に復習する。

短文や長文を読解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。

時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

フランス語検定試験3級程度の実力を旨す。6月に行われる検定試験3級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

澤田直之他2名『アミカルマン』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Bonjour Madame
- 2回 Dans le Quartier Latin
- 3回 長文読解 (フランス)
- 4回 Les deux amis au téléphone
- 5回 Un Anglais à Paris
- 6回 長文読解 (パリ)
- 7回 Philippe à la poste
- 8回 La jolie robe
- 9回 長文読解 (カフェ)
- 10回 Nathalie appelle un taxi
- 11回 Dans le taxi
- 12回 長文読解 (学生生活)
- 13回 Bon anniversaire!
- 14回 L'addition, s'il vous plaît!
- 15回 長文読解 (パン、ワイン、チーズ)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語を受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期のフランス語VIIに引き続き、1年次に習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストは入門者用のものを使用するが、内容は長文や練習問題が充実しているので、上記の目標を達成するのに適切であると思われる。

特に基礎文法事項を徹底的に復習する。

短文や長文を読解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。

時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

フランス語検定試験準2級程度の実力を旨す。11月に行われる検定試験準2級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

澤田直之他2名『アミカルマン』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 L'interview d'un champion
- 2回 Le cours de tennis
- 3回 長文読解 (ブルターニュ)
- 4回 A la cinémathèque
- 5回 Après le film
- 6回 長文読解 (プロヴァンス)
- 7回 Philippe à Nancy
- 8回 Cher Philoppe
- 9回 長文読解 (アルザス)
- 10回 Le programme des visites
- 11回 Le dîner en famille
- 12回 長文読解 (政治)
- 13回 Une invitation
- 14回 La fin des vacances
- 15回 長文読解 (フランス病)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語および前期のフランス語VIIを受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（プラス1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいるhispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間にも属します。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずで、具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』
 青木文夫・辻博子・マリア エルナンデス（共著）、弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プロGRESSIVEスペイン語辞典（小学館）
 パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）
 電子辞書も奨めます。最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入：スペイン語とはこんな言語
- 2 発音の仕組み
- 3 発音の仕組み
- 4 発音の練習と簡単なテスト
- 5 性数の一致：冠詞と名詞
- 6 性数の一致：冠詞と名詞
- 7 規則動詞の現在形とその用法
- 8 規則動詞の現在形とその用法
- 9 規則動詞の現在形練習問題
- 10 serとestarの活用と用法
- 11 serとestarの活用と用法
- 12 serとestarの練習問題
- 13 不規則動詞の現在形の活用と用法
- 14 不規則動詞の現在形の活用と用法
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。また、出席管理において代返や出席のみ登録しての退室が見つかった場合は平常点を一切加算しません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超過している場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で30点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。また授業中に私語や態度などで注意された場合も減点の対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！
メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思うかもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)
 スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)
 スペイン(増田監修:新潮社)
 スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)
 スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)
 スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)
 スペイン語基礎文法(ロボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)
 辞書についてはスペイン語Iで述べたのを参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 5回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 6回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 9回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 10回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 11回 従属節を含む文の理解。
- 12回 従属節を含む文の理解。
- 13回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 14回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返などが見つかった場合は即座に失格とします。定期試験に今述べた平常点を最大30点まで加算します。もちろん60点を超えている場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語(スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など)に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。スペイン語の発音は日本語話者に易いので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

粕谷てる子『オラ！（CD付）』第三書房、2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 挨拶、スペイン語の発音、「じゃあね！」
- 3回 アクセントについて、ser動詞、「私はマリです」
- 4回 国籍・職業・出身地、「彼女は学生です」
- 5回 形容詞、指示詞、「この本は面白い」
- 6回 - ar動詞、- er動詞、- ir動詞、「スペイン語を話せる？」
- 7回 数字1-15、「どこに住んでいるの？」
- 8回 tener、数字16 - 100、「私は18歳です」
- 9回 所有詞、hacer、poner、decir、「家族」
- 10回 estar動詞、「どこにあるの？」
- 11回 hay、「この辺にバルはありますか？」
- 12回 querer、「スペインを旅行したい」
- 13回 poder、「今日はサッカーができません」
- 14回 目的格人称代名詞、「私に写真を見せてくれる？」
- 15回 不規則動詞・目的格人称代名詞のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、 日常の授業への取り組み 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor トマス・マリン・アルビ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
(粕谷てる子『オラ！(CD付)』第三書房、2010)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IIIの復習
- 2回 ir、venir、「これから友達の家に行くつもり」
- 3回 hacer、「今日はいい天気ですね」
- 4回 時間、「何時ですか？」
- 5回 gustar、「私はサッカーが好きです」
- 6回 gustar型動詞、「頭が痛い」
- 7回 再帰動詞llamarse、「お名前は？」
- 8回 その他の再帰動詞、「もう行っちゃうの？」
- 9回 比較表現、「地下鉄はバスよりは安い」
- 10回 最上級、「どのワインが一番おいしいですか？」
- 11回 過去分詞、現在完了、「すごく楽しかった」
- 12回 過去形の概要、「昨日の出来事」
- 13回 過去形の概要2、「昨日電話した時、何していたの？」
- 14回 直説法と接続法の概要、「楽しい週末を！」
- 15回 命令法、まとめ「それを食べてはいけません」

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、日常の授業への取り組み 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 接続法とは何か
- 2回 接続法現在・規則活用
- 3回 接続法現在・不規則活用
- 4回 接続法現在の用法
- 5回 命令法・命令形
- 6回 感嘆文
- 7回 比較級
- 8回 相対・絶対最上級
- 9回 不定詞を用いた放任・使役の動詞
- 10回 不定詞を用いた忠告・命令・許可・禁止の動詞
- 11回 SEの受身文
- 12回 SEの無人称文
- 13回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 14回 接続法の用法(独立文)
- 15回 接続法の例文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅰ・Ⅱを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語圏

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペインの文化・風土・歴史などを織り込んだ中級程度のスペイン語の文章を読みます。スペイン語及びスペインに関する幅広い知識を身に付けます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の、講読部分（別冊。500円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* スペイン語講読・説明・解説

- 1回 第一課 【位置】
- 2回 第二課 【風土】
- 3回 第三課 【行政】
- 4回 第四課 【生活】
- 5回 第五課 【バルセローナ】
- 6回 第六課 【マドリード】
- 7回 第七課 【中世文学】
- 8回 第八課 【レコンキスタ】
- 9回 第九課前半 【古代ローマ治下】
- 10回 第九課後半 【イスラーム治下】
- 11回 第十課 【セビージャ】
- 12回 第十一課前半 【レコンキスタの完了】
- 13回 第十一課後半 【スペイン帝国】
- 14回 第十二課 【ドン・キホーテ】
- 15回 第十三課 【バスク自治州】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅱ・Ⅴを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

古代ローマ帝国 イスラーム レコンキスタ

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。テキストの文法事項を押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳのテキストの続きから使用します。(前年度テキスト:エウヘニオ・デル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、ビデオ・DVD・音声教材なども利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(会話表現、聞き取り)
- 2回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(目的格人称代名詞、再帰動詞などを中心に)
- 3回 過去分詞、現在完了、「ミゲルはもう到着したの?」
- 4回 不定語・否定語、「何か言った?」
- 5回 直説法点過去(1)、「いつスペイン語の勉強を始めましたか」
- 6回 直説法点過去(2)、「夏休みはどこに行きましたか」
- 7回 直説法線過去、「若いころあのレストランへよく行っていた」
- 8回 点過去と線過去、「電話がなったとき、本を読んでいた」
- 9回 スペイン語圏についてのDVD教材
- 10回 現在分詞、「私は音楽を聴きながら通学する」
- 11回 直説法未来、直説法過去未来「明日はハイメとテニスをするだろう」
- 12回 直説法過去完了、「私が到着したとき、もうパーティは始まっていました」
- 13回 DVD教材(スペイン語で見る・1)
- 14回 DVD教材(スペイン語で見る・2)
- 15回 直説法の動詞のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor トマス・マリン・アルビ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語VIIを更に発展させていきます。テキストの文法事項を繰り返し押さえ、それぞれの文法テーマに沿った会話表現を学び、応用できるようにしましょう。また、簡単な表現を使い、スペイン語での発表も行います。

教科書 /Textbooks

スペイン語VIIのテキストを引き続き参照します。
(スペイン語VII: エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)
また、読み物、ビデオ・DVD・音声教材などを利用し、その際にはプリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語VIIの復習 (DVD教材)
- 2回 スペイン語VIIの復習 (直説法のまとめ)
- 3回 接続法現在、(1)、独立文、「いい天気になればいいなあ」
- 4回 命令形、「どうぞこちらへ来てください」
- 5回 接続法現在(2)、名詞節、「ホセに本当のことを言ってもらいたい」
- 6回 接続法現在(3)、形容詞節・副詞節、「ペットが飼える家を探しています」
- 7回 接続法過去、「こんなに人気があったとは、知らなかった」
- 8回 接続法過去完了、「あの時すでにメキシコに住んでいたなんて、知らなかった」
- 9回 接続法、条件文、「あの時返事をしていれば、今頃はペルーにいるはずだったのに」
- 10回 DVD教材など、会話練習
- 11回 スペイン語で発表(1)
- 12回 スペイン語で発表(2)
- 13回 スペイン語で映画などを見る 前半
- 14回 スペイン語で映画などを見る 後半
- 15回 接続法のまとめと会話について

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、授業内のスペイン語での発表 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(I・II・III・IV)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Aでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『大学生の日本語トレーニング』(世界思想社編集部、世界思想社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

<小林担当分>	<清水担当分>
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 高校・日本語学校と大学の違い	2回 大学生と論理的思考力
3回 履修登録とシラバス	3回 リストアップする
4回 キャンパスツアー	4回 マッピングする
5回 大学教員・職員との付き合い方	5回 キーワードを繋げる
6回 図書館ツアー	6回 イラストから読み取ったことを表現する
7回 情報の探し方	7回 定義をする
8回 勉強以外の大学生生活	8回 日本語の語順に沿って考える
9回 留学生の進路	9回 時間軸に沿って考える
10回 留学生と日本人学生	10回 主張に理由を加えて表現する
11回 試験に備える：試験勉強	11回 主張に理由や具体例を加えて表現する
12回 試験に備える：レポート	12回 総合的に表現する
13回 試験に備える：期末試験	13回 論理的に考えて表現する
14回 大学生としての自分	14回 日本語で表現することと自分
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語 (ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語 (キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語 (アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。

日本語Bでは、特に「聞く・話すこと」に焦点を当てる。講義を聞き取る聴解スキルや、発表に必要な語彙・表現を身に付け、実際に課題テーマのプレゼンテーションをおこなうことで、「発表」の方法を学ぶ。さらに、「質疑応答」「評価 (自己評価)」では建設的な意見交換やコメントができることを目標とする。

教科書 /Textbooks

犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
上村和美・内田充美『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦香苗他『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 ノートテイキング【メモ】【構成】
 - 3回 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
 - 4回 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
 - 5回 「不登校」【予告】【データの提示】
 - 6回 「高校生とバイク」【データの説明・解釈】
 - 7回 「食料自給率」【データ比較】
 - 8回 応用練習テーマ「少子化」(1) 【序論構成】
 - 9回 「少子化」(2) 【本論構成①】
 - 10回 「少子化」(3) 【本論構成②】
 - 11回 「少子化」(4) 【結論の提示】
 - 12回 プレゼンテーションの基礎【プレゼンテーションとは】
 - 13回 クラスメイト紹介 (1) 【他者紹介】
 - 14回 クラスメイト紹介 (2) 【インタビュー】
 - 15回 セルフチェック (1) 【姿勢・表情・視線】【身振り・手振り】【声】
 - 16回 セルフチェック (2) 【チェックシート・評価シート】
 - 17回 施設紹介 (1) 【相手の視点に立った情報整理】
 - 18回 施設紹介 (2) 【サンドイッチ構成】
 - 19回 日常生活で目にするものを説明する (1) 【比較】
 - 20回 日常生活で目にするものを説明する (2) 【マトリックス】
 - 21回 アンケート (1) 【調査項目】
 - 22回 アンケート (2) 【アンケート用紙】
 - 23回 ポスター発表 (1) 【ポスターの構成】
 - 24回 ポスター発表 (2) 【ポスター作成】
 - 25回 ポスター発表 (3) 【ポスター発表】
 - 26回 案内状を作る (1) 【5W1H】
 - 27回 案内状を作る (2) 【案内状】
 - 28回 案内状を作る (3) 【当日の進行】
 - 29回 1年間を振り返る【時系列】【トピック】
 - 30回 まとめ【評価】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・・・40% 授業への取り組み・・・40% 自己評価・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本語B 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生 (文学部比較文化学科日本語教師養成課程) が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Cでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。

教科書 /Textbooks

『大学・ 大学・ 大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

< 小林担当分 >	< 則松担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 大学生に求められる読む力	2回 学術的文章の特徴
3回 自己評価	3回 テーマに合う文献を探す
4回 絵やイラストを読む	4回 文献を読んで研究テーマを
5回 文章を読んで図や表にする	5回 ピア・リーディングとは何か
6回 表やグラフを読み取る	6回 ピア・リーディング：読みの個人差に着目する
7回 表やグラフ以外のものを読み取る	7回 ピア・リーディング：読む過程を重視する
8回 マッピングしながら読む	8回 ピア・リーディング：協同的に読む
9回 登場人物になったつもりで読む	9回 ピア・リーディング：読み方を変える
10回 どちらがいかを考えながら読む	10回 ピア・リーディング：他者の視点で読む
11回 理由を考えながら読む	11回 主体的・ 能動的な読み
12回 前後の文脈から推論しながら読む	12回 読みにおける他者の存在
13回 総合的に読む	13回 自分で書いた文章のピア・リーディング：初回
14回 日本語で読むことと自分について考える	14回 自分で書いた文章のピア・リーディング：修正
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Cと日本語Dは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング ストラテジー

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Dでは、日本語で書くことを中心とする。特に、情報を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 2回 授業の目的及び必要性を知る【課題の条件を確認する】
- 3回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 4回 レポートとは何かを考える【根拠の大切さを知る】
- 5回 レポートのテーマを考える【構想マップ】
- 6回 レポートのテーマを考える【練る】
- 7回 情報をカード化する【情報の信頼性】
- 8回 情報をカード化する【調べる】
- 9回 目標を仮に規定する【情報の整理】
- 10回 目標を仮に規定する【絞る】
- 11回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 12回 アウトラインを作る【組み立てる】
- 13回 パラグラフライティング【中心文】
- 14回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
- 15回 パラグラフライティング【引用】
- 16回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
- 17回 文章を点検する【校正】
- 18回 文章を点検する【表現の点検】
- 19回 文章を点検する【形式の点検】
- 20回 文章を点検する【ピア・レスポンス】
- 21回 レポートの完成【体裁】
- 22回 レポートの完成【最終稿】
- 23回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 24回 発表を準備する【発表の練習】
- 25回 発表する【話し手】
- 26回 発表する【聴き手】
- 27回 発表する【司会】
- 28回 発表する【相互評価】
- 29回 学習プロセスを振り返る
- 30回 まとめ【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40%
レポート・発表...40%
ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。

日本語D 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの論文を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情 - 異文化を超える - 』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 他大学学生とのレポート交換活動
- 12回 ピア・リーディング(2)他大学学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(2)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50% 自己評価 ... 30% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他大学の留学生とレポート交換活動をする予定である。

履修上の注意 /Remarks

昨年度開講されなかったため、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor ジェームズ・バスキンド / James Baskind / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Zen Culture and Japan

With D.T. Suzuki's publication of Zen and Japanese Culture, Zen came to be heralded as the quintessence of Japanese culture. However, the question remains: how much of Zen doctrine and history support this view? As the title of this course indicates, we will be turning Suzuki's contention on its head, as we examine the creation of a culture of Zen itself or a "Zen culture" that subsumes and informs much of what is considered "Japanese" both in Japan and the West. We will also consider Zen's history in India, China, and Japan, as well as "Zen" aspects of painting and poetry, martial arts, tea ceremony, literature, and its role in pop/modern culture in Japan and abroad. In addition to presenting the history and practice of Zen, this course aims to also provide a modern and international perspective on Zen.

教科書 /Textbooks

Textbook: Zen and Japanese Culture Daisetz T. Suzuki (Author) Richard Jaffe (Introduction). Princeton University Press, reprint edition. ¥ 1,900. Other materials will be distributed as needed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

日本事情 (人文) B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Schedule

Week 1

WHAT IS ZEN?

EARLY BUDDHISM: DOCTRINE AND PRACTICE

Week 2

ZEN PRACTICE

ZEN ANTECEDENTS: DAOISM AND THE VIMALAKIRTI SUTRA

Week 3

THE TRANSMISSION OF BUDDHISM TO CHINA

LEGENDARY BEGINNINGS OF ZEN: BODHIDHARMA

Week 4

INTRODUCTION OF ZEN TO JAPAN: THE RINZAI, SOTO, AND OBAKU SCHOOLS

Week 5

FORMS OF ZEN PRACTICE

Week 6

ZEN IN THE MODERN ERA: D.T. SUZUKI

Week 7

ZEN AESTHETICS AND THE TEA CEREMONY

Week 8

ZEN AND MARTIAL ARTS: FACT, FICTION, AND FANTASY

Week 9

ZEN ARTS: PAINTING, GARDEN DESIGN AND POETRY

Week 10

MIDTERM EXAM

Week 11

ZEN IN THE WEST: THE BEGINNINGS

Week 12

BEAT ZEN SQUARE ZEN: THE BEATNIKS, ZEN AND AMERICAN SUBCULTURE

Week 13

ZEN IN MEDIA AND POP CULTURE

Week 14

IMAGE AND IDEAL: ZEN PRACTICE CENTERS ABROAD

Week 15

ZEN IN THE WEST: TENSIONS AND CONFLICTS, CONCLUSIONS (FINAL PAPER DUE)

成績評価の方法 /Assessment Method

Assessment

Participation/daily effort 30%

Midterm exam 30%

Paper 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本事情 (人文) B 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

No familiarity with Japanese religions is required.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Zen, Japanese culture, Buddhism, arts, D.T. Suzuki

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 国際教育交流センター 山崎 勇治
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生のための講座である。1年生と短期交換留学生の混合授業である。また中国、韓国、アメリカ、オーストラリア、イギリスからの留学生と、国際的な講義である。
そこで、日本を知る上で必要な観点から、外部講師を招聘して講義をしていただく場合もある。例えば、大学生協の店長が寿司文化を語り、留学生にその作り方を実地で教え、試食させてくれるとかといった具合である。
日本社会を、社会科学分野から追求することを旨としているが、日本の伝統文化を知らないと日本の政治経済の理解が深まらない。それゆえ、多士済々の講師が登場するゆえんである。
これらの講義を通じて日本社会に興味をもち、積極的に参加してくれることを目的としている。

教科書 /Textbooks

口述講義により、教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 .私のデートコース案内-イギリスと北九州-
- 第3回 お伊勢参りから宇宙旅行までの日本人の旅行ブーム
- 第4回 TOTOのウォッシュレット開発
- 第5回 北九州空港と韓国仁川国際空港の役割
- 第6回 新幹線を作った男たち
- 第7回 トロンの世界
- 第8回 秀吉の朝鮮出兵と九州の窯元
- 第9回 安川電機とロボット産業軍事とアジアを読み解く
- 第10回 日本の経営の特徴とその変化
- 第11回 戦後日本経済(1)
- 第12回 戦後日本経済(2)
- 第13回 戦後日本経済(3)
- 第14回 軍事とアジアを読み解く
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50%

授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語で講義をするので、日本語を上達させておくこと。

日本の政治経済の動きを理解するために、新聞を毎日読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本滞在を有効にするために、この講義に参加している日本人学生との交流を積極的に行ってもらいたい。

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 国際教育交流センター 山崎 勇治
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義の目的・韓国、中国、オーストラリア、イギリス、日本の学生が一緒に集まって、さまざまなテーマについて日本と自国との比較検討をする。
使用言語は主として日本語である。ただし英語も一部使用する。理由は、イギリスやオーストラリアからの留学生にとって複雑な内容を日本語で説明するには無理があるときがあるからである。

教科書 /Textbooks

口頭講義である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 自己紹介 オリエンテーション 山崎勇治
- 第2回 関門地域をめぐる日本の近代化一、中国、韓国、アメリカ、イギリス
- 第3回 雇われ外国人たちと日本の近代化ートーマス・グラバー
- 第4回 官営八幡製鉄所の北九州に果たした役割
- 第5回 新幹線を開発した男たち
- 第6回 TOTOと日本のトイレ革命
- 第7回 公害問題の発生と母親たちの反対運動
- 第8回 安川電機と産業用ロボット(宗像志功、孫文)
- 第9回 松本清張と朝鮮戦争
- 第10回 森川知治 生協食堂店長:「オーストラリアに定着させた寿司文化」
- 第11回 北九州市役所 西之原局長 「北九州市と国際化」
- 第12回 出光興産と美術館
- 第13回 カーディフ炭と日本海海戦
- 第14回 バーナード・リーチと小鹿田焼き
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%

授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本についての関心事を絶えずもち続けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これから法学部で学ぶさまざまな法制度の現状とその問題点を理解しようとする際に必要かつ有益な能力を身につけることが目標となります。
具体的には、身近に生じている実際の事件・紛争、法システムに含まれている法的な問題を発見する方法、問題を検討するにあたって資料・文献を検索・収集する方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）、集めた資料を分析する方法などを学びます。

教科書 /Textbooks

弥永真生著『法律学習マニュアル』第3版（有斐閣・2009年）2100円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにしますが、とりあえず例えば以下のもの。
森靖雄著『大学生の学習テクニク』（大月書店・2007年）1, 890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミの運営方針の説明
- 第2回 授業の受け方・講義ノートの取り方
- 第3回 各自、興味のある法律問題・事件について発表し、文献資料や判例等がどの程度存在しているのが調査する（パソコンを利用して情報を検索したり、図書館等を利用して実際の情報や資料を入手したりする方法を学ぶ）。
- 第4回 各自、問題・テーマを決定して、それについての報告を行う準備をする。
- 第5回 文献の要約の仕方、報告書（レジюме）の作り方、口頭発表の仕方・討論の仕方の事前学習をする。レジюмеの報告者の順番を決める。
- 第6回～第15回 順番に従って、毎回、担当者が報告を行い、参加者全員で議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%（出席・報告内容・ディスカッションへの参加度を総合評価）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者にはレジюмеの作成と参加者への事前配布が求められます。
報告者以外の受講者には、事前のレジюмеの読み込みと質問事項の準備が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「法学基礎演習I」（1学期）は、大学生・社会人として必須の能力である「弁論能力」（スピーチ）と「討論能力」（ディベート）の鍛錬に特化することとする。「スピーチ」においては、各自に割り当てられたテーマについて、即興でのスピーチをおこなってもら（3分間スピーチ）。「ディベート」においては、競技ディベートのルールに則って、グループ相互でのディベートを行う。上記のような鍛錬を通じて教員・学生が相互に論理的・説得的に「しゃべる」技術を向上させることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 スピーチ①
- 第3回 スピーチ②
- 第4回 スピーチ③
- 第5回 スピーチ④
- 第6回 ディベート①
- 第7回 ディベート②
- 第8回 ディベート③
- 第9回 ディベート④
- 第10回 ディベート⑤
- 第11回 ディベート⑥
- 第12回 スピーチ⑤
- 第13回 スピーチ⑥
- 第14回 予備日程
- 第15回 予備日程

成績評価の方法 /Assessment Method

スピーチ・ディベート 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「個」を強くするゼミを目指します。

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法学の各分野に共通する基礎的知識を整理しながら、読み・書き (=レポート・レジュメの作成)・話す (=報告する、議論する) という、法学の基本的な学習の方法を習得することを目的とする。また、法令・判例・文献資料などの法情報の検索方法や収集方法、引用法といった法学の基本的技能を習得することを目指す。

教科書 /Textbooks

テキストを指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 弥永真生 『法律学習マニュアル』3版 (有斐閣・2009.09)
- 末川博 (編) 『法学入門』6版 (有斐閣・2009.04)
- 伊藤正己・加藤一郎 (編) 『現代法学入門』4版 (有斐閣・2005.03)
- ※ 開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回 法律文献の読み方・まとめ方(1)
指定されたテキストを読んで、筆者の主張を特定する方法を考える。
- 3回 法律文献の読み方・まとめ方(2)
パラグラフ・リーディングと要約の方法を考える。
- 4回 小論文の作法(1)
あるテーマについて論文を書くということが、どういうことなのかを考える。
- 5回 小論文の作法(2)
あるテーマについて、諸説を要約し、自己の主張をまとめる作業を考える。
- 6回 レポートとレジュメの作成法(1)
レポートとレジュメの相違、それぞれの構成要素を理解する。
- 7回 レポートとレジュメの作成法(2)
実際に作成したレポート及びレジュメを比較検討する。
- 8回 法の種類と体系
 - なぜ、法令が、憲法、法律、条例などに分けられているのか。
 - なぜ、法令に上下関係があるのか。また、上下関係があるのならその理由は何か。
 - 公法と私法とに分けられている理由、またその分け方はどうか。
- 9回 法の構造(1) 法令の構造
 - 法令のどこに何が書いているのか。
 - 法令のそれぞれの要素は何を意味するのか。
- 10回 法の構造(2) 条文の構造・法令用語の基礎知識
 - 法条のどこに何が書いてあり、どういう意味があるのか。
 - ～法～条前段、～項、～号、柱書など条文の読み方を知る。
- 11回 法源論 (制定法・慣習法・判例法)
 - 制定法、慣習法、判例法など。裁判で用いるとき、根拠として使えるものは何か。
 - 法源には、国による違いはあるのか。あるとしたらどう違うのか。
 - 民事法、刑事法、行政法とでは法源に違いはあるのか。あるとしたらどう違うのか。
- 12回 リーガル・リサーチの基礎(1) 概説：法令・判例・文献の調査法と引用法
 - 法令、判例、文献などを調べるには、どのようなツールがあるか。
 - 冊子体であるなら何をを使うか。電子情報であるなら何をを使うか。
 - 1次資料・2次資料とは何か。
- 13回 リーガル・リサーチの基礎(2) 概説：法令・判例・文献の引用法
 - 法令や判例、文献などの引用方法。
- 14回 リーガル・リサーチの基礎(3) 実習：法令・裁判例の調査法
- 15回 リーガル・リサーチの基礎(4) 実習：文献の調査法

法学基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポート・レジюмеを含む)...50% 討論及び発言内容...50%
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。
※「沈黙」を禁ずる。発言をしない者、ディスカッションに参加しない者については、大幅な減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者(または、担当グループ)には、各テーマに関してレポート及びレジюмеを作成し、事前に提出すること(報告の1週間前を目途とする)。担当者の報告をもとに、全体でディスカッションを行なって、理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

基礎演習Iは、基礎演習IIと連続して展開することを予定しているため、基礎演習IIも併せて履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習は、履修者自身が探求し、知識を取得し、理解を深める場である。積極的な活動を期待している。2年次以降の専門科目や演習で、主体的に学習に取り組むために必須の基礎体力を身につけてください。

キーワード /Keywords

法学 法学入門 法学の基礎

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の歴史についての固定観念に再検討を加える。日本社会および日本人の法生活について多様な視点から見る目を養う。

教科書 /Textbooks

日本社会の歴史 上・中・下 網野善彦著 岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキスト、ゼミ内容について解説
- 2回 図書館見学と利用法
- 3回 担当者による発表と討論
- 4回 担当者による発表と討論
- 5回 担当者による発表と討論
- 6回 担当者による発表と討論
- 7回 担当者による発表と討論
- 8回 担当者による発表と討論
- 9回 担当者による発表と討論
- 10回 担当者による発表と討論
- 11回 担当者による発表と討論
- 12回 担当者による発表と討論
- 13回 担当者による発表と討論
- 14回 担当者による発表と討論
- 15回 担当者による発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 50% ゼミへの参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者以外の者も必ず予習し、疑問点など発表者に対する質問事項等を考えておくこと

履修上の注意 /Remarks

高校で日本史を受講していた方が理解しやすいでしょう

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、主として1年生を対象とし、大学における学習のやり方、すなわち広義や演習の受講方法とそのために必要な学習の方法・技術について基本的な事柄を学ぶとともに、法律を勉強するとはどういうことであるのかを考え、理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業において資料を配付するほか、文献等については適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

弥永真生『法律学習マニュアル〔第2版補訂版〕』（2007年、有斐閣）
いしかわまりこ他著、指宿信他監修
『リーガル・リサーチ（第3版）』（2008年、日本評論社）
村上英明・小原清信編『なるほど公法入門〔第2版〕』（2004年、法律文化社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（運営方針の説明）
- 2回 法学の各分野はどうなっているか
- 3回 図書館の利用方法
- 4回～6回 学習の方法について
- 7回～8回 立法機関と立法過程
- 9回～10回 裁判所制度
- 11回～12回 行政組織
- 13回～15回 法令解釈の基礎

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 60 % 討論への参加状況 ... 40 %
(出席が総授業回数の3分の2に満たない場合は不合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず、法令、判例、文献など法律情報の調べ方を習得することを目的とします。次に、大学におけるレポートとはどのように構成すればよいか、その書き方も学習します。受講生との話し合いにより、テーマを選定し、そのテーマに関するレポートを基に議論することにより、法的思考方法を習得します。テーマは、法律一般に関する時事的なもの、その他報告者の希望により決定します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

はじめの授業で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業の進め方について、報告者決定
- 2回 判例の調べ方について
- 3回 文献の調べ方について
- 4回 法令の調べ方について
- 5回 以下、順次、個別テーマについて報告
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」に関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを、本演習の目的とする。これらの著作は、法学をこれから学ぶ者が一読しておくべき、古典的名著である。また、それと同時に、J・ロールズやR・ノージックなどの現代正義論との関連からも、その理論的射程が再検討されるべきものでもある。本演習では、古典と現代という二重の問題意識をもちつつ、以下のテキストを読み進めていきたい。

これまでおそらく教科書知識のみで知っているつもりとなっていたであろう古典的著作を、翻訳でではあれ、直接読むことにより、必ずやなんらかの点において知的に触発されるものがあると思われる。既読者にとっても、いずれの著作も読むたびに新たな発見や関心を喚起するような性質をもった名著である。また、実定法学を学ぶ上でも、これらの著作からは、理論的基礎として大いに得るものがあるに違いない。

教科書 /Textbooks

ジョン・ロック『統治二論』（岩波文庫、1320円）
ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』（光文社古典新訳文庫、933円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロック『全訳 統治論』（柏書房）
○浜林正夫『ロック』（研究社出版）○森村進『ロック所有論の再生』（有斐閣）
○西嶋法友『ルソーにおける人間と国家』（成文堂）
○川合清隆『ルソーとジュネーヴ共和国』（名古屋大学出版局）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 はじめに
第2回 ロック『統治二論』第1回（自然状態についてなど）
（あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながらテキストを順に読み進める。以下同様）
第3回 ロック『統治二論』第2回（所有権についてなど）
第4回 ロック『統治二論』第3回(政治社会と統治の目的についてなど)
第5回 ロック『統治二論』第4回（父親の権力、政治権力、専制権力についてなど）
第6回 ロック『統治二論』第5回(統治の解体についてなど)
第7回 ロック『統治二論』第6回（『統治二論』前編についてなど）
第8回 ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第1回（社会契約についてなど）
第9回 ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第2回（一般意志についてなど）
第10回 ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第3回（政府一般についてなど）
第11回 ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第4回(政府の設立についてなど)
第12回 ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第5回（投票や公民宗教についてなど）
第13回 ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第6回（主権についてなど）
第14回 ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第7回（法の制定についてなど）
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を事前に必ず考え、準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ジョン・ロック『統治二論』（岩波文庫）は、2010年11月に文庫版として出版されました。それまでの岩波文庫版は、『市民政府論』の名で、『統治二論』の後編だけが訳出・刊行されていました。本演習では、後編を中心に扱いますが、前編についても第7回目に概観をする予定です。

キーワード /Keywords

社会契約 自然状態 統治 主権 一般意志

法学基礎演習I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法律の学び方・調べ方といった法学の基本的なトレーニングを行います。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 法を学ぶ意義や法の役割を理解する。
- 5回～15回 各担当者による報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 中山 布紗 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

■演習テーマ：社会生活における人間関係と法律■

本演習は、①社会で起こっている様々な出来事を多角的に捉える目線を養うこと、②身近に起こりうる問題を解決し「自分の頭で考える力を身に付けること」を目指す。とりわけ、判例の読解および検討を通じて、①筋道を立てて物事を考える力、②裁判官が判決を下すために付した理由付け（論理構造）を客観的に整理し理解する力を養い、法的思考のイロハを身につける。

また、レジュメ作成技術、レポートのまとめ方、法律文献の調査方法や引用方法など法律を学ぶ上で必要最低限の作法を体得し、3年次以降どの分野のゼミを選択しても主体的に報告準備に取り組み、積極的に議論に参加できるプレゼンテーション能力を向上させる「基礎体力」をつけることが、本演習のもう1つの狙いである。

教科書 /Textbooks

指定なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

演習中に担当者が適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本演習の進め方、および民法の体系と基本原理、権利の実現方法について解説。
- 2回 判決文を読む上でのポイント解説。第4回以後のスケジュール(報告担当)決定。
- 3回 判例の検索方法および報告の際のレジュメの作り方、レポート作成方法について解説。
- 4回 学生による判例報告①。報告後、全員で議論。
- 5回 学生による判例報告②。報告後、全員で議論。
- 6回 学生による判例報告③。報告後、全員で議論。
- 7回 学生による判例報告④。報告後、全員で議論。
- 8回 学生による判例報告⑤。報告後、全員で議論。
- 9回 学生による判例報告⑥。報告後、全員で議論。
- 10回 学生による判例報告⑦。報告後、全員で議論。
- 11回 学生による判例報告⑧。報告後、全員で議論。
- 12回 学生による判例報告⑨。報告後、全員で議論。
- 13回 学生による判例報告⑩。報告後、全員で議論。レポートに関する解説(1)。
- 14回 学生による判例報告⑪。報告後、全員で議論。レポートに関する解説(2)。
- 15回 学生による判例報告⑫。報告後、全員で議論。1学期の総括(担当教員からの総評)。

成績評価の方法 /Assessment Method

判例報告...30% 平素の演習への取り組み...25% レポート(学期末5000字)...45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書は指定しないが、演習には毎回六法(出版社は問わない)を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ演習時の議論において「無言厳禁」を原則とするなど、本演習は受講者に対する要求度が高いことを付言しておく。無断欠席者、遅刻常習者、学期末レポート未提出者に単位は与えない。

他力本願で主体性のない学生、提出物の締め切りをきちんと守るなど、自ら学ぼうとする姿勢に欠ける者にとって、本演習は苦しいだけであり、ついてこれないであろう。この点を心に留め、履修するか否かを定めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律学入門 民事判例の読み方 法解釈方法

法学基礎演習I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際問題を題材にし、受講者に対しそれらを法的に分析していくプロセスを実践させることで、①法情報検索技術の習得、②プレゼンテーション能力の向上、③討論能力の向上、④レポート作成能力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。
基礎ゼミの理解に必要な資料は、必要に応じ、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

横田洋三編『国際法入門』(有斐閣・2004)
松井芳郎『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)
他の参考文献については、別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 法学の学習にあたって
- 第3回 リサーチ①(文献等の探し方)
- 第4回 リサーチ②(情報検索サイト等の活用)
- 第5回 法律の条文に親しむ
- 第6回 条文の解釈の作法を知る
- 第7回 判例の探し方
- 第8回 実際の判決文を読む①:判決文の構造を知る
- 第9回 実際の判決文を読む②:争点ごとに整理しながら読む
- 第10回 判例研究のレジュメを作る
- 第11回 レジュメ検討ゼミ
- 第12回 法学の答案を書く
- 第13回 レポートを書くにあたって
- 第14回 模擬答案検討ゼミ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
この点を十分に理解し、自覚と責任感を持って、ゼミに参加されることを期待します。

履修上の注意 /Remarks

IとIIをセットで受講してください。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、授業やグループでの作業に深刻な影響を与えることとなります。やむを得ず、欠席等する場合には、必ず事前に連絡を入れてください。無断欠席や度重なる遅刻など、参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、受講申請にあたってはこの点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学部法律学科へようこそ。あなたの夢は何ですか。
この一年間は、その実現にとって必要な基礎を固める大切な時期となります。一緒にがんばりましょう。

法学基礎演習I【昼】

キーワード /Keywords

【法的分析等に関する基礎技術の習得】

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習のテーマは、「社会科学方法論の基礎」です。社会科学方法論に関するウェーバー、マルクス、ミルズなどの古典的な著作を通して社会的な物の見方、方法論について学ぶことを目的とする。

教科書 /Textbooks

加藤周一『学ぶことと思うこと』（岩波ブックレット、2003年）
C. W. ミルズ著（鈴木 広訳）『社会学的想像力』（紀ノ国屋、1967年）
マックス・ウェーバー著（富永祐治他訳）『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』（岩波文庫、1998年）
マックス・ウェーバー著（尾高邦雄訳）『職業としての学問』（岩波文庫、1980年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～3回 知の技法について【コミュニケーション(読む・書く・話す)能力】【文献調査法】
4回～6回 社会学的想像力について【知識社会学】【イデオロギー】【知的職人論】
7回～11回 社会科学方法論について【社会科学的認識の客観性】【M.Weber】【没価値性(価値自由性)】【K. Marx】【弁証法的唯物論】【K. Popper】【反証可能性】
12回～14回 科学としての法律学 【法解釈学】【経験法学】【法解釈の客観性】
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...30% 口頭報告...30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記のテーマ・キーワードに即して、テキスト・サブテキストとして指定した社会科学方法論上の古典的名著を毎回課題として事前に読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年次の前期ではとくに大学生としての「教養」を深めることを目的に、あえて法律の専門書以外の本を数多く読んでもらいますので、その覚悟をもって受講してください。

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、法学を学ぶうえで必須となる基礎的知識・思考・スキルなどを身につけることを目的とします。具体的には、大学での学問（法学）に対する臨み方から始まり、文献の調べ方、法学的な議論の仕方、パソコン（インターネット・データベース）を利用した判例などの検索、判例の読み方の基礎を学びます。なお、この演習は、3・4年次のゼミ（専門演習や個別研究指導）などで、関心を持った法分野の研究をする際、必須となるスキルを低学年次の段階で修得することを想定しています。

教科書 /Textbooks

- ①松本恒雄ほか（編）『日本法への招待 第2版』（有斐閣、2006年）
- ②池田真朗（編著）『判例学習のA to Z』（有斐閣、2010年）
- ③最新版の小型六法 ※この「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 弥永真生『法律学習マニュアル〔第2版補訂版〕』（有斐閣、2007年）、いしかわまりこほか（指宿信ほか監修）『リーガル・リサーチ 第3版』（日本評論社、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

（※以下の授業計画・スケジュール等はあくまで「予定」です。受講人数等により変更する場合があります。）

- 第1回 ガイダンス：自己紹介、グループ・報告順の決定、最終授業時提出レポートについての説明。
- 第2回 教員による報告および質疑応答：法（律）学的な話しを聴くこと、議論することを学ぶ。
- 第3回 リーガル・リサーチその1：法学文献、判例の調べ方などを学ぶ。
- 第4回 リーガル・リサーチその2：判例の検索方法（インターネット・データベースの活用）を学ぶ
（※図書館見学も予定しています。）
- 第5回 議論の仕方を学び、実践する。：グループ討論（議論の素材は、教員が用意します。）。
- 第6回～第11回（予定）グループ報告（教科書①掲載の判決についての報告）および質疑応答。
- 第12回～第14回（予定）※報告予備日。なお、ゲスト（弁護士）を招いての特別授業も予定している。
- 第15回 まとめ

※最終授業終了時に各自、レポートを提出していただきます。内容は「法（法学）」に関する文献書評です。なお、対象文献は、「法（法学）」を題材とするものであれば、学術論文、教科書、小説などジャンルを問いません（ただし、漫画および問題集は不可。）。読書感想文ではなく、あくまで「書評」を書いてください。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告の内容など...70%
- ※レポート（書評）の内容...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、報告の準備以外に、事前準備が非常に多く課せられます。たとえば、次の週に報告するグループの扱う判決について、様々な点から質問することができるよう、種々の文献を読んでくるなどが要求されます。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席・遅刻等に対しては、厳しい態度で臨みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講ゼミ生諸君には、受け身でなく、能動的な学習姿勢を強く望みます。

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法における重要テーマ、社会的に関心のもたれているテーマを題材に、社会に関心をもち、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、社会に対する関心をもち、法学的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

斉藤誠二編『演習ノート 刑法総論〔全訂第3版〕』（法学書院）2003年3月、2000円＋税
刑法判例百選I総論〔第六版〕有斐閣 ￥2200円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～第4回 テーマ1について、報告・質疑応答
第5回～第7回 テーマ2について、報告・質疑応答
第8回～第10回 テーマ3について、報告・質疑応答
第11回～第13回 テーマ4について、報告・質疑応答
第14回～第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を毎回とり、出席点と授業態度、レポートの評価での総合点（出席点30%、授業態度30%、レポートの評価40%）で総合評価する。とくに出席・授業態度が悪い場合、減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：法学を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目ですから。また、本講座を履修すると同時に刑法犯罪論を、本講座を履修した後に刑法犯罪各論、刑事訴訟法を履修すると刑事法を学習上で効果的でしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎演習Iでは、法学一般に関する諸問題を取り扱いますが、演習形式で行うので、受講生各自が、テキストの各分野を担当し、レジメを作成して報告を行い、議論をし、受講生それぞれが、法律に関して何らかの問題意識を持てるようにすることが、本演習の目的です。演習Iでは、法学を基礎的に習得することを主眼とした教科書を使用します。

教科書 /Textbooks

星野 英一（著） 「法学入門」（有斐閣）（2300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田宮裕著「日本の裁判」（第2版）（弘文堂）（2835円、税別）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「法と法学への道」
- 2回 「法と社会生活」
- 3回 「法の理念」「法源」
- 4回 「法の適用と解釈」「実定法の分類」
- 5回 報告
- 6回 報告
- 7回 報告
- 8回 報告
- 9回 報告
- 10回 報告
- 11回 報告
- 12回 報告
- 13回 報告
- 14回 報告
- 15回 報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・60% 質疑応答・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告が出来るように、レジメ等の準備を事前にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習IIでは、法学基礎演習Iにおいて、事件・紛争、法システムに含まれている法的問題を発見する方法、問題を検討のための資料文献等の検索収集方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）、文献資料の分析方法などを学んだことを前提に、次のことをねらいとします。
すなわち、判例が実際に果たしている重要な機能を理解すること（判例とは何か、どのようにして作られ、実務をどのように拘束するかについて学びこと）です。

教科書 /Textbooks

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者自身が選択した判例につき、判例評釈の報告を行い、報告書を作成します。

- 第1回 ゼミの運営方針の説明、報告分担箇所・報告者の決定
- 第2回～第15回 受講者による判例評釈の発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告（書）の内容・ディスカッションへの参加度の総合評価によるゼミへの参加度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 報告者には、以下の点が求められます。
- 1, 報告概要（レジюме）を作成すること。
 - 2, 事前に、参加者全員にコピーを配布すること。
 - 3, 報告に際しては判例の論旨を要約し、そこから論点を皆に提示すること。
- 他方、それ以外の参加者には、最低限、レジюмеを事前に読了していただくことが求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的人権に関する判例の中から、各自興味がある問題について調査・報告・討論をしていただく。そのことによって、憲法判例についての基礎的知識を身につけ、更に、法律学的な思考方法を習得していただきたい。しかし、それよりも、公共的な問題について、大学における演習という公共的空間（ないし擬似公共的空間）において、「調査」「報告」「討論」することを通じて、一人の市民・社会人として将来必要とされる素養を身につけていただきたいと考えている。従って、法律に関する知識を習得するということもさることながら、学生らしい自由で闊達な議論をしていただきたいと切に願っている。自分の意見を遠慮することなく主張し、相手の意見を真摯に聞いたうえで議論するという、ある意味では学生だけに許される経験を体験して欲しい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 報告討論
- 3回 報告討論
- 4回 報告討論
- 5回 報告討論
- 6回 報告討論
- 7回 報告討論
- 8回 報告討論
- 9回 報告討論
- 10回 報告討論
- 11回 報告討論
- 12回 報告討論
- 13回 報告討論
- 14回 報告討論
- 15回 報告討論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告討論 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「空気を変える」ことができる人材になる。

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Iで習得した知識及び技能をもとにして、資料を収集・分析し、問題点を発見し、問題の解決策（自己の見解）をまとめ、ディスカッションを通じて見解を発展させ、またそれを自分の言葉で説得的に提示するという、法学において共通して要求される基礎的能力を習得することを目的とする。
前半では、法解釈の基礎的な技術と判例の読み方や扱い方を学ぶ。後半では、受講者の関心に応じて、いくつかの基本的な法的問題について検討していく予定である。

教科書 /Textbooks

テキストを指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 弥永真生『法律学習マニュアル』3版（有斐閣・2009.09）
- 末川博〔編〕『法学入門』6版（有斐閣・2009.04）
- 伊藤正己・加藤一郎〔編〕『現代法学入門』4版（有斐閣・2005.03）
- 中野次雄ほか〔編著〕『判例とその読み方』3訂版（有斐閣・2009.03）
- ※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（演習の運営方針の説明・報告テーマの聴取・決定など）
- 2回 法解釈の基礎(1)法の解釈適用とは？（事実認定と法の適用、判断構造、法的思考と論理）
- 3回 法解釈の基礎(2)法解釈の方法論（文字解釈とか、論理解釈とか）
- 4回 法解釈の基礎(3)目的論的解釈と法解釈の妥当性
- 5回 判例と裁判例(1)判例の意義、判例と裁判例
- 6回 判例と裁判例(2)判例の発見方法・読解方法
- 7回 判例と裁判例(3)刑事裁判における判例
- 8回 判例と裁判例(4)民事裁判における判例
- 9回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）... 50% 討論及び発言内容... 50%
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。
※「沈黙」を禁ずる。発言をしない者、ディスカッションに参加しない者については、大幅な減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者（または、担当グループ）には、各テーマに関してレポート及びレジュメを作成し、事前に提出すること（報告の1週間前を目途とする）。担当者の報告をもとに、全体でディスカッションを行なって、理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

基礎演習IIは、基礎演習Iと連続して展開することを予定しているため、基礎演習Iも併せて履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現実社会の問題解決にはこれが正解という真理を求めることはできない。最善・最良と考えられる方策を提示することができるだけである。だからこそ、自分の考え方を支える価値観が、そしてそれを他人に説得する能力が重要となる。この演習を通じて、そうした自分自身の思考方法や価値観といった、法を考える基本的視座を築き上げてほしい。

法学基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

法学 法学入門 法学の基礎

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Iから引き続き日本社会を歴史的視点から考察する。更に法制史料についての読解入門

教科書 /Textbooks

- 1 日本社会の歴史 上・中・下 網野善彦著 岩波書店
- 2 史料で読む日本法史 村上・西村編 法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 担当者による発表と討論
- 2回 担当者による発表と討論
- 3回 担当者による発表と討論
- 4回 担当者による発表と討論
- 5回 担当者による発表と討論
- 6回 担当者による発表と討論
- 7回 担当者による発表と討論
- 8回 担当者による発表と討論
- 9回 担当者による発表と討論
- 10回 担当者による発表と討論
- 11回 担当者による発表と討論
- 12回 担当者による発表と討論
- 13回 担当者による発表と討論
- 14回 担当者による発表と討論
- 15回 担当者による発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

Iに同じ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Iに同じ

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、法学基礎演習Iを前提とする。入門テキストとあわせて基本的な判例を素材とし、判決文等を読むことを通じて法的な問題点を把握し、議論を経て問題解決を目指すという訓練をすることをねらいとする。
(なお、授業で取り上げる判例は、公法の分野に関するものである。)

教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要な資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な文献については適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(運営方針の説明)
- 2回～ 4回 判決文の読み方
- 5回～ 15回 各判例の検討
(受講者に対しては、各事件の一部につき報告を求めることがある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 60 % 討議への参加状況(報告を含む) ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配付資料を事前に読んでおくこと。
報告を求められた場合には、レジユメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生と話し合いによりテーマを決定します。そのテーマについて、文献、判例等を調査し、自分の考えをまとめてもらいます。その内容を授業で報告してもらい、他の受講生、教員と討論します。そのことにより、文献調査の実地的訓練、法的思考力の養成を行いたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマ、報告者の決定、
- 2回 以下、順次個別報告
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」をテーマとし、それに関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを本講義の目的とする。この点では、法学基礎演習Iと同様の問題意識のもとで、同様の主題を発展的・継続的に扱う。法学基礎演習Iでは、ロック、ルソーの著作をとりあげたが、法学基礎演習IIでは、さらにルソーの別の著作と、ホブズの主著の前半部をとりあげる。法学基礎演習IとIIを継続して受講することにより、ホブズ、ロック、ルソーの社会契約説の考え方の基本を学ぶことができる。その上で、さらに現代正義論に対する理論的示唆についても、検討したいと考えている。

教科書 /Textbooks

ルソー『人間不平等起源論』（光文社古典新訳文庫、743円）
○ホブズ『リヴァイアサン1』（岩波文庫、800円）
○ホブズ『リヴァイアサン2』（岩波文庫、860円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ルソー『社会契約論』（光文社古典新訳文庫）
○ホブズ『リヴァイアサン3』『リヴァイアサン4』（岩波文庫）
ホブズ『市民論』（京都大学学術出版会）
○ホブズ『哲学者と法学徒との対話』（岩波文庫）
リチャード・タック『トマス・ホブズ』（未来社）
藤原保信、佐藤正志『ホブズ リヴァイアサン』（有斐閣）
○梅田百合香『ホブズ 政治と宗教』（名古屋大学出版会）、『甦るリヴァイアサン』（講談社選書）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 はじめに
第2回 ルソー『人間不平等起源論』第1回（献辞と序について）
（あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながら、テキストを読み進める。以下同様。）
第3回 ルソー『人間不平等起源論』第2回（自然状態についてなど）
第4回 ルソー『人間不平等起源論』第3回（憐れみの情についてなど）
第5回 ルソー『人間不平等起源論』第4回（文明についてなど）
第6回 ルソー『人間不平等起源論』第5回（不平等についてなど）
第7回 ルソー『人間不平等起源論』第6回（原注についてなど）
第8回 ルソー『人間不平等起源論』第7回（ルソーについてのまとめ）
第9回 ホブズ『リヴァイアサン1』（自然状態と自然法について）
第10回 ホブズ『リヴァイアサン2』第1回（コモン・ウェルスについてなど）
第11回 ホブズ『リヴァイアサン2』第2回（臣民についてなど）
第12回 ホブズ『リヴァイアサン2』第3回（市民法についてなど）
第13回 ホブズ『リヴァイアサン2』第4回（コモン・ウェルスの解体についてなど）
第14回 ホブズ『リヴァイアサン2』第5回（ホブズについてのまとめ）
第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を事前に必ず考え、準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然状態 自然法

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の法学基礎演習Iに引き続き、主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法律の学び方・調べ方といった法学の基本的なトレーニングを行います。また、後半には各自が選択したテーマについて報告をしてもらいます。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 判例の分析
- 6回～15回 各自が選択したテーマについて報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

■演習テーマ：社会生活における人間関係と法律 ■

2学期は、1学期に習得した内容の応用として、自分が面白いと思った事柄や疑問に思ったことが世の中でどのように考えられているのかを整理し、資料を調べて判例や学説をまとめ、自分なりの結論を打ち出してもらうという流れを意識して「戦略的な」報告をしていただく。

受講者は、インプットした知識をいかに上手く「アウトプットできるか」、すなわち、他人に自分の見解を理解してもらい、自分の主張の妥当性を説得させるためにどうすればよいか試行錯誤することになる。

教科書 /Textbooks

指定なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に担当者が適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 判例および学説の意義に関する解説。第2回演習時に検討する判例・資料を配布。
- 2回 担当教員による模擬判例報告。第4回以後のスケジュール(報告担当)決定。
- 3回 インターネットや検索ツールを利用した文献収集方法の解説および実践。
- 4回 学生による判例報告①。報告後、全員で議論。
- 5回 学生による判例報告②。報告後、全員で議論。
- 6回 学生による判例報告③。報告後、全員で議論。
- 7回 学生による判例報告④。報告後、全員で議論。
- 8回 学生による判例報告⑤。報告後、全員で議論。
- 9回 学生による判例報告⑥。報告後、全員で議論。
- 10回 学生による判例報告⑦。報告後、全員で議論。
- 11回 学生による判例報告⑧。報告後、全員で議論。
- 12回 学生による判例報告⑨。報告後、全員で議論。
- 13回 学生による判例報告⑩。報告後、全員で議論。レポートに関する解説(1)。
- 14回 学生による判例報告⑪。報告後、全員で議論。レポートに関する解説(2)。
- 15回 学生による判例報告⑫。報告後、全員で議論。1学期の総括(担当教員からの総評)。

成績評価の方法 /Assessment Method

判例報告... 30% 平素の演習への取り組み... 25% レポート(学期末5000字)... 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の準備作業が相当量になることをはじめ演習時の議論において「無言厳禁」を原則とするなど、本演習は受講者に対する要求度が高いことを付言しておく。無断欠席者、遅刻常習者、学期末レポート未提出者に単位は与えない。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、1学期に配当されている「法学基礎演習I」の受講者のみ履修できる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

他力本願で主体性のない学生、提出物の締め切りを守るなど最低限のことができない学生には、本演習は苦しいだけであり、ついてこれないであろう。この点を心に留めて、履修するか否かを決めるように。

法学基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

法律学入門 民事判例の読み方 法解釈方法

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際問題を題材にしたディベートを通じ、受講者に対し、与えられたテーマを論理的に分析・討論していくプロセスを実践させることで、①法情報検索技術の習得、②プレゼンテーション能力の向上、③討論能力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。基礎ゼミの理解に必要な資料は、必要に応じ、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

横田洋三編『国際法入門』(有斐閣・2004)
松井芳郎『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)
他の参考文献については、別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 ディベートとは①：実践ビデオを見る
- 第3回 ディベートとは②：文献から紐解く、ディベート【テーマA】の発表とグループ分け
- 第4回 ディベート【テーマA】に関する基礎調査
- 第5回 プレーンストーミングとチャート作り
- 第6回 立論シートの作成
- 第7回 相手側立論シートに基づく反駁準備，当日の役割・担当決め
- 第8回 Let's Debate! 【A】
- 第9回 総括，ディベート【テーマB】の発表とグループ分け
- 第10回 ディベート【テーマB】に関する基礎調査
- 第11回 プレーンストーミングとチャート作り
- 第12回 立論シートの作成
- 第13回 相手側立論シートに基づく反駁準備，当日の役割・担当決め
- 第14回 Let's Debate! 【B】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。ゼミへの参加は、具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
ゼミへの参加 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
この点を十分に理解し、自覚と責任感を持って、ゼミに参加されることを期待します。

履修上の注意 /Remarks

IとIIをセットで受講してください。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、授業やグループでの作業に深刻な影響を与えることになります。やむを得ず、欠席等する場合には、必ず事前に連絡を入れてください。無断欠席や度重なる遅刻など、参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、受講申請にあたってはこの点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディベートを通じ、Iで培った力をさらに伸ばしていきましょう。

キーワード /Keywords

【国際問題の分析】 【ディベート】

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習テーマは「裁判員制度について考える」です。裁判員制度に関する基礎的知識を深め、自分自身の問題として裁判員になることの意味について考える機会を提供することが本ゼミのねらいです。

教科書 /Textbooks

宮澤節生その他『テキストブック現代司法(第5版)』(日本評論社、2009年)
竹田 昌弘『知る、考える裁判員制度』(岩波ブックレットNo.727、2008年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～4回 法制度改革の意義と基本理念【司法権】【裁判所】【法律家】【刑事裁判】
- 5回～7回 国民の司法参加【陪審制】【参審制】【裁判員制度】
- 8回～11回 裁判員制度の制度設計【刑事訴訟手続】【刑事実務】
- 12回 裁判所・刑事施設のフィールドワーク 【裁判傍聴】
- 13回 裁判所・刑事施設のフィールドワーク 【刑事施設参観】
- 14回 模擬評議のプラクティカム 【評議】
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 口頭報告...30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、報告者を決めて話題提供をしてもらい、各論点につき賛否両論ディベート方式で議論します。刑事裁判の実際については、福岡地方裁判所小倉支部において裁判傍聴を実施します。その他、矯正施設(昨年度は佐世保刑務所、佐世保学園、北九州医療刑務所に行きました。)を見学する予定です。また、DVDを利用して模擬裁判員裁判(模擬評議)の実習を行います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Iの内容を受けて、より高度な法的思考、法学文献の批判的な読み方、判例の読み方（判例評釈の手法）などを修得することがこの演習の目的です。法学基礎演習Iとは異なり、本演習では、報告の内容面やレポートの完成度をより厳しく評価します。また、本格的な（主として民法分野の）判例研究報告を課すなど、その内容は、3・4年次に履修する（であろう）「専門演習」に近いものとなります。法的思考をフル回転させて、活発な議論に受講ゼミ生全員が参加されることを切望します。

教科書 /Textbooks

- ①中野次雄 編『判例とその読み方（三訂版）』（有斐閣、2009年）
- ②中田裕康ほか 編『民法判例百選I 総則・物権[第6版]（別冊ジュリストNo.195）』（有斐閣、2009年）
- ③最新版の小型六法 ※この「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※授業のなかで適宜アナウンスします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(※以下の授業計画・スケジュール等はあくまで予定です。受講人数等により変更する場合があります。)

- 第1回 ガイダンス：報告グループ決め。最終授業時提出レポートについての説明。
- 第2回 最高裁判所の判決の読み方（民法判例を中心に）を学ぶ。各グループの報告順の決定。
- 第3回～第8回（予定）『判例とその読み方』（教科書①）についてのグループ報告（輪読形式）。
- 第9回～第14回（予定）各グループによる（民事）判例研究報告。なお、採り上げる判決は、『民法判例百選I 総則・物権[第6版]』（教科書②）掲載の最高裁判決とします。民法の基本書、体系書、判例評釈、調査官解説などを熟読して、本格的な判例研究報告を行ってください。また、報告に当たっていないグループも、報告グループの採り上げる判決について、質問や意見を発表することができるように事前準備を入念にしておいてください。
- 第15回 まとめ

※最終授業終了時に、レポートを提出していただきます。内容は、以下の（1）、（2）のうち、一つを選択してください。
（1）グループで報告した最高裁判決についての評釈 / （2）教科書①についての文献書評

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告内容など...50%
- ※レポート（判例評釈または文献書評）の内容...50%
- 【注意】正当な理由のない無断遅刻・無断欠席は、ゼミを放棄したものと「推定」します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、報告準備以外の事前学習が「法学基礎演習I」以上に多く課せられます（つまり、より負担は重くなります。）。報告に当たっていないグループも、報告グループが扱う判決について、様々な点から質問・指摘などができるように、種々の判例評釈・文献を熟読の上、ゼミに臨むことが要求されます。

履修上の注意 /Remarks

「法学基礎演習I」の負担量でキツイと思っている受講生諸君にとっては、相当大変な演習になるものと思われます。覚悟を持って臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は「学問」をする場です。遊びに来るところではありません。真剣に学問に取り組んでください。

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法における重要テーマ、社会的に関心のもたれているテーマを題材に、社会に関心をもち、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、社会に対する関心をもち、法学的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

斉藤誠二編『演習ノート 刑法総論〔全訂第3版〕』（法学書院）2003年3月、2000円＋税
刑法判例百選I総論〔第6版〕（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～第4回 テーマ1について、報告・質疑応答
第5回～第7回 テーマ2について、報告・質疑応答
第8回～第10回 テーマ3について、報告・質疑応答
第11回～第13回 テーマ4について、報告・質疑応答
第14回～第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を毎回とり、出席点と授業態度、レポートの評価での総合点（出席点30%、授業態度30%、レポートの評価40%）で総合評価する。とくに出席・授業態度が悪い場合、減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：法学を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目ですから。また、本講座を履修すると同時に刑法犯罪論を、本講座を履修した後に刑法犯罪各論、刑事訴訟法を履修すると刑事法を学習する上で効果的でしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

後期の法学基礎演習は、刑事法関係を取り扱います。演習形式なので、受講生には各自テキストの各分野を担当してもらい、レジメを作成した上での報告に基づき、議論をし、刑事法に関して問題関心を持ってもらうことを、本演習の目的としています。

教科書 /Textbooks

福井厚著「刑事法学入門」第2版（法律文化社、1900円、税別）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三井誠・酒巻匡著「入門刑事手続法」第5版（有斐閣、2900円税別）
大越義久著「刑罰論序説」（有斐閣、1995円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 刑事法の概要
- 2回 報告
- 3回 報告
- 4回 報告
- 5回 報告
- 6回 報告
- 7回 報告
- 8回 報告
- 9回 報告
- 10回 報告
- 11回 報告
- 12回 報告
- 13回 報告
- 14回 報告
- 15回 報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・60% 質疑応答・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に、各自の担当部分を準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I【昼】

担当者名 岡 邦信 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

薩摩国入来院に残された中世文書の英訳を読む

教科書 /Textbooks

THE DOCUMENTS OF IRIKI Translated and Edited by KANNITI ASAKAWA

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告
- 2回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告
- 3回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告
- 4回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告
- 5回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告
- 6回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告
- 7回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告
- 8回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告
- 9回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告
- 10回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告
- 11回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告
- 12回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告
- 13回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告
- 14回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告
- 15回 輪読形式 受講生は担当部分を翻訳し報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 50% 参加の度合 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当者以外も必ず予習しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中世の南九州・入来院氏

外国文献研究I【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ語で書かれた法学の専門文献を読むことで、法学の基礎知識を増やしていくことを目標とする。ドイツ語の文法の知識があることを当然の前提とした上で、毎週毎週、ドイツ語をきれいな日本語に訳すという予習をする必要があるため、覚悟して履修すること。

教科書 /Textbooks

ドイツ語文献は、コピーを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 簡単な説明
- 2回 外国文献購読
- 3回 外国文献購読
- 4回 外国文献購読
- 5回 外国文献購読
- 6回 外国文献購読
- 7回 外国文献購読
- 8回 外国文献購読
- 9回 外国文献購読
- 10回 外国文献購読
- 11回 外国文献購読
- 12回 外国文献購読
- 13回 外国文献購読
- 14回 外国文献購読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語の辞書と文法書を購入の上、ドイツ語の文法の知識を完璧にしておく必要がある。独和辞典等は必ず購入すること。電子辞書は不可。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

ドイツ法

外国文献研究I【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス民法（なかでも、フランス債務法）に関する基礎的知識を、原著を講読することを通じて獲得することがこの授業の主なねらい・テーマである。具体的には、フランス民法（債務法）の体系書（比較的学部生でも読みやすいもの）を輪読していく。わが国の民法との法制度比較を通じて、わが国の民法上の法制度の理解をいっそう深めることがこの授業における大きな目標でもある。

教科書 /Textbooks

※使用しない。輪読する文献についてはコピーを配布する。ただし、仏和辞書については、各自毎回持参すること（色々種類はあるが、特に指定はしない。第二外国語の授業で使っていたものでも充分である）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山口俊夫『フランス債権法』（東京大学出版会、1986年）
- 山口俊夫（編）『フランス法辞典』（東京大学出版会、2002年）
- 山口俊夫『概説フランス法下』（東京大学出版会、2004年）
- レモン・ギリアン、ジャン・ヴァンサン編著（Terme juridique研究会 中村紘一ほか監訳）『フランス法律用語辞典 第2版』（三省堂、2002年）
- 滝沢正『フランス法 第4版』（三省堂、2010年）
- 北村一郎（編）『フランス民法典の200年』（有斐閣、2006年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス：授業の進め方の決定（受講生からもどんどん要望を出してもらいたい。）
※なお、受講生の民法（財産法分野）についての関心、フランス語の習熟度について、アンケートを実施する予定である。その結果を踏まえて、輪読する文献・箇所を授業担当者が選定する。
- 第2回 フランス民法（債務法）の基礎知識についての講義。
※輪読する文献のコピーをこの回で配布する予定である。
- 第3回～第10回（予定）文献輪読。「訳せたところまで検討する。」という方式で行う。
- 第11回（予定）フランス民法判例の基礎知識についての講義。
※以降の授業計画・スケジュールは、受講生の習熟度によって変更される場合がある。
- 第12回～第14回（予定）フランス民法判例（破毀院判決）の邦訳。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、文献・資料邦訳能力の向上度など...90%
- ※期末試験（フランス債務法分野のテキストの邦訳試験）...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

何よりも、フランス法（民法）に関心を持ち、フランス語にも関心を持ち、邦訳作業を進めることが肝要である。フランス語の基本的な文法事項については、各自で学修を進めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

理由の如何を問わず、4回以上欠席した場合には、単位を付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語が全く読めなくても、「読もう」というやる気のある学生の受講は大歓迎です。

キーワード /Keywords

フランス民法 債務法 コーズ理論 契約解除 破毀院判決

外国文献研究II 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツの刑事訴訟法に関するドイツ語の文献を講読して、ドイツ刑事訴訟法について、その内容に触れていきたいと思ひます。既に、ドイツ語を履修していることが必要ですし、ドイツ語に関する比較的高度の読解力が要求されます。

教科書 /Textbooks

授業の最初に指定することにします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の時に、その都度、参考書は挙げたいと思ひます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要の説明と担当部分の決定
- 第2回 担当部分①
- 第3回 担当部分②
- 第4回 担当部分③
- 第5回 担当部分④
- 第6回 担当部分⑤
- 第7回 担当部分⑥
- 第8回 担当部分⑦
- 第9回 担当部分⑧
- 第10回 担当部分⑨
- 第11回 担当部分⑩
- 第12回 担当部分⑪
- 第13回 担当部分⑫
- 第14回 担当部分⑬
- 第15回 担当部分⑭

成績評価の方法 /Assessment Method

ドイツ語の文献についての読解力と内容の理解力・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既にドイツ語を履修していることが必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II 【昼】

担当者名 中山 布紗 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、受講者のフランス語読解力を養うとともに、フランス民法典編纂の迫力ある経緯を体感してもらうことにある。文章を正確に読み取ること、すなわち、精読が最重要目的とされる。1つのパラグラフを読み終えた後、受講者全員が「何についての記述であったか」を議論し、大意を把握することにも努める。フランス民法典編纂の経緯を読み解きながら、日本民法典との関連性はもちろん、当時のフランスにおける社会背景およびフランス革命が法と社会に与えた影響についても考える。

教科書 /Textbooks

Jean-Louis Halpérin, Le Code civil, Dalloz, 1996.
* 担当教員が該当箇所を複写し、配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○碧海純一=伊藤正己=村上淳一編『法学史』(東京大学出版会、1976年)。
『新スタンダード仏辞典』(大修館書店、1989年)。
山口俊夫編『フランス法辞典』(東京大学出版会、2002年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス(受講上の注意)
2回~14回 テキストの講読
15回 総括および講評

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および毎回の訳出状況・受講態度等平常点...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の進行は、訳出の担当箇所を決めずに、受講者全員で一文ずつ順番に音読の上、翻訳することの繰り返しである。
担当教員は受講者による訳出後、発音および文法事項について確認し、内容に関する補足説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

受講者は、毎週フランス語法律文献を日本語に訳してこなければならないため、受講の前提として、第二外国語でフランス語を選択しているなど、フランス語が読めることが要求される。しかし、現時点でフランス語が読めなくても、本演習を契機に辞書をひきながらフランス語を読むとする意欲ある者の履修は、もちろん歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語法律文献講読 フランス民法典編纂 比較法

外国文献研究II 【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国法や外国の法制度を学ぶことを通じて、日本法および日本の法制度とその意義を再確認する。
本演習では、日本の社会保険制度に多大な影響を与えたドイツ社会保険法に関する文献を輪読する予定。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上決定する。
使用する文献はコピーを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講読テーマに応じ、講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

開講時に受講者と相談の上決定する。
大まかには、以下のように考えている。

- 第1回 オリエンテーション ~受講生の問題関心に沿った文献の選定~
- 第2回~第8回 参加者全員によるドイツ語文献講読
- 第9回~第14回 日本の制度との比較検討
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(出席、報告内容、討論への参加度など)やレポート等を総合勘案して評価する。
日常の授業への取り組み...80% レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語の基本的な読解能力があるに越したことはないが、ドイツ語未履修であっても、ドイツ語に触れてみたい、ドイツ語の文章を読んでみたいという意欲溢れる学生の参加を期待している。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでのゼミでは、現代正義論を主題として、ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥワオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥワオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマツセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥワオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』、ハーバーマス『事実性と妥当性(上)』などを読み進めてきた。
 本年は、その延長上で、ハーバーマスの『公共性の構造転換』をテキストとして取り上げることにより、今日の正義論の中心的概念でもある「公共性（公共圏）」概念の再検討を行う。それは同時に、「市民社会」概念の再検討という課題にも関連してくることになる。

教科書 /Textbooks

ハーバーマス『公共性の構造転換(第2版)』（未来社、3800円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ハーバーマス『事実性と妥当性(上)(下)』（未来社）
- フィンリースン『ハーバーマス』(岩波書店)
- キャルホーン編『ハーバマスと公共圏』(未来社)
- 毛利透『民主制の規範理論 - 憲法パトリオティズムは可能か』(勁草書房)
- 中岡成文『ハーバーマス』(講談社)
- 小牧治・村上隆夫『ハーバーマス』(清水書院)
- 川本隆史『ロールズ』(講談社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 現代正義論の展開構図の概観
- 第3回 ハーバーマスの理論の概観
(第4回～第14回は、上記テキストを分担して報告し、議論しながら読み進める。)
- 第4回 1990年新版への序言について
- 第5回 第1章 序論
- 第6回 第2章 公共性の社会的構造
- 第7回 第3章 公共性の政治的機能
- 第8回 第4章 市民的公共性(前半)
- 第9回 第4章 市民的公共性(後半)
- 第10回 第5章 公共性の社会的構造変化(前半)
- 第11回 第5章 公共性の社会的構造変化(後半)
- 第12回 第6章 公共性の政治的機能変化(前半)
- 第13回 第6章 公共性の政治的機能変化(後半)
- 第14回 第7章 公論の概念のために
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共性 市民社会

法哲学専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の演習では、現代正義論に関連する文献を講読したが、2学期の昼間主の演習では、「現代正義論」という主題に特に限定することなく、広い意味で法哲学にかかわるテーマについて、すなわち、「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的主題にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて、自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者が、その都度、参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 自由研究構想発表
- 第3回 自由研究報告①
(ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。以下同様)
- 第4回 自由研究報告②
- 第5回 自由研究報告③
- 第6回 自由研究報告④
- 第7回 自由研究報告⑤
- 第8回 自由研究報告⑥
- 第9回 自由研究報告⑦
- 第10回 自由研究報告⑧
- 第11回 自由研究報告⑨
- 第12回 自由研究報告⑩
- 第13回 自由研究報告⑪
- 第14回 『ゼミ論集』編集の打ち合わせ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2学期の演習では特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は、予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上で、ゼミに臨んで欲しい。

キーワード /Keywords

自由研究報告 ゼミ論集 法 国家 正義 自由 権利 生命 環境

法制史専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中世の一時期神判が多用された背景とその舞台となった中世村落の自治と実態について考察する

教科書 /Textbooks

- 1 日本神判史 清水克行著 中央公論社
- 2 戦国の作法 藤木久志著 平凡社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキスト等の解説
- 2回 担当者による発表と討論
- 3回 担当者による発表と討論
- 4回 担当者による発表と討論
- 5回 担当者による発表と討論
- 6回 担当者による発表と討論
- 7回 担当者による発表と討論
- 8回 担当者による発表と討論
- 9回 担当者による発表と討論
- 10回 担当者による発表と討論
- 11回 担当者による発表と討論
- 12回 担当者による発表と討論
- 13回 担当者による発表と討論
- 14回 担当者による発表と討論
- 15回 担当者による発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 50% 参加の度合い 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者以外の受講者も必ず予習し報告に対する質問事項問題点などを考えておくこと

履修上の注意 /Remarks

専門演習IIも必ず受講すること
高校日本史程度の知識があった方が理解しやすいでしょう

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

歴史に興味を持っている受講生を歓迎します

キーワード /Keywords

湯起請・鉄火取り・村掟・惣村

法制史専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

専門演習Iを受け、中世村落の自治とその実態について考察し村掟に関する史料を輪読する

教科書 /Textbooks

1. 戦国の作法 藤木久志著 平凡社
2. 中世政治社会思想上 岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキストの輪読
- 2回 テキストの輪読
- 3回 テキストの輪読
- 4回 テキストの輪読
- 5回 テキストの輪読
- 6回 テキストの輪読
- 7回 テキストの輪読
- 8回 テキストの輪読
- 9回 テキストの輪読
- 10回 テキストの輪読
- 11回 テキストの輪読
- 12回 テキストの輪読
- 13回 テキストの輪読
- 14回 テキストの輪読
- 15回 テキストの輪読

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 50% 参加の程度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門演習Iに同じ

履修上の注意 /Remarks

専門演習Iを受講していること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習I【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習Iにおいては、最新の人権判例について、参加者が条文・学説・判例を整理して、報告・討論することを通じて、「人権論」に関する理解を深めることを目的とする。
しかし、それよりも、公共的な問題について、大学における演習という公共的空間（ないし擬似公共的空間）において、「調査」「報告」「討論」することを通じて、一人の市民・社会人として将来必要とされる素養を身につけていただきたいと考えている。従って、専門的知識を習得するという事もさることながら、学生らしい自由で闊達な議論をしていただきたいと切に願っている。自分の意見を遠慮することなく主張し、相手の意見を真摯に聞いたうえで議論するという、ある意味では学生だけに許される経験を体験して欲しい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)
- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 判例研究
- 3回 判例研究
- 4回 判例研究
- 5回 判例研究
- 6回 判例研究
- 7回 判例研究
- 8回 判例研究
- 9回 判例研究
- 10回 判例研究
- 11回 判例研究
- 12回 判例研究
- 13回 判例研究
- 14回 判例研究
- 15回 判例研究

成績評価の方法 /Assessment Method

判例研究 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自担当の報告準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習II 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習IIにおいては、最新の人権判例・人権理論について、あるいは、現代における社会問題について、参加者が報告・討論することを通じて、現代日本社会について憲法学的な視点から理解・分析する能力を養うことを目的とする。そのために、各自で設定したテーマについて報告して頂きたい。

しかし、それよりも、公共的な問題について、大学における演習という公共的空間（ないし擬似公共的空間）において、「調査」「報告」「討論」することを通じて、一人の市民・社会人として将来必要とされる素養を身につけていただきたいと考えている。従って、専門的知識を習得するという事もあることながら、学生らしい自由で闊達な議論をしていただきたいと切に願っている。自分の意見を遠慮することなく主張し、相手の意見を真摯に聞いたうえで議論するという、ある意味では学生だけに許される経験を体験して欲しい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究報告
- 3回 研究報告
- 4回 研究報告
- 5回 研究報告
- 6回 研究報告
- 7回 研究報告
- 8回 研究報告
- 9回 研究報告
- 10回 研究報告
- 11回 研究報告
- 12回 研究報告
- 13回 研究報告
- 14回 研究報告
- 15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自担当の報告準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政法の判例を素材として、判例の読み方や扱い方を学び、行政法についての理解を深めることをねらいとする。行政法の分野全体から比較的新しい判例を選び、順次検討する予定である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。判例その他の資料は複写して配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同上『行政判例百選II(第五版)』(同上)
- 『平成〇〇年度重要判例解説』(各年版、有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(運営方針の説明)
- 2回 取り上げる判例の説明
- 3回～15回 判例を読む
(判例を順次読み進めながら、討議を行う。判例の一部について、参加者に報告を求めることがある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 60% 討議への参加状況(報告を含む。) ... 40%
(出席が総授業回数の3分の2に満たない者は不合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配付資料を事前に読んでおくこと。
報告を求められた事柄についてはレジユメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政法に関する判例を精読し、具体的事例を通じて行政法に関する理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。取り上げる判例その他の資料は複写して配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同『行政判例百選II(第五版)』(同)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(運営方針の説明)
- 2回 取り上げる判例の説明
- 3回～15回 判例の報告と検討
(各参加者が各自報告する判例について順次討議することにより進める。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 60% 討議への参加状況(報告を含む。) ... 40%
(出席が総授業回数の3分の2に満たない者は不合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各参加者は、それぞれ取り上げる判例について調べた上でレジュメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習I【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第6版]』(有斐閣)2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山中敬一『刑法概説I(総論)』(成文堂)2008年10月、2500円+税
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税
立石二六編著『刑法総論30講』(成文堂)2007年4月、2800円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態、テーマの決定
第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、レポートの評価による総合評価(授業態度50%、レポート評価50%)。欠席および授業程度の悪い場合は減点とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑法犯罪論」で学んだことを復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

とのかく、楽しく議論し合える明るい雰囲気になりたい。積極的な発言を期待しています。

キーワード /Keywords

刑法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「刑法理論における基本問題の探求」
刑法総論・刑法各論における基本的な問題（テーマ）を取り上げて、判例及び学説を整理しつつ、具体的・合理的かつ体系的整合性をもった解決策を考察する。この演習では、体系的に展開される講義と連携して、刑法理論における基礎的事項及び概念の体系的な理解を深めることを、目的のひとつとしている。また、資料を収集・分析し、問題の解決策（自己の見解）をまとめ、ディスカッションを通じて見解を発展させ、またそれを自分の言葉で説得的に提示するという、法律学の基礎的な能力を習得することを、もうひとつの目的としている。

教科書 /Textbooks

テキストを指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西田典之 / 山口厚〔編〕『刑法の争点(新・法律学の争点シリーズ)』(有斐閣・2007.10)
- 阿部純二ほか〔編〕『刑法基本講座 1～6巻』(法学書院・1992.10～1994.10)
- ※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回 担当テーマに関する問題の所在及び参考文献の検討
- 3回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポート・レジュメを含む)…50% 討論及び発言内容…50%
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当テーマについて研究レポート及びレジュメを作成する。報告担当者は、レポートに基づいて個別報告を行い、受講者全員でディスカッションを行う。受講者の積極的な発言を期待する。なお、開講時までに報告テーマをいくつか考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

少なくとも「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I・II」を履修していること(または履修中であること)(上掲「授業の概要」を参照。)。また、専門演習Iは、専門演習IIと連続して展開することを予定しているため、専門演習IIも併せて履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習II 【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第6版]』(有斐閣)2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山中敬一著『刑法概説I(総論)』(成文堂)2008年10月、2500円+税
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税
立石二六編著『刑法総論30講』2007年4月、2800円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態、テーマの決定
第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、レポートの評価による総合評価(授業態度50%、レポート評価50%)。欠席および受講態度の悪さは減点とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑法犯罪論」で学んだことを復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

とにかく、楽しく議論し合える雰囲気になりたい。積極的な発言を期待しています。

キーワード /Keywords

刑法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「刑法理論における重要問題の探求」
刑法総論・刑法各論の領域から、受講者各人の関心に応じたテーマを選定し、判例及び学説を整理しつつ、具体的・合理的かつ体系的整合性をもった解決策を考察する。この演習では、問題点に対して一層緻密な検討を加えて理解を深めることを目的としている。

教科書 /Textbooks

テキストを指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西田典之 / 山口厚 (編) 『刑法の争点 (新・法律学の争点シリーズ)』 (有斐閣・2007.10)
 - 阿部純二ほか (編) 『刑法基本講座 1～6巻』 (法学書院・1992.10～1994.10)
- ※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回 担当テーマに関する問題の所在及び参考文献の検討
- 3回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 (レポート・レジュメを含む) ... 50% 討論及び発言内容... 50%
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当テーマについて研究レポート及びレジュメを作成する。報告担当者は、レポートに基づいて個別報告を行い、受講者全員でディスカッションを行う。受講者の積極的な発言を期待する。なお、開講時までに報告テーマをいくつか考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

少なくとも「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I・II」を履修していること (または履修中であること) (上掲「授業の概要」を参照。)。また、専門演習IIは、専門演習Iと連続して展開することを予定しているため、専門演習Iも併せて履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 刑法各論

刑事訴訟法専門演習I【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法の判例を取り扱います。具体的事件に関する判例を検討することを通じて、生きた刑事訴訟法を把握することを目的にします。

教科書 /Textbooks

- ①「刑事訴訟法判例百選(第8版または第9版)」(有斐閣、2520円)
- ②庭山・岡部編「刑事訴訟法(第3版)」(青林書院、3800円税別)
- ③松尾「刑事訴訟法(上巻)」新版(弘文堂、2800円税別)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

刑事訴訟法総論・各論のシラバスに挙げている参考文献

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 判例報告
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

判例報告・・・60%、質疑応答等・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に判例等を読み、質問等の準備をしていること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法の判例を取り扱います。演習Iを履修しているの、更に、判例の報告が進歩することを目的にします。

教科書 /Textbooks

- ① 「刑事訴訟法判例百選（第8版または第9版）」（有斐閣、2520円）
- ② 庭山・岡部編「刑事訴訟法（第3版）」（青林書院、3800円税別）
- ③ 松尾「刑事訴訟法（上巻）」新版（弘文堂、2800円税別）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

刑事訴訟法総論・各論のシラバスに挙げている参考文献。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 判例報告
- 2回 判例報告
- 3回 判例報告
- 4回 判例報告
- 5回 判例報告
- 6回 判例報告
- 7回 判例報告
- 8回 判例報告
- 9回 判例報告
- 10回 判例報告
- 11回 判例報告
- 12回 判例報告
- 13回 判例報告
- 14回 判例報告
- 15回 判例報告

成績評価の方法 /Assessment Method

判例報告・・・60%、 質疑応答等・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に予習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今年度のテーマは、「刑事学（犯罪学・刑事司法政策）における理論と調査研究方法を学ぶ」です。これから本格的に刑事学（犯罪学および刑事司法政策）の研究を志す学生に対して、刑事学の各種理論および調査研究方法の基礎的知識の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

Siegel, L. J. . Criminology. 11th ed. Belmont, CA: Wadsworth/Thomson (March 2011出版予定)
E. バビー著 (渡辺他訳) 2003. 『社会調査法I& 2』 培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 矢島正見・丸秀康・山本功編『よくわかる犯罪社会学入門』学陽書房（2004年）
- 浜井浩一編『犯罪統計入門』日本評論社（2006年）
- 瀬川晃著『犯罪学』成文堂(1998年)
- 藤本哲也著『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）
- ヴォールド&バーナード{平野龍一・岩井弘融監訳}『犯罪学』東京大学出版会（1990年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Siegel Ch.1
- 3回～7回 社会調査法の基礎
- 8回～10回 Siegel Ch2
- 11回～12回 社会調査の準備
- 13回 Siegel Ch3
- 14回 社会調査のデザイン
- 15回 Siegel Ch4

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ開始前までに上記参考文献掲載の入門書の類は読み込んでおくこと。「専門演習I」と「専門演習II」は、一体的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。専門科目の「犯罪学」「刑事司法政策I&II」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

本ゼミでは毎年ゼミ活動の一環として福岡地方裁判所小倉支部での裁判傍聴および近辺の矯正施設への参観を実施しています。昨年度は「佐世保刑務所」「佐世保学園」「北九州医療刑務所」「北九州自立更生促進センター」の参観を実施しました。本年度もゼミ学生と相談の上、実施する予定です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本専門演習IIのテーマは、「現代社会における犯罪と刑罰を考える」です。専門演習Iで学んだ理論および調査研究方法を踏まえて、刑事学（犯罪学および刑事司法政策）の研究分野の中から、各ゼミ生が興味・関心をもっているテーマを自由に選択してもらい、それについて必要な文献調査、研究報告、論文作成をすることが目的です。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 矢島正見・丸秀康・山本功編『よくわかる犯罪社会学入門』学陽書房（2004年）
- 守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策』成文堂（2008年）
- 浜井浩一編『犯罪統計入門』日本評論社（2006年）
- 瀬川晃著『犯罪学』成文堂(1998年)
- 藤本哲也著『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）
- ヴォールド&バーナード{平野龍一・岩井弘融監訳}『犯罪学』東京大学出版会（1990年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テーマ選択
- 3回～7回 文献調査
- 8回～10回 調査設計
- 11回～12回 先行研究の検討
- 13回 フィールド調査（刑事施設参観）
- 14回 中間報告
- 15回 レポート（プロスペクテス）提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「専門演習I」と「専門演習II」は、一体的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。専門科目の「犯罪学」「刑事司法政策I&II」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

『専門演習I』の項目を参照してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、いわゆる「国際問題」に関連する「事例」や「判例（国内判例も含む）」等の研究を通じ、国際社会を規律する主要な法体系としての「国際法」が、規範の面で、またそれを担保するシステムの面で、どのような現状に置かれているのか、また、国際政治や国際経済などどのようにかかわってきているのか、その理解をより一層深めていくことを目的とします。また社会人基礎力として必要とされる諸能力の涵養を目指します。

教科書 /Textbooks

松井芳郎『ベーシック条約集』（東信堂・最新版）
必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，係決め
- 第2回 リサーチの仕方
- 第3回 特定課題テーマの提示と調査
- 第4回 フリー・ディスカッション
- 第5回 学生が選定するグループ課題①
- 第6回 グループ準備（テーマ調査）
- 第7回 グループ準備（主張等の整理）
- 第8回 グループ準備（プレゼン資料の作成）
- 第9回 発表等
- 第10回 学生が選定するグループ課題②
- 第11回 グループ準備（テーマ調査）
- 第12回 グループ準備（主張等の整理）
- 第13回 グループ準備（プレゼン資料の作成）
- 第14回 発表等
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実際の指導は選抜時より始めます。予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

国際法専門演習IIとセットで受講してください。
4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の夢の実現に向かってがんばってください。

キーワード /Keywords

【事例 / 判例研究を通じた国際法の基本的運用力の涵養】 【社会人基礎力の涵養】

国際法専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、学生が社会に出る / 出ようとするときに、国際法ゼミで勉強してきたことを少しでも活かすことができるようにするためのプログラムを用意します。つまりなぜこの仕事・進路を選ぼうとしているのですかとの問いに対し、大学の国際法ゼミで勉強してきたなかで○○の点に興味を持ったからですと明確に答えられるようにするためのプログラムです。ここまでやりましたと胸を張って言えるものを、頑張っ一緒に作って行きましょう。

教科書 /Textbooks

必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，役職決め
- 第2回 国際法ゼミとの関連でのキャリア研究：グループ分け
 - Group A: 自治体と国際法
 - Group B: 企業と国際法
 - Group C: 国際機関と国際法 など
- 第3回 グループによる予備調査①
- 第4回 グループによる予備調査②
- 第5回 精読文献等の選定・提出（各グループ）
- 第6回 文献精読①「自治体と国際法G」（全員）
- 第7回 同②「企業と国際法G」（全員）
- 第8回 同③「国際機関と国際法G」（全員）
- 第9回 グループ作業（プレゼン準備）
- 第10回 グループ作業（プレゼン準備）
- 第11回 グループ作業（プレゼン準備）
- 第12回 Group Aの発表
- 第13回 Group Bの発表
- 第14回 Group Cの発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

国際法専門演習Iとセットで受講してください。4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

夢の実現に向かってがんばってください。

キーワード /Keywords

【キャリアと国際法】

民法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：「契約法に関する重要判例の検討～じっくり考える民法解釈～」。本演習では、民法の財産法分野、なかでも、契約法分野の重要判例の検討を通じて、契約法理論の理解を深めることを目的とする。また、受講生同士の議論や教員との議論を通じて、自身の見解（法的判断）を、他者に対して分かりやすく、説得力あるかたちで正確に発信する力を養うことも本演習の目的である。議論への積極的な参加が本演習における絶対的義務である。

教科書 /Textbooks

- ①中田裕康ほか編『民法判例百選II 債権[第6版]（別冊ジュリストNo.196）』（有斐閣、2009年）
- ②中野次雄編『判例とその読み方（三訂版）』（有斐閣、2009年）
- ③最新版の六法（判例つき六法が望ましい）
- ④民法（契約法または債権各論）の基本書・体系書（受講生が普段使用しているもの）
- ⑤民事訴訟法の基本書・体系書（受講生が普段使用しているもの） ※左記「5点セット」を持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(※以下の授業計画・スケジュール等は、ゼミ受講人数等により左右されるので、あくまで予定である。)
 ※初回授業時に、代表的最高裁判決を紹介する。その中から報告判決を選択してもらう。報告形式は、受講人数が5名以下の場合には一人で報告。6名以上の場合は、受講生を3ペアに分けて報告をしてもらう。いずれにせよ、報告者（報告ペア）は当然のこと、報告に当たっていない受講生も、積極的に議論に参加することが要求される。報告者（報告ペア）は、採り上げた判決について、(1)事実関係、(2)訴訟経過、(3)最高裁判所の判決理由、(4)争点の所在・従来の学説や判例（理論）と報告判決との関係、(5)調査官解説や判例評釈で示されている見解、(6)報告判決についての報告者（報告ペア）の分析結果（判決理由中のどの部分が「判例（結論命題）」か。また、採り上げた判例の射程範囲なども検討してもらう。）を明示しなければならない。他方、報告者（報告ペア）以外の受講生は、上記(1)～(6)について、質問・指摘などを報告者（報告ペア）に対して浴びせなければならない。その他、ゼミの詳細な運営方針については初回時に説明・協議する。

※最終授業終了時に、報告した判決についての「判例評釈」をレポートとして提出してもらう。

- ※第1回 ガイダンス
- 第2回 報告順・報告する判決の決定。
- 第3回～第14回 報告・議論。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告の内容など...70%
- ※レポート（判例評釈）の内容...30%
- 【注意】レポート（判例評釈）未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書②をゼミ開講後、できる限り早い段階で通読しておくこと。報告の準備などを入念に行うのは当然のことである。また、民事訴訟法の基本書もできる限り早い段階で通読しておいてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

民法科目は当然のこと、民事訴訟法総論・各論も受講しておくこと（または同時に受講すること）。ゼミにおける議論に大いに役立ち、議論の内容の厚みが増すものと思われる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2011年度も福本ゼミは、アットホームな雰囲気を守りつつも厳しいゼミでありたいと思っています。ゼミはゼミ生が主役です。ゼミ生の議論の盛り上げりに期待しています。

民法専門演習I【昼】

キーワード /Keywords

民法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、判例の検討を通じて、社会において多発する民事紛争の実態を知り、それに対し法律（民法その他特別法）がどのような解決策を提供できるかについて考える。

教科書 /Textbooks

指定なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に担当者が適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入①本演習の概要及び報告にあたっての留意点の解説。次週検討する判例の配布。
- 2回 導入②演習担当教員による判例報告。次回以降の報告担当者及び検討判例の決定
- 3回～15回 学生による判例研究報告および議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート（最低本文1万字）...60% 判例研究（報告）...30% 平常点...10%
* レポート課題未提出者、無断欠席者には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回1人1件、各自の興味関心から選定した判例を研究し、事前に作成したレジюмеに沿って報告をしてもらう。報告時間は1人あたり40分以内である。報告は次週に持ち越さない。報告後の時間は、受講者全員でその日の検討判決要旨（裁判所の判断）の妥当性について議論するとともに、報告者のレジюмеやプレゼンテーションに対する評価（良かった点・悪かった点）につき意見を出し合う。

履修上の注意 /Remarks

本演習は3年前より、9月頃に九州大学・愛媛大学・宮崎大学の民法ゼミと共同主催する合同合宿に履修学生を送り込んでいる。合宿において学生は、司法試験レベルの事例問題（論述問題）の答案をゼミごとに検討し、議論する。ゼミ履修者は全員参加義務が課される（例年2泊3日を予定。合宿費用は2万から3万円ほどかかる）。
2学期の「民法専門演習II」（中山担当）とセットで履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ、議論において「無言厳禁」を原則とするなど、受講者に対する要求度が非常に高いことを付言しておく。
民法の基本原則同様、本演習も「私的自治」である。主體的・意欲的に学んで欲しい。

キーワード /Keywords

民事判例の精読 法解釈方法論

民法専門演習II 【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：「契約法文献研究～そしてゼミ論文へ～」。本演習の大きな目的・目標は、二つである。一つは、輪読形式での報告を通じて、ゼミ生みんなで「民法学（本演習では契約法学）の本格的な研究書・体系書を一冊読み抜くこと」である。もう一つは、1学期の「民法専門演習I」で培った契約法に関する重要判例・学説についての知見等を駆使して、受講生諸君の本演習における研究成果を「ゼミ論文」というかたちで結実させることである。また、他者（教員を含む。）との議論を重ねることで、自身の見解（法的判断）を他者に対して分かりやすく、説得的に伝える力を一層向上させることも本演習の目的といえよう。

教科書 /Textbooks

- ①森田 修『契約責任の法学的構造』（有斐閣、2006年）
 - ②最新版の六法（判例つき六法が望ましい）
 - ③民法（契約法）の基本書・体系書（受講生が普段使用しているものでよい。）
- ※上記「3点セット」を毎回必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(※以下の授業計画・スケジュール等は、ゼミ受講人数等により左右されるので、あくまで予定である。)
 ※初回授業時に、受講生からゼミ論文の構想を発表してもらう。なお、報告形式（研究書の輪読）は、1学期「民法専門演習I」と同様、受講人数が5名以下の場合原則一人。6名以上の場合、受講生を3ペアに分けて報告をしてもらう。いずれにせよ、報告者（報告ペア）は、報告担当箇所の要約・関連文献・裁判例の検討、そして、私見をそれぞれ明示して報告しなければならない。報告者（報告ペア）以外の受講生は、質問・意見などを遠慮なく報告者（報告ペア）に対して浴びせなければならない。積極的な議論がゼミの生命線である。その他、ゼミの詳細な運営方針については、初回時に説明・協議する。「じっくり腰を据えて」契約法の基礎理論を研究しましょう！

※最終授業終了時に、「ゼミ論文（10,000字以上）」を提出してもらう。

- ※第1回 ガイダンス
- 第2回 教科書①の輪読箇所・報告順等の決定
- 第3回～第14回（予定）各受講生（またはペア）による報告・議論（※この間、ゼミ論文の添削・指導も行うので、オフィス・アワーの時間なども積極的に活用すること。）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告内容など...70%
 - ※「ゼミ論文」の内容...30%
- 【注意】「ゼミ論文」未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書①をゼミ開講後、できる限り早く読み進めておくこと。報告の準備を入念に行うこと等は当然である。また、ゼミ論文については、添付ファイルで原稿（途中経過）をゼミの前々日までに教員に毎週送付すること。受け身の姿勢では当ゼミにいる意味は全くない。

履修上の注意 /Remarks

文献輪読とゼミ論文との両立は相当大変である。覚悟を持った者のみ受講を認める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2011年度も福本ゼミは、アットホームな雰囲気を守りつつも厳しいゼミでありたいと思っています。ゼミの主役はゼミ生です。キラリと光る内容のゼミ論文、報告を期待しています。

キーワード /Keywords

民法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、判例の検討を通じて、社会において多発する民事紛争の実態を知り、それに対し法律（民法その他特別法）がどのような解決策を提供できるかについて考える。

教科書 /Textbooks

指定なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に担当者が適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 応用①：1学期レポートの総評（担当教官より受講者へ）。報告とレポートの関係についての解説。次週検討する判例配布。
- 2回 応用②：演習担当教員による判例報告。次回以降の報告担当者及び検討判例の決定。
- 3回～15回：学生による判例研究報告および議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート（最低本文1万字）... 60% 判例研究（報告）... 30% 平常点... 10%
* レポート課題未提出者、無断欠席者には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、1人1件、各自の興味関心から選定した判例を研究し、事前に作成したレジュメに沿って報告をしてもらう。報告時間は1人あたり40分以内である。報告は次週に持ち越さない。報告後の時間は、受講者全員でその日の検討判決要旨（裁判所の判断）の妥当性について議論するとともに、報告者のレジュメやプレゼンテーションに対する評価（良かった点・悪かった点）につき意見を出し合う。

履修上の注意 /Remarks

本演習は3年前より、9月頃に九州大学・愛媛大学・宮崎大学の民法ゼミと共同主催する合同合宿に履修学生を送り込んでいる。合宿において学生は、司法試験レベルの事例問題（論述問題）の答えをゼミごとに検討し、議論する。ゼミ履修者は全員参加義務が課される（例年2泊3日を予定。合宿費用は2万から3万円ほどかかる）。
1学期の「民法専門演習I」（中山担当）とセットで履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、毎回の準備作業が相当量になることをはじめ、議論において「無言厳禁」を原則とするなど、受講者に対する要求度が非常に高いことを付言しておく。
民法の基本原則同様、本演習も「私的自治」である。主体的・意欲的に学んで欲しい。

キーワード /Keywords

民事判例の精読 法解釈方法論

民事訴訟法専門演習I【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する基本的な論点について学習し、知識を習得することを目的とします。毎回、報告者から報告を受け、全員で討議します。

教科書 /Textbooks

最初の講義のときに紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義のときに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進行方法についての説明、報告者の決定
- 2回 以下、順次、個別報告
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する重要な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。毎回、報告者から報告を受け、全員で討議する。

教科書 /Textbooks

最初の授業のときに紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業の時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 報告者の決定
- 2回 以下、順次、個別報告
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業「金融ファイナンス」に関する法的問題を取り扱った文献や判例の分析・検討を目的とします。
参加者がみずから選択し、報告を行った文献あるいは判例について期末にレポートを作成することが最終目標となります。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献は各自のテーマ毎に適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献は各自のテーマ毎に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミ運営方針の説明、判例研究・事例研究の意義を理解する。
 第2回 各自が選択を希望する判例・事例等について、選択にあたっての問題意識を確認したり、明確化したりする。
 第3回 選択しようとしている判例に関連する裁判例や判例解説がどの程度あるのかを調べる。
 研究対象にしやすい判例かどうかを見極める。
 担当判例の決定、報告要旨(レジюме)作成の方法についての説明、報告順番の決定。
 第4回～第15回 各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論
 (1)判例研究の場合：
 担当者が、事案の概要、判決要旨、争点に関する学説・判例の状況などを一通り報告します。
 その後、担当者は、当該判例の位置づけ(射程距離)などについて、問題提起を行います。
 それを受けて参加者全員で議論します。
 (2)文献紹介の場合：
 担当者が、当該文献の概要について一通り報告します。
 その後、担当者は、当該文献の論旨展開のあり方についての評価・批評などを行います。
 それを受けて参加者全員で議論します。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート作成を含むゼミへの参加度... 100%
(無断欠席はゼミ放棄とみなします)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者は、報告発表の要旨=レジюмеを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、2号館4階2-414研究室前のテーブルの上に提出しておいてください。
 その他の参加者については、上記のコピーを受け取っておき、事前に目を通して、問題点・争点等を把握した上でゼミに参加することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

*原則として、企業法専門演習IIとセットで受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業「金融」に関わる法律問題を対象とする判例・論文等の分析・検討。
本演習は、受講者がゼミ形式の授業をすでに経験し、法律文献の読み方についての基礎知識があることを前提に実施されるものです。参加者が選択し、報告を行った文献・判例について期末にレポートを作成することが最終目標となります。

教科書 /Textbooks

テキストは、特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自が選択した判例・文献に応じて、その都度、参考文献を指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミ運営方針の説明、判例研究・事例研究の意義を理解する。
第2回 各自が選択を希望する判例・事例等について、選択にあたっての問題意識を確認したり、明確化したりする。
第3回 選択しようとしている判例に関連する裁判例や判例解説がどの程度あるのかを調べる。
研究対象にしやすい判例かどうかを見極める。
担当判例の決定、報告要旨(レジュメ)作成の方法についての説明、報告順番の決定。
第4回～第15回 各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論
- (1)判例研究の場合：
担当者が、事案の概要、判決要旨、争点に関する学説・判例の状況などを一通り報告します。
その後、担当者は、当該判例の位置づけ(射程距離)などについて、問題提起を行います。
それを受けて参加者全員で議論します。
- (2)文献紹介の場合：
担当者が、当該文献の概要について一通り報告します。
その後、担当者は、当該文献の論旨展開のあり方についての評価・批評などを行います。
それを受けて参加者全員で議論します。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告内容・議論内容・レポートを総合する、ゼミへの参加度...100%
(無断欠席はゼミ放棄とみなされる場合があります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者は、報告発表の要旨=レジュメを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、2号館4階2-414研究室前の廊下にあるテーブルの上に提出しておいてください。
その他の参加者については、上記のコピーを受け取っておき、事前に目を通して、問題点・争点等を把握した上で、ゼミに参加することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

*原則として、「企業法専門演習I」とセットで受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習II【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業取引に関する法的問題について、定期的に報告を行い、学期末にレポートを作成すること（企業法に関する「演習」を既に履修済みであることが前提になります）。
なお、必要に応じて、関連文献の輪読なども実施する予定です。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、受講者の選択テーマに応じて、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この研究指導は、受講者各自に対して個別に行われる部分と、受講者全員に対して共通課題の設定や（全体 / 合同）報告会（例えば他の「企業法」関連の「演習」科目受講者との合同など）への参加という形で集団的に実施される部分とから成る。

- 第1回目の指導日に今後の研究指導のスケジュールや内容について受講者と協議します。
- 第2回～第15回・・・報告と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告内容・レポート作成を含むゼミへの参加度...100%
（無断欠席はゼミ放棄とみなします）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究指導時に参照する文献については事前に目を通して、問題点・争点等を把握した上で、さらに別の論点の提示などの準備をしてゼミに参加することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

企業法に関する「演習」を既に履修済みであることが前提になります。
* 上記担当者による「個別研究指導Ⅱ」とセットで受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法学に関する基礎的な知識・理解を前提として、更に、高度な、憲法理論・人権理論の修得をしていただくことを目的とする。このような目的から、履修者には「個別研究指導II」と併せて受講した上でゼミ論文（20000字程度）を執筆することを単位取得の条件とする（1学期は、中間論文をとりまとめることまでを目的とする）。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究指導
- 3回 研究指導
- 4回 研究指導
- 5回 研究指導
- 6回 研究指導
- 7回 研究指導
- 8回 研究指導
- 9回 研究指導
- 10回 研究指導
- 11回 研究指導
- 12回 研究指導
- 13回 研究指導
- 14回 研究指導
- 15回 研究指導

成績評価の方法 /Assessment Method

中間論文 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文執筆に向けての研究

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法学の講義・演習において習得した知識及び理解を基礎にして、受講者各人が関心をもっている刑法に関する研究テーマを、専門的、具体的かつ緻密に研究し、論文にまとめることを目的とする。単なる知識の取得に留まることがないように、自己の考察を説得的な文章で表現することに重点をおく。これにより、法的思考力及び論理的説得力を習得する。
受講者の目的に応じて、個別テーマごとに数通の小論文を作成するか、単一のテーマについての論文（ゼミ論文）を執筆する。

教科書 /Textbooks

テキストを指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス、研究テーマの設定など
2回～15回 報告及びディスカッション
※原則として、週1回程度、担当者と受講者の都合の良い日時に実施する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）... 50% 討論及び発言内容... 50%
※演習への参加状況（報告内容、討論及び発言内容）、レポート及び提出された論文（ゼミ論文）などにより、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者各人が選定した研究テーマについて、レポートを作成する。提出されたレポートを基にディスカッションを行い、検討を深める。ディスカッションと再検討の成果を、次回の個別研究（レポート）にフィードバックすることが求められる。

履修上の注意 /Remarks

個別研究指導IIを併せて履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文（ゼミ論文）を執筆する前提となる研究である。着実に研究を進める意欲と熱意のある者の履修を期待する。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 刑法各論

個別研究指導I【昼】

担当者名 岡 邦信 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本法制史に関する論文指導

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

論文テーマに応じて適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論文指導
- 2回 指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう
- 3回 指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう
- 4回 指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう
- 5回 指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう
- 6回 指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう
- 7回 指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう
- 8回 指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう
- 9回 指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう
- 10回 指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう
- 11回 指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう
- 12回 指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう
- 13回 指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう
- 14回 指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう
- 15回 指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう

成績評価の方法 /Assessment Method

論文のための中間報告(レポート) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政法の判例を素材として判例研究を行い、行政法全体についての理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政法判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同 『行政法判例百選II(第五版)』(同)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 判例の選択
- 3回～15回 レポートの作成
(複数の判例についてレポートを作成し提出すること。)

テーマの設定および参考文献については各参加者と協議する。
進捗状況について報告を求めるとともに適宜指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出されたレポートの評価 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポートの作成について継続的に準備すること。

履修上の注意 /Remarks

行政法専門演習Iおよび行政法専門演習IIを履修済みであることが「個別研究指導」履修の要件であることに留意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法専門演習I・IIで学んだことを前提に、民事訴訟法に関する論文を執筆する。
講義，演習に続く民事訴訟法学習の集大成である。
希望者と、個別に面談し、研究指導を行う。個別研究指導IIと併せて、最終的には、分量20000字程度の卒業論文を執筆してもらう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 すべて、個別指導
- 2回
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

論文 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでのゼミでは、現代正義論を主題として、ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥワオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥワオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマツセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥワオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』、ハーバーマス『事実性と妥当性(上)』などを読み進めてきた。
 本年は、その延長上で、ハーバーマスの『公共性の構造転換』をテキストとして取り上げることにより、今日正義論の中心的概念でもある「公共性（公共圏）」概念の再検討を行う。それは同時に、「市民社会」概念の再検討という課題にも関連してくることになる。

教科書 /Textbooks

ハーバーマス『公共性の構造転換(第2版)』（未来社、3800円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ハーバーマス『事実性と妥当性(上)(下)』（未来社）
- フィンリースン『ハーバーマス』(岩波書店)
- キャルホーン編『ハーバーマスと公共圏』(未来社)
- 毛利透『民主制の規範理論 - 憲法パトリオティズムは可能か』(勁草書房)
- 中岡成文『ハーバーマス』(講談社)
- 小牧治・村上隆夫『ハーバーマス』(清水書院)
- 川本隆史『ロールズ』(講談社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 現代正義論の展開構図の概観
- 第3回 ハーバーマスの理論の概観
(第4回～第14回は、上記テキストを分担して報告し、議論しながら読み進める。)
- 第4回 1990年新版への序言について
- 第5回 第1章 序論
- 第6回 第2章 公共性の社会的構造
- 第7回 第3章 公共性の政治的機能
- 第8回 第4章 市民的公共性(前半)
- 第9回 第4章 市民的公共性(後半)
- 第10回 第5章 公共性の社会的構造変化(前半)
- 第11回 第5章 公共性の社会的構造変化(後半)
- 第12回 第6章 公共性の政治的機能変化(前半)
- 第13回 第6章 公共性の政治的機能変化(後半)
- 第14回 第7章 公論の概念のために
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共性 市民社会

個別研究指導I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する新しい判例等の検討により、会社法に関する理解を更に深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

個別研究指導は受講者に対し、判例の検討を通じて消費者取引において多発するトラブルの実態を知り、それに対し法律（民法その他特別法）がどのような解決策を提供できるかについて考えていただく。このほか個別研究指導では、民法分野のトピックスについてより高度な研究を希望する者に対して論文（レポート）執筆の指導を行う。さらに、民法の基本論点に関する論述問題を解き、検討会を通じて議論する機会を設ける。

教科書 /Textbooks

指定なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に担当者が適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入①本演習の概要及び消費者トラブルの種類と対策に関する解説 / 次週検討判例配布
- 2回 導入②演習担当者による判例研究（例示） / 次回以降の報告担当者及び検討判例の決定
- 3回～15回 学生による判例研究報告および議論

毎回、1人1件、各自の興味関心から選定した判例を研究し、事前に作成したレジュメに沿って報告をしてもらう。報告時間は1人あたり40分以内である（報告は次週に持ち越さない）。残りの時間は、受講者全員でその日の検討判決要旨（裁判所の判断）の妥当性について議論するとともに、報告者のレジュメやプレゼンテーションに対する評価（良かった点・悪かった点）につき意見を出し合う。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート（2万字）... 60% 判例研究（報告）... 30% 平常点... 10%
レポート課題未提出者、無断欠席者には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 上記の演習活動のほか、個別研究指導履修者は、民法の基本論点に関する論述問題検討会に参加すること（開催日程は受講者と相談して決する）。

履修上の注意 /Remarks

本個別研究指導は、3年次中山が担当した「民法専門演習I・II」を履修した学生に、所定の手続を踏んで受講が許される。
本個別研究指導における通常の演習活動は、3年次配当の「民法専門演習I」と合同で行う。
本個別研究指導は、2学期配当の「個別研究指導II」（中山担当）とセットで履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本個別研究指導は、毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ、議論において「無言厳禁」を原則とするなど、要求度が高い。

キーワード /Keywords

民事判例の精読 法解釈方法論

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本研究指導は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者のニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

第I段階

- ① 問題意識の確認→ゼミ論文のテーマ設定
- ② 論文作成の可能性の探究→関連文献リストの作成

第II段階

- ① 問題の所在の明確化→事実関係等の整理
- ② 先行研究の整理→文献報告
- ③ 関連文献の整理→情報カードの作成・蓄積

第III段階 ゼミ論文のアウトラインの作成・報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。
アサインメントの実施状況...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。

個別研究指導IIとセットで受講してください。

受講希望者多数の場合は、国際法入門演習、国際法応用演習を履修している学生を優先します。

なお全体会へ無断欠席をした者や、やる気の感じられない学生に対しては、本研究指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業時に「大学時代、これだけは一生懸命に勉強しました。」と、自信を持って、胸を張って、言えるようになるために、一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

【ゼミ論文】 【課題研究】

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すでに刑事法系科目（刑法、刑事訴訟法、犯罪学、刑事司法政策）のすべてを履修済みかあるいは現在当該科目を履修中である学生を対象として、各学生の関心ある刑事法上の研究テーマを講義レベルより一層掘り下げて、個別的・具体的に調査研究することを目的としています。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、必要に応じて、その都度指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 受講学生と相談のうえ、具体的な授業内容などについて決定する。
- 3回～14回 以下同じ。
- 15回 レポート（プロスペクタス）提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本科履修前に、「刑事学専門演習I&II」を受講していれば、調査研究の方法に関する基礎的知識を習得することができます。刑事法系専門科目のすべてを受講した場合は、研究テーマの理解がより深いものになります。なお、「個別研究指導I」は、「個別研究指導II」と一体的・連携的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法財産法、なかでも、契約法分野を主たる対象とした研究論文を執筆すること（ただし、この「個別研究指導I」では、「個別研究指導II」で作成する本格的「研究論文」執筆のための「中間論文」を作成することが主たる目的となる。）がこの授業の目的である。受講生の研究（論文執筆）の進捗状況を考慮して、適宜、参照すべき文献、裁判例等を指示する。3年次の「民法専門演習」以上に「忍耐とやる気」が要求される。したがって、生半可な気持ちでの履修は一切認めない。

教科書 /Textbooks

※特に使用しない。論文執筆に必要な文献・資料等については、各自購入するか、図書館から借りるなどすること。また、教員の方でも文献、判例評釈等のコピーを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※受講生が参照すべき文献・資料等は、教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(※以下の授業計画・スケジュールは、受講人数等の諸事情により変更する場合がある。したがって、一応の「めやす」に過ぎない。)

第1回 ガイダンス：論文のテーマの確認。※「未定」の場合、次回までに必ず考えてくること。

第2回～第14回（指導日時は、受講生と相談して決定する。）：論文指導（質問受付・参考文献指示・原稿の添削など。なお、オフィス・アワーも積極的に活用すること。）。

第15回 まとめ

※6月下旬～7月上旬：中間論文プレ報告（報告後、修正すべき点を指示する。）

※7月下旬：中間論文報告会および中間論文提出（予定）。

成績評価の方法 /Assessment Method

※研究姿勢（研究全般における積極性）...20%

※中間論文の進捗状況（教員の指導〔添削内容〕を反映させたうえで執筆を進めているか）...40%

※中間論文プレ報告および中間論文報告会の報告内容...10%

※中間論文（6,000字程度）の内容の完成度...30%

【注意】中間論文未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中間論文執筆指導の際、教員が指示した文献・資料を必ず調べて、論文の内容に活かすこと。そのうえで執筆作業を進めて、途中経過を逐次メール等で事前に教員に報告すること。このような準備をコツコツとこなしていくことが論文完成につながる。この作業を怠る者には指導は一切行わない。

履修上の注意 /Remarks

原則として、3年次に「民法専門演習I・II」を履修済みであること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

じっくり腰を据えて、研究論文を創りあげていきましょう！

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の希望を考慮して、テーマを決定し、刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

立石二六編『刑法総論30講』（成文堂）2007年4月1日、2800円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第5版]』（有斐閣）平成25年4月、2105円＋税
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』（不磨書房）平成15年3月、2000円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定
第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの評価による（レポート評価100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑法犯罪論」および「刑法専門演習I・II」で学んだことを復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく議論し合える雰囲気になりたい。積極的な発言を期待しています。

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の研究したい課題を、文献等を調べながら、深めていくことを目的とします。

教科書 /Textbooks

受講生の課題に応じて指定したいと思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、指定する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 個別研究
- 2回 個別研究
- 3回 個別研究
- 4回 個別研究
- 5回 個別研究
- 6回 個別研究
- 7回 個別研究
- 8回 個別研究
- 9回 個別研究
- 10回 個別研究
- 11回 個別研究
- 12回 個別研究
- 13回 個別研究
- 14回 個別研究
- 15回 個別研究

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自の研究テーマを文献を用いて研究すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業取引に関する法的問題について、定期的に報告を行い、学期末にレポートを作成すること（企業法に関する「演習」を既に履修済みであることが前提になります）。
なお、必要に応じて、関連文献の輪読なども実施する予定です。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、受講者の選択テーマに応じて、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この研究指導は、受講者各自に対して個別に行われる部分と、受講者全員に対して共通課題の設定や（全体 / 合同）報告会（例えば他の「企業法」関連の「演習」科目受講者との合同など）への参加という形で集団的に実施される部分とから成る。

- 第1回目の指導日に今後の研究指導のスケジュールや内容について受講者と協議します。
- 第2回～第15回・・・報告と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告内容・レポート作成を含むゼミへの参加度... 100%
（無断欠席はゼミ放棄とみなします）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究指導時に参照する文献については事前に目を通して、問題点・争点等を把握した上で、さらに別の論点の提示などの準備をしてゼミに参加することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

企業法に関する「演習」を既に履修済みであることが前提になります。
* 上記担当者による「個別研究指導I」とセットで受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法学に関する基礎的な知識・理解を前提として、更に、高度な憲法理論・人権理論の修得をしていただくことを目的とする。このような目的から、履修者には「個別研究指導I」と併せて受講した上でゼミ論文（2000字程度）を執筆することを単位取得の条件とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究指導
- 3回 研究指導
- 4回 研究指導
- 5回 研究指導
- 6回 研究指導
- 7回 研究指導
- 8回 研究指導
- 9回 研究指導
- 10回 研究指導
- 11回 研究指導
- 12回 研究指導
- 13回 研究指導
- 14回 研究指導
- 15回 研究指導

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業論文の執筆

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法学の講義・演習において習得した知識及び理解を基礎にして、受講者各人が関心をもっている刑法に関する研究テーマを、専門的、具体的かつ緻密に研究し、論文にまとめることを目的とする。単なる知識の取得に留まることがないように、自己の考察を説得的な文章で表現することに重点をおく。これにより、法的思考力及び論理的説得力を習得する。受講者の目的に応じて、個別テーマごとに数通の小論文を作成するか、単一のテーマについての論文（ゼミ論文）を執筆する。卒業論文（ゼミ論文）を作成・提出することを最終目標とする。

教科書 /Textbooks

テキストを指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス、研究テーマの設定など
2回～15回 報告及びディスカッション
※原則として、週1回程度、担当者と受講者の都合の良い日時に実施する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート・レジюмеを含む）...30% 討論及び発言内容...30% 論文（ゼミ論文）...40%
※演習への参加状況（報告内容、討論及び発言内容）、レポート及び提出された論文（ゼミ論文）などにより、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者各人が選定した研究テーマについて、レポートを作成する。提出されたレポートを基にディスカッションを行い、検討を深める。ディスカッションと再検討の成果を、次回の個別研究（レポート）にフィードバックすることが求められる。

履修上の注意 /Remarks

個別研究指導Iを併せて履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文（ゼミ論文）の執筆を目的としている。着実に研究を進める意欲と熱意のある者の履修を期待する。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 刑法各論

個別研究指導Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

論文指導

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

論文テーマに応じて適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論文内容につき定期的に報告してもらう
- 2回 論文内容につき定期的に報告してもらう
- 3回 論文内容につき定期的に報告してもらう
- 4回 論文内容につき定期的に報告してもらう
- 5回 論文内容につき定期的に報告してもらう
- 6回 論文内容につき定期的に報告してもらう
- 7回 論文内容につき定期的に報告してもらう
- 8回 論文内容につき定期的に報告してもらう
- 9回 論文内容につき定期的に報告してもらう
- 10回 論文内容につき定期的に報告してもらう
- 11回 論文内容につき定期的に報告してもらう
- 12回 論文内容につき定期的に報告してもらう
- 13回 論文内容につき定期的に報告してもらう
- 14回 論文内容につき定期的に報告してもらう
- 15回 論文内容につき定期的に報告してもらう

成績評価の方法 /Assessment Method

論文 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

個別研究指導Iに引き続き、行政法の判例を素材として判例研究を行い、行政法全体についての理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政法判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同 『行政法判例百選I(第五版)』(同)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 判例の選択
- 3回～15回 判例についてのレポート作成
複数の判例についての報告を求める。
テーマの設定及び参考文献等については、参加者と協議する。
進捗状況については報告を求めるとともに、適宜指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出されたレポートの評価 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポートの作成について継続的に準備すること。

履修上の注意 /Remarks

「個別研究指導I」を履修済みであることが個別研究指導II履修の要件であることに留意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法専門演習I・IIで学んだことを前提に、民事訴訟法に関する論文を執筆する。
民事訴訟法についての講義，演習に続く民事訴訟法学習の集大成である。
希望者と、個別に面談し、研究指導を行う。個別研究指導Iと併せて、最終的には、分量20000字程度の卒業論文を執筆してもらう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 すべて、個別指導
- 2回
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の演習では、現代正義論に関連する文献を講読したが、2学期の演習では、「現代正義論」という主題に特に限定することなく、広い意味で法哲学にかかわるテーマについて、すなわち、「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的主題にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて、自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者が、その都度、参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 自由研究構想発表
- 第3回 自由研究報告①
(ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。以下同様)
- 第4回 自由研究報告②
- 第5回 自由研究報告③
- 第6回 自由研究報告④
- 第7回 自由研究報告⑤
- 第8回 自由研究報告⑥
- 第9回 自由研究報告⑦
- 第10回 自由研究報告⑧
- 第11回 自由研究報告⑨
- 第12回 自由研究報告⑩
- 第13回 自由研究報告⑪
- 第14回 『ゼミ論集』編集の打ち合わせ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2学期の演習では特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は、予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上で、ゼミに臨んで欲しい。

キーワード /Keywords

自由研究報告 ゼミ論集 法 国家 正義 自由 権利 生命 環境

個別研究指導II【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する新しい判例等の検討により、会社法に関する理解を更に深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

個別研究指導は受講者に対し、判例の検討を通じて消費者取引において多発するトラブルの実態を知り、それに対し法律（民法その他特別法）がどのような解決策を提供できるかについて考えていただく。このほか個別研究指導では、民法分野のトピックスについてより高度な研究を希望する者に対して論文（レポート）執筆の指導を行う。さらに、民法の基本論点に関する論述問題を解き、検討会を通じて議論する機会を設ける。

教科書 /Textbooks

指定なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に担当者が適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 応用①：1学期レポートの総評（担当教官より受講者へ）。報告とレポートの関係についての解説。次週検討する判例配布。
- 2回 応用②：演習担当教員による判例報告。次回以降の報告担当者及び検討判例の決定。
- 3回～15回 学生による判例研究報告および議論。

毎回、1人1件、各自の興味関心から選定した判例を研究し、事前に作成したレジュメに沿って報告をしてもらう。報告時間は1人あたり40分以内である（報告は次週に持ち越さない）。残りの時間は、受講者全員でその日の検討判決要旨（裁判所の判断）の妥当性について議論するとともに、報告者のレジュメやプレゼンテーションに対する評価（良かった点・悪かった点）につき意見を出し合う。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート（2万字）…60% 判例研究（報告）…30% 平常点…10%
レポート課題未提出者、無断欠席者には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

*上記の演習活動のほか、個別研究指導履修者は、民法の基本論点に関する論述問題検討会に参加すること（開催日程は受講者と相談して決める）。

履修上の注意 /Remarks

本個別研究指導は、3年次中山が担当した「民法専門演習I・II」を履修した学生に、所定の手続を踏んで受講が許される。
本個別研究指導における通常の演習活動は、3年次配当の「民法専門演習I」と合同で行う。
本個別研究指導は、1学期配当の「個別研究指導I」（中山担当）とセットで履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本個別研究指導は、毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ、議論において「無言厳禁」を原則とするなど、要求度が高い。

キーワード /Keywords

民事判例の精読 法解釈方法論

個別研究指導Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本研究指導は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者の人数やニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

第Ⅳ段階

- ①ゼミ論文アウトラインの確定
- ②ゼミ論文の中間報告

第Ⅴ段階

- ①ゼミ論文初稿の提出→添削指導→修正
- ②ゼミ論文第2稿の提出→添削指導→再修正

第Ⅵ段階

ゼミ論文完成稿の提出→ゼミ論文集に

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況とゼミ論文をもとに評価します。
アサインメントの実施状況...50% ゼミ論文...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。

個別研究指導Ⅰとセットで受講してください。受講希望者多数の場合は、国際法入門演習、国際法応用演習を履修している学生を優先します。なお全体会へ無断欠席をした者や、やる気の感じられない学生に対しては、本研究指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

あともう一踏ん張りです。卒業時に「大学時代、これだけは一生懸命に勉強しました。」と、自信を持って、胸を張って、言えるようになるために、一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

【ゼミ論文】 【課題研究】 【ゼミ論文集】

個別研究指導Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「個別研究指導Ⅱ」の項目参照。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、必要に応じて、その都度指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 受講学生と相談のうえ、具体的な授業内容などについて決定する。
15回 まとめ(最終レポート提出)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「個別研究指導Ⅱ」の項目参照。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「個別研究指導Ⅱ」で執筆した「中間論文」を本格的な「研究論文（卒業記念論文）」にすることがこの授業の最大のテーマ・目的である。民法財産法、なかでも、契約法分野を主たる対象とした研究論文の執筆を、受講生の研究進捗状況等に応じて個別に指導する。言うまでもないが、論文の執筆には、受講生に「受け身」ではなく、「能動的」な研究姿勢が強く求められる。この点、留意されたい。具体的な指導内容は、受講生の論文執筆の進捗状況を考慮して、適宜、参照すべき文献、裁判例などを指示し、論文の添削を行うというものである。生半可な気持ちでの履修は一切認めない。

教科書 /Textbooks

※使用しない。論文執筆に必要な文献・資料等については、各自購入するなり、図書館から借りるなどすること。また、教員の方でも必要な文献等のコピーを指示・用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※指定しない。受講生が参照すべき文献等は、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(※以下の授業計画・スケジュールは、受講人数等の諸事情により変更する場合がある。したがって、一応の「めやす」に過ぎない。なお、受講生が1~2名の場合、3年ゼミ「民法専門演習」にも参加してもらう予定である。)

第1回 ガイダンス：論文テーマの再確認。

※「個別研究指導Ⅱ」で扱ったテーマの変更を予定している者は、この初回授業時に必ず申し出ること。

第2回~第14回(指導日時は、受講生と相談して決定する。)：論文指導(参考文献の指示・原稿添削など。オフィス・アワーも積極的に活用すること。)

第15回 まとめ

※12月中旬(予定)：論文プレ報告(報告後、修正すべき点を指示する。)

※2012年1月下旬：論文報告会および論文提出。*論文の体裁等についてはガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

※論文完成までの研究姿勢(指導内容を反映させようとして執筆を進めているか。)…30%

※論文プレ報告および論文報告会の内容…30%

※「研究論文(20,000字以上)」の内容の完成度…40%

【注意】論文未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文指導の際、教員が指示した文献・資料等を必ず渉猟・検討し、論文の内容に活かすこと。そのうえで執筆作業を進めて、途中経過を逐次メール等で教員に報告すること。このような作業を着実にこなしていくことが論文完成につながる。この作業を疎かにする者には一切指導は行わない。

履修上の注意 /Remarks

「個別研究指導Ⅱ」(福本担当)を履修した者のみ履修することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業要件にはなっていない研究論文(卒業記念論文とでも言うべきか。)を真摯に執筆しようとする受講生には、教員も最大限のサポートをします。一生の宝物になる論文を書き上げてください。

キーワード /Keywords

個別研究指導Ⅱ【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の希望を考慮して、テーマを決定し、刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

立石二六編『刑法総論30講』（成文堂）2007年4月1日、2800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第5版]』（有斐閣）平成25年4月、2105円＋税
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』（不磨書房）平成15年3月、2000円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定
第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの評価による（レポート評価100%）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑法犯罪論」および「刑法専門演習I・II」で学んだことを復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく議論し合える雰囲気になりたい。積極的な発言を期待しています。

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の研究課題を、文献等を調べながら、深めていくことを目的にします。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマに関連した文献を指定したいと思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、指定する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 個別研究
- 2回 個別研究
- 3回 個別研究
- 4回 個別研究
- 5回 個別研究
- 6回 個別研究
- 7回 個別研究
- 8回 個別研究
- 9回 個別研究
- 10回 個別研究
- 11回 個別研究
- 12回 個別研究
- 13回 個別研究
- 14回 個別研究
- 15回 個別研究

成績評価の方法 /Assessment Method

論文・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自の研究テーマに関する文献を事前に検討しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論【昼】

担当者名 /Instructor 堀田 泰司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、これから法学を学ぶ学生が法律の全体像を把握することをねらいとします。具体的な事件を解決するための手段である法律の基礎を体系的に理解することによって、法を身近なものとし、法に主体的に関わるための法の知識と考え方を修得します。

教科書 /Textbooks

伊藤真 著 『伊藤真の法学入門』 日本評論社 定価 (1500円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

村田彰 編 『リーガルスタディ - 法学入門』 定価 (3150円) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義ガイダンス、法とは何か
- 2回 法と規範、法規範の特質と機能
- 3回 日本における法の歴史と法意識
- 4回 法学の学び方 1(法解釈と価値判断)
- 5回 法学の学び方 2(法を学ぶことの意義、リーガルマインドについて)
- 6回 憲法と法
- 7回 法と正義
- 8回 法的安定性
- 9回 法の体系、法の種類
- 10回 法の目的と価値基準
- 11回 法の解釈と基準
- 12回 日本の裁判制度と判例
- 13回 法律の勉強
- 14回 法律文書の書き方、法情報の調べ方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...70% 平常の学習状況(小テスト、ミニツツペーパーを含む)...30%の配分の評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識を持って授業に臨まれば理解がより深まりますので、予習、復習をして授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代法曹論I【昼】

担当者名 /Instructor 川上 修 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

身近に起こりうる様々な法律問題の検討を通じて、法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）及び法律に携わる様々な職業（司法書士、裁判所書記官、家庭裁判所調査官など）の役割と現代的意義を理解することを目的とします。

講義の他に、法律実務家による講演を予定しています。法律実務家の生の声を聞くことで、各職業の内容だけでなく、やりがいや苦労についても知ることができます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法曹三者についての基礎知識
- 2回～3回 裁判官の業務と現代的意義
- 4回 裁判官講師による講演
- 5回～6回 検察官の業務と現代的意義
- 7回 検察官講師による講演
- 8回～9回 弁護士の業務と現代的意義
- 10回 弁護士講師による講演
- 11回 刑事裁判手続きにおける法曹三者の役割
- 12回 民事裁判手続きにおける法曹の役割
- 13回 周辺他種業講師による講演（司法書士を予定）
- 14回 周辺他種業講師による講演（裁判所書記官，家庭裁判所調査官を予定）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講演後のレポート・・・70%

定期試験・・・30%

（講演終了後に、A4用紙半分程度のレポートの提出を求める。）

（レポート未提出者は、学期末試験を受けることができない。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テーマとなっている職業の特徴を事前に調べておくと、講義が頭に入りやすいでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合によって、スケジュールが変更になることがあるので、注意してください。

講演のときの遅刻、早退、私語は、講師に失礼となるので厳禁です。

第一線で活躍する法律実務家の生の声を聞くことができる貴重な機会になると思います。講演終了後に質疑応答の時間を設けますので、積極的に質問や意見をぶつけてみてください。

キーワード /Keywords

現代法曹論II 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 敬一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

弁護士業務の具体的事例をもとに、法曹実務に触れながら、主要な法律理論を理解する。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義において都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 弁護士業務の概要
- 第2回 法律相談業務(1)
- 第3回 法律相談業務(2)
- 第4回 契約書作成・審査業務(1)
- 第5回 契約書作成・審査業務(2)
- 第6回 交渉業務(1)
- 第7回 交渉業務(2)
- 第8回 民事訴訟関連業務(1)
- 第9回 民事訴訟関連業務(2)
- 第10回 倒産法関連業務
- 第11回 家族法関連業務
- 第12回 刑事関連業務(1)
- 第13回 刑事関連業務(2)
- 第14回 弁護士の能力
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況20%、授業中の課題30% 期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中、数回課題を出し、その場で起案をすることがある。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学が、実務上、どのように活用されているのかを実感して下さい。

キーワード /Keywords

予防法務、相続、離婚、債権回収、契約書の作成・審査、内容証明郵便、民事執行、民事保全、主張と立証、破産・民事再生、逮捕・勾留、刑事訴訟、法曹倫理

法律実務論I【昼】

担当者名 /Instructor 仰木 伸介 / OHGI SHINSUKE / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

平成16年度司法書士法改正により簡易裁判所における訴訟代理権を付与された司法書士制度について、その歴史的背景を平易に説明し、制度に対する国民の要請と将来の展望について解説する。
司法書士全般の職務、司法書士制度の解説、不動産取引と登記業務、簡裁代理業務を中心に、日本の登記制度を担ってきた司法書士が、我が国における不動産取引の安全にどのように寄与してきたかを、実務家の観点から解説することで、我が国における不動産取引の現状を正しく認識することを目的とする。
司法書士業務の解説に執務現場の体験談等を交えることで、実務をなるべくイメージできるような講義を行う。司法書士試験についての簡単なアドバイスも行う。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。
各自「六法」を持参のこと（「司法書士法」が掲載されていない場合は、各自で準備しておくこと）。
講義の進捗に応じて講義レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 司法書士の職務全般と市民との関わり
- 2回 司法書士制度の歴史
- 3回 司法書士法及び関係法令と法改正の方向性
- 4回 日本における不動産取引の現状I(売買契約)
- 5回 日本における不動産取引の現状II(登記手続)
- 6回 不動産登記法I【総論】
- 7回 不動産登記法II【総論】
- 8回 不動産登記法III【各論】
- 9回 不動産登記法IV【各論】
- 10回 不動産登記法V【実務】
- 11回 不動産登記法VI【実務】
- 12回 認定司法書士制度とその現状
- 13回 消費者問題への取り組みと司法書士倫理
- 14回 司法書士試験の現状と今後の予測
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 事前提出課題(小問題)・・・40%
(事前提出課題の未提出者は、学期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「民法」を受講しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

講義中に配布したレジュメは、その後の講義の際に全部を持参しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

遅刻、途中退席は特段の理由がない限り禁止とします。

キーワード /Keywords

司法書士 不動産 登記 簡易裁判所 代理権 国家試験

法律実務論II 【昼】

担当者名 /Instructor 細川 真二 / HOSOKAWA SHINJI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

司法書士試験を目指す学生に対して、司法書士の業務を紹介しながら、試験科目の一つである商業登記法に対応した講義を行います。また、将来会社設立を考えている学生にも、会社法と会社の登記がどのように連動しているのかを理解していただきます。さらに、司法書士の新しい業務である成年後見人やADR（裁判外紛争解決手続）についても紹介します。

教科書 /Textbooks

適宜レジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説新商業登記法(神崎満治郎著)週刊住宅新聞 ¥4,800
成年後見教室(実務実践編・課題検討編)(成年後見センター・リーガルサポート編)日本加除出版 各¥2,500
ADR理論と実践(和田仁孝編)有斐閣 ¥2,200
調停への誘い(レビン小林久子)日本加除出版 ¥2,000

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商業登記法概論
- 2回 会社設立①
- 3回 会社設立②
- 4回 会社の機関
- 5回 役員変更
- 6回 新株発行
- 7回 組織再編
- 8回 会社合併
- 9回 会社分割
- 10回 その他の登記
- 11回 成年後見制度と司法書士
- 12回 任意後見・法定後見
- 13回 成年後見制度の課題
- 14回 ADR制度と司法書士
- 15回 メディエーション

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 日常の授業への取り組み・・・30% 小テスト・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「会社法」を既に受講した場合は、本講義の理解がより深いものにまります。
民法の行為能力、後見、保佐、補助を理解していると本講義の理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

法律実務論Iの不動産登記法を中心として司法書士講座を履修すると司法書士業務の全体が理解できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実務で使う申請書、議事録、契約書などを多く配布するので、その整理や復習することが授業の理解をより高めますので注意してください。

キーワード /Keywords

会社設立 役員変更 新株発行 合併 会社分割 成年後見制度 後見人 保佐人 補助人 ADR 裁判外紛争解決手続 メディエーション 調停人

法思想史【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探究する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることとする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたいうえでそれを相対化することもまた、可能となってくるであろう。

教科書 /Textbooks

○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂、2200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳、濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房）
- 竹下賢、角田猛之、市原靖久、桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房）
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店）
- 三島淑臣『法思想史』（青林書院）
- F・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法思想史とは
- 第2回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想① ~ J・ロックの自然権論
- 第3回 法と正義①
- 第4回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想② ~ 近代的自然法論（ホブズなど）
- 第5回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想③ ~ 古典的自然法論（トマス・アクィナスなど）
- 第6回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想④ ~ ケルゼンの純粹法学
- 第7回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想⑤ ~ ハートの法の概念
- 第8回 法と正義② J・ロールズの正義論 ~ 功利主義批判の関連から
- 第9回 法と正義③ J・ロールズの正義論(続)
- 第10回 法と正義④ R・ノージックのリバタリアニズム ~ J・ロックとの関連から
- 第11回 法と正義⑤ R・ノージックのリバタリアニズム(続)
- 第12回 法と正義⑥ R・ドゥオーキンの権利論
- 第13回 法と正義⑦ 現代正義論の前身
- 第14回 法と正義⑧ 共同体主義 ~ アリストテレスとの関連から
- 第15回 法思想史のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前には、テキストの該当箇所を読み、講義後には各回の講義で配布したレジユメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

「現代正義論」を1年次に受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然法論 法実証主義 正義論

外国法【昼】

担当者名 /Instructor 森谷 克之 / K a t s u y u k i M o r i y a / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

二大法体系のひとつとして大陸法と対比される英米法という法体系について学びます。コモン・ローの契約法および不法行為法を学ぶことにより理解を深めます。契約当事者の約束がいかなる法的根拠において強行されるかを、判例を通じて学びます。

教科書 /Textbooks

なし 必要な資料は講義において配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○別冊ジュリスト 英米判例百選[第三版] (有非閣 藤倉皓一郎・木下毅・高橋一修・樋口範雄編) 2,600円 + 消費税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 契約の成立【意思の合致と約因】
 - 2回 契約の効力1【契約の内容】
 - 3回 契約の効力2【免責約款】
 - 4回 契約の効力3【契約違反】
 - 5回 約因法理生成の歴史1【金銭債務訴訟と捺印契約訴訟】
 - 6回 約因法理生成の歴史2【assumpsitの登場】
 - 7回 約因法理生成の歴史3【Sulade' s Case】
 - 8回 約因法理生成の歴史4【約因法理】
 - 9回 約因法理生成の歴史5【simple contractの定義】
 - 10回 不法行為【責任の根拠】
 - 11回 不法行為【ネグリジエンス】
 - 12回 不法行為【トレスパス】
 - 13回 不法行為【ニューサンス】
 - 14回 不法行為【過失責任主義の再検討】
 - 15回 まとめ
- 講義内容については変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 20 % レポート ... 20 % 定期試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料(英文の判例)をよく読み、講義とあわせて理解してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国法、英米法、コモン・ロー、consideration、contract

日本法制史【昼】

担当者名 岡 邦信 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古代から中世の法と制度、特に中世の国制、武家政権の支配機構、裁判制度について、適宜資料等を配布し解説する

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日本法制史概説 石井良助著 創文社
- 日本法制史 浅古・伊藤・植田・神保編 青林書院
- 日本通史I歴史の曙から伝統社会の成熟へ 義江彰夫著 山川出版
- 日本通史II封建制の再編と日本的社会の確立 水林彪著 山川出版
- 日本社会の歴史 上・中・下 網野善彦著 岩波書店
- 新体系日本史2法社会史 水林・大津・新田・大藤編 山川出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法制史とは何か
- 2回 時代区分論
- 3回～4回 律令継受以前の国制【天津罪】【国津罪】【盟神探湯】
- 5回～6回 律令と律令国家の実態【官位相当制】【蔭位制】【八虐】【五刑】
- 7回～9回 律令制の解体と荘園公領制【負名田堵制】【初期荘園】【雑役免系荘園】【寄進地型荘園】
- 10回～12回 武士団【国衙軍制】
- 13回～16回 中世国家と封建制【レーエン制】【フューダリズム】
- 17回～18回 中世主従関係【家礼型】【家人型】
- 19回～20回 鎌倉期の法源【幕府法】【在地領主法】
- 21回～23回 鎌倉幕府訴訟制度【所務沙汰】【雑務沙汰】【検断沙汰】【引付】
- 24回 建武政権と南北朝
- 25回～30回 室町幕府と室町期の法源【一揆契状】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは使用しませんので、参考文献を利用し、予習復習をしてください

履修上の注意 /Remarks

高校日本史程度の知識があれば理解の助けになります

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会が抱える諸問題や実定法学が投げかける具体的な諸問題を考える上で、思考枠組みとしての法理論は不可欠である。人間の共同生活を考える上で不可欠なものとしての法を捉え直すための、基本的な視座を探究することが、本講義の目的とするところである。

教科書 /Textbooks

○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂、2200円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳、濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房）
- 平野仁彦、亀本洋、服部高宏著『法哲学』（有斐閣）
- 長谷川晃、角田猛之編『ブリッジブック法哲学』（信山社）
- 田中成明『法理学講義』（有斐閣）
- 大橋智之輔、三島淑臣、田中成明編『法哲学綱要』（青林書院）
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法哲学とは ～ 概要説明
- 第2回 法と道徳① ラートブルフの法律を越える法
- 第3回 法と道徳② ハート・フラー論争
- 第4回 法と道徳③ 悪法論 ～ ドイツの戦後処理をめぐる
- 第5回 法と道徳④ ハート・デブリン論争 ～ 法による道徳の強制
- 第6回 法と道徳⑤ 理論史1 ～ カント
- 第7回 法と道徳⑥ 理論史2 ～ ラートブルフ
- 第8回 法と強制① ～ ケルゼンの純粋法学
- 第9回 法と強制② ～ 法と合意形成
- 第10回 法・社会・国家① ～ エールリッヒ・ケルゼン論争
- 第11回 法・社会・国家② ～ M・ヴェーバーと形式法の実質化
- 第12回 法・社会・国家③ ～ ハーバースと法化
- 第13回 法と生命 ～ 安楽死・尊厳死
- 第14回 まとめ①
- 第15回 まとめ②

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前には、テキストの該当箇所を読み、講義後には各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

「法思想史」を2年次に受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法と道徳 法と強制 ケルゼン ハート

比較法文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 篠森 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1898年に施行されたいわゆる明治民法は、西欧法、特にドイツ・フランス両国の民法の強い影響の下で編纂された、いわば比較法の産物である。民法の講義の際にしばしばドイツやフランスの民法の規定が紹介されるのは、そのためである。そのドイツ・フランスの各民法は、ローマ法の伝統を基礎にして、それぞれの社会状況の中で成立したものである。それ故、わが国の民法もローマ法の影響下にあるといえる。講義では、わが国の民法上の諸問題を、過去および現在のヨーロッパ大陸諸法と比較しながら検討する。この作業を通じて、民法が単なる技術の集積ではなく、歴史の所産、文化現象でもあることを確認する機会としたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。講義にて資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田慶吉『日本民法典の史的素描』(創文社、1954年)(○)
原田慶吉『ローマ法〔改訂版〕』(有斐閣、1955年)(○)
ウルリッヒ・マンテ(田中実=瀧澤栄治訳)『ローマ法の歴史』(ミネルヴァ書房、2008年)
ピーター・スタイン(屋敷二郎訳)『ローマ法とヨーロッパ』(ミネルヴァ書房、2003年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【比較法文化論】【比較法】【西洋法制史】【ローマ法】【民法】
- 2回 日本法における遺言①相続法概説【相続法】【法定相続】【遺言】【遺留分】
- 3回 日本法における遺言②現在の遺言問題。日本民法立法過程【旧民法】【法典調査会】【法継受】
- 4回 ローマ法における遺言①基礎知識【ローマ法大全】【学説彙纂】
- 5回 ローマ法における遺言②基礎知識
- 6回 ローマ法における遺言③古典期の遺言法【相続人指定】【遺贈】【信託遺贈】
- 7回 ローマ法における遺言④『ローマ法大全』の編纂【ユスティニアヌス帝】
- 8回 ドイツ法における遺言①普通法の伝統と各ラントの法【普通法】【ラント法】【法典編纂】
- 9回 ドイツ法における遺言②ドイツ民法典の立法【ドイツ民法典(BGB)】
- 10回 フランス法における遺言【フランス民法典(コード・シヴィル)】
- 11回 ローマ事務管理法上の諸問題①【事務管理negotiorum gestio】【学説彙纂第3巻第5章】
- 12回 ローマ事務管理法上の諸問題②
- 13回 ローマ事務管理法上の諸問題③
- 14回 ローマ事務管理法上の諸問題④
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験...60% 平素の学習状況(小テストを含む)...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民法(特に相続法)の基礎知識を再確認しておく、受講の際の一助となる。

履修上の注意 /Remarks

六法必携。
開講時に講義の詳細を説明する。受講希望者は第1回目の講義に必ず出席すること。事前に講義のイメージをつかんでおきたい者は、上記参考書を参照せよ。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

紛争処理論 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

紛争処理論は、法社会学の一分野です。よって、みなさんが普段学んでいる実定法解釈学とは別の視角から、法現象を観察・分析・理論化していく、というスタンスは法社会学と共通です。そのうえで、本講義は、法に期待される重要な機能である民事紛争処理というテーマに照準をあわせ、それを法社会的に考察していきます。

いうまでもなく、裁判をはじめとする司法システムには、日々さまざまな種類の紛争が持ち込まれます。その意味で司法は、それら多様な紛争を事案として受け入れ、法的な判断を下していく、まさに「法の現場」である、といえるでしょう。そしてその「現場」において - - いわゆる法的三段論法をはじめとする - - 法解釈学的「知」が発揮されるのであり、また、そうした「専門知」の行使を通じて（こそ）、紛争は「解決」へと至る、といったストーリーは、（とりわけ法学にとってみれば）それほど疑われる余地はない=疑ってはいけない？のかもしれませんが、しかし、そうした法的判断や「専門知」は、さまざまな形態を纏っている個々別々の紛争を、法特有の論理へと「加工」してゆく側面をもってはいないのでしょうか。そして時として、紛争の「総体」を切り縮めたり、紛争の「文脈」を削ぎ落としたりする場面を生じさせるのではないのでしょうか。

本講義は、こうした問題関心にに基づき、まずは、紛争の多主体性・主観性・連続性を視野化することで、紛争の把握や解決が困難であることを提示したいと思います。その上で、本来的に把握・解決困難な紛争に対し、裁判をはじめとする民事の紛争処理手続は、いかなる対応が可能なのかについて、法解釈学とは異なる視角から考えてゆきます。その際、中心に置かれるのは紛争当事者の視点です。具体的には、実際に紛争を抱える素人当事者が、自身の力で、「法の現場」である司法の中で、紛争と向きあい折り合っていく可能性を検討してみたいと思います。さらに、その場合に求められる「専門知」とはどのようなものかについても、法専門職論として、あわせて考えたいと思います。

以上から示唆されるように、本講義は、紛争を直ちに固定化・対象化し、迅速かつオートマティックに処理していく技法（スキル）の体得に向けてはならず、ある意味でそれとは正反対の思考、すなわち、紛争のもつダイナミズムを直視した上で、それにいかにして向き合っていくのかについて考えることとなります（よって本講義は、紛争を管理・解決する為の「ノウハウ」や「技術」、ましてや「正しい方法」—そういうものが実際にアレバの話ですが—などを求める向きにはそぐわないと思います）。紛争事案に法を「あてはめる」のではなく、紛争当事者にとっての解決とは何か、その場合法や専門家は何をなすうのか、といった「問い」と併走する講義です。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：授業の進め方等について説明します
- 2回 紛争概念の再構成（1）：【紛争の多主体性】…紛争主体は「甲と乙」だけか？
- 3回 紛争概念の再構成（2）：【紛争の主観性】…命はカネにかえられる？
- 4回 紛争概念の再構成（3）：【紛争の連続性】…「判決+執行」で本当に紛争は終わるか？
- 5回 紛争概念の再構成（4）：【紛争解決の困難性】…法的解決 / 生活実態との乖離
- 6回 法=権利とは何か？（1）：西欧継受の法=権利…権利による【近代化】
- 7回 法=権利とは何か？（2）：権利観念の氾濫と拡散…【法の三類型モデル】
- 8回 法=権利とは何か？（3）：当事者同士の【共同体】…【権利の言説】
- 9回 法専門職の臨界（1）：弁護士偏在の理由と変化…需要の掘り起こしと【公設事務所】
- 10回 法専門職の臨界（2）：弁護士像（モデル）の変遷…社会正義とビジネスを超えて？
- 11回 法専門職の臨界（3）：裁判官論…手続主催者から【交渉促進者】へ
- 12回 法専門職の臨界（4）：司法書士論…【簡裁代理権】取得の「町の法律家」
- 13回 当事者主体の紛争処理に向けて（1）：【ADR】でのとりくみ事例
- 14回 当事者主体の紛争処理に向けて（2）：【小額訴訟】のひとコマ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論述式の定期試験（70%）と毎講義ごとのレスポンスペーパー（30%）により評価します（より詳しくは初回講義時に説明します）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

皆さんが普段学んでいる法解釈学的思考が、実際の紛争現場に対していかなる作用を果たしているのか、そこに問題は無いのか、ということ等を常に念頭においておくこと。

事前に配布する資料をかならず通読しておくこと。

紛争処理論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本講義は民事の紛争処理過程について考察しますが、法社会学同様、法解釈学的視点とは違った角度からの講義です。この点注意してください（「法社会学とはいかなる学問領域なのか」についての総論めいたお話は法社会学で扱います）。なお、同一プリントの再配布はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「法は何のためにあるのか」 - - 少なくとも民事の紛争に限って言えば、法は、紛争を抱えた当事者たちのためにあるべきでしょう。本講義は、この「素朴な命題」を愚直に受け止め、話をすすめていきます。なお、本講義は—法社会学と同様—（授業）理解と（情報）暗記を同一視される向きには全くそぐいません（蛇足ながら、この点前もってお伝えしておきます）。むしろ正解や情報の暗記を苦手とする（＝そのこと自体に懐いたる疑問を抱く）方のほうがひょっとしたら向いているのかもしれない。憶えるのではなく考えること、その用意がある方を歓迎します。

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにさせていただきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義 - 【国家権力の授権と制限】
- 第2回 憲法の展開 - 【近代から現代、そして未来へ】
- 第3回 人権総論① - 【人権の保障と制限】
- 第4回 人権総論② - 【裁判所による人権保障】
- 第5回 統治機構総論① - 【国民主権】
- 第6回 統治機構総論② - 【権力分立】
- 第7回 統治機構総論③ - 【日本の政治制度】
- 第8回 平和主義論① - 【憲法9条の制定・意義】
- 第9回 平和主義論② - 【平和主義の現実と未来】
- 第10回 平和主義論③ - 【憲法9条と裁判所】
- 第11回 地方自治 - 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第12回 象徴天皇制 - 【天皇制の継続と断絶】
- 第13回 憲法保障 - 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 総括
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法人権論 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における人権理論について概説するとともに、そのことを通じて現代日本社会における問題についても検証する。人間には国家・社会によっても侵してはならない「自分だけの領域」があるはずである。そして、このような「自分だけの領域」の範囲について考えることが「人権論」だと考えている。講義全体のキーワードは【現代日本社会と人権】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権総論
- 第2回 人権享有主体
- 第3回 特別権力関係論・私人間効力
- 第4回 幸福追求権
- 第5回 平等原則
- 第6回 精神的自由①(信教の自由)
- 第7回 精神的自由②(表現の自由総論)
- 第8回 精神的自由③(表現の自由各論)
- 第9回 精神的自由④(知る権利)
- 第10回 経済的自由
- 第11回 社会権①
- 第12回 社会権②
- 第13回 人身の自由
- 第14回 参政権
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法機構論 【昼】

担当者名 /Instructor 森脇 敦史 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、日本国憲法が定める統治機構を概観する。55年体制成立後初の本格的な政権交代とその後の混乱、「ねじれ国会」における審議のあり方、冷戦終結に伴う国際秩序の激変は、現行制度の限界を示しているともいわれるが、一方で世代を超えたコミットメントとしての憲法が、現実政治に対して変化を求めているとも理解できる。授業では現実政治の動向にも触れつつ、憲法がいかんにして動的かつ安定した統治を設計しうるのかを検討することとしたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和・大江正昭『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○高橋和之他編『憲法判例百選II（第5版）』（有斐閣・2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス.....権力分立、法治主義
- 第2回 明治憲法の歴史と日本国憲法の制定
- 第3回 国民主権.....主権の意味、政党、象徴天皇制
- 第4回 国会（1）.....国会の地位・組織、「立法」の概念
- 第5回 国会（2）.....国会の活動、国会・議院の権能
- 第6回 内閣（1）.....議院内閣制、「行政」の概念
- 第7回 内閣（2）.....行政権の組織と権能、内閣と行政各部の関係
- 第8回 裁判所（1）.....裁判所の組織、司法権の独立
- 第9回 裁判所（2）.....司法権の意義・範囲・限界
- 第10回 違憲審査制.....違憲審査の種類・主体・方法、違憲審査基準
- 第11回 財政、地方自治.....財政民主主義、地方自治の法的性格、住民の地位
- 第12回 平和主義（1）.....戦争放棄と戦力の不保持
- 第13回 平和主義（2）.....冷戦終結後の安全保障体制
- 第14回 憲法保障.....国家緊急権、抵抗権、憲法改正
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日々のニュースには目を通しておくこと。

キーワード /Keywords

憲法訴訟論【昼】

担当者名 /Instructor 村上 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業においては、日本国憲法の下において、裁判所が憲法問題に取り組む際の問題点、とりわけ憲法上の問題点が争点となる訴訟（憲法訴訟）の性格、憲法訴訟の要件、憲法訴訟の対象、憲法判断（合憲性の有無の判断）をする際の基準、憲法判断をするか否か（積極的司法主義と消極的司法主義）などについて、各々のテーマに関する重要な判例を素材として、裁判所の考え方およびそれに対する批判を検討することとします。事前に各授業のテーマに関する資料（主として判決資料）を配布しておきますので、受講生の皆さんには、授業に対する予習として、指定教科書の該当箇所を読んでくると、並びに検討判例の事実の概要および憲法上の争点を理解してくることをお願いしたいと思います。授業では、まず、当該テーマに関する基本的知識を確認し、続いて、検討判例について、事実の概要、憲法上の問題点、訴訟当事者の主張および裁判所の判決内容（法廷意見にとどまらず、補足意見や反対意見も含む）を、できるだけわかりやすく説明します。一方通行的な説明に終始するのではなく、当該判例の問題点とその解決方法を皆さんに考えてもらうように（知識を覚えることではなく、問題の解決を考えること身につけるように）授業を進めて行くつもりです。日本国憲法に対する理解をさらに深めたい皆さんはもとより、公務員試験や国家資格試験を目指している皆さん、さらには法科大学院を経て実務法曹を目指している皆さんにとって、有意義な授業となるようにしたいと思います。

教科書 /Textbooks

手島孝監修・安藤高行編 『新基本憲法学』（法律文化社、2730円）（ISBN：4-589-02543-4）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法（第4版）』（岩波書店）
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II（第5版）』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法訴訟の性格（1）：抽象的違憲審査制と付随的違憲審査制
- 第2回 憲法訴訟の性格（2）：主観訴訟と客観訴訟
- 第3回 憲法訴訟の当事者適格（1）：訴えの利益
- 第4回 憲法訴訟の当事者適格（2）：第三者の憲法上の権利侵害の援用
- 第5回 憲法訴訟の対象（1）：条約の違憲審査
- 第6回 憲法訴訟の対象（2）：立法不作為に対する違憲審査
- 第7回 憲法訴訟の対象（3）：統治行為論
- 第8回 憲法訴訟の対象（4）：国会の自律権に対する司法審査
- 第9回 憲法訴訟の対象（5）：部分社会論
- 第10回 憲法判断の方法（1）：合憲限定解釈
- 第11回 憲法判断の方法（2）：法令違憲と適用違憲
- 第12回 憲法判断の基準（1）：二重の基準の理論
- 第13回 憲法判断の基準（2）：明確性の基準の理論
- 第14回 憲法判断の基準（3）：事前抑制の理論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...70%、レポート...30%（レポートの課題については授業開始時に説明します。また、レポート未提出者は学期末試験を受けることができません。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本国憲法に関する授業を受講している場合は、より効果的な学習が可能となるはずですが、また、予習として、各授業のテーマに関するテキストの該当箇所および配布資料を必ず読んできて下さい。なお、憲法の判例集は特にテキストとして指定はしませんが、上記の『憲法判例百選』などの判例集をテキストとリンクさせながら勉強することを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

六法を携帯してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法訴訟 違憲審査制 法令違憲 適用違憲 憲法判断 合憲限定解釈 二重の基準 明確性の基準 事前抑制

行政法総論【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ「行政を規律する法システムの基本原理」

今日の行政の活動はわれわれの生活の隅々にまで及び、われえあれの生活自体もまた行政の活動に大きく依存している。そのような行政の活動を規律する法システムとしての行政法の基本原則について学ぶことがこの講義の内容である、具体的には、法律による行政統制の基本原則、行政の組織と機関、行政の活動過程の統制、行政活動における市民(私人)の権利保障、行政活動の実効性を確保する手段等がその内容である。

教科書 /Textbooks

手島孝他編『新基本行政法学』(2011年予定、法律文化社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同上『行政判例百選II(第五版)』(同上)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 行政法とはどのようなものか	第16回 行政行為・行政処分の意義
2回 行政法の成立とその構造	17回 行政行為・行政処分の効力
3回 行政法の法源	18回 行政行為・行政処分の瑕疵
4回 行政法の法源(その2)	19回 行政契約
5回 法律による行政の原理	20回 行政指導
6回 法律による行政の原理(その2)	21回 行政計画
7回 行政手続法	22回 行政調査
8回 行政手続法(その2)	23回 行政活動の実効性確保手段の意義
9回 行政主体の意義と種類	24回 行政上の強制執行
10回 行政機関	25回 行政罰
11回 行政組織	26回 即時強制
12回 権限の委任と代理	27回 その他の手段
13回 行政機関相互の関係	28回~30回 まとめ
14回 行政の行為形式論	
15回 行政立法	

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験90% 課題10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法は応用的科目であるから、憲法、民法、刑法を履修していること(履修中を含む。)が望ましい。専門科目であるから、当然ながら、予習・復習がないと理解は困難である。

履修上の注意 /Remarks

行政法総論は、国家補償法、行政訴訟法、地方自治法等の他の行政法科目を履修するために必要不可欠な科目である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政争訟法 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政活動に対する不服や不満を解決する手続としての行政上の不服申立ておよび違法な行政活動の是正と救済を求める手続としての行政訴訟について理解することをねらいとする。

教科書 /Textbooks

手島孝・中川義朗編『基本行政法学〔第3版〕』（2005年、法律文化社）
※行政法総論で使用した教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小早川光郎ほか編『行政判例百選II〔第5版〕』（2006年、有斐閣）
- 塩野宏『行政法II〔第四版〕』（2005年、有斐閣）
- 宇賀克也『行政法概説II』（2006年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 行政上の不服申立て制度の概要
- 2回 不服申立ての提起
- 3回 不服申立ての審理
- 4回 不服申立ての裁決
- 5回 行政訴訟総説
- 6回 行政事件の種類
- 7回 抗告訴訟(1) 抗告訴訟の種類
- 8回 抗告訴訟(2) 取消訴訟の訴訟要件
- 9回 抗告訴訟(3) 取消訴訟の審理
- 10回 抗告訴訟(4) その他の抗告訴訟
- 11回 抗告訴訟(5) 判決と仮の救済
- 12回 当事者訴訟
- 13回 民衆訴訟
- 14回 機関訴訟
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80% 課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法総論を履修済みであることが望ましい。
当然ながら予習・復習が必要である。
(復習のための課題提出を求める。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国家補償法 【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政府の活動に起因する損害を補填するシステムについて理解することをねらいとする。

教科書 /Textbooks

手島孝・中川義朗編『基本行政法学〔第3版〕』（2005年、法律文化社）
※行政法総論で使用した教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小早川光郎ほか編『行政判例百選II〔第5版〕』（2006年、有斐閣）
- 塩野宏『行政法II〔第四版〕』（2005年、有斐閣）
- 宇賀克也『行政法概説II』（2006年、有斐閣）
- 西莖章『国家補償法概説』（2008年、勁草書房）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国家補償の意義
- 2回 国家賠償の意義
- 3回 公権力の行使に係る国家賠償（1）
- 4回 公権力の行使に係る国家賠償（2）
- 5回 公の営造物の設置管理に係る国家賠償（1）
- 6回 公の営造物の設置管理に係る国家賠償（2）
- 7回 賠償責任者
- 8回 民法の適用
- 9回 損失補償の意義
- 10回 補償の要否（1）
- 11回 補償の要否（2）
- 12回 補償の内容（1）
- 13回 補償の内容（2）
- 14回 補償の谷間と結果責任
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80% 課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法総論を履修済みであることが望ましい。
当然ながら予習・復習が必要である。
(復習のための課題提出を求める。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治法 【昼】

担当者名 /Instructor 村上 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業の目標は、住民の権利義務、住民と自治体との関係、自治体の議会と執行機関の組織と権限などに関する地方自治法上の制度について学び、自治体においては、国の政治の仕組みと違って、より住民の意見や要望が自治体の政策の決定に生かされ得る民主主義的なプロセスが保障されていることを理解することです。授業は、制度に関する単純な説明にとどまることなく、各テーマに関する判例や事例を素材に、地方自治の現実の姿(制度の運用実態と問題点)を紹介しながら、地方分権時代における地方自治はいかにあるべきかを、地方自治の主人公である住民=学生諸君に考えてもらうというスタンスで進めます。なお、公務員試験や国家資格試験の受験を考えている諸君も多いことから、授業内容の復習を兼ねて、それらの試験で出題された地方自治法関連の過去問の解説も行う予定です。2コマ連続の授業ですが、前半はテキストに基づく基本的知識の修得を、後半は判例や事例の検討により基本的知識の応用並びに過去問の解答・解説による復習を行うこととします。

教科書 /Textbooks

中川義朗(編)『これからの地方自治を考える』(2010年、法律文化社、2900円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○磯部力他(編)『地方自治判例百選(第3版)』(2003年、有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～第2回 【地方自治の本旨】、地方自治制度の沿革、憲法と地方自治
- 第3回～第6回 【住民の権利】(【選挙権】、【直接請求権】、【公の施設】)
- 第7回～第8回 【住民監査制度】、【住民訴訟】
- 第9回～第12回 【情報公開制度】、【個人情報保護制度】
- 第13回～第14回 【住民投票制度】
- 第15回～第16回 地方自治体の種類、大都市制度
- 第17回～第18回 【地方議会】の組織と権限
- 第19回～第20回 執行機関の組織と権限、【自治事務】、【法定受託事務】
- 第21回～第22回 地方議会と長との関係
- 第23回～第24回 【条例制定権】の限界
- 第25回～第26回 地方自治体と国との関係
- 第27回～第28回 【地方公務員制度】
- 第29回～第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30%、学期末試験...70%(レポートの課題については授業中に説明します。なお、レポート未提出者は、学期末試験を受けることができないものとします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本国憲法あるいは行政法を履修していれば、より効果的な学習ができると思います。

履修上の注意 /Remarks

授業では地方自治法などの法律の条文が数多く出てきますので、できるだけ六法(ポケットサイズのもので可)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【地方分権時代における地方自治の現状と課題】です。【地方分権】、【住民自治】、【団体自治】、【地方議会】、【条例】、【住民】、【住民訴訟】、【住民投票】

情報公開・個人情報保護法 【昼】

担当者名 森脇 敦史 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報公開は、民主主義国家において国民が主体的に政治に参画するために不可欠である。
また、情報化社会の進展に伴い、個人情報の有用性が高まると同時に、目的外利用や個人情報の不適切な取扱いによる権利利益の侵害リスクも高まっている。
本講義では、情報公開法・個人情報保護法（および自治体の条例）の概要と判例等の検討を行う。

教科書 /Textbooks

なし（レジユメを配布する）。六法は持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宇賀克也『新・情報公開法の逐条解説 第5版』（有斐閣、2010年）
宇賀克也『個人情報保護法の逐条解説 第3版』（有斐閣、2009年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス.....情報公開、個人情報保護の歴史、憲法上の位置づけ
- 2回 情報公開法（1）.....概論、【行政文書】
- 3回 情報公開法（2）.....不開示情報（【個人に関する情報】）
- 4回 情報公開法（3）.....不開示情報（【事務事業遂行情報】・【意思形成過程情報】）
- 5回 情報公開法（4）.....不開示情報（【法人等情報】、【安全・外交・公安情報】）
- 6回 情報公開法（5）.....部分開示、裁量的開示、存否応答拒否、開示手続
- 7回 情報公開法（6）.....救済手続、情報公開・個人情報保護審査会
- 8回 個人情報保護法（1）.....歴史、プライバシーと個人情報の関係
- 9回 個人情報保護法（2）.....保護対象（個人情報、個人データ、保有個人データ）、
【個人情報取扱事業者】
- 10回 個人情報保護法（3）.....【個人情報】に対する義務
- 11回 個人情報保護法（4）.....【個人データ】、【保有個人データ】に対する義務
- 12回 行政機関個人情報保護法（1）.....個人情報、保有個人情報の取扱い、個人情報ファイル
- 13回 行政機関個人情報保護法（2）.....開示・利用停止・訂正請求、救済手続
- 14回 個人情報・プライバシーの現代的問題.....住基ネット、納税者番号、監視カメラ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の授業に該当する条文を事前に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

山中敬一著『刑法概説(総論)』(成文堂)2008年10月、2500円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選(総論 [第5版])』(有斐閣)平成15年4月、2105円+税
立石二六編『刑法総論30講』(成文堂)平成19年3月(出版予定)、2800円+税
齊藤誠二編『演習ノート刑法総論(全訂第3版)』(法学書院)平成15年3月
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード
第1回～第2回 刑法典の沿革、犯罪論の基本。【刑法の意義】、【犯罪】
第3回～第4回 学派の争い【主観主義刑法理論】、【客観主義刑法理論】
第5回～第6回 罪刑法定主義とその派生原則【類推解釈】、【遡及処罰の禁止】、【慣習法の排斥】、【絶対的不定期刑・不定期刑の禁止】、【構成要件の明確性】、【実体的デュープロセス】
第7回 犯罪の分類【結果犯】【単純行為犯】【実質犯】【形式犯】【侵害犯】【危険犯】 【即成犯】【状態犯】【継続犯】
第8回 犯罪論の体系【行為】【構成要件】【違法】【責任】
第9回～第10回 行為論【作為】、【不作為】、【作為犯】、【不作為犯】、【因果関係】
第11回～第12回 構成要件論【構成要件】、【認識根拠説】、【実在根拠説】
第13回～第14回 違法論【違法の本質】、【結果無価値】、【行為無価値】、【可罰的違法性】、【許可された危険】
第15回～第17回 違法性阻却事由【正当行為】、【正当防衛】、【緊急避難】、【自救行為】、【被害者の同意】
第18回～第20回 責任論【責任能力】、【故意】、【事実の錯誤】、【法律の錯誤】、【過失】、【原因において自由な行為】
第21回～第22回 未遂論【実行の着手】、【離隔犯】、【間接正犯】、【不能犯】、【中止犯】
第23回～第26回 共犯論【共犯学説】、【共犯の処罰根拠】、【共同正犯】、【教唆犯】、【従犯】、【共犯独立性説】、【共犯従属性説】、【共犯と身分】
第27回～第29回 共犯の諸問題【承継的共犯】、【片面的共犯】、【必要的共犯】、【不作為と共犯】、【結果的加重犯と共犯】、【共犯と錯誤】、【共犯と中止犯】、【予備の共犯】
第30回 罪数論【本来の一罪】、【科刑上一罪】、【包括一罪】、【併合罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(学期末試験100%)で評価する。授業態度が悪い場合、減点の対象とする場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：法学、刑法犯罪各論、刑事訴訟法を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目ですし、また、刑法犯罪各論、刑事訴訟法は同じ刑事法に属する科目ですから、強く関連しているからです。法学は本講座を履修する前に、刑法犯罪各論、刑事訴訟法は本講座を履修した後かまたは同時に履修するとよいでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に出席しなければ理解はできない。レジュメを手にしただけでは絶対に刑法を理解することはできない。また、予習・復習をしなければ講義についていけない。当たり前のことを当たり前にやる必要があります。刑法は生易しい学問ではありません。

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「刑法犯罪各論」は、刑法典における個別の犯罪類型の成立要件を学ぶものです。各犯罪を規定する条文の解釈を学び、具体的事例を検討することで、法的思考力を身につけることを目的としています。「刑法犯罪各論I」は、個人的法益に対する罪の一部および国家的法益に対する罪の一部を学びます。

教科書 /Textbooks

山中敬一『刑法概説II各論』（成文堂、2008年10月）2500円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

別冊ジュリスト『刑判判例百選II〔各論〕第6版』（有斐閣、2008年3月）2400円＋税
立石二六編著『刑法各論30講』（成文堂、2006年4月）2800円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 犯罪各論の基礎
- 2～4回 生命に対する罪【殺人】【自殺関与】
- 5～7回 身体に対する罪【傷害】【同時傷害】【暴行】【傷害致死】【墮胎】【遺棄】
- 8～9回 自由に対する罪【脅迫】【逮捕監禁】【略取誘拐】【強姦】【強姦致死傷】【強制わいせつ】【強制わいせつ致死傷】
- 私生活の平穩に対する罪【住居侵入】【秘密侵害】
- 10～11回 名誉・信用に対する罪【名誉毀損】【侮辱】【信用毀損】【業務妨害】
- 12回 国家の存立に対する罪【内乱】【外患誘致】【私戦予備陰謀】
- 13～14回 国家の作用に対する罪①【公務執行妨害】【逃走】【犯人蔵匿・隠避】【証拠隠滅】【偽証】【虚偽告訴】【職権濫用】
- 国家の作用に対する罪②【収賄】【贈賄】

* 受講生の理解度等の理由により、講義の進捗状況が変化することがあるので注意のこと。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（100％）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は当然のこと、関係判例を参考文献に挙げた『判例百選』で読んでおくこと。また、自発的に他の文献を読んでおくことが望ましい。
「刑法犯罪論」を履修しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

とにかく予習・復習しなければ、理解はできない。

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義が対象とする刑法各論は、殺人罪や窃盗罪といった、個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域である。刑法犯罪各論IIにおいては、刑法犯罪各論Iに続けて、個人的法益に対する罪のうち財産罪、及び社会的法益に対する罪を取り上げる。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念及び各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、法的思考力を習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜レジユメを配布する。テキストの選択は受講者の任意に委ねる。
各自が使用する基本書（著者を問わない。）及び最新の六法を必携のこと。
（参考）山中敬一『刑法概説II各論』（成文堂・2008.10）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『刑法各論（新 論点講義シリーズ2）』（弘文堂・2007.05）
- 立石二六（編著）『刑法各論30講』（成文堂・2006.04）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。

- 1回～2回 財産罪(1)財産罪の基礎・窃盗罪、毀棄隠匿罪
- 3回～5回 財産罪(2)強盗罪、事後強盗、強盗致死傷罪
- 6回～8回 財産罪(3)詐欺罪・恐喝罪、詐欺罪の諸類型
- 9回～10回 財産罪(4)横領罪、背任罪、盗品関与罪
- 11回～12回 公共危険罪 騒乱罪、多衆不解散罪、放火罪・失火罪（放火罪の基礎、焼損、公共危険など）、出水罪、水利妨害罪、往来妨害罪
- 13回～14回 公共の信用に対する罪 文書偽造罪（文書偽造罪の基礎、文書概念、偽造概念、作成者と名義人など）、通貨偽造罪、有価証券偽造罪
- 15回 風俗に対する罪 わいせつ罪、重婚罪、賭博罪、死体損壊・遺棄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジユメを配布する予定である。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習（基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。）・復習（講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。）を十分に行うようにしよう。

履修上の注意 /Remarks

この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I」を受講しておくこと。
この講義を受講した後に、「刑事訴訟法総論・各論」、「犯罪学」及び「刑事司法政策I・II」を受講することを勧める。また、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

刑法犯罪各論II 【昼】

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法各論 犯罪論

刑事訴訟法総論【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法は刑罰権の存否を判断する手続に関する法律です。その手続の流れは、捜査に始まり起訴するか否かが判断され、起訴がなされれば公判が開始され、裁判がなされ、その裁判に不服があれば上訴がなされることとなります。本講義では、その手続の基本となる考えを把握することを目的とします。

教科書 /Textbooks

(主テキスト) 庭山・岡部編「刑事訴訟法」(第3版)(青林書院)(3800円税別)
(副テキスト) 松尾浩也著「刑事訴訟法(上巻)」新版(弘文堂)(2800円税別)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

田宮裕編「刑事訴訟法」(北樹出版)、三井誠著「刑事手続法・II・III」(有斐閣)、田口守一著「刑事訴訟法(第5版)」(弘文堂、3780円)、福井厚著「刑事訴訟法講義(第4版)」(法律文化社、3900円税別)、○鴨「刑事訴訟法の基本理念」(九大出版会)、上口・後藤他「刑事訴訟法(第4版)」(有斐閣、2205円)、井上他編「刑事訴訟法(第8または第9版)」(有斐閣、2520円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 刑事手続の概要 【通常手続、簡易手続、非常救済手続】
- 2回 刑事手続の基本原則 【無罪の推定】
- 3回 刑事手続の理念 【実体真実主義、適正手続の保障】
- 4回 刑事手続の構造・政策 【職権主義、当事者主義】
- 5回 捜査の構造 【糾問的捜査観、弾劾的捜査観】
- 6回 捜査の構造 【訴訟的捜査観】
- 7回 公訴の諸原則 【国家訴追主義、起訴便宜主義】
- 8回 公判前整理手続 【争点整理、証拠開示】
- 9回 公判の諸原則 【公開主義、口頭主義】
- 10回 証拠概説 【直接証拠、間接証拠】
- 11回 証拠能力と証明力
- 12回 証拠法の諸原則 【自由心証主義】
- 13回 自白法則、違法収集排除法則 【補強法則】
- 14回 挙証責任 【実質的挙証責任】
- 15回 裁判の効力 【一事不再理効】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

主として、復習に重点を置いて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法各論【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法には、捜査、公訴、公判、裁判、上訴などの手続段階があります。それぞれの手続段階にはそれぞれ独自の重要性がありますが、本講義では、その手続段階の中でも、捜査を取り上げて、条文の解釈などを行って、それを詳細に検討していきます。

教科書 /Textbooks

(主テキスト) 松尾浩也著「刑事訴訟法(上巻)」新版(弘文堂、2800円税別)
(副テキスト) 庭山・岡部編「刑事訴訟法(第3版)」(青林書院、3800円税別)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

田宮裕編「刑事訴訟法」北樹出版、三井誠著「刑事手続法I・II・III」(有斐閣)、田口守一著「刑事訴訟法(第5版)」(弘文堂、3780円)、福井厚著「刑事訴訟法講義(第4版)」(法律文化社、3900円税別)、○鴨「刑事訴訟法の基本理念」(九大出版会)、上口・後藤他「刑事訴訟法(第4版)」(有斐閣、2205円)、井上・川出他編「刑事訴訟法判例百選(第8版または第9版)」(有斐閣、2520円)、三井他編「刑事法辞典」信山社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 刑事手続の概要
- 2回 捜査の意義
- 3回 捜査の主体
- 4回 捜査の方法
- 5回 身体拘束の概要
- 6回 通常逮捕・緊急逮捕
- 7回 現行犯逮捕
- 8回 勾留
- 9回 逮捕・勾留の諸問題 【事件単位の原則】
- 10回 逮捕・勾留の諸問題 【別件逮捕】
- 11回 証拠収集の概要
- 12回 令状による捜索
- 13回 令状による押収
- 14回 令状によらない捜索・押収
- 15回 検証・鑑定

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

主として、復習に重点を置いて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

犯罪学【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

犯罪学という学問は、「なぜ人は犯罪を犯すのか」「なぜ犯罪が生起するのか」という素朴な疑問に答えようとする科学的試みの中で生成・発展してきたものです。本授業では、犯罪原因に関する「理論」をできるだけ多く取り上げて、各理論の長所・短所などを批判的に分析・検討することにします。

教科書 /Textbooks

藤本哲也『犯罪学原論』（日本加除出版、2003年）4,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 瀬川 晃『犯罪学』成分堂(1998年)
- G.B.ヴォルド=T.J.パーナード『犯罪学：理論的考察[原書第3版]』東大出版会(1990年)
- 宮澤浩一・藤本哲也・加藤久雄編『犯罪学』青林書院(1995年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～4回 犯罪および犯罪学の基礎的概念についての入門的説明。【犯罪の定義】【刑事政策】【刑事学】【犯罪学】【暗数】
- 5回～11回 犯罪学上の代表的な「パラダイム」の分析・検討。【理論】【パラダイム】【パースペクティブ】【古典主義犯罪学】【実証主義犯罪学】【批判的犯罪学】
- 12回～26回 各理論の成立した時代的背景、主張内容、批判・反批判、政策的含意などの分析・検討。【シカゴ学派】【異質的接触理論】【アノミー理論】【非行副次文化理論】【異質的機会理論】【ラベリング理論】【コンフリクト理論】【社会統制理論・セルフコントロール理論】【発達論的犯罪学】など。
- 27回～29回 各種犯罪の現状とその原因論的説明。【凶悪犯罪(殺人・強盗)】【性犯罪(強姦、セクシャルハラスメント)】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門教育科目の「刑事司法政策I&II」をあわせて受講すればわかりやすい。授業にあたっては、テキストの指定された部分を読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策I 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに現代日本の刑事制裁の特色および問題点、並びに刑事司法制度の構造と機能について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書 /Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策【第2版】』（成文堂、2011年4月予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①警察庁編『平成22年度 警察白書』（ぎょうせい、2010年）
- ②法務省法務総合研究所編『平成22年度 犯罪白書』（佐伯印刷、2010年）
- ③内閣府『平成22年版 犯罪被害者白書』（佐伯印刷、2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 刑事政策の概念 【教科書 第1講 1-15頁】
- 2回 刑事政策の歴史 【教科書 第2講 16-42頁】
- 3回 刑事政策の動向 【教科書 第3講 43-55頁】
- 4回 犯罪予防 【教科書 第4講 56-72頁】
- 5回 刑事制裁 【教科書 第5講 73-84頁】
- 6回 刑事司法・少年司法機関の役割(1) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 7回 刑事司法・少年司法機関の役割(2) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 8回 刑事司法・少年司法機関の役割(3) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 9回 犯罪被害者の支援と法的地位【教科書 第7講 111-126頁】
- 10回 死刑 【教科書 第8講 127-141頁】
- 11回 自由刑 【教科書 第9講 142-157頁】
- 12回 財産刑 【教科書 第10講 158-169頁】
- 13回 保安処分 【教科書 第11講 170-188頁】
- 14回 予備日(実務家による特別講義予定)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「犯罪学」「刑事司法政策II」とあわせて受講すればわかりやすい。毎回、テキストの指定された箇所を事前に読みこんでおくこと。

刑事法関連科目のうち「刑法」「刑事訴訟法」をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

刑事司法の実務家による特別講義を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策II 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに犯罪者処遇および更生保護の分野における問題点ならびに現代日本社会において関心の高いいくつかの重要犯罪を選んでその現状と刑事政策的対応の在り方について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書 /Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策【第2版】』（成文堂、2011年4月予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○法務省法務総合研究所編『平成22年度 犯罪白書』（佐伯印刷、2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 犯罪者の処遇 【教科書 第12講189-203頁】
- 2回 施設内処遇(1) 【教科書 第13講204-233頁】
- 3回 施設内処遇(2) 【教科書 第13講204-233頁】
- 4回 社会内処遇 【教科書 第14講224-243頁】
- 5回 わが国の犯罪情勢【教科書 第15講 244-261頁】
- 6回 個別犯罪と対策(1) 交通犯罪 【教科書 262-279頁】
- 7回 個別犯罪と対策(2) 薬物犯罪 【教科書 280-293頁】
- 8回 個別犯罪と対策(3) 来日外国人犯罪 【教科書 294-305頁】
- 9回 個別犯罪と対策(4) 組織犯罪 【教科書 306-318頁】
- 10回 個別犯罪と対策(5) 高齢者犯罪 【教科書 319-331頁】
- 11回 個別犯罪と対策(6) 企業犯罪 【教科書 332-343頁】
- 12回 個別犯罪と対策(7) 性犯罪 【教科書 344-358頁】
- 13回 個別犯罪と対策(8) 家庭内・近親者間犯罪 【教科書 359-383頁】
- 14回 予備日(実務家による特別講義予定)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「犯罪学」「刑事司法政策I」とあわせて受講すればわかりやすい。毎回、テキストの指定された箇所を事前に読みこんでおくこと。

刑事法関連科目のうち、「刑法」「刑事訴訟法」をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

実務家による特別講義を一回予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の社会生活は、基礎法である民法だけでなく、それに加えて広範な社会法によって規律されている。現代社会法は、労働法、社会保障法、衛生法などの法分野を包摂し、日本国憲法25条の生存権の具体化と関連の深い法分野である。近年の経済社会の変動を背景にして、福祉国家の発展のために、社会法に寄せられる国民の期待には大きなものがある。この授業では、人権が尊重される民主的な福祉社会、安心して暮らせる豊かな社会、相互の尊重で支えられる共生社会ないし包摂的社会など、現代社会における人々の社会生活の向上のために、社会法が果たしている役割と、そのために開発されてきた社会法独自の法的方法およびそれぞれの法分野の特徴を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

ワープロで作成したテキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

河野正輝他編「社会保障論」法律文化社、浜村彰他著「ベーシック労働法」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会法とは
- 2回 市民法から社会法へ 近代法の変容と社会立法の発生 [工場法、救貧法、労働者保険]
- 3回 近代法原理と20世紀的憲法 [契約自由、市場原理、公共の福祉]
- 4回 社会法の意義と役割 [朝日訴訟、労働権、社会保障制度審議会勧告]
- 5回 社会法の体系と法的特徴 [公的規制、公的給付、特別私法]
- 6回 福祉国家の公法と私法の社会性 [積極国家、民法1条、社会サービスの法律関係]
- 7回 現代社会と貧困 [ワーキングプア、見えない貧困、非正規労働者、ホームレス]
- 8回 労働法の体系と目的 [労働条件の最低基準、団結権]
- 9回 所得保障法の体系と目的 [生活費の保障、特別費用の保障]
- 10回 社会サービス法の体系と目的 [医療・介護・福祉サービス]
- 11回 衛生法の体系と目的 [医事法、予防衛生、環境衛生]
- 12回 社会権の保護と救済 [権利擁護、審査請求、労働審判]
- 13回 経済社会的背景の転換と社会法の変容 [規制緩和、給付削減]
- 14回 諸外国の社会法改革の動向 [アクティベーション、プライベートイゼーション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に参考文献の関係箇所を一読しておく、講義内容が解りやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会サービス法【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものと考えられるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。これをどのように分類するかについては、統一的な分類方法・基準はない。本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、介護、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、介護保険法の改正、障害者自立支援法の制定・改正、福祉領域における契約制度の導入など、制度の根本的改革が行われており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。本講義は、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジユメで進行予定。ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODakション～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保障① ～医療供給体制～
- 第3回 医療保障② ～医療保険の保険関係と給付構造～
- 第4回 医療保障③ ～医療保険の保険給付①～
- 第5回 医療保障④ ～医療保険の保険給付②～
- 第6回 医療保障⑤ ～医療保険の財政～
- 第7回 医療保障⑥ ～高齢者医療に関する法～
- 第8回 社会福祉① ～社会福祉の法体系とその展開～
- 第9回 社会福祉② ～社会福祉の給付方式①～
- 第10回 社会福祉③ ～社会福祉の給付方式②～
- 第11回 社会福祉④ ～サービス利用の法律関係①～
- 第12回 社会福祉⑤ ～サービス利用の法律関係②～
- 第13回 社会福祉⑥ ～福祉サービスの提供体制
- 第14回 社会福祉⑦ ～福祉サービス利用者の権利擁護システム～
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100%）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・「社会保障法」としての一体的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が非常に強いので、「契約法」「不法行為法」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとっては高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

所得保障法【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「所得保障法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」に属するものと考えられるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。これをどのように分類するかについては、統一的な分類方法・基準はない。本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「所得保障法」という枠組みとして、年金、公的扶助（生活保護）等についての基本的な構造理解、「法的」諸問題の概観・検討を行う。近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「所得保障法」領域においても、年金制度の統合問題や財政負担問題等についての検討も行なわれているし、生活保護の保護基準の問題なども議論となっている。本講義では、単なる制度の概観だけにとどまらず、「法的」角度からの社会保障への理解を深める。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン～「所得保障法」とは？
- 第2回 年金保険① ～公的年金保険の構造～
- 第3回 年金保険② ～公的年金保険の保険関係～
- 第4回 年金保険③ ～公的年金保険の保険給付①～
- 第5回 年金保険④ ～公的年金保険の保険給付②～
- 第6回 年金保険⑤ ～公的年金保険の財政及び不服申立～
- 第7回 年金保険⑥ ～公的年金制度と私的年金制度～
- 第9回 公的扶助① ～我が国における公的扶助制度～
- 第10回 公的扶助② ～生活保護制度の基本原則～
- 第11回 公的扶助③ ～4つの保護原則①～
- 第12回 公的扶助④ ～4つの保護原則②～
- 第13回 公的扶助⑤ ～保護の実施機関とプロセス～
- 第14回 公的扶助⑥ ～不服申立制度～
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験のみで評価する（期末試験...100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・「社会保障法」としての体系的な理解のためには、「社会サービス法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が強いため、「契約法」「不法行為法」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとっては高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 柳澤 旭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の人口の約半数の6400万人は働いて生活基盤を確保している。その内、5400万人は、企業や官公庁で働いており、「労働契約」を締結し雇用労働関係にある。学生諸君にとっては、就職（22歳）から定年（65歳）まで、実に40年以上に渡り長期のスパンでこの関係は続いていくこととなる。

雇用関係法は、このような雇用労働関係についての基本的な法律を理解することを目的とする。例えば、学生のほとんどは「アルバイト」の経験があるだろうが、この関係は既に労働法の適用があり、賃金未払い、時間外・深夜労働規制、労災補償の対象となっているのである。

教科書 /Textbooks

野田進編『判例 労働法入門』（2011年、有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊『労働判例百選（8版）』（2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 雇用関係法全体の見取り図
2. 労働法の課題と役割・労働紛争と解決の方法
3. 労働法の当事者（労働者、使用者、労働組合）
4. 労働契約I
5. 労働契約II
6. 労働契約上の権利義務
7. 労働契約と就業規則
8. 労働者の自由と人権、雇用平等
9. 懲戒
10. 労働契約の展開I
11. 労働契約の展開II
12. 解雇・退職・定年
13. 労働条件と労働基準保障I
14. 労働条件と労働基準保障II
15. 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的には定期試験の成績による。レポートや出欠も考慮に入れる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

雇用労働関係は、日々の生き物でもあるので、日々の新聞記事を講義の資料に使うことが多い。そこで、新聞記事を常にチェックしておいてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

講義は一方的なものではなく、学生諸君に質問や意見をのべてもらう双方向的なものである。学生諸君は氏名を指名されたら、「わかりませぬ」と言ってはならない。この言葉は、この講義では禁句（タブー）である。このことの意味は、講義の冒頭で理解できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

雇用労働関係の法律は、40年以上に及ぶ関係なので、自分のこととして理解しておくことが大切なので、自己中心的（自分にとって何なのか。役に立つのかどうかということ。）に理解してもらいたい。

キーワード /Keywords

憲法27条、28条、労働契約、就業規則、労働基準法、労働組合法、労災補償、解雇、雇用差別

労使関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 柳澤 旭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人口の約半数（5400万人）を占める雇用労働関係は、私たちの生活の基盤である。労働者と使用者との労働条件をめぐる法は、労働関係法として多様な法律からなっているが、その中でも、労働組合と使用者とをめぐる労使関係法を理解することがこの講義の目的である。具体的には労働組合とは何か。団体交渉とはどのようなことを行うのか。ストライキを行うとはどういうことか。これらの基本的な問題を取り扱う。しかし労働組合を中心とした労使関係は、現実の日本社会では重要であるが、組織率の低下も顕著であり、その役割も低下しているのが現状である。そこで講義では、労働法全体の中で労使関係の役割を常に意識しながら問題を見ていくことにしたい。

教科書 /Textbooks

野田進編『判例 労働法入門』（2011年、有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊『労働判例百選（8版）』（2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 労使関係法と労働法全体の見取り図
2. 労使関係の当事者としての労働組合
3. 労働組合法と労働基準法
4. 団体交渉
5. 団体行動
6. 団体行動と賃金
7. 組合活動
8. 労働協約
9. 不当労働行為I
10. 不当労働行為II
11. 労働委員会と裁判所
12. 労働組合の現在と未来
13. 労働法における労使関係法
14. 労働委員会と裁判所
15. 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的には定期試験の成績による。レポート提出、出欠状況も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に次回の講義についての課題を与えるので、講義のときに説明できるようにしておいてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

新聞記事を講義資料として使うことが多いので、日々の新聞記事について、気を付けてチェックしておいてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は一方的なものでなく、学生諸君に質問や意見を述べてもらうことにしたい。氏名を指名されたら「わかりません」という言葉は、この講義では使ってはならない禁句（タブー）である。このことの意味は講義の冒頭で理解してもらえたいと思います。

キーワード /Keywords

憲法、27条、28条、労働基本権、労働組合、団体交渉、組合活動、争議行為、労働協約

独占禁止法【昼】

担当者名 /Instructor 高場 俊光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の我が国経済は、高度寡占化、政府規制、違法なカルテル等により市場機能が十分発揮できない状況にあり、競争理念がますます重要視されてきている。そのような中で、独占禁止法がどのような切り口で競争を回復・維持しようとしているのかを、法理論面から考える。これにより、自由競争経済の中で、どのような競争が正しい競争であるかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

「独占禁止法」（講義開始後、各受講生にグループウェア上の教材をプリントアウトしてもらう。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『テキスト 独占禁止法（再訂二版）』（波光 巖他 青林書院 ￥4,935）
- 『ベーシック経済法 独占禁止法入門（第3版）』（有斐閣アルマ）（川濱 昇他 有斐閣 ￥1,995）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ『それは独占禁止法違反です①』 【競争の意義・目的】
- 2回 ビデオ『それは独占禁止法違反です②』 【独占禁止法の目的・構成・沿革】
- 3回 不当な取引制限 【カルテル】【談合】【一定の取引分野】【競争の実質的制限】
- 4回 " 【公共の利益】【行政指導】【共同事業】
- 5回 " 【事業者団体によるカルテル】【課徴金】
- 6回 私的独占
- 7回 不正な取引方法 【一般指定】【特殊指定】
- 8回 " 【取引拒絶】【差別的取扱い】
- 9回 " 【事業活動の不当拘束】
- 10回 " 【不当な顧客誘引・取引強制】【取引上の地位の不当利用】【取引妨害】
- 11回 国際取引と独占禁止法
- 12回 企業結合 【市場集中】【水平合併】【垂直合併】【株式保有】【役員兼任】
- 13回 " 【一般集中】【持株会社】【企業集団】【独占的地位】
- 14回 独占禁止法の運用手続
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%。平常の学習状況... 20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独占禁止法は、経済の動きに対し一定の枠組みを与えるものであるから、どのような経済状態に対しどのように適用されるかを実践的に把握するとよく理解できる。したがって、多くの事例を図解したテキストを使用する。したがって、事例の図解を予め勉強してきて欲しい。

履修上の注意 /Remarks

- 1、講義の1、2回目に見るビデオは、概要を知るためであるから、必ず出席して欲しい。
- 2、教材のプリントアウトは講義の進行より先行して行い、予習をしておいて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容は、経済社会で頻繁に出てくる事項が多い。したがって、身近な問題として興味を持って勉強して欲しい。

キーワード /Keywords

独占力（市場支配力）カルテル 談合 不当廉売 流通系列化 特約店制度 再販売維持制度
優越的地位の濫用 合併 持株会社 公正取引委員会 課徴金

知的財産法【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これからの取引社会において、営業上の信用を含む知的資産がもたらす価値は更に増大するものと考えられる。「知的財産法」では、当該知的資産の全体像を、思想または感情の創作物に関わるもの・製品等の開発販売過程で創作されるもの・営業上の信用が化体されているものに大別して、権利客体の把握や侵害訴訟における各種権利の基本的機能を概説する。同時に、音楽ソフトのネットワークを利用した配信行為に代表される、情報通信技術の進展に伴う新たな課題についても検討を加え、現代の取引社会で知的財産権が関与する事象を総合的に判断する能力形成をはかる。

教科書 /Textbooks

特許庁編産業財産権標準テキスト「総合編」「特許編」「意匠編」「商標編」以上4冊は無償配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

田村善之著「著作権法概説」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 知的財産法の全体像と基本理念～営業上の信用を含む無形の知的財産保護法制の概要説明
2. 情報通信技術の進展と知的財産権制度～ネットワーク等の技術進展がもたらす諸問題を考える
3. 著作権法～著作物と著作者の権利(著作権、著作人格権)、著作隣接権、出版権、侵害訴訟
4. 著作権法～プログラム等の保護、放送ないしは映画の権利関係、マルチメディア作品の権利関係
5. 特許法・実用新案法～工業所有権四法(特実意商)の基本的枠組み、製品開発と産業財産権四法
特許侵害訴訟の基本、パリ条約及びその他の条約
6. 特許法・実用新案法～特許要件、発明実施概念、特許権、特許発明の同一性判断と侵害訴訟
7. 特許法・実用新案法～法定通常実施権、特許の作成、ライセンス契約
8. 意匠法～意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断、ライセンス契約
9. 商標法～商標登録要件、侵害訴訟の基本、商標権、商標の類否判断と侵害訴訟、
10. 商標法～法定通常実施権、出願実務とライセンス契約
11. 不正競争防止法～不正競争行為概説、著名周知商品表示の模倣、営業秘密の不正取得等
12. 不正競争防止法～商品形態の模倣、技術的制限手段の解除等(スクランブル解除等)
13. デザイン保護法制～著作権法・意匠法・不正競争防止法の各法域における適用形態と境界領域
14. ソフトウェア保護法制～著作権法・特許法の各法域における適用形態
15. まとめ
16. 学年末定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の比重は約5割、残りはレポート等の最終提出物や授業中の発表、リフレクションカードの記述内容等、日常的学習の成果を参考にし、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、ネット上の特許庁のホームページや最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
 パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
 最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>

履修上の注意 /Remarks

単なる教科書の知識だけでなく、ウェブ上の情報も取捨選択しながら、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
 メールアドレス kimlab01@gmail.com
 スカイプID kim-lab

キーワード /Keywords

知的財産 特許 実用新案 意匠 商標 著作権者の権利

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 正剛 / Ikuno Masakata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境法は、良好な環境の保全を図ることを目的とする法律の総称である。環境問題の深刻化、拡大、多様化によって、環境悪化の事前の防止を目指す環境法の重要性は増大しているし、環境法のカバーする範囲も広がっている。

本講義では、そのように広範囲にわたる現行環境法体系の全体像、それらに共通する理念・原則、環境保全のための政策手法、環境法の歴史、環境法の中での主要な法律（環境基本法、循環型社会形成基本法、環境影響評価法、環境汚染防止関連法、廃棄物処理法、リサイクル関連法など）の内容を概観する。そのことを通じて、受講生は、環境法の基本的考え方、環境法の流れ、各法律での環境保全のための基本的仕組み、環境問題に関する法的整備の現状と残された課題、環境法の今後進むべき方向性を理解できることとなる。

教科書 /Textbooks

『環境法ガイド』（坂口洋一著）、上智大学出版刊、2450円
なお、講義の際には、ある程度詳細なレジユメも配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『環境法』（大塚直著）、有斐閣刊、4410円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 環境法とは何か、環境法の体系、環境法の基本原則（1）【環境権】【持続可能な発展】
【汚染者負担の原則】
- 第2回 環境法の基本原則（2）【未然防止の原則】【予防原則】【拡大生産者責任】
- 第3回 環境保全政策の手法（1）【規制的手法】【非規制的手法】
- 第3回 環境保全政策の手法（2）【経済的手法】【情報的手法】
- 第5回 環境法の歴史（1）【公害法から環境法へ】【公害対策基本法】【都市生活型環境問題】
【地球環境問題】
- 第6回 環境法の歴史（2）【環境基本法】【循環型社会形成基本法】【環境影響評価法】
【有害化学物質規制】
- 第7回 環境基本法と環境基本計画
- 第8回 環境影響評価法
- 第9回 環境汚染の防止（1）【環境基準】、【排出基準】【総量規制】【大気汚染防止法】
- 第10回 環境汚染の防止（2）【水質汚濁防止法】【土壌汚染防止法】
- 第11回 廃棄物の処理法制（1）【廃棄物処理法】【廃棄物の定義】【廃棄物の分類】
- 第12回 廃棄物の処理法制（2）【一般廃棄物処理規制】【産業廃棄物処理規制】
- 第13回 循環型社会形成のための法体系（1）【循環型社会形成基本法】【拡大生産者責任】
【容器包装リサイクル法】
- 第14回 循環型社会形成のための法体系（2）【家電リサイクル法】【自動車リサイクル法】
【建設リサイクル法】【食品リサイクル法】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験により、環境法の基本概念、環境法での基本的原則・基本的考え方、各法律での環境保全のための基本的仕組み等を理解しているかを評価する。

定期試験（100%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境法 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法・民法不法行為法を既に履修していれば、本講義の理解がより深まります。
また、講義内容が多いので、テキストおよび前もって配布するレジユメを事前に読んで来て下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

持続可能な発展、環境権、環境基本法、循環型社会、経済的手法、外部費用の内部化

国際法I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約の留保
- 第4回 条約の無効
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」

- 第6回 慣習国際法
- 第7回 慣習国際法の法典化
- 第8回 条約と第三国
- 第9回 条約の国内的効力
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認
- 第3回 国家と承認制度：政府承認
- 第4回 国家の基本的権利
- 第5回 国家の基本的義務
- 第6回 まとめ

第II部「陸・海・空と国際法」

- 第7回 陸と国際法
- 第8回 海と国際法：海上交通
- 第9回 海と国際法：海洋資源
- 第10回 空と国際法
- 第11回 まとめ

第III部「国際法主体としての個人」

- 第12回 人権の国際的保障
- 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

国際私法【昼】

担当者名 /Instructor 小林 啓一 / NAKABAYASHI KEIICHI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本人同士の日本での結婚・売買等には日本の法律（民法など）が適用される。それでは、日本人が外国人と結婚・売買等をおこなう場合に適用されるのはいずれの国の法律であろうか。

国際私法はこのような問題を解決するための法律である。この授業では、国際私法とはどのような法律か、いかなる問題が国際私法によって解決できるかという点について、できるだけ具体例を用いながら考えてみたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松岡博編『国際関係私法入門（第2版）』（有斐閣、2009年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際民事訴訟法(1)【財産関係事件の国際裁判管轄】
- 2回 国際民事訴訟法(2)【身分関係事件の国際裁判管轄】
- 3回 国際私法序論【国際私法の意義と必要性、法的性質】
- 4回 国際私法総論(1)準拠法の決定【法性決定、連結点の意味】
- 5回 国際私法総論(2)準拠法の特定【反致、公序】
- 6回 国際家族法(1)属人法と、婚姻の準拠法【国際結婚と法】
- 7回 国際家族法(2)離婚、親子関係の準拠法【国際離婚と法】
- 8回 国際家族法(3)その他の問題【氏、相続など】
- 9回 国際財産法(1)契約の準拠法(1)【当事者自治の原則】
- 10回 国際財産法(2)契約の準拠法(2)【特徴的給付、消費者契約、労働契約】
- 11回 国際財産法(3)不法行為の準拠法【一般不法行為、生産物責任、名誉毀損】
- 12回 国際財産法(4)自然人、法人【渉外的法律関係の主体と準拠法】
- 13回 国際財産法(5)その他の問題【知的財産、物権、債権譲渡】
- 14回 国際民事訴訟法(3)【外国判決の承認執行】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題... 40% 期末試験... 60%
※出席点はありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前準備は特に不要。復習すべき要点を授業中に指摘する。

履修上の注意 /Remarks

受講に際しては六法が必要です。
法律学科以外の学生は、「法の適用に関する通則法」をコピーでもよいから準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

他の受講生の受講機会を阻害するような私語には（もしあれば）厳しく対処します。

キーワード /Keywords

国際私法、国際取引、国際結婚

国際取引法 【昼】

担当者名 /Instructor 大隈 一武 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際取引法は、単独法として存在するものではない。企業実務において展開されてきた実務先行で、学問としてはまだ確立していない分野である。企業実務における経験から、それを国際契約法、海外投資・企業経営関係法、通商法の3つに分類して授業を行う。

教科書 /Textbooks

なし。プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大隈一武『国際契約法入門』（中央経済社・1996）
外務省経済局監修『世界貿易機関を設立するマラケシュ協定WTO』（日本国際問題研究所・1997）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際契約：英米法契約理論-例えば、【約因】、【コモンロー】、【衡平法】理論・判例検討
- 2回 契約条件と国際貿易条件【インコタームズ】、契約約款などを検討
- 3回 国際取引と制限：【OECD賄賂禁止条約】、【輸出管理ワッセナー取り決め】、歴史的展開
- 4回 国際契約書の起草：海外工事請負契約UNCITRALガイド参照、契約書のドラフティング
- 5回 国際取引諸条約（国際海上物品運送・国際物品売買条約【CISG】など）や荷為替信用状規則【L/C】など
- 6回 海外進出：投資・企業経営-単独進出と企業買収・合併など実務的な展開と内容を検討
- 7回 企業経営：株式会社・【パートナーシップ】の異同を理解し、海外合併事業の方法論、実務
- 8回～9回 投資協定、投資保証、多国間投資保証機関【MIGA】、【OECD多国籍企業ガイドライン】
- 10回 通商法：自由貿易地域と関税同盟の異同、実態、国際的動向、わが国の対応などを検討
- 11回 ブロック経済と世界貿易機関【WTO】：上記10との関連で、WTOの調整・問題点を検討
- 12回～14回 GATTからWTOへ：WTOの組織、諸協定：【紛争解決のメカニズム】
- 15回 【OECD】、【IBRD】、【IMF】などの国際機関の機能と役割：WTO以外の重要な国際機関の機能と役割を理解し、わが国の対応のあり方についても検討

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%
なお、出席が授業回数の3分の2に満たない場合は期末試験の受験資格を認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代国際関係法【昼】

担当者名 /Instructor 中川 智治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会において問題とされている環境問題について国際法の観点から講義する。

講義全体のキーワードとしては、地球環境問題、生物多様性、国際機構

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松井芳郎『国際環境法の基本原則』（東信堂、2010年）
 Patricia Birnie and Alan Boyle, International Law and Environment (3rd ed., OUP, 2009)
 パトリシア・バーニー/アラン・ボイル『国際環境法』（慶應義塾大学出版会、2007年）
 西井正弘〔編〕『地球環境条約：生成・展開と国内実施』（有斐閣、2005年）○
 地球環境法研究会〔編〕『地球環境条約集（第4版）』（中央法規出版、2003年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下の内容を予定している。

- 1回 環境問題の国際化の歴史I【オットセイ保護】【トレイル熔鉱所事件】
- 2回 環境問題の国際化の歴史II【海洋汚染】【国連人間環境会議】【国連環境開発会議】
- 3回 国際環境法の構造I【国際責任】【国際制度による規制と監督】
- 4回 国際環境法の構造II【天然資源に対する恒久主権】【リオ宣言】
- 5回 国際環境法の構造III【人権アプローチ】【犯罪化と管轄問題】
- 6回 海洋環境の保護【国連海洋法条約】【寄港国管轄権】【地域漁業管理機関】
- 7回 有害廃棄物の国際的規制【陸上起因】【海洋投棄】【バーゼル条約】
- 8回 原子力と環境【原子力の国際的管理】【原子力損害責任】【プルトニウム輸送】
- 9回 自然保護【UNEP】【世界自然憲章】
- 10回 動植物の保護【ワシントン条約】【ラムサール条約】
- 11回 生物多様性の保護【生物多様性条約】【締約国会議方式】
- 12回 海洋生物資源の保護【公海漁業】【魚種別規制】【地域漁業管理機関】
- 13回 環境保護と貿易問題【WTO】【GATT 20条】【エコラベル】
- 14回 国際環境ガバナンス【国際環境政策の展開】【国際機構の展開】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学修状況（小テストなど）... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門教育科目の「国際法・II」のいずれかを既に学修しているほうが望ましい。
 参考文献を事前ないし事後に参照し自己学修を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

北九州市立大学学則の第33条に従い、2単位90時間の学修時間を確保するため、1回の講義あたり各自が参考図書等を利用して個人で行う講義外学修が、4時間程度行われる前提で講義を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法総則【昼】

担当者名
/Instructor

中山 布紗 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法は、家族や財産、契約といった、社会生活における身近な人間関係の中で形成される基本的な「権利」や「義務」について定めた法律です。民法典は、5つの編(総則・物権・債権・親族・相続)に分かれています。民法総則はその1番目にあたる編で、残り4編の通則的事項を抽出した規定が配列されています(1条~174条の2)。民法とりわけ総則編の条文は、抽象的な内容であることに加え、普段耳慣れない難しい用語もたくさん出てきますので、一見とつきにくいと思われることでしょう。しかし、民法総則は、民法全体を貫く基本的な原理について定めた条文群ですから、今後、民法の具体的な内容について学習するための「パスポート」的な役割を果たします。

この講義では、民法の原理・原則、法律用語の意味をひとつひとつ確認しながら、「法的なものの考え方」を身に付けてもらうことを目的とします。法的なものの考え方とは、「いかにして他人を説得させることができるか。」という観点から、結論に至る妥当な理由付けを紡ぎだすことです。皆さんも、学んだ知識を、具体的な事案(紛争)を解決するための道具として使いこなせるように努力してください。

教科書 /Textbooks

- ①佐久間毅『民法の基礎<1>総則(第3版補訂)』(有斐閣、2009年、3150円)。
- ②中田裕康ほか編『民法判例百選1・総則・物権(第6版)』(有斐閣、2009年、2200円)。
- ③六法(出版社は問わない。ただし、定期試験には判例なし六法(書き込みなし)の持参のみ許可する。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス-民法総則とは何か / 講義の狙いと注意
- 第2回 人①- 権利能力の始期と終期 / 胎児の権利能力 / 同時死亡の推定
- 第3回 人②- 失踪宣告
- 第4回 法律行為の分類と内容確定 / 意思主義と表示主義
- 第5回 制限行為能力者制度①
- 第6回 制限行為能力者制度②
- 第7回 意思表示の瑕疵①心裡留保 / 虚偽表示
- 第8回 意思表示の瑕疵②錯誤
- 第9回 意思表示の瑕疵③詐欺・強迫
- 第10回 強行規定と任意規定 / 公序良俗違反
- 第11回 無効と取消し
- 第12回 代理総論 / 有権代理論
- 第13回 無権代理論①
- 第14回 無権代理論②表見代理 - 代理権授与の表示による表見代理
- 第15回 無権代理論③表見代理 - 権限超越の表見代理
- 第16回 無権代理論④表見代理 - 代理権消滅後の表見代理 / 表見代理規定の競合
- 第17回 無権代理論⑤代理権濫用
- 第18回 無権代理人の責任
- 第19回 無権代理と相続
- 第20回 代理のまとめ
- 第21回 条件と期限
- 第22回 法人①
- 第23回 法人②
- 第24回 時効①
- 第25回 時効②
- 第26回 時効③
- 第27回 民法の基本原則 - 権利濫用・信義則
- 第28回 民法94条2項類推適用論①
- 第29回 民法94条2項類推適用論②
- 第30回 民法事例問題の解き方 / 法律的に「論じる」ことの意義

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験により評価します(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民法総則【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義には、先に挙げた指定教科書等①、②、③すべて（三点セット）を毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

物権法 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが生活をするに際しては、どうしても様々な物資が必要となります。そして、それらの物資を対象とする権利が物権であると言えます。この講義では、民法の中で、物権について規定している「物権編」について学習します。

教科書 /Textbooks

有斐閣のSシリーズの物権

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス。民法の学び方。民法には何が書いてあるか。
- 2回 【物権】とは(【債権】との違い)
- 3回 【物権法定主義】
- 4回 【不動産物権変動】その1
- 5回 不動産物権変動その2
- 6回 不動産物権変動その3
- 7回 不動産物権変動その4
- 8回 【動産物権変動】
- 9回 【占有権】、【所有権】、【相隣関係】、【制限物権】
- 10回 【担保】とは。【債権者平等の原則】
- 11回 【留置権】、【先取特権】、【質権】
- 12回 【物上代位】
- 13回 【法定地上権】、【用益権】との調整
- 14回 【共同抵当】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法は必ず持参すること。物権法の学習にあたっては、「民法総則」の学習をすることが望まれる。

履修上の注意 /Remarks

受講にあたっては、筆記作業を厭わないことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

物権

家族法 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思いがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講説親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社（2007年8月）3,000円、水野紀子他編著『家族法判例百選（第7版）』有斐閣（2008年10月）2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助＝泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化 3,800円、○二宮周平『家族法（第2版）』新世社 3,100円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻】【婚約】【内縁】
- 3回 婚姻制度②【婚姻】【婚約】【内縁】
- 4回 婚姻制度③【婚姻】【婚約】【内縁】
- 5回 離婚制度①【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 6回 離婚制度②【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 7回 離婚制度③【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 8回 親子制度①【実子】【養子】【親権】【後見】
- 9回 親子制度②【実子】【養子】【親権】【後見】
- 10回 親子制度③【実子】【養子】【親権】【後見】
- 11回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 12回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 13回 法定相続制度②【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 14回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」「民法総則」、「物権法」を既に履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。「債権総論」と併せて受講することを勧めます。

講義には必ず六法を持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

債権総論【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

わが国の民法典は、その第三編 債権 第一章 総則(第399条~第520条)において、債権法の共通規範に関する諸規定を設けている。具体的に見ると、「債権の目的」「債権の効力」「多数当事者の債権及び債務」「債権の譲渡」そして、「債権の消滅」に関わる規定が置かれている。要するに、発生した債権がどのような内容のものであるのか、どのような効力があるのか、どのように消滅していくのか、また、当事者が複数である場合や発生した債権を譲り渡す場合はどうなるのか、という各局面について規律しているのである。

本講義のねらいは、上記各局面に関する法制度の基本構造およびこれらの法制度を規定する重要条文に関わる解釈(論)について、要点を絞った解説を行い、「債権の共通規範」であるこれらの法制度が現代社会においてどのような機能を実際に果たしているかということについて、理解を深めることにある。

抽象度の高い条文が数多く、その理解が難しいとされる債権総論ではあるが、できる限り具体的なケースを交えながら、受講生諸君の理解度の向上に努めたい。

教科書 /Textbooks

- ①清水元『プログレッシブ民法[債権総論]』(成文堂、2010年)
- ②中田裕康ほか編『民法判例百選II 債権[第6版](別冊ジュリストNo.196)』(有斐閣、2009年)
- ③最新版の小型六法

※上記「3点セット」を必ず購入・毎回持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○野澤正充『債権総論[セカンドステージ債権法II]』(日本評論社、2009年)をさしあたり挙げておく。その他の参考書については、毎週配布する講義レジュメの【文献案内】欄で紹介する予定である。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード) ※毎回レジュメ(2種類)を配布するが、教科書等での予習・復習は必須である。レジュメはあくまで「補助教材」でしかないことに注意。

第1回: 序論(債権総論で学ぶこと)【債権の性質】

第2回: 債権の内容および種類【特定物債権】【種類債権】【金銭債権】

第3回~第9回: 債権の効力【債務と責任】【自然債務】【強制履行】【債務不履行】【履行遅滞】【履行不能】【不完全履行】【損害賠償】【相当因果関係】【過失相殺】【損益相殺】【受領遅滞】【債権の対外的効力】

第10回~第15回: 責任財産の保全【責任財産とは?】【債権者代位権】【無資力要件】【詐害行為取消権(債権者取消権)】【責任説】【相対的取消し】

第16回~第20回: 多数当事者の債権関係【分割債権・分割債務】【不可分債権・不可分債務】【連帯債務】【絶対的効力・相対的効力】【負担部分】【不真正連帯債務】【保証債務】【催告の抗弁権・検索の抗弁権】【求償権】【連帯保証】【共同保証】【分別の利益】【根保証】

第21回~第24回: 債権債務の移転【債権譲渡】【債務者の異議をとどめない承諾】【将来債権の譲渡】

【証券的債権の譲渡】【債務引受け】【契約上の地位の移転】

第25回~第29回: 債権の消滅【弁済】【第三者による弁済】【弁済による代位】【債権の準占有者に対する弁済】【代物弁済】【供託】【相殺】【相殺の担保的機能】【相殺適状】【差押えと相殺】【更改・免除・混同】

第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

※定期試験の成績...90%

※抜き打ち小テスト...10%

*上記の合算で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「予習・復習」を心がけること。教科書①の頁を指示するので、次の週までに必ず熟読(無理な場合は、ざっと目を通すだけでもよい。)してこること。また、「民法総則」や「物権法」の内容も併せて復習しておくこと本講義の理解が深まるであろう。

履修上の注意 /Remarks

「民法総則」および「物権法」をまったく履修していない場合、本講義の理解はきわめて困難なものとなろう。自学習でよいから、民法総則および物権法の学修をしておくことを強く勧める。

債権総論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

抽象度の高い条文が数多く、難解な債権総論ですが、頑張って喰らいついてください。定期試験で好成績を獲得するためには、やはり、日々の予習・復習が必須だと思います。遠慮せずにオフィス・アワーも活用して、どしどし質問をしてください。お待ちしております。

キーワード /Keywords

債権法

債権各論【昼】

担当者名 河津 八平 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

債権各論は、民法財産法の一領域であり、債権発生原因としての契約、事務管理、不当利得、不法行為が規定してあります。契約は、全ての契約に共通する契約総論と、13種の典型契約とその他の非典型契約を対象とする契約各論とに分けることができます。事務管理、不当利得、不法行為は、契約によらない債権発生原因であります。特に不当利得と不法行為は、法律上の問題点の発生頻度が高い。この授業では、それぞれの項目の基本概念や重要論点を皆さんが理解し易いように話し、皆さんの法的思考力を育成できるようにしたい。皆さんは、重要基本論点をしっかりマスターして、さらに発展論点を理解できるようになればなおよいと思います。

教科書 /Textbooks

著者名一伊藤 真
書籍名一試験対策講座 4 債権各論(第3版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業の際に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目一[契約総論]一債権各論の全体像・契約の成立過程(申込みと承諾)
- 2回目一契約存続中の関係[成立上の牽連関係、履行上の牽連関係(同時履行の抗弁権)]
- 3回目一存続上の牽連関係(危険負担)
- 4回目一存続上の牽連関係(危険負担)
- 5回目一第三者のためにする契約、契約の終了、
- 6回目一解除(法定解除権の発生要件・その行使、解除の効果)
- 7回目一解除(法定解除権の発生要件・その行使、解除の効果)
- 8回目一有償契約の問題(担保責任)
- 9回目一有償契約の問題(担保責任)
- 10回目一[契約各論]一典型契約の法的性質、贈与
- 11回目一売買(売買の成立、売買の効力、特殊の販売、買戻し)
- 12回目一売買(売買の成立、売買の効力、特殊の販売、買戻し)
- 13回目一消費貸借、消費貸借
- 14回目一賃貸借(賃貸借の成立・存続期間、賃借権の譲渡・目的物の転貸、賃借人の第三者に対する関係)
- 15回目一賃貸借(賃貸借の成立・存続期間、賃借権の譲渡・目的物の転貸、賃借人の第三者に対する関係)
- 16回目一賃貸借(賃貸借の成立・存続期間、賃借権の譲渡・目的物の転貸、賃借人の第三者に対する関係)
- 17回目一請負
- 18回目一委任、寄託、和解
- 19回目一事務管理
- 20回目一一般不当利得
- 21回目一一般不当利得、特殊の不当利得
- 22回目一不法行為[一般不法行為の要件(故意過失、責任能力、権利侵害、損害、因果関係、違法性阻却事由)]
- 23回目一不法行為[一般不法行為の要件(故意過失、責任能力、権利侵害、損害、因果関係、違法性阻却事由)]
- 24回目一不法行為[一般不法行為の要件(故意過失、責任能力、権利侵害、損害、因果関係、違法性阻却事由)]
- 25回目一不法行為[一般不法行為の効果(請求権者、損害賠償の範囲と額の算定、損害賠償請求権の性質)]
- 26回目一不法行為[特殊の不法行為(監督者責任、使用者責任)]
- 27回目一不法行為[特殊の不法行為(工作物責任)]
- 28回目一不法行為[特殊の不法行為(共同不法行為)]
- 29回目一不法行為[特殊の不法行為(共同不法行為)]
- 30回目一まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験一90%、授業への取り組み一10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

債権各論【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習と復習を必ず実行してください。

履修上の注意 /Remarks

債権各論は、木曜日の4限目と5限目に組まれていますので、4限目・5限目連続して、1回目、2回目、3回目と順次に授業をしますのでご理解いただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書は、指定の「債権各論」一冊で4限目・5限目の授業をします。授業のときには、必ず六法を携帯してください。できれば、判例の入った六法がのぞましい。

キーワード /Keywords

契約、解除、担保責任、賃貸借、不当利得、不法行為

民事訴訟法総論【昼】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法の内、判決手続に関する基本的かつ体系的な知識について解説します。民事訴訟法各論を履修する前に、民事訴訟法総論を履修することが望ましいです。

この科目を履修することにより、民事訴訟法の基本原則、重要単語を理解することができるようになります。

教科書 /Textbooks

最初の授業時に紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 民事訴訟とは 【各種訴訟】 【判決手続】
- 第2回 訴訟手続の概要について 【手続の流れ】
- 第3回 当事者 【当事者能力】 【訴訟能力】
- 第4回 裁判所 【裁判権】 【管轄】
- 第5回 訴えの提起 【訴えの種類】 (小テスト)
- 第6回 訴えの利益 【訴えの利益】 【当事者適格】
- 第7回 争点整理手続1 【弁論準備手続】
- 第8回 争点整理手続2 【弁論準備手続】
- 第9回 口頭弁論1 【処分権主義】 【弁論主義】
- 第10回 口頭弁論2 【口頭弁論】 (小テスト)
- 第11回 証拠1 【証拠】
- 第12回 証拠2 【証明責任】
- 第13回 訴訟の終了1 【判決】 【既判力】
- 第14回 訴訟の終了2 【既判力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献等を利用して、授業の予習、復習をかかさないようにすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法各論【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法について、判決手続に関するより重要な問題について学習します。民事訴訟法総論（民事判決手続I）に比べると、内容は高度ですので、民事訴訟法総論を履修していると本講義の理解が深いものとなります。

教科書 /Textbooks

テキストを使用します。後日、指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の際に紹介します。適宜、プリントを配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 当事者について 【当事者能力】、【訴訟能力】
- 2回 代理人について 【法定代理人】、【任意代理人】
- 3回 裁判所について 【管轄】、【移送】
- 4回 訴えの提起 【訴え提起】、【二重起訴】
- 5回 口頭弁論I 【訴訟要件】、【処分権主義】、【一部請求】
- 6回 口頭弁論II 【弁論主義】、【主要事実】、【当事者の欠席】
- 7回 訴訟行為 【訴訟上の合意】、【訴訟行為の性質、効果】
- 8回 証拠I 【自白】、【文書提出命令】
- 9回 証拠II 【証明】、
- 10回 判決I 【相殺の抗弁】、【口頭弁論終了後の承継人】
- 11回 判決II 【和解調書】、【訴訟の終了】
- 12回 上訴 【上訴の利益】
- 13回 多数当事者訴訟 【共同訴訟】、【訴訟参加】
- 14回 請求の複数 【訴えの客観的併合】、【訴えの変更】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 「民事訴訟法総論」が基礎的な科目なので、先ず「総論」を履修することが望ましいです。
- ・ 1学期に比べ、内容的に高度なので、テキストによる予習、配布プリント・板書ノート等による予習・復習を欠かさないことが重要です。
- ・ 授業の進行状況により、授業スケジュールが前後することがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倒産処理法 【昼】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

債務者が経済的に破綻状態になったときには、利害関係人の利害を公平に調整する必要が生じます。この利害関係人との利益を調整することを目的とする法体系を、倒産法といいます。近年の経済状況の激変を受け、倒産法制度の改革が現在進んでいます。本講義を受講することにより、倒産処理の中心となる破産法についての知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

宗田親彦編 『やさしい倒産法 [第七版]』 (法学書院) 2 6 0 0 円 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、最初の講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倒産とは、 【破産】、【民事再生】、【会社更生】
- 2回 破産手続の概要
- 3回 手続の開始、 【裁判所】、【破産管財人】
- 4回 債権の行使方法I 【債権の届出】
- 5回 債権の行使方法II 【債権の確定】
- 6回 担保権の行使 【担保権】
- 7回 相殺権の行使 【相殺権】
- 8回 否認権の行使 【否認権】
- 9回 取戻権の行使 【取戻権】
- 10回 双務契約の処理 【売買契約】
- 11回 賃貸借契約、雇用契約等の処理 【賃貸借契約】、【雇用契約】
- 12回 配当、免責、手続の終了 【免責】
- 13回 民事再生法について
- 14回 会社更生法について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自主的に予習・復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事執行法【昼】

担当者名 /Instructor 中村 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事執行法の基礎を学ぶ。私法上の権利が最終的にどのようにして実現されるのか、その手続に関する基礎的知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし。講義の際にレジメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

有斐閣双書 「民事執行・保全法概説」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

民事執行法の基礎について順次概説する。

- 第1回 民事執行法の概要
- 第2回 執行関係者、強制執行の種類
- 第3回 債務名義とは何か
- 第4回 各種債務名義の概要
- 第5回 執行文
- 第6回 請求異議の訴え
- 第7回 執行手続における不服申立
- 第8回 強制執行開始の要件
- 第9回 不動産執行その1
- 第10回 不動産執行その2
- 第11回 動産執行
- 第12回 債権執行その1
- 第13回 債権執行その2
- 第14回 非金銭執行の概要
- 第15回 代替執行、間接強制

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験のみ。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民事執行法を理解する前提として民事訴訟法の基礎知識(訴訟物・既判力・執行力など)が必要であるから履修の有無にかかわらず、各自学習しておくこと。民事訴訟法の教科書を持っていない学生には有斐閣双書「民事訴訟法」を勧める。また実体法の知識なしに手続法を学んでも意味がないから、実体法、特に民法は学習すること。

講義には六法を持参すること。

授業で配布するレジメはよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

消費者法【昼】

担当者名 /Instructor 山根 聡恵 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、民法との比較を通じて、消費者と事業者との取引における紛争を解決するための手段としての消費者法に関する基礎知識および制度概要の習得を目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大村敦志『消費者法第3版』有斐閣
- 伊藤進他編『テキストブック消費者法』日本評論社
- 日本弁護士連合会『消費者法講義』日本評論社
- 森島昭夫他編『消費法判例百選』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 民法と消費者保護(1)
- 3回 民法と消費者保護(2)
- 4回 民法と消費者保護(3)
- 5回 消費者契約法(1)
- 6回 消費者契約法(2)
- 7回 特定商取引法(1)
- 8回 特定商取引法(2)
- 9回 割賦販売法(1)
- 10回 割賦販売法(2)
- 11回 消費者信用(1)
- 12回 消費者信用(2)
- 13回 製造物責任法(1)
- 14回 製造物責任法(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% 平常の学習状況...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義を受講する前に、民法科目のうち、財産法(民法総則、物権、債権総論、債権各論)に関する教科書や参考文献にあらかじめ目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

消費者契約、割賦販売、通信販売、訪問販売、クーリングオフなど

会社法I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の機関(1)【株主総会(1)】
- 6回 株式会社の機関(2)【株主総会(2)】
- 7回 株式会社の機関(3)【代表取締役と取締役会(1)】
- 8回 株式会社の機関(4)【代表取締役と取締役会(2)】
- 9回 株式会社の機関(5)【監査役】【会計監査人】
- 10回 株式会社の機関(6)【委員会設置会社】
- 11回 株式会社の機関(7)【善管注意義務と忠実義務】【利益相反取引】【役員報酬】
- 12回 株式会社の機関(8)【役員等の会社に対する責任】
- 13回 株式会社の機関(9)【役員等の第三者に対する責任】
- 14回 株式会社の機関(10)【株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法II 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1) 【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2) 【株式の譲渡】 【自己株式】
- 4回 株式会社の資金調達(3) 【株式の発行】
- 5回 株式会社の資金調達(4) 【株式発行の瑕疵】
- 6回 株式会社の資金調達(5) 【新株予約権】
- 7回 株式会社の資金調達(6) 【新株予約権発行の瑕疵】
- 8回 株式会社の資金調達(7) 【社債】
- 9回 株式会社の計算(1) 【貸借対照表】 【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2) 【剰余金の配当】
- 11回 株式会社の計算(3) 【資本金の減少】 【財務構成の変更】
- 12回 株式会社の組織再編(1) 【概要】 【事業譲渡】
- 13回 株式会社の組織再編(2) 【合併】 【会社分割】
- 14回 株式会社の組織再編(3) 【株式交換】 【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』中の「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題をいくつか取り上げ、これらにつき解説をすることです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。
六法については、平成22年度版以降であることが必要です。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【 】はキーワード)

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 第2回 民法に対する商法の特色は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 第3回 商人とは何か【固有の商人】【擬製商人】【会社】
- 第4回 商行為とは何か【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 第5回 企業形態と武装手段 【会社の種類】【政治献金】【会社制度の濫用】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1) 【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護【周知性・著名性】
- 第9回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1) 【商業使用人の3類型】【雇用】
- 第10回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2) 【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3) 【表見支配人】【その他の商業使用人】
- 第12回 企業活動と消費者(1) 【普通取引約款の利用】
- 第13回 営業・事業に関する重要事項の「公示」はどのように行われるべきか【商業登記】
- 第14回 営業・事業に関する重要事項が「公示」されるとどのような効果が生じるか【登記の効力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポートを含む授業への参加度...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したのもも持参の上、講義を受けるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象となる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶発的なリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引に「限定」されます。

そして、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の基本的枠組みを理解することにあります。火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する法律問題や犯罪を取り上げながら、保険法の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成22年度版以降であることが必要です。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順に進めますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。(【】はキーワード)

- 第1回 保険制度の目的と役割 【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
- 第2回 保険契約の種類と特徴 【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
- 第3回 保険法改正の概要
- 第4回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 第5回 保険契約における告知義務 (1) 告知義務制度の背景・告知者とその相手方
- 第6回 保険契約における告知義務 (2) 告知義務の内容・告知事項
- 第7回 保険契約における告知義務 (3) 告知義務違反の効果
- 第8回 保険契約における告知義務 (4) 事例研究とまとめ
- 第9回 損害保険契約 【被保険利益】
- 第10回 損害保険契約 【保険代位】
- 第11回 各種の損害保険契約一個別の問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 第12回 生命保険契約・傷害保険に特有の問題
- 第13回 保険契約における事情変更・失効
- 第14回 保険者(保険会社)の免責と約款における免責条項の有効性
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%、授業の理解度を把握するために随時実施する小テストの結果を含む日常的授業への参加度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」を合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。
また、私的生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したのもも持参の上、講義を受けるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠償保険、火災保険、地震保険、医療保険、

企業取引法II【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

われわれの日常生活では、モノを購入する場合、現金で支払いをする事が多い。最近では、電子マネーで支払いをする事も増えている。金額の大きいモノを買う場合は、クレジットカードで支払いをする者もいる。しかし、企業が企業活動において取引をする場合、現金を用いることはなく、今日でも手形で支払いをするのが主流である。従って、例えば、就職後、職場で手形を振出したり、あるいは手形を受け取ったりするかもしれない。法(とりわけ私法)は、通常は、常識に従って行動している者の味方である。ところが、企業決済に関わる手形・小切手法の問題は、技術的な側面が強く、単に常識に従って行動してただけでは、思わぬ失敗を犯しかねない。マンガでも「ナニワ金融道」の中で、手形を届けることを頼まれた従業員が、相手方に「受取り署名そしてくれ」と騙されて、手形に裏書署名をして莫大な金額の責任を負う話があった。

本講義を通じて手形・小切手法を学ぶことで、手形・小切手が社会の中でどのように使われているのか、なぜ手形・小切手が企業決済に使われているのかを理解することができる。また、手形・小切手を取り扱う場合の基本的な考え方を理解し、手形・小切手に関係する者たち(振出人、受取人、所持人等)の利害調整に関し法律上のルールを制定法、判例等の具体例を通じて理解することができる。

教科書 /Textbooks

大塚龍児他「商法III - 手形・小切手(第3版)」(有斐閣Sシリーズ・2006年)2000円。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ①体系書：川村正幸「手形・小切手法(第3版)」(新世社・2005年)、関俊彦「金融手形小切手法(新版)」(商事法務研究会・2003年)。
- ②判例：落合誠一編「手形小切手判例百選(第6版)」(別冊ジュリスト173号)(有斐閣・2004年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 手形・小切手法を学ぶこと
- 第2回 手形・小切手は社会の中でどのように使われているか【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(1)【有価証券】
- 第4回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(2)【証拠証券、免責証券、金券】
- 第5回 手形・小切手を振り出してみる(1)【原因関係、商業手形、融通手形】
- 第6回 手形・小切手を振り出してみる(2)【手形署名、手形行為、手形理論】
- 第7回 手形・小切手を振り出してみる(3)【民法の意思表示の瑕疵に関する条項と手形行為】
- 第8回 手形・小切手を振り出してみる(4)【会社による手形振出、手形の偽造・変造】
- 第9回 手形・小切手を振り出してみる(5)【手形要件】
- 第10回 手形・小切手を振り出してみる(6)【白地手形】
- 第11回 手形を満期前に譲渡する(1)【裏書、裏書の連続】
- 第12回 手形を満期前に譲渡する(2)【人的抗弁の制限】
- 第13回 手形が盗まれてしまった!(1)【善意取得】
- 第14回 手形が盗まれてしまった!(2)【公示催告、除権決定、手形訴訟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果という観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。この場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記するのではなく、考えてみること(プロセス)が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあって、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

予習せずに講義を聞いただけで、手形・小切手の問題を理解することは困難である(手形・小切手法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...)。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

履修上の注意 /Remarks

講義中に、手形法、小切手法、商法、会社法、民法、民事訴訟法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、(できれば最新の)六法(但し、コンパクトなものでよい)を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場と法【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

証券市場は言うまでもなく企業の資金調達場である。またわれわれ一般の市民も、その資産の一部を証券投資に回している。1929年10月24日合衆国を襲った「暗黒の木曜日」は、単に証券取引所での証券価格の大暴落にとどまらず、企業の倒産、大量の失業者・破産者の発生、最終的には世界戦争に至るほどの経済の低迷を招いた。最近でも、やはり合衆国におけるサブプライム問題に端を発した、2008年9月の「リーマン・ショック」は、世界的な金融危機を招いた事件として記憶に新しい。証券市場は、証券を保有する者に限らず、経済活動のインフラストラクチャーとして、われわれの生活にも大きな影響を持っている。

本講義を受講することで、金融商品、証券市場、上場会社の情報開示、公認会計士による財務諸表監査の意義、証券会社の投資勧誘規制、投資者保護の意味等について、その基本的な仕組みと関係を知ることができる。おもに「金融商品取引法」を中心に講義が進むが、悪文(！)で知られる同法の条文について、同法の体系、趣旨を踏まえ、個別の問題(粉飾決算に関する損害賠償請求、インサイダー取引規制、証券会社の説明義務違反等)を同法がどのように規制し、どのように解決しようとしているのかを知ることができる。講義は、総論的な部分(第1回～第5回)、情報開示(第6回～第9回)、市場規制(第10回～第11回)および投資勧誘規制(第12回～第15回)まで、4部構成である。

教科書 /Textbooks

岸田雅雄「金融商品取引法」(新世社・2010年)3000円。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

近藤光男=吉原和志=黒沼悦郎「金融商品取引法入門」(商事法務研究会・2009年)、河本一郎=大武泰南「金融商品取引法読本」(有斐閣・2008年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 百年に一度の危機?!また市場の大暴落で損をってしまった【大恐慌から生まれた証券取引法】
- 第2回 株を買ってみる。損をしないための心得【預金から投資へ、郵政民営化と投資者保護法制】
- 第3回 金融商品とは何か?(1)【有価証券、デリバティブ】
- 第4回 金融商品とは何か?(2)【二クソン・ショック、ポートフォリオ・セレクション、金融自由化】
- 第5回 金融商品取引法の目的【自己責任原則】
- 第6回 発行会社として情報を開示する(1)【有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書】
- 第7回 発行会社として情報を開示する(2)【内部統制報告書、財務諸表に対する会計士監査】
- 第8回 粉飾決算で投資者から訴えられた!【有価証券報告書虚偽記載、取得時差額損害】
- 第9回 企業買収に関する情報開示【TOB、5%ルール】
- 第10回 証券市場はどのように規制されているのか?(1)【相場操縦、風説の流布】
- 第11回 証券市場はどのように規制されているのか?(2)【インサイダー取引】
- 第12回 金融商品取引業者とは何だろうか?【証券会社、登録制】
- 第13回 証券会社は顧客を喰い物していないか?(1)【適合性原則、説明義務】
- 第14回 証券会社は投資者喰い物していないか?(2)【金融庁、証券取引等監視委員会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果の観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。その場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記をするのではなく、考えてみる(プロセス)が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあって、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

予習せずに講義を聞いただけで、金融商品取引法の問題を理解することは困難である(金融商品取引法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...)。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

履修上の注意 /Remarks

講義中に、金融商品取引法、金融商品の販売等に関する法律、消費者契約法、会社法、商法、手形法、刑法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、(金融商品取引法は毎年のように改正されるので)最新の六法(但し、コンパクトなものでよい)を持ってくること。

証券市場と法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主として著作権法と不正競争防止法の領域を扱う。ここでは、単なる法解釈だけでなくコンテンツ産業の契約実務、新コンテンツ産業を立ち上げる際の戦略的立法等まで含めた内容を扱う。音楽産業と法律、映画産業と法律、出版産業と法律、放送事業と法律・・・等々、各産業毎に前述した法領域の諸問題を検討する

教科書 /Textbooks

特許庁標準テキスト「意匠編」「商標編」「総合編」。以上三冊は無償配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

有斐閣別冊ジュリスト「著作権判例百選」
鹿毛丈司著「音楽著作権と原盤権ケーススタディ」音楽之友社
有斐閣別冊ジュリスト「商標・意匠・不正競争判例百選」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 著作権法概論～知的財産権と著作権制度の概要
2. 著作権の保護客体～著作物の定義と種類、プログラムの著作物、データベースの著作物二次的著作物および編集著作物、キャラクター、タイプフェイス等
3. 著作者～著作者、法人著作
4. 著作者人格権～公表権、氏名表示権、同一性保持権
5. 著作者～著作者、法人著作、共同著作、映画の著作物
6. 著作権(著作財産権)Ⅰ
7. 著作権(著作財産権)Ⅱ
8. 著作隣接権～概論
9. 出版権～概論
10. 著作権侵害
 11. 音楽産業と契約実務
 12. 映画産業と契約実務
 13. 放送事業と契約実務
 14. 商標権侵害・不正競争行為
 15. まとめ
 16. 学年末定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験の比重は約5割、残りは最終判例評訳レポートや授業時の発表内容、授業のリフレクションペーパー等の資料を利用して総合的に評価する。
授業に対する準備事項

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>

履修上の注意 /Remarks

単なる教科書の知識だけでなく、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com
スカイプID kim-lab

キーワード /Keywords

著作権 著作者人格権 著作隣接権 原盤権 出版権

公共政策論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 子どもの貧困(1)・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困(2)・・・日本における子どもの貧困の現状を考える
- 6回 子どもの貧困(3)・・・子どもの貧困をどうするか、大学生の状況は？
- 7回 子どもの貧困(4)・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 循環型社会(1)・・・導入、リサイクルは環境に優しいのか？
- 9回 循環型社会(2)・・・容器包装リサイクル法
- 10回 循環型社会(3)・・・家電リサイクル法
- 11回 介護保険(1)・・・導入
- 12回 介護保険(2)・・・現状分析
- 13回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 14回 介護保険(4)・・・介護保険の改革
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50%、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いてもらい成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を変更する予定であるので、第一回目の講義には必ず参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、循環型社会、介護保険

政策過程論 【昼】

担当者名 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free rider)・ 政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。
- ②政策の決定 (Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 : Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、政策の窓 (Policy Window) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ③政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係]について理解してもらう。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』 (早川純一外著 学陽書房 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 ¥ 2,940)
- 『政治過程論』 (伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 ¥ 2,625)
- 『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 ¥ 3,568)
- 『政策過程分析入門』 (草野厚著 東京大学出版会 ¥ 2,625)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の類型など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例 : 川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 4回 政策過程の理論 1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析 1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論 2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論 3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析 2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表!
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策I (政府間関係、利益誘導政治)
- 12回 政府間関係と自治体の政策II (地方の変革・ 事例 : 名古屋市)
- 13回 本のレポート発表
- 14回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 15回 関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・ ポスター発表-30%、本のレポートと発表-20%、 期末試験-50%
(レポートの未提出者・ 発表をしてない学生は期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ生の活動・ 授業内容については、
ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>
申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>
を参照し、準備する。

政策過程論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公私、公共政策、政策の決定、実施、政策調整、終了、アクターの参加、メディアの役割、ガバナンス

政策評価論 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策評価について、学部レベルで理解しておくべき基礎的な知識を提供することにある。ただし、基礎的といっても評価研究は、理解しづらいところもあるので、そのつもりで参加するようにしていただきたい。

講義では、まず、アメリカを中心とした評価研究や評価手法を分析・検討する。その際、「セオリー評価」あるいは「ロジック・モデル」を中心として説明を行い、次に説明する「行政評価」の基礎的な知識を提供することにした。

次に、現代日本で最も頻繁に行われている行政評価やその問題点を検討し、今後日本の行政評価のあり方や新しい評価手法についてみていくことにしたい。

教科書 /Textbooks

教科書は用いない。ほぼ、毎回プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石原俊彦編著『自治体行政評価ケーススタディ』(東洋経済新報社、2005年)
- 龍慶昭・佐々木亮『「政策評価」の理論と技法』(多賀出版、2004年)
- 安田節之・渡辺直登『プログラム評価研究の方法』(新曜社、2008年)
- 古川俊一・北大路信郷『新版・公共部門評価の理論と実践 - 政府から非営利組織まで』(日本加除出版株式会社、2004年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入-「評価」とは何か?
- 第2回 「実験としての改革」-アメリカのプログラム評価の古典の意味するものは何か?!
- 第3回 セオリー評価(ロジック・モデル)
- 第4回 より複雑なロジック・モデルについて
- 第5回 プロセス評価
- 第6回 ロジック・モデル-NPOとの関連で
- 第7回 「行政評価」とは何か-最近15年ほどの潮流・動向を中心に
- 第8回 「行政評価」の活用 - 制度運用、結果の活用など
- 第9回 「行政評価」の影響 - 財政、行政サービス、職員意識などへのインパクトなど
- 第10回 「行政評価」における外部評価 - 意義、評価主体・評価のあり方など
- 第11回 行政評価の検討-三重県
- 第12回 行政評価の検討-三木市、静岡県の業務棚卸
- 第13回 行政評価の検討-名古屋市
- 第14回 行政評価の検討-福井市
- 第15回 行政評価の検討-パフォーマンス・メジャーメント(ポートランド市)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 70 % 授業貢献度...30% ただし、授業に出席しない学生には単位は与えない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するプリント教材の復習を必ず行うこと。また、授業に際しては前もって教材の指定した箇所を予習して授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

履修に際しては、行政学、地方自治論、公共政策、自治体政策論、政策調査論などの講義を受講しておくことがのぞましい。また、本年度より、榎原と横山によるオムニバス形式の授業になるため、授業内容を変更することもありうる。必ず第一回目の授業には参加するようにしていただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

評価、セオリー評価、ロジック・モデル、アウトカム、行政評価、業績測定(パフォーマンス・メジャーメント)

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。日本行政論をとっておくとより理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権

福祉国家論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向(どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか?)、②日本の社会保険の特徴(諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか?)。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題点
- 第9回「医療保険」 医療と規制緩和
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

年金や医療について関心をもっておいってください。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「デモクラシー」は一般に「良いもの」として描かれています。しかし、デモクラシーを採用している国の政治を見てみると、「あまり良いものとは思えないなあ」「現実の政治はデモクラシーと何か違うなあ」と感じる人は少なくないでしょう。本講義は、理念としてのデモクラシーと現実のデモクラシーとの違いに注目して、政治学の基礎的な概念等を解説します。具体的には①デモクラシーを支える政治制度、②デモクラシーにおける市民・議員等、③地方・国・国際等のレベルとデモクラシーとの関係、④デモクラシーの確立に向けた制度設計について、社会科学的視点から考察します。

本講義のねらいは、受講生の皆さんが、政治学の基礎的な概念等を理解し、デモクラシー及びそれを支える政治制度に対する社会科学的な視点を習得することです。講義全体のキーワードは、デモクラシーの理念と現実及び政治制度の機能と設計です。

教科書 /Textbooks

講義ノート
(詳細については、第1回授業で説明いたします)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回授業で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回: イントロダクション 【科学としての政治学】 【政治学の社会的役割】
 - 2回: デモクラシーと制度 【多数決原理】
 - 3回: デモクラシーと安定性① 【政権交代】 【政党制】
 - 4回: デモクラシーと安定性② 【二大政党制】 【中位投票者定理】 【多党制】
 - 5回: デモクラシーと代表① 【直接民主制】 【間接民主制】 【議会主義】 【行政国家】
 - 6回: デモクラシーと代表② 【代表と代表性】 【社会選択と投票方法】
 - 7回: デモクラシーと代表③ 【参加デモクラシー】 【市民参加】
 - 8回: デモクラシーと政治制度設計① 【制度設計指針】 【代表性と統治の効率性】 【拒否点】
 - 9回: デモクラシーと政治制度設計② 【議院内閣制】 【大統領制】 【選挙制度の類型化】
 - 10回: デモクラシーと政治制度設計③ 【小選挙区制】 【比例代表制】 【中選挙区制】 【混合型】
 - 11回: デモクラシーと政治制度設計④ 【単一国家】 【連邦制国家】 【一院制】 【二院制】
 - 12回: デモクラシーと政治制度設計⑤ 【重層的なデモクラシー】 【グローカリゼーション】
 - 13回: デモクラシーの展望① 【デモクラシーの安定】 【デモクラシーと個人】
 - 14回: デモクラシーの展望② 【政治的社会化】 【市民教育】 【利他的利己主義】
 - 15回: 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

(学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- 受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業では、政治制度、政治に参加する人々への理解を深めることに重点をおきます。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め - 第3版 -』有斐閣、2009年。
伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』有斐閣、2000年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 民主政治の諸制度(1)
- 第3回 民主政治の諸制度(2)
- 第4回 政治文化
- 第5回 マスメディア
- 第6回 政治参加・投票行動
- 第7回 政治家
- 第8回 政党
- 第9回 利益団体
- 第10回 官僚制
- 第11回 首相
- 第12回 地方政治(1)
- 第13回 地方政治(2)
- 第14回 政治体制
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (70%)、日常の授業への取り組み (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「政治学」をすでに履修している場合は、本講義の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代政治思想 【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代政治思想は、「現代」のさまざまな政治思想を取り扱うと同時に、現代政治についてのさまざまな理論化の試みも取り扱う。本講義では、まず、「政治思想とは何か」について論及し、次に、ヨーロッパ近代政治思想について論述する。その際、近代が政治をどのように捉え、何を切り捨ててきたのかという問題を取り上げ、さらに、その問題点が現代どのような形をとって現れてきているのかについても考察してみたい。また、いくつかの民主主義思想を取り上げ、欧米と日本との比較を行う。

教科書 /Textbooks

中道壽一『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）（○）。理解を深めるため、毎回レジュメを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は毎回、講義中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治思想とは何か【政治】【思想】【現代的意義】
- 第2回 政治思想(史)の方法について【思想史との関連】
- 第3回 政治思想(史)の方法について【比較政治思想の意義について】
- 第4回 近代・現代政治思想について【モダンとポストモダン】
- 第5回 ルネサンス・宗教改革の政治的意義について【思想のダイナミズム】【思想と政治の連動】
- 第6回 社会契約論の比較(1)【T・ホッブズの政治思想】【ピューリタン革命】
- 第7回 社会契約論の比較(2)【J・ロックの政治思想】【名誉革命】
- 第8回 社会契約論の比較(3)【J・J・ルソーの政治思想】【フランス革命】
- 第9回 現代政治思想の展開(1)【功利主義の政治思想】【ベンサム】【ミル】
- 第10回 現代政治思想の展開(2)【リベラルな平等】
- 第11回 現代政治思想の展開(3)【リバタリアニズム】
- 第12回 現代政治思想の展開(4)【コミュニタリアニズム】
- 第13回 民主主義思想の比較について【同質性民主主義論】【エリート主義的民主主義論】
- 第14回 民主主義思想の比較について【参加民主主義論】【共生の民主主義論など】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出：有(任意) 小テスト：有(添削および問題解説) 期末試験：有。評価は総合して行う。
講義への積極的取組... 10% 小テスト... 10% 試験... 80% レポート(任意)... 20%程度

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今年度は、まず東欧革命を手がかりに、政治文化の変化と政治システムの変動との関係を考察し、次に戦間期の政治システムの変化を危機の政治思想やファシズムの政治思想との関連で取り上げ、その背後にある政治文化、とりわけ日独の政治文化を比較してみる。また、ポスト・モダンの政治思想を取り上げながら、今後の新しい政治について模索してみる。

教科書 /Textbooks

中道寿一『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）（○）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は毎回、講義中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治文化とは何か【政治システム】【政治文化】【政治的社会化】
- 第2回 政治文化と政治システムの変動との関連について【東欧革命】【民主化】【市民社会】
- 第3回 民主主義体制の崩壊と政治文化について【政治体制】【政治文化】
- 第4回 ワイマル共和制の理念と現実【ワイマル憲法】【基本的権力関係】
- 第5回 政治制度の諸問題【政党制】【主要政党の特徴】【比例代表制】【大統領内閣制】
- 第6回 議会制民主主義の危機と大統領独裁【指導者民主主義】【ウェーバー】【シュミット】
- 第7回 ナチズムの思想、運動、体制【イデオロギー】【プロパガンダ】【強制的同質化】
- 第8回 文化的絶望の政治について【文化ベシミズム】【ラガルド】【ラングヘーン】【メラー】
- 第9回 ドイツ統一と民族問題【憲法愛国主義】【過去の克服】
- 第10回 近代批判の思想について【満洲】【大東亜共栄圏】【近代の超克】【歴史意識】
- 第11回 近代批判の思想について【未完のプロジェクト】【啓蒙の弁証法】
- 第12回 国民国家のゆらぎ【国民国家の虚構性】【ポスト国民国家】
- 第13回 自然との共生【環境倫理学】【コモンズの原理】
- 第14回 政治文化の日独比較について【市民文化】【複眼主義】【価値判断の相対性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート提出：有（ただし、任意）
 期末試験：各学期末に実施するが、評価は総合して行う。
 平常授業中の小テスト：有（添削および問題解説）
 講義への積極的取組... 10% 小テスト... 10% 試験... 80% レポート(任意)... 20%程度

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政党政治論 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、西欧諸国を中心として特に政党と政党システムに焦点をあてて比較検討を行う。西欧諸国の政党および政党システムには、どのような類似点や相違点があるのかを考察する。さらに、各国の政党組織や政府形成の特徴についても検討を行う予定である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川有美編『EU諸国』(自由国民社)
馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック』(東京大学出版会)
坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』(芦書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 授業内容の説明、政党とは何か 【大衆政党】【包括政党】【政党の機能】
 - 2回 政党のイデオロギーと組織(1) 【自由主義】【民主主義】【自由民主主義】【権威主義】
 - 3回 政党のイデオロギーと組織(2) 【社会主義】【社会民主主義】【新保守主義】【第三の道】
 - 4回 選挙制度と政党システム 【二党制】【穏健な多党制】【小選挙区制】【比例代表制】
 - 5回 イギリス(1) 【二党制】【小選挙区制】
 - 6回 イギリス(2) 【ブレア】【連立政権】
 - 7回 フランス(1) 【ゴリスト】【中央集権】
 - 8回 フランス(2) 【大統領】【コアビタシオン】
 - 9回 ドイツ(1) 【連邦制】【5%条項】
 - 10回 ドイツ(2) 【連立政権】【ドイツ統一】
 - 11回 オランダ・ベルギー(1) 【地域問題】【多文化主義】
 - 12回 オランダ・ベルギー(2) 【連立政権】【多極共存デモクラシー】
 - 13回 イタリア 【多党】【分極化】【オリーブの木】
 - 14回 北欧諸国 【社会民主主義】【合意】【女性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末筆記試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容を自分でまとめてノートに取る訓練をすること。学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容を全て講義できない点に留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市環境論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもちえてません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてもらいたいのは、環境問題の原点とも言われる水俣病です。そのことも毎年実施している私のゼミ及び「政策科学入門I」の環境学習研修旅行の記録を通して学習します。ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当にうまいと感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」といった環境教育アクティビティを多用します。環境モデル都市北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。

教科書 /Textbooks

その都度資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 栗原彬『証言 水俣病』岩波新書、2000年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成20年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣病講義』日本評論社、2004年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらいの説明：：簡単な環境意識度チェック 【環境意識】
- 第2回 環境目標の設定、環境教育とESD（持続可能な開発のための教育） 【ESD】
- 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告 【環境学習旅行】
- 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 【水俣病】
- 第5回 日本の環境政策の歴史と課題 【環境政策】
- 第6回 北九州市の環境の現状 【北九州市】
- 第7回 廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物について 【廃棄物管理】
- 第8回 廃棄物管理 ～産業廃棄物、3Rとコンポストをめぐる 【3R】 【コンポスト】
- 第9回 下水処理をめぐる～下水処理の原理 【水質汚濁】
- 第10回 下水処理をめぐる～途上国インドのし尿処理問題 【途上国のし尿問題】
- 第11回 上水道：：（アクティビティ=きき水比べ） 【おいしい水】
- 第12回 大気汚染～汚染の原理と現状 【大気汚染】
- 第13回 大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定 【CO2計測】
- 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々=エコツーリズムに関わろう！【エコツーリズム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全は楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

E S D、各自の環境目標、環境教育アクティビティ

政策理論特講 【昼】

担当者名 /Instructor 鶴田 芳貴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業活動は、市場での競争を通じて社会に対して利益をもたらします。しかしながら、競争は必ずしも自然発生的なものではありませんし、競争があっても停滞してしまう可能性もあります。地方自治体や国が行う公共入札で生じる談合などはその典型的な例です。このような状況では、競争を促進あるいは維持するため、政府が市場に介入する必要があります。この介入は「競争政策」と呼ばれます。

この講義では、「競争政策」について実際に生じた事件等を例に取り上げながら理論的な背景について説明した上で、議論します。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しませんが、資料及びレジュメを配布し、それに基づいて講義を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小田切宏之 (2008) 『競争政策論』 日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

内容は次のようなものを予定しています。

- 第1回 競争政策を理解するためのツールの準備【市場と政府、効率化、補償原理】
- 第2回 競争政策を理解するためのツールの準備【完全競争、不完全競争】
- 第3回 競争政策を理解するためのツールの準備【企業の供給活動】
- 第4回 競争政策を理解するためのツールの準備【生産者余剰、消費者余剰】
- 第5回 競争政策を理解するためのツールの準備【余剰分析】
- 第6回 「市場」とは？【市場の画定、SSNIP】
- 第7回 水平的な企業間関係と競争政策【カルテル、談合】
- 第8回 水平的な企業間関係と競争政策【水平的合併、セーフハーバー基準、コンテストアブル市場、効率性の抗弁】
- 第9回 水平的な企業間関係と競争政策【不当廉売】
- 第10回 垂直的な企業間関係と競争政策【垂直的合併、ホールドアップ問題、市場閉鎖】
- 第11回 垂直的な企業間関係と競争政策【垂直的取引制限、再販価格維持・テリトリー制】
- 第12回 垂直的な企業間関係と競争政策【優越的地位の乱用・抱き合わせ販売】
- 第13回 公益事業と競争政策【不可欠施設・自然独占・競争政策と規制】
- 第14回 研究開発と競争政策【知的財産権】
- 第15回 独占禁止法のエンフォースメント【リニエンシー制度】

進度については、受講者の理解度などに応じて変更の可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 30 % レポート 70 %
受講者数などに応じて評価方法を変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備は必要ありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業・大学・政府・町内会・ボランティア団体、と周囲に溢れる組織は数え切れないほどで、誰も皆、幾つかの組織に所属し、自分が属する組織や他の組織からの影響を受けずに生活することは不可能です。また1990年代以降、日本の中央省庁や地方自治体といった行政組織の変化には著しいものがあります。このようななか、組織論を学ぶことは、複雑な現代社会を理解する一助になると考えています。特に政策の形成・決定・実施・評価と関連、あるいは各過程において主体として行動する場合もある行政組織に着目することで、過去から現在までの制度・政策の変化や内容に関する関心・洞察を深めることにつながるのではないのでしょうか。講義全体のキーフレーズは、「組織論を通じてみるひとと社会」です。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。毎回レジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑田耕太郎・田尾雅夫(1998)『組織論』有斐閣
- 西尾勝(2001)『新版行政学』有斐閣
- その他、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 組織の定義と概念
- 3回 組織と環境・組織構造
- 4回 官僚制の誕生と変容
- 5回 官僚制：その機能と逆機能
- 6回 日本の行政組織(1)【官吏】【公務員】【任用と身分】
- 7回 日本の行政組織(2)【行政改革】
- 8回 中間テスト
- 9回 中間テストの解説と復習
- 10回 組織文化
- 11回 組織の「リーダーシップ」とは？
- 12回 ひとの「モチベーション」とは？
- 13回 組織における学習
- 14回 行政サービスを担う組織
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%
(遅刻入室は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講するにあたって、特別に必要なことはありません。「行政組織」を軸に、組織の歴史的な流れや社会的な背景、あるいは組織のリーダーや構成員のモチベーションといった人間の意識・行動に関することを交えつつ、学んでいきます。本講義で扱うこれらについては、「日本行政論」や「地方行政改革論」、「公共経営論」などの科目と合わせて履修することで、みなさんの理解はさらに深まるものと考えています。なお、講義の進行により、上記スケジュールを変更することがあります(特に中間テストの実施日については、授業中にアナウンスする予定なので要注意)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較政策論 【昼】

担当者名
/Instructor

坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを検証する。分析対象は次の政策分野：経済、福祉、教育、労働、規制、貿易など。またこれらの政策の相違は、諸国の政治経済体制の種類に呼応していることを学ぶ。さらに、違う政策が経済業績や人々の福祉にどのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、いかなる政策のセットが当該の結果の分野において望ましいかを考察する。

教科書 /Textbooks

Jessica R. Adolino and Charles H. Blake. 2001. Comparing Public Policies: Issues and Choices in Six Industrialized Countries. Washington, D.C.: CQ Press.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そういう覚悟で履修登録すること。毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 政策決定のモデル
3. 政策決定の理論I (経済)
4. 政策決定の理論II (政治)
5. 政策の規定要因 - 制度・アクターI (経済)
6. 政策の規定要因 - 制度・アクターII (政治)
7. 先進各国の政治システム
8. 社会・福祉政策
9. Catch-up
10. 財政政策
11. 教育政策
12. 税政策
13. Catch-up and review
14. 国際化の中の政策決定
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2)研究論文が60%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は学期末提出の研究論文の質で決める。論文はA4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。

また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらおう。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。学生はアウトラインに沿って研究を進め、論文をまとめる。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同じレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

比較政策論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

都市政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本社会が激変している中で、多くの地方都市は経済的に疲弊しており、同時に都市再生を模索して様々な動きを始めている。

この講義では、多様な人材・施設・機能が集積する都市において、住民・企業・団体の様々なニーズに応えながら、都市機能を高め、地域経済の活性化を進めるためにどのような政策手法が有効であるかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 牛嶋正著『現代の都市経営』(1999)有斐閣ブックス
- 吉田民雄著『都市行政の新しい設計』(1995)中央経済社
- 小林英夫著『産業空洞化の克服 - 産業転換期の日本とアジア』(2003)中公新書
- 中沢孝夫著『<地域人>とまちづくり』(2003)講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市政策論とは何か
- 2回 都市が直面する課題
- 3回 都市政策の前提とこれからの都市政策
- 4回 都市政策と人材確保
- 5回 魅力ある都市づくり
- 6回 国の産業政策・地域振興政策
- 7回 産業集積の理論と実態
- 8回 産業クラスター政策と課題
- 9回 中小企業振興の取組み
- 10回 新産業創出の取組み
- 11回 企業誘致の実態とその課題
- 12回 小売り商業と商店街の実態と課題
- 13回 中心市街地の再生
- 14回 雇用政策
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理（行政計画、政策評価、人事・組織・予算管理）など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 自治体間の保険料格差
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化）
- 第9回 「児童福祉」 男女共同参画をめぐる議論
- 第10回 「児童福祉」 児童虐待
- 第11回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第12回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第14回 「利用者保護制度」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点から2点程度減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

介護や障害者福祉に関心をもっておいください。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

自治体政策研究【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代日本の公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、といった問題は避けて通れない最重要課題であるといえる。本講義では、まず、こうした課題を①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティといった視点から分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含め議論することにした。

次に、現代日本で進行中の地方分権改革の中で、地方自治体が「分権の受け皿」として、政策過程のなかで積極的かつ効果的な役割を担っているのか（あるいは担うことができるのか）といった問題について触れることにしたい。そして、これまで中央政府で決定された公共政策の単なる実施機関としての位置づけが濃かった日本の自治体が、自ら「政策形成の担い手」になりうるかどうかといった問題を、政策プロセスにおける住民参加の問題やNPOの問題などを含め多角的視点から検討・考察し、現代日本におけるいわば「政策自治体」の可能性・ありかたを模索することにした。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 海道清信『コンパクトシティ - 持続可能な社会の都市像を求めて』（学芸出版社、2001年）
- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農村漁村文化協会、2005年）
- 大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想（青森市、富山市など）
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-くしとお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落（1）-限界集落とは何か
- 6回 限界集落（2）-限界集落の事例、綾部市の「水源の里」
- 7回 限界集落（3）-限界集落の再生、「集落支援員制度」の検討
- 8回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは
- 9回 北九州市の局地的高齢化と限界コミュニティ
- 10回 公共事業について考える
- 11回 北海道伊達市の移住政策
- 12回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり（1）-市民参加と協働
- 13回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり（2）-コミュニティ
- 14回 三鷹市における市民参加の実験とまちづくり
- 15回 商店街について考える（時間に応じて変更あり）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、論文、新聞記事などを読んだうえで講義に参加していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を変更する予定であるので、第一回目の授業に必ず参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人口減少社会、高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。

この講義では、都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。

併せて、技術系企業の活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経営論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

厳しい変革の時代を生き抜くために、企業は経営方針、意思決定の仕組み、組織の運営方法を大転換している。地方公共団体においても、政策の選択と集中によって都市経営方針を明確にし、戦略的な経営が行われるように、簡素で効率的な行政を進める行政改革・組織改革と職員の意識改革を進めている。

この講義では、地方自治体が、都市機能を高め、都市の自律的発展を目指して改革している組織・人的資源管理の現状や在り方について学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者自身がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 武藤博巳編著『自治体経営改革』自治体改革2(2004)ぎょうせい
- 天野巡一編著『職員・組織改革』自治体改革6(2004)ぎょうせい
- 大住荘四郎『NPMによる行政革命 - 経営改革モデルの構築と実践』(2003)日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経営論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 地方自治制度と地方分権
- 4回 地方自治体の組織と権能
- 5回 都市経営と政策
- 6回 都市経営と行政計画
- 7回 都市経営と行財政改革
- 8回 地方自治体の組織原理の変化
- 9回 新しい都市経営の基本姿勢
- 10回 新しい組織管理
- 11回 新しい人的資源管理
- 12回 地方公務員の雇用環境の変化
- 13回 新しい都市経営の主体【第三セクター、指定管理者】
- 14回 新しい都市経営の主体【PFI、PPP】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本政治論 【昼】

担当者名
/Instructor

濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 講義
/Class Format

講義

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業では、①日本政治の歴史、②比較の中で日本政治の特徴を理解することに重点をおく。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODakション
- 第2回 戦後から55年体制の形成
- 第3回 60年安保と高度経済成長
- 第4回 安定成長と冷戦構造の崩壊
- 第5回 構造改革と政権交代
- 第6回 一党優位政党制
- 第7回 立法・司法・行政
- 第8回 社会集団
- 第9回 投票行動
- 第10回 政権交代と民主党
- 第11回 市民社会
- 第12回 マスメディア
- 第13回 政治参加
- 第14回 ローカル・ガバナンス
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (70%)、日常の授業への取り組み (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「政治学」をすでに履修している場合は、本講義の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本行政論 【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政とはなにか、なぜ行政がわたしたちの生活に不可欠な存在なのか、行政はどのように形づくられているのか、そしてその問題点とは何か。行政の歴史的展開、現代の行政の仕事、そして改革される行政、今後の行政の姿など総合的に行政について考えていきたい。

教科書 /Textbooks

今村都南雄 (2009) 『ホーンブック基礎行政学』北樹出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西尾勝 (2001) 『行政学』有斐閣
- 森田朗 (1996) 『現代の行政』放送大学教育振興会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
- 2回 行政の歴史①【市民革命】【自由主義】
- 3回 行政の歴史②【行政国家化】
- 4回 行政学史①【官僚制の理論】
- 5回 行政学史②【アメリカ行政学】【科学的管理法】
- 6回 行政学史③【人間関係論】【現代組織論】
- 7回 現代の行政制度①【国会】【議院内閣制】
- 8回 現代の行政制度②【内閣制度】【総理大臣と政治リーダーシップ】
- 9回 現代の行政制度③【官僚制と政策過程】
- 10回 現代の行政制度④【公務員制度】【公務員改革】
- 11回 「官から民へ」の意味①【住民と行政の関係変化】
- 12回 「官から民へ」の意味②【市民がつくるパブリック】【ガバナンス】
- 13回 行政改革の方向性①【改革の背景】【各国の主要動向】【新自由主義】
- 14回 行政改革の方向性②【規制緩和・民営化・情報公開・構造改革特区】【鉄の三角形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政、国家、ガバナンス、公務員制度、民主主義

公共経営論【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に公共サービス再編成を対象とし、市場原理・企業的経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「新公共経営の理論」 NPM (New Public Management)
- 第2回 「新公共経営の理論」 能率と責任、政策手法
- 第3回 「教育編①図書館」 図書館のしくみ
- 第4回 「教育編②図書館」 指定管理者制度
- 第5回 「教育編③図書館」 PFI
- 第6回 「教育編④図書館」 PFIの問題点
- 第7回 「教育編⑤学校」 学校のしくみ
- 第8回 「教育編⑥学校」 学校選択制
- 第9回 「道路編①」 道路のしくみ
- 第10回 「道路編②」 道路公団民営化
- 第11回 「道路編③」 道路の必要性
- 第12回 「道路編④」 入札改革
- 第13回 「公共サービス従事者編①」 非正規職員
- 第14回 「公共サービス従事者編②」 特殊法人、天下りをめぐる議論
- 第15回 「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末レポート得点から2点程度減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語は厳しく注意します。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
狭間 直樹 / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する講師による「講義」、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

早瀬昇・松原朗『NPOがわかるQ&A』(岩波書店、2004年)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2010年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識
- 3回 第1回講演会
- 4回 福祉NPO(1)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(2)-社会福祉法人
- 7回 第3回講演会
- 8回 環境NPO(1)
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(2)
- 11回 第5回講演会
- 12回 まちづくりNPO(1)
- 13回 第6回講演会
- 14回 まちづくりNPO(2)
- 15回 講義のまとめおよびレポートについての説明

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もってテキストを読む等をして授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、環境NPO、まちづくりNPO

地域統合論 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパ統合を分析する理論的側面として地域統合論を解説し、ヨーロッパ統合を現実に推し進めることになった理念とともに、EUの組織・機構や意思決定過程について学ぶ予定である。また、EUにおける各分野の政策に関して、その発展過程を理解するとともに問題点を探ることを目指す。国際社会において、EUがアメリカとは異なる政策や立場を選択する事例や、国際組織やアジアとの関係についても触れ、ヨーロッパの統合過程において現れ始めている問題点についても考えたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』(芦書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 授業内容の説明、EUの歴史と概要
 - 2回 地域統合論【地域】【統合】【新機能主義】【交流主義アプローチ】
 - 3回 ヨーロッパ統合の理念と歴史【ECSC】【EURATOM】【EEC】【EC】
 - 4回 EUの組織・機構と意思決定過程(1)【欧州委員会】【欧州理事会】
 - 5回 EUの組織・機構と意思決定過程(2)【欧州議会】【閣僚理事会】
 - 6回 域内市場政策(1)【単一市場】【単一欧州議定書】
 - 7回 域内市場政策(2)【域内市場統合】
 - 8回 単一通貨政策【ウェルナー】【ECB】【ユーロ】
 - 9回 共通農業政策(1)【CAP】【補助金】
 - 10回 共通農業政策(2)【財政問題】
 - 11回 共通外交・安全保障政策(1)【CFSP】
 - 12回 共通外交・安全保障政策(2)【欧州緊急対応部隊】【ESDP】
 - 13回 国際社会における主体としてのEU【アジア】【ASEM】【国連】
 - 14回 ヨーロッパ統合における負の側面【外国人排斥】【エリートvs. 大衆】【EU懐疑主義】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末筆記試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容を自分でまとめてノートに取る訓練をすること。「西洋政治史」および「政党政治論」を履修することにより、ヨーロッパの国際関係や国内政治に関する知識を身につけておくこと効果的な学習ができる。学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容を全て講義できない点に留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アジア地域社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位 / 1学期
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日、アジア諸国の経済成長は目覚ましく、今世紀の世界をリードしていくのは確実視されています。グローバル化の中でそのような経済成長が続いていますが、経済同様、アジア諸国の社会の動きも活発化しています。元来、担当教員は、バングラデシュ地域研究に研究の焦点を絞っていましたが、2000年以降、環境教育の実践的活動の場としてインドネシアを数多く訪問、また、バングラデシュ人にとって海外出稼ぎ労働の対象国として人気のある韓国に数多く足を運んで調査研究を繰り返すようになりました。ゆえに、本授業では、担当教員の研究に非常に関係のあるアジア3カ国、バングラデシュ、インドネシア、韓国を対象に、同国の文化・生活・社会の断面を紹介していきます。担当教員の体験や関心から出発しているので、若干（かなりかも）、マニアックになるのはお許しください。アジア大好き人間になり、学生時代には一度は同国に出かけてください。アジアに少しでも興味ある学生なら誰でも歓迎です。北九州市、福岡市や福岡県が自らをアジアのゲートウェイと位置づけ、積極的に経済面社会面でアジアとの交流・協力を進めている現在、なおさらのこと、本授業を通して羽ばたいてください。

教科書 /Textbooks

その都度配布
○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 大橋正明・村山真弓編『バングラデシュを知るための60章【第2版】』明石書店、2009年
- * バク・ジョンヒュン『韓国人を愛せますか?』講談社+α新書、2008年、840円
- * 棚瀬孝雄『市民社会と法～変容する日本と韓国の社会』ミネルヴァ人文・社会科学叢書、2007年、5775円
- * 倉沢愛子『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社、2001年、2205円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「アジア地域社会論」に関する授業方針と内容の説明
- 第2回 韓国、インドネシア、バングラデシュへのスタディ・ツアーの写真を通しての比較説明
- 第3回 上記三カ国の統計数値による比較説明 絵本を通しての三カ国の生活・文化比較
- 第4回 イスラム教の紹介
- 第5回 バングラデシュの農村社会
- 第6回 バングラデシュの都市社会（隣人関係）
- 第7回 バングラデシュの都市社会（開発・環境に関する意識）
- 第8回 バングラデシュの都市社会（清掃人・ウェイストピッカー）
- 第9回 韓国の1960～70年代の政治・社会と現在～映画「クラシック」を通して（1）
- 第10回 韓国の1960～70年代の政治・社会と現在～映画「クラシック」を通して（2）
- 第11回 韓国の文化
- 第12回 韓国社会の国際化（移民政策・多文化共生政策）
- 第13回 インドネシアの社会（ゴトンロンとRT/RW）：：三宅ゼミ主催インドネシア・スタディ・ツアーを通してその取り組み・実態を垣間見る
- 第14回 インドネシア・カンブン（農村風集落）の概念と実例
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への日常的な取り組みの姿勢...15% 小課題の提出 ... 15% レポート ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

上記アジア3国は三様である。それなりに面白いので、是非、真剣に聞いていただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州から韓国は本当に近いので、もっともっと韓国のことを知り、複数回の韓国訪問を果たしてほしい。

キーワード /Keywords

バングラデシュ、韓国、インドネシア、スタディ・ツアー、韓国映画『ラブストーリー（原題「クラシック」）』

応用政策特講 【昼】

担当者名 /Instructor 越智 敏夫 / OCHI, Toshio / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：政治学的思考の現在：< 9・11 > 以後の市民政治

政治という複雑な現象を理解するために人類が作り出した道具が政治学である。その政治学を使用して、現代政治に固有の論理について考える。政治の主体として市民が登場するようになってまだ間もない人類にとって、政治は自らがコントロールできる領域なのか。できるとすれば、それはどのような仕組みと論理によって可能なのか。そうした問題について今日的視点から考えたい。

政治学の目的は決して有能な官僚や、従順な臣民を創出することにあるのではない。したがって、市民にとって政治学は何の役にたつのか、という観点を欠いて政治学が成立するはずもない。そこで本講義では、市民のための政治が現在の政治理論においてどのように論じられているのか、ということについても検討する。その作業によって、政策を構想する基礎的素養としての政治理論的なものの考え方を身につけてもらいたい。

より具体的には20世紀後半以降のアメリカ合衆国における民主主義理論を中心に検討する。大衆社会状況が成立した冷戦下のアメリカで、民主主義を可能にする条件は何だったのか。ソビエト型政治への対抗として生じていたアメリカ政治学の自己肯定的な側面への批判も含めて多角的に検討したい。

さらには冷戦終結のみならず、2001年の< 9・11 > 事件がアメリカの政治学的議論をどのように変質させてきたのか、という問題についても言及する。それは単に「民主主義を根拠とした虐殺」、つまり「正しい戦争は成立するのか」という問題を超越して、現代社会に生きる市民としての私たち政治的な倫理と論理を問うことでもある。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜、参考図書を示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 政治の論理 1：権力
- 2回 政治の論理 2：制度
- 3回 政治の論理 3：市民
- 4回 アメリカ政治学 1：合衆国は「特殊」か
- 5回 アメリカ政治学 2：権力・国家への執着
- 6回 アメリカ政治学 3：市民・集団への執着
- 7回 アメリカ政治学 4：理論・抽象への執着
- 8回 アメリカ政治学 5：文化・差異への執着
- 9回 < 9・11 > 以後 1：テロリストに人権はあるか？
- 10回 < 9・11 > 以後 2：「正しい戦争」はあるか？
- 11回 < 9・11 > 以後 3：死者は救われるか？
- 12回 政治変動と市民 1：政権交代と市民の論理
- 13回 政治変動と市民 2：ナショナリズムと市民
- 14回 政治変動と市民 3：政治の「現場」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度 30%
講義中の小テスト 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

政治学関連の基礎的な科目は履修していることが望ましいが、必須ではない。ただし政治だけでなくこの世界全体の森羅万象に対して、とどまることのない好奇心を持っていることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

集中講義なので退屈しない講義にするつもりです。私語厳禁。

応用政策特講 【昼】

キーワード /Keywords

現代政治理論 民主主義 市民社会論 アメリカ政治 多文化主義 熟議民主主義 闘技民主主義 正義論 ジェンダー 草の根保守 共和主義 連邦主義 合衆国憲法 革命権 ナショナリズム 丸山眞男 バジヨット マルクス アレント ウォリン ガネル ムフ コノリー ウォルツァー

国際機構論I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会には、国際機構と呼ばれる数百もの組織が存在し、日常的に活動している。それらは、国家や私たちの生活にとって、どのような意味をもっているのだろうか。この講義では、国際機構の代表格である国際連合を中心にして、それらの任務、制度、実績および課題を扱う。

教科書 /Textbooks

最上敏樹『国際機構論』第2版、東京大学出版会、2006年。
初版ではなく第2版を用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。講義では資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 テキスト「はじめに」【国際機構の定義】
- 3回 テキスト第1章「国際機構小史」【ヨーロッパ協調】【国際連盟】
- 4回 国際連盟規約の解説
- 5回 テキスト第2章「国際連合」(I - III)【国連の設立】【安全保障理事会】【総会】
- 6回 同上(IV - VI)【事務総長】【経済社会理事会】【国際司法裁判所】
- 7回 国際連合憲章の解説
- 8回 テキスト第3章「国連改革」【国連改革】【安保理改革】
- 9回 同上
- 10回 テキスト第4章「地域的国際機構」【EU】【北欧共同体】【欧州審議会】
- 11回 テキスト第5章「国際機構創設の動因」【共通利益と国益】【国際機構の類型】
- 12回 テキスト第6章「構造・機能・意思決定」【国家的機関と非国家的機関】
- 13回 テキスト第7章「国際機構論の方法」【法学的アプローチと政治学的アプローチ】
- 14回 テキスト第8章「国際機構の理論化」、「結びにかえて」【国際機構の理論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地域的機構を扱う国際機構論IIも受講すれば、国際機構の全体像を把握することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構論II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を特徴づけるものの一つに、地域的 (regional) な国際機構の発達がある。そのような機構には、例えばヨーロッパ連合 (EU)、北大西洋条約機構 (NATO)、東南アジア諸国連合 (ASEAN)、米州機構 (OAS)、アラブ連盟、アフリカ連合 (AU) 等があり、東アジア諸国間においても同様の試みが模索されつつある。それでは何故、こうした地域的な機構が要請されるのか。講義では、ヨーロッパ27カ国が加盟し、現代世界に多大な影響を与えるEUに着目して、その設立、制度、実績および課題を多面的に扱う。

教科書 /Textbooks

辰巳浅嗣編著『EU欧州統合の現在』創元社、2004年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鷲江義勝編著『リスボン条約による欧州統合の新展開』ミネルヴァ書房、2009年。
ほか講義中に指示する。講義では資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに：なぜ地域的な機構を学ぶのか
- 2回 EUの概観【EU条約】【EUの機関】【加盟国の位置と紹介】
- 3回 - 4回 ヨーロッパ地域統合の起源【パン・ヨーロッパ】【独仏和解】【ジャン・モネ】
- 5回 - 6回 ECの成立とEUへの発展【欧州3共同体】【共通政策】【市場統合】【ドローール】
- 7回 - 8回 EUの基本条約の解説【EU条約】【EU運営条約】
- 9回 - 11回 EUの「超国家的」性格とその特質【共同体方式】【欧州委員会】【理事会】【欧州議会】【欧州理事会】【欧州中央銀行】
- 12回 - 14回 EUの対外関係と課題【EU憲法】【民主主義の「赤字」】【EUとグローバル社会】【EUとアメリカ】【日本、アジアとEU】
- 15回 まとめ：主権国家はどのように解体しているのか

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国連を主な対象とする国際機構論Iも受講すれば、国際機構の全体像を把握することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間の権利にはどのようなものがあり、かつ、それらはいかにして保護されるべきであるのか。現代の国際社会においては、各国家が個別にこの問いに応えればよいというわけではない。講義では、国際関係論や国際法学の視点を取り入れつつ、人権に関する規範と制度がどのように形成されているのかを学習する。

教科書 /Textbooks

奥脇直也編集代表『国際条約集2011年版』有斐閣、2011年。
必須の資料としてほぼ毎回用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 阿部浩己、今井直、藤本俊明『テキストブック国際人権法(第3版)』日本評論社、2009年。
 - バーゲンソル(小寺初世子訳)『国際人権法入門』東信堂、1999年。
 - 芹田健太郎、薬師寺公夫、坂元茂樹『ブリッジブック国際人権法』信山社、2008年。
- ほか、講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 人権概念の出現と展開【近代国家】【啓蒙思想】【第1世代～第3世代の人権】
- 3回 国際連盟と人権の規範【労働者の権利】【人民自決と国際社会】
- 4回 国際連合における人権の規範と制度(1)【世界人権宣言】
- 5回 国際連合における人権の規範と制度(2)【国連自由権規約】【国連社会権規約】
- 6回 地域的国際機構による人権保護への対応(1)【欧州安保協力機構】【東南アジア諸国連合】
- 7回 地域的国際機構による人権保護への対応(2)【欧州審議会】【欧州人権条約】
- 8回 経済統合と人権保障のメカニズム(1)【EU法の優位性】
- 9回 経済統合と人権保障のメカニズム(2)【EU基本権憲章】
- 10回 現代世界と国際人権(1)死刑制度の存廃【自由権規約議定書】【欧州人権条約議定書】
- 11回 現代世界と国際人権(2)経済開発と人権【コンディショナリティ】【「アジア的」価値】
- 12回 現代世界と国際人権(3)「人道的」介入【ソマリア】【ユーゴスラビア紛争】
- 13回 現代世界と国際人権(4)「テロとの戦い」と人権保護【不正規移送】【拷問】
- 14回 現代世界と国際人権(5)近代国家体制と人権【国家主権】【リアリズム】【規範】【NGOs】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を最大限活用します。ページ数のある教科書ですので、附箋を用意すると便利です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

担当者名 藤井 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今、わたしたちの生活を取り巻く社会のなかにはさまざまな世界との関わりがあります。世界で起こるいろいろな出来事を読み解きながら、今何が起きているのか？について学び、考える場所にしたいと思います。本講義では、世界と私たちの繋がりを「国際協力」の視点から考えます。地球上で起きているさまざまな問題を具体的に取り上げます。授業を通して、多様で多角的な視点から世界を見る視点を養い、「地球人」としての私たちの生き方を考え、養ってください。

教科書 /Textbooks

なし。講義ごとにレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

友松篤信・桂井宏一郎編『実戦ガイド国際協力論』古今書院
内海成治編『国際協力論を学ぶ人のために』世界思想社
今田克司・原田勝弘編著『連続講義国際協力NGO』日本評論社
齋藤文彦編著『国際開発論』日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 講義ガイダンス
- 2 私たちのまわりにある世界
- 3 国際協力とは何か？(1)
- 4 国際協力とは何か？(2)
- 5 国 / 政府における国際協力(1)【ODAとは】
- 6 国 / 政府における国際協力(2)【日本のODA】
- 7 国際機関による国際協力(1)【国際開発金融機関】
- 8 国際機関による国際協力(2)【援助関連専門機関】
- 9 NGO (非政府組織) による国際協力
- 10 貧困とは何か？(1)【貧困】
- 11 貧困とは何か？(2)【貧困削減の取り組み】
- 12 教育を支援する国際協力活動
- 13 保健・医療における国際協力
- 14 環境問題を巡る国際協力活動
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(20%)
レポート(20%)
期末テスト(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な授業への参加は大歓迎します。
写真や映像などを使って国際協力を頭と体と心で学びましょう。

キーワード /Keywords

国際協力 国際開発 ODA NGO 国際機関 国連 貧困削減 ミレニアム開発目標(MDGs) 保健・医療 環境問題 教育問題 市民社会
グローバルイゼーション

国際協力論II 【昼】

担当者名 千知岩 正継 / Instructor
北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

< 授業のテーマ >

この授業では、国際協力の課題のなかでも、武力紛争への国際社会やNGOの対応について学びます。もう少し詳しくいうと、武力紛争そのものの予防、武力紛争や国家の破綻により引き起こされる人道危機への対処、紛争後の復興と平和の確立などが授業内容の中心となります。授業の前半では人道的介入や「保護する責任」の問題を、後半では平和構築を、それぞれ重点的にあつかいます。

< 学修目標 >

- ①武力紛争の予防や解決、さらに人道危機のもとで苦しむ人びとの保護や救援について、どのような主体がどういった措置を講じてきたのかを事例にもとづき理解する
- ②世界で生じる武力紛争の原因や特徴、戦火や人道危機にさらされている人びとの現状を知る
- ③現地の人びとの視点にたった紛争予防や平和構築、人道的介入の在り様について考える

教科書 /Textbooks

東大作『平和構築-アフガン、東ティモールの現場から-』（岩波新書、2009年）、819円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- メアリー・B・アンダーソン [著]、大平剛 [訳] 『諸刃の援助-紛争地での援助の二面性-』（明石書店、2006年）、3,045円
- 大平剛『国連開発援助の変容と国際政治-UNDPの40年-』（有信堂、2008年）、4,200円
- 最上敏樹『人道的介入-正義の武力行使はあるか-』（岩波新書、2001年）、777円

※授業中に適時紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

イントロダクション

1. 冷戦の終焉と国際社会：冷戦、新世界秩序、グローバル化
2. 新しい戦争：弱い国家、国内武力紛争、アイデンティティ・ポリティクス
3. 国連PKOの変容：予防展開、平和強制部隊、平和構築
4. 冷戦後PKOの事例 旧ユーゴスラヴィア紛争：民族浄化、国連保護軍、NATO
5. 人道的介入と「保護する責任」①：介入の権利、ルワンダ・ジェノサイド、コソヴォ紛争
6. 人道的介入と「保護する責任」②：予防する責任、対応する責任、再建する責任
7. 武力紛争にたいする予防外交：早期警報、根本原因の予防、直接予防
8. 紛争後の復興支援と平和構築 総論：政治・法制度改革、選挙支援、司法支援
9. 紛争後の復興支援と平和構築 各論：法執行支援、SSR、DDR
10. 平和構築の具体的事例①：東ティモール、
11. 平和構築の具体的事例②：アフガニスタン
12. 紛争地域での援助活動：人道援助活動、援助の二面性、人道援助機関
13. 武力紛争とグローバル市民社会：国際人道法、オタワ・プロセス、オスロ・プロセス
14. 平和へと向かう現地の力：レバノン、ブルンジ、ソマリア
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：20%
期末試験：30%
レポート課題：50%

※レポート課題については第1回目の授業で説明します

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際協力論II 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「国際協力論I」を履修しておくこと、本授業の理解が深まります

履修上の注意 /Remarks

前もって指示するので、教科書や配布プリントを読んで予習する。配布プリントに記載の設問を解いて復習する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

紛争予防、国連平和維持活動、人道的介入、保護する責任、平和構築

国際紛争論 【昼】

担当者名 /Instructor 菅 英輝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦後の紛争や戦争、平和と安全、秩序形成をめぐる諸問題を、歴史的視点を重視しながら、多面的に考察することを目的とする。「世界はなぜ仲良くできないのか」を歴史的、構造的、原理的に検討し、21世紀の安全保障問題の理解を深める。本年度は特にアメリカの戦争に焦点をあてる。

教科書 /Textbooks

菅英輝著『アメリカの世界戦略』（中公新書、2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

菅英輝編著『アメリカの戦争と世界秩序』（法政大学出版局、2008年）、菅英輝編著『冷戦史の再検討』（法政大学出版局、2009年）。その他、以下の授業スケジュール中の指定図書を参照されたい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 冷戦後の世界の特徴と地域紛争
 - (1)冷戦期の紛争の特徴（テキスト『アメリカの世界戦略』1章）
 - (2)冷戦とは何か、冷戦後の世界の特徴（テキスト4章、『冷戦史の再検討』序章、その他の章）
 - (3)冷戦後の世界の特徴と地域紛争の関係（テキスト4、5、6章）
2. アメリカの戦争と世界秩序形成
 - (1)アメリカ帝国論をめぐる議論、アメリカの国際秩序形成における役割（テキスト7章）
 - (2)戦後世界秩序の特質（理念、規範、制度、パワー）（テキスト11章）
 - (3)アメリカの対イラク戦争とアメリカの世界支配（テキスト8、9、10章）
 - (4)正義の戦争と不正な戦争（テキスト12章、『アメリカの戦争と世界秩序』6、8章）
3. 日米安保と地域紛争
 - (1)冷戦後の安保再定義をめぐる諸問題（テキスト第2章）
 - (2)米軍再編問題と日米安保のグローバル化（テキスト3章）
 - (3)朝鮮半島の核をめぐる問題と6者協議（テキスト3章、菅英輝編著『朝鮮半島』（社会評論社、2004年）（指定図書））
4. 冷戦後の国際環境と安全保障
 - (1)国家の安全と国民の安全-安全保障の原理的考察
 - (2)人間の安全保障論-安全保障の原理的考察
 - (3)地域から安全保障を考える。
5. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み状況を考慮して総合的に評価する。ただし、出席が規定日数（3分の2）に達していない者には試験資格を与えない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1. 新聞の国際面に目を通す習慣を身につけること。
2. 指定テキストの関連する章を事前に必ず読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

※新カリキュラムと旧カリキュラムでは履修時間が異なるので、注意されたい。詳細は第一回目の授業で説明。旧カリキュラムの受講生は、新カリキュラムのテキストに加えて、菅英輝編著『冷戦史の再検討』（法政大学出版局、2009年）を使用。人数が少ない場合には、ゼミ形式とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者福祉論I 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められてきた。障害者自立支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、地域生活、施設利用などでの問題を取り上げながら、以下の点について吟味する。①障害者自立支援法の成立過程と法の具体的内容。②権利保障とは何かについて検討する。③また障害をもつ人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。④さらにはこれまでタブー視されてきた障害者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

小賀 久「障がいのある人の地域福祉政策と自立支援」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立支援】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【地域生活】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【ケアマネージメント】
- 5回 権利擁護システム① 【成年後見制度】
- 6回 権利擁護システム② 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 7回 権利擁護システム③ 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
- 8回 障害者福祉実践の到達点と課題① 【労働支援】
- 9回 障害者福祉実践の到達点と課題② 【生活支援】
- 10回 障害者福祉実践の到達点と課題③ 【家族支援】
- 11回 障害者福祉のこれから① 【障害者介護】
- 12回 障害者福祉のこれから② 【施設解体】
- 13回 障害者福祉のこれから③ 【地域生活支援】
- 14回 障害者福祉のこれから④ 【性の支援】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者福祉論II 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

障害をもつ人の自立と地域生活、施設利用などの問題を取り上げながら、権利保障とは何かについて検討する。また権利侵害の実態を紹介し、政府がつくる権利擁護システムの問題点や課題を整理し、あるべき権利擁護システムを検討する

教科書 /Textbooks

小賀 久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の注意と講義の総論
- 2回 障害概念と障害者①【ICF】
- 3回 障害概念と障害者②【身体障害、知的障害】
- 4回 障害概念と障害者③【精神障害、内部障害等】
- 5回 現代社会と障害者福祉理念①【ノーマライゼーション、インテグレーション】
- 6回 現代社会と障害者福祉理念② - 理念の影響
- 7回 現代社会と障害者福祉理念③ - 我が国障害者の生活標準
- 8回 障害者福祉の法制度【障害者基本法と障害者計画】
- 9回 障がいのある人と虐待①【虐待調査から見る現状】
- 10回 障がいのある人と虐待②【虐待と親密圏】
- 11回 障害者福祉のサービス体系① - 児童福祉法と障害児サービス体系
- 12回 障害者福祉のサービス体系② - 身体障害者福祉法とサービス体系
- 13回 障害者福祉のサービス体系③ - 知的障害者福祉法とサービス体系
- 14回 障害者福祉のサービス体系④ - 精神保健福祉法とサービス体系
- 15回 関連法とサービス体系、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老人福祉論I【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

産業化をベースとして、近代化が成熟するとともに、人口構造の高齢化が社会現象として多くの課題をもたらすことになった。更には人口減少が始まり、人口転換が急速に進展すると予測されている。このような現状では人口高齢化を単なる社会問題として把握するにとどまらず、社会経済的視野に立脚した人間洞察ができるような視点を身につけることが要求される。高齢者に対する支援と介護保険制度1では高齢者の生活実態と社会情勢、人口構造、介護需要とともに、介護の概念や対象及び理念、制度・政策の歴史的経緯、介護保険法や老人福祉法等の理解を目的とする。さらに、行政組織や民間団体の役割、財政等の理解を促すよう講義を進める予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2011年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～第2回 講義の進め方について、現代社会と人口減少、少子・高齢化問題と必要な政策課題【人口転換】
- 第3回～第5回 高齢者の生活実態や社会関係及び高齢者の生活支援の課題【生活支援】
- 第6回～第7回 老人福祉の歴史的経緯【施設・居宅サービス】【ノーマリゼーション】
- 第8回～第9回 老人福祉の法律と制度【老人福祉】
- 第10回～第11回 介護保険制度の概要【介護保険、権利擁護】
- 第12回～第14回 行政組織や民間団体の役割、財政等【行財政、民間活動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 授業への参加(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老人福祉論II 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

高齢者に対する支援と介護保険制度2では、各論として介護保険制度や老人福祉制度等、及び関連する法制度について理解することをねらいとする。また、介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方及び専門職としての人間観に基づく相談援助、認知症や週末期ケア等について理解を促す。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2011年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
その他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【キーワード】

- 第1回～第2回 講義の進め方について、老人福祉制度と関連法【老人福祉】
- 第3回～第4回 介護保険法と制度【介護保険】
- 第5回～第6回 介護保険法における組織及び団体【組織及び団体の役割】
- 第7回～第8回 介護専門職の役割と地域包括支援センター【地域包括】
- 第9回～第10回 介護予防に関する専門技術及び、相談援助の方法【介護予防】
- 第11回～第12回 認知症や週末期ケア、高齢者虐待等と権利擁護【介護過程、権利擁護】
- 第13回～第14回 老人福祉関連分野の活動 - 住宅、環境整備、サービス団体・組織【民間活動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 課題の提出(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスはビジネス関係の読解力とライティングの養成を目標とします。(1) 英文読解力養成: 高度なビジネス誌の最近の記事を取り上げ、その内容に沿って経済、ビジネスの仕組みを解説していく。(2) ビジネスライティング養成: ビジネスライティング中心に英文作成力を養い、最終的にはロールプレイとしてある仕事のポストに関する応募書類の一環としてカバーレターやレジメを作成し、インタビューまでカバーします。

教科書 /Textbooks

1. Handouts: news articles : The Economist, Businessweek, Times, Newsweek などの最近の記事
2. Daniel R. Fusfeld. "The Age of the Economist". 洋版出版 (1.2ともこちらで用意します)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜通知する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Session 1:Class orientation
- Session 2:Reading the recent articles in The Economist1
- Session 3:Reading the recent articles in The Economist2
- Session 4:Reading the recent articles in Businessweek1
- Session 5:Reading the recent articles in Businessweek2
- Session 6:Reading the recent articles in Times1
- Session 7:Reading the recent articles in Times2
- Session 8:Reading the recent articles in Newsweek1
- Session 9:Reading the recent articles in Newsweek2
- Session 10:Reading the recent articles in Bloomberg1
- Session 11:Reading the recent articles in Bloomberg2
- Session 12:Business writing1
- Session 13:Business writing2
- Session 14:Resume writing
- Session 15:Interview

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 30 Midterm quiz:30 Final examination : 40

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既に経済、経営関係の講義を受講している場合はさらに効果的な学習ができます。日本の新聞を読み直近の話題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

かなり高いレベルの読解力が要求されますので自信のある方は力試しに参加してください。目安としてはTOEIC750-990ぐらいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

世界経済論I【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、現実の世界経済の動きを理解するための基本的な知識を身につけることを目的とする。この授業では、貿易、直接投資および多国籍企業、国際通貨・国際金融など世界経済を成り立たせている主要な経済活動分野について学習していく。

教科書 /Textbooks

石田修・板木雅彦・櫻井公人・中本悟編『現代世界経済をとらえるVer.5』東洋経済新報社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁『新版グローバルエコノミー』有斐閣
東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 見つめてみよう、考えよう、世界のこと』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 図表で見た世界経済の概観
- 2回 国際貿易システムの課題(1)【19世紀】【戦後】
- 3回 国際貿易システムの課題(2)【WTOの成立と機能】
- 4回 国際貿易システムの課題(3)【WTOと発展途上国】【地域主義】
- 5回 国際貿易の構造と基本原理(1)【国際貿易の構造】
- 6回 国際貿易の構造と基本原理(2)【比較生産費説】【交易条件】
- 7回 国際貿易の構造と基本原理(3)【要素賦存】【グローバル生産システム】
- 8回 直接投資と多国籍企業(1)【現状】【直接投資の目的】
- 9回 直接投資と多国籍企業(2)【多国籍企業の行動様式】
- 10回 国際収支と外国為替(1)【国際収支】【国際収支とマクロバランス】
- 11回 国際収支と外国為替2【外国為替のしくみ】【為替レート】【外国為替市場】
- 12回 国際通貨・金融(1)【国際通貨】【固定相場制】【変動相場制への移行】
- 13回 国際通貨・金融(2)【国際金融市場】【金融のグローバル化】
- 14回 国際通貨・金融(3)【国際金融危機】【国際通貨システムの改革】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストおよび平常の学習状況 ... 40% 期末試験またはレポート ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、参考文献の他に、経済に関する入門書をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

世界経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、現実の世界経済の動きを理解するための基本的な知識を身につけることを目的とする。この授業では、世界経済を構成している発展途上国と先進諸国の経済を概観し、世界が抱えている諸問題を経済の視点から考察していく。

教科書 /Textbooks

石田修・板木雅彦・櫻井公人・中本悟編『現代世界経済をとらえるVer.5』東洋経済新報社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁『新版グローバルエコノミー』有斐閣
東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 見つめてみよう、考えよう、世界のこと』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 南北間格差から見た世界経済の概観
- 2回 低開発と貧困削減(1)【貧困の概念・指標】【ケイパビリティ・アプローチ】
- 3回 低開発と貧困削減(2)【開発理論の変遷】【南北問題】【累積債務と構造調整】
- 4回 低開発と貧困削減(3)【ミレニアム開発目標】【人間開発】【人間の安全保障】
- 5回 一次産品と資源・食糧問題(1)【現状】【一次産品問題の展開】
- 6回 一次産品と資源・食糧問題(2)【農産物貿易と食料供給】【多国籍企業と国際商品市場】
- 7回 国際環境政策(1)【地球環境の現状】【地球温暖化問題】
- 8回 国際環境政策(2)【京都議定書】【ポスト京都議定書】
- 9回 国際環境政策(3)【環境と貿易】
- 10回 人の移動とグローバル化(1)【移民と国際労働力移動】【アメリカ・ドイツの移民政策】
- 11回 人の移動とグローバル化(2)【社会的・経済的効果】【日本での現状】
- 12回 アメリカ経済(1)【ドル危機】【スタグフレーション】【レーガノミクス】
- 13回 アメリカ経済(2)【ニューエコノミー】【サブプライム】【アメリカ発世界経済危機】
- 14回 ヨーロッパ経済(1)【戦後の復興発展】【地域統合の展開】
- 15回 ヨーロッパ経済(2)・まとめ【通貨統合】【ヨーロッパ経済の現状】【全体の総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストおよび平常の学習状況 ... 40% 期末試験またはレポート ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、参考文献の他に、経済に関する入門書をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1)：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2)：【課税】
- 5回 市場と厚生(1)：余剰の概念、市場の【効率性】
- 6回 市場と厚生(2)：余剰の概念、市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1)：【余剰分析】、【価格規制】
- 8回 需給分析の応用(2)：【余剰分析】、【課税】
- 9回 市場と企業行動(1)：【生産】費用、【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2)：【限界分析】【限界収入】、【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3)：【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1)：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2)：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学II 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ（中級ミクロ経済学）の受講者は「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、景気循環や経済成長といった諸現象の解明をその主要な目的としている。この講義ではマクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDPの定義】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPの名目値と実質値】
- 10回 GDP決定理論(1) 【財の総需要と総供給】
- 11回 GDP決定理論(2) 【均衡GDPの決定】
- 12回 GDP決定理論(3) 【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【開放経済下の乗数効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、ケインズのな財政政策の有効性、貨幣流通量がマクロ経済に与える影響、IS-LMモデル、経済成長の基本メカニズムなどである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性(1) 【45度線モデル】【財政政策】【均衡予算乗数】
- 3回 財政政策の有効性(2) 【消費・貯蓄決定のライフサイクル仮説】
- 4回 財政政策の有効性(3) 【リカードの中立命題】
- 5回 財政政策の有効性(4) 【国債負担】
- 6回 財政政策の有効性(5) 【財政の持続可能性】
- 7回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(1) 【ベビーシッター組合の寓話】
- 8回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(2) 【貨幣の定義・分類】【貨幣供給】【貨幣需要】
- 9回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(3) 【流動性選好理論】
- 10回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(4) 【中央銀行】【金融政策】
- 11回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 12回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 13回 経済成長の基礎理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 14回 経済成長の基礎理論(2) 【貯蓄率】【資本蓄積】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。
寡占のような経済現象に限らず、様々な分野の分析を行う予定。

2つの演習を行う。
1つは、道具の操作性を高める演習。もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。
岡田章 『ゲーム理論・入門-人間社会の理解のために』有斐閣、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論(経済学)とゲーム理論【背景の理解】
- 2-7回 戦略形・均衡概念とその応用【静学・利得行列・支配概念・ナッシュ均衡・数量競争・価格競争】
- 8-12回 展開形・均衡概念とその応用【動学・ゲームツリー・サブゲーム完全ナッシュ均衡・数量競争・価格競争】
- 13-15回 不完備情報・均衡概念とその応用【情報・ベイジアンナッシュ均衡・ネットワーク財】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論である。
Industryという言葉は、昔、『市場』や『取引』という意味を持っていたようです。
現代だと、産業組織論は、市場組織論(Market Organization)と呼ぶ方が相応しいのかもしれませんが。
講義では、消費者と企業が取引する市場に注目し、効率的な取引を行うことを考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Luis Cabral. Introduction to Industrial Organization. MIT Press. 2000.
David Besanko and Ronald Braeutigam. Microeconomics. Wiley. 4 edition. 2010.
Preston McAfee. Competitive Solutions: The Strategist's Toolkit. Princeton Press. 2005.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論のコンセプト【背景の理解】
- 2-3回 ミクロ経済学の復習【費用・最適化】
- 4-5回 完全競争【ベンチマーク・余剰】
- 6-7回 寡占と公共政策【余剰分析・公正取引委員会の仕事】
- 8-9回 独占と公共政策【余剰分析・公正取引委員会の仕事】
- 10回 カルテル【公正取引委員会の仕事】
- 11-12回 市場構造分析【極限定理・無限繰り返しゲーム】
- 13回 自然独占と差別価格【余剰】
- 14回 TyingとMixed Bundling
- 15回 標準化とネットワーク外部性

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

産業組織論I・ミクロ経済学の知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識できる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解できる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(Ⅰ)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(Ⅱ)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(Ⅲ)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(Ⅳ)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(Ⅴ)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【パージェス】【ホイト】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・ランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代的地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

国際経済論I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、不完全競争を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論IIも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 部分均衡分析(1)【消費者余剰】【生産者余剰】
- 3回 部分均衡分析(2)【自由貿易の利益】
- 4回 リカード・モデル(1)【絶対優位】【比較優位】
- 5回 リカード・モデル(2)【貿易パターン】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(1)【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(2)【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 8回 不完全競争と国際貿易(1)【独占市場】
- 9回 不完全競争と国際貿易(2)【ダンピング】【製品差別化】
- 10回 完全競争と貿易政策(1)【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 完全競争と貿易政策(2)【数量割当政策】【有効保護】
- 12回 不完全競争と貿易政策(1)【国内独占】
- 13回 不完全競争と貿易政策(2)【外国独占】
- 14回 不完全競争と貿易政策(3)【戦略的貿易政策】【幼稚産業保護】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(数回) 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、不完全競争、貿易政策

国際経済論II 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論Iも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 国際収支表(1)【国民所得勘定】
- 3回 国際収支表(2)【経常収支】【資本収支】
- 4回 外国為替の基礎(1)【為替相場市場】【通貨制度】
- 5回 外国為替の基礎(2)【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 6回 外国為替取引(1)【直取引】【先渡取引】
- 7回 外国為替取引(2)【金利裁定】【通貨オプション】
- 8回 外国為替の決定理論(1)【アセット・アプローチ】
- 9回 外国為替の決定理論(2)【購買力平価】
- 10回 開放経済下の国民所得決定(1)【貿易乗数】
- 11回 開放経済下の国民所得決定(2)【需要の変化】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策(1)【マンデル＝フレミングモデル】【BP曲線】
- 13回 開放経済下のマクロ経済政策(2)【固定相場制】【財政政策】【金融政策】
- 14回 開放経済下のマクロ経済政策(3)【変動相場制】【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(回数) 40 % 期末試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
国際経済理論のロジックをしっかりと理解し、論理的思考力を身につけてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、外国為替、国民所得、開放経済下のマクロ経済政策

財政学I【昼】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。そして、1人でも多くの人々が日本の財政問題に対して関心を持つことをねらいとする。

財政学Iは、現実の財政制度や事情についての説明を中心に行う。どのような財政のあり方が望ましいのかを、経済理論を用いて説明するのは財政学IIで行う。

教科書 /Textbooks

小塩 隆士「コア・テキスト 財政学」新世社 2005年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政(各年度版)」東洋経済新報社 ○
「図説 日本の税制(各年度版)」財経詳報社 ○
井堀 利宏「新経済学ライブラリー7 財政学(第3版)」新世社 2006年 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】は講義のキーワード)
- 1回 イントロダクション(財政の3つの機能)
 - 2回 財政とは何か?(財政学の変遷)
 - 3回 日本の財政制度①(【予算制度】)
 - 4回 日本の財政制度②(【財政投融资】)
 - 5回 租税①(日本の【租税】制度)
 - 6回 公債①(日本の【公債】事情)
 - 7回 演習(これまでの復習)
 - 8回 地方財政①(【地方財政制度】)
 - 9回 地方財政②(【地方財政事情】)
 - 10回 日本の財政事情①(戦後日本【財政史】)
 - 11回 日本の財政事情②(現在の国の【財政事情】)
 - 12回 財政事情の国際比較
 - 13回 財政収支①(【財政収支】とは?)
 - 14回 財政収支②(【世代間の不公平】)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% レポート課題2つ... 50%(=25%×2)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

財政に関するニュースはほぼ毎日、ニュースで取り上げられるので、財政に関心を持つようにニュースなどをしっかり見て欲しい。そして、「公共経済学」も併せて履修するのが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

予算制度 租税 公債 地方財政制度 財政史 財政事情 財政収支 世代間の不公平

財政学II 【昼】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。そして、1人でも多くの人々が日本の財政問題に対して関心を持つことをねらいとする。

財政学IIでは、経済理論を用いて、財政制度が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、その上で社会にとって望ましい財政のあり方を説明する。

教科書 /Textbooks

小塩 隆士「コア・テキスト 財政学」新世社 2005年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政(各年度版)」東洋経済新報社 ○
 「図説 日本の税制(各年度版)」財経詳報社 ○
 井堀 利宏「新経済学ライブラリー7 財政学(第3版)」新世社 2006年 ○
 小塩 隆士「社会保障の経済学(第3版)」日本評論社 2005年 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】は講義のキーワード)
- 1回 インTRODクシヨN(財政学Iと経済理論のおさらい)
 - 2回 租税②(【租税理論】と日本の税制度の特徴について)
 - 3回 租税③(【負担】と転嫁)
 - 4回 公債②(【公債】の経済理論)
 - 5回 公共財①(【公共財】の最適供給)
 - 6回 公共財②(【投票】)
 - 7回 マクロ財政政策①(【減税政策】と【公共事業】)
 - 8回 マクロ財政政策②(【財政政策】が無効な場合)
 - 9回 演習(これまでの復習)
 - 10回 所得再分配
 - 11回 経済政策理論
 - 12回 社会保障制度①(【社会保障事情】)
 - 13回 社会保障制度②(【社会保障理論】)
 - 14回 最近の研究の動向について
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...50% レポート...50%(= 25%×2)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」の基礎知識を前提として進めるので、これらの科目を履修しておくこと、より理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

経済理論を扱うため、数学や計算を用いた講義となります(2回に1回程度)。また、高校レベルの数学である微分を用いることもありますが、微分を用いる計算については試験の範囲に含めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では計算をよく行います。よく使う計算は中学レベルなのですが、慣れていないとできないものです。しかしながら、中学レベルの計算は日常では必ず役に立ちますので(お買い物をする時など)、計算が苦手だという人もこの講義で是非慣れて欲しいです。

キーワード /Keywords

課税 公債 公共財 投票 マクロ財政政策 所得再分配 経済政策 社会保障

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の日本で、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考えを持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2,000円
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【楽市楽座、自給自足経済】
- 第3回 保護貿易の問題点【保護貿易主義者の主張】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 学期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際経済論を受講すると、より深く講義を理解できるかもしれない。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 TPP 比較優位

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。講義に参加された人に対して、直接投資に関してどのような選択をするのが尋ねた後、みなさんの先輩方に対して行なった実験結果を紹介し、海外進出先国選択において偏りが見られることを紹介していきたい。

ゲーム理論を紹介するので、算数レベルものに対してアレルギーのある人は避けた方が良いかもしれないが、苦手レベルであれば、ついていけるような講義を目指す。

テーマ：経済的に合理的な選択と非合理的な選択

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2009年、2,000円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 行動経済学を紹介【行動経済学】
- 3回 ゲーム理論紹介【ゲーム理論】
- 4回 ゲーム理論の解き方【ゲーム理論】
- 5回 直接投資理論の紹介【直接投資理論】
- 6回 チキンゲーム【ゲーム理論】【標準偏差】【中央値】
- 7回 3状況提示【意思決定原理】
- 8回 認識と選択【認識と選択の乖離】
- 9回 ストライキリスクと地震リスク【コンジョイント分析】
- 10回 ライバル参入リスク【コンジョイント分析】
- 11回 「対日感情」と「親近感」【コンジョイント分析】
- 12回 模倣リスク【コンジョイント分析】
- 13回 低確率リスク：SARS反日感情
- 14回 反日感情(中国での反日デモ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行動経済学の関わることを多く説明するので、行動経済学の本に注目しているほうが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視する。

キーワード /Keywords

コンジョイント分析 ゲーム理論 経済的に合理的な選択 反日感情 直接投資理論

経営戦略【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
『ケースに学ぶ経営学[新版]』（東北大学経営学グループ著）有斐閣、2600円。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第 2回 経営戦略論の議論の歴史1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第 3回 経営戦略論の議論の歴史2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第 4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第 5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第 6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第 7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第 8回 競争の戦略1【5フォースズ】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第 9回 競争の戦略2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第 10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第 11回 戦略と企業間関係【サプライチェーン】、【ビジネスシステム】【アライアンス】
- 第 12回 経営戦略と組織1【組織形態】、【事業部性】、【マトリックス組織】
- 第 13回 経営戦略と組織2【組織革新】、【組織学習】【知識創造】。
- 第 14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果(90%)によるが、必要に応じて学期中の小レポートの結果(10%)を加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 下川 進 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、経営組織論の理論的な理解を目的とする。
まず組織とは何か、そして人間と組織の関わりを考える。次に組織形態の歴史の変遷を概観する。そして、経営組織論における代表的な理論を歴史的に考察し、最後に経営組織論の今日的な理論を取り上げる。
また、理論だけでなく実際の考え方も随時取り入れ、理解を深める。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代の経営組織論』(佐久間信夫・坪井順一編著 ¥2,600)
- 『よくわかる組織論』(田尾雅夫編著 ミネルヴァ書房 ¥2,800)
- 『組織論』(桑田耕太郎・田尾雅夫 有斐閣 ¥2,100)
- 『現代ミクロ組織論』(二村敏子編 有斐閣 ¥2,400)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション, 組織の基本原理解【組織の3要素】【職能と機能】
- 第2回 組織における人間【人間観】
- 第3回 組織の基本形態【スタッフ】【分権的組織】
- 第4回 現代的な組織形態【SBU】【プロセス組織】
- 第5回 人間関係論【社会人仮説】【非公式集団】
- 第6回 行動科学的理論【経済人モデル】【職務拡大】
- 第7回 バーナード理論【公式組織】【協働システム】
- 第8回 サイモン理論【意思決定】
- 第9回 企業行動理論【経営人モデル】【組織的意思決定】
- 第10回 組織行動論【ポルボシステム】【人的資源管理】
- 第11回 組織文化論【機能】【解釈】
- 第12回 組織間関係の理論(1)【外部環境】【パワー】
- 第13回 組織間関係の理論(2)【取引費用】
- 第14回 ポスト・モダンの組織論【パラダイム】【共約不可能性】
- 第15回 まとめ

授業の進行具合により変更する場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくはレポート・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」, 「マネジメント基礎論」を履修しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論 【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂が公刊されています。)
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ
 - 2回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務と組織の設計【分業】【調整】
 - 5回 人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 キャリア開発・人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 人事考課制度【人事考課】【目標管理】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 福利厚生制度【カフェテリア・プラン】、労使関係論の前半【企業別組合】
 - 11回 労使関係論の後半【団体交渉】、非正規従業員と人材ポートフォリオ【非正社員】
 - 12回 女性労働者と高齢労働者の問題【ダイバーシティ】【再雇用制度】
 - 13回 専門職制度・研究開発技術者の人的資源管理【プロフェSSIONAL】【R&D】
 - 14回 最近の人的資源管理学説【戦略的人的資源管理論】
 - 15回 まとめ、択一式問題演習

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% (出席は不定期に取り、単位の修得条件とする) 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくことよ。
また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語はしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってほしい。
あと教科書は「改訂版」を使用するので、「初版」ではなくこちらを持参されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないであろう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずである。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれないが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえる。

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業の財務活動に関する基礎知識を提供することを目的とします。具体的には、企業（株式会社）の事業活動の元手となる資本を提供している株主の観点から、企業がどのように資本調達を行い、実物資産へ投資し、また、投資からのリターンを投資家に返すべきか（ペイアウト）を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹、『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸、『コーポレート・ファイナンス入門』，日本経済新聞社（2004年）
石野雄一、『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション コーポレート・ファイナンスの世界
- 2回～4回 コーポレート・ファイナンスの世界【期待リターン，リスク（標準偏差），証券，発行市場，流通市場，ゴーイング・コンサーン，減価償却費，配当，内部留保】
- 5回 投資の基礎知識【設備投資，研究開発投資，金融投資，貸借対照表，損益計算書】
- 6回～7回 資本調達の基礎知識：自己資本調達【額面，時価，創業者利得，IPO，普通株，優先株，ハイリスク・ハイリターン，ROA，ROE】
- 8回～9回 資本調達の基礎知識：負債資本調達【普通社債，ワラント債，転換社債，MSCB】
- 10回～11回 配当の基礎知識【配当政策，配当性向，配当利回り，自社株買い戻し，株式分割】
- 12回～14回 コーポレート・ガバナンス【所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード 取締役会制度，執行役員制度，大株主，敵対的買収，メインバンク，株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・90% レポート（課題）・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回「電卓」を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講する場合は、「簿記論I」・「簿記論II」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は企業ファイナンスIで学習した内容をふまえて、株主の観点から、企業の財務活動を考える上で必要になる理論的基礎を与えることを目的とします。具体的には、「将来の1万円と現在の1万円ではどちらの方が価値が高いか」、「企業価値を最大化するための資本構成は存在するか」などを学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹, 『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス(改訂版)』, 創成社(2009年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸, 『コーポレート・ファイナンス入門』, 日本経済新聞社(2004年)
石野雄一, 『ざっくり分かるファイナンス』, 光文社(2007年)
大津広一, 『ファイナンスと事業数値化力』, 日本経済新聞社(2010年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 企業ファイナンスIの復習
- 2回~3回 現在価値計算【現在価値(PV), 将来価値(FV), 安全利子率, リスクプレミアム, 投資信託】
- 4回~6回 株式価値・負債価値と企業価値【金融商品, 利付債, 割引債, クーポン, 配当割引モデル(DDM), 企業価値, 株式価値, 負債価値】
- 7回~9回 資本コスト【資本コスト, 最低要求収益率, 安全資産, 加重平均資本コスト, ポートフォリオ, マーケット・ポートフォリオ, 資本資産評価モデル(CAPM), β (ベータ)】
- 10回~11回 投資決定の基礎理論【投資決定, 割引キャッシュフロー(DCF)法, 正味現在価値(NPV), 内部収益率(IRR), 回収期間法】
- 12回~14回 資本構成の基礎理論【レバレッジ効果, MM理論, 裁定取引, 法人税, 倒産コスト, トレード・オフ・モデル】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・90% レポート(課題)・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回「電卓」を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講する場合は、「簿記論I」・「簿記論II」・「企業ファイナンスI」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、（2007年11月）、1,800円（当時）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計(会计学)とは何か?【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【売却時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計【売上原価について】
- 9回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 10回 原価と時価【有用性】
- 11回 資産について【資産概念の変化について】
- 12回 負債について【負債概念の変化について】
- 13回 財務会計の基礎【発生主義会計】
- 14回 会計のルール【企業会計原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』3版新世社、1,890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会、4,830円○
西澤健次『負債認識論』国元書房、2,415円○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 費用配分という考え方【期間損益】
- 4回 減価償却について【定額法】【定率法】
- 5回 引当金の会計(その1)【退職給付会計】
- 6回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 7回 負債概念について【退職給付会計】
- 8回 有価証券の会計【評価益】
- 9回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 10回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 11回 有価証券評価益と実現概念【原価】【時価】
- 12回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 13回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 14回 財務報告【金融商品取引法】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論の講義をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場論 【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

証券市場は、①、国・企業による長期安定資金の調達、②、金融資産運用の場、③、国民経済の適切な運営、という役割を期待されている。しかし、近年、刹那的なデイトレイド、ホリエモン騒動そしてグローバルに荒れ狂う投機マネーの台頭によってややもすれば一攫千金を夢見る場であるかのような傾向がある。しかし、証券市場は、上記三つの機能を担う重要な役割を期待されている。

講義では、証券市場の基本的存立構造、公開株式会社と証券市場の関係、コーポレートガバナンス論議に関わる機関投資家の行動、M & Aに関わっての証券市場の役割を中心に展開していく。

教科書 /Textbooks

鈴木芳徳『わかりやすい証券市場論入門（新訂版）』白桃書房、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

会社四季報・新聞を用意したい。参考文献として、鈴木芳徳『グローバル金融資本主義』白桃書房、2008年。金子勝『閉塞経済～金融資本主義のゆくえ～』ちくま新書、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 証券市場のあらし。 【日本の証券市場】 【上場銘柄】 【証券会社】
- 2回 景気と株価。 【株式会社と証券市場】 【株価形成】
- 3回 株式会社制度 【証券資本主義】 【日本の会社】
- 4回 公開株式会社 【コーポレートガバナンス】 【株主権】
- 5回 株式と社債 【株券の種類】 【社債】 【種類株式】
- 6回 コーポレートファイナンス 【自己資本と他人資本】 【内部資金と外部資金】
- 7回 証券の流通 【発行市場と流通市場】 【社会的資本】
- 8回 証券価格 【擬制資本】 【資本還元】 【貨幣の時間価値】 【ケインズの美人投票】
- 9回 株価の決定要因と投資尺度 【投資尺度】 【配当政策】
- 10回 株式指標 【日経平均株価】 【東証株価指数】
- 11回 債権価格と債権投資 【債権の種類】 【新株予約権付社債】
- 12回 証券会社と証券取引所 【証券業務】 【証券取引所】
- 13回 投資家の変貌 【機関投資家】 【貯蓄から投資？】
- 14回 グローバル金融資本主義 【投機】 【金融不安定性】 【恐慌】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、小テスト...20% (この割合を、100点満点で換算する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。③、新聞を読むこと。④、会社四季報と友達になること。また、参考文献の鈴木芳徳(信用論研究者)と金子勝(異端の経済学者)の2冊は、金融資本主義という命名のもとにサブプライムローンを扱っている。こうした問題にも関心もてるように講義を受講してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

株式会社と証券市場・株式会社における資本の二重性・証券価格・投資尺度・ガバナンスと証券市場・台頭する外国人株主・金融不安定性

コーポレートガバナンス【昼】

担当者名 /Instructor 晴山 英夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレートガバナンス（企業統治）が日本でも欧米でも大きな注目を集めている。それは、ガバナンスの問題が企業の在り方や存在意義にかかわっているだけでなく、企業の活力や国際競争力を左右する戦略要因とみなされるようになったからである。本講義のねらいは、会社法や経済学の成果も活用しながら、経営学の観点からその意義と課題を明らかにし、日本におけるガバナンス改革の方向性について検討することにある。

教科書 /Textbooks

レジュメとプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コーポレートガバナンスとは何か
- 第2回 企業支配論からガバナンス論へ
- 第3回 企業主権論：株主理論とステークホルダー論
- 第4回 ガバナンス方法論：外部コントロールと内部コントロール
- 第5回 エージェンシー理論 とM&A
- 第6回 アメリカの内部監督システム
- 第7回 ドイツの内部監督システム
- 第8回 日本の内部監督システム
- 第9回 中国の内部監督システム
- 第10回 経営者の報酬制度
- 第11回 日本のガバナンスの功罪
- 第12回 日本のガバナンス改革：監査役設置会社の事例研究
- 第13回 日本のガバナンス改革：委員会設置会社の事例研究
- 第14回 日本の経営の再生に向けて
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（課題、小テストを含む） 30%、 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「なし」

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計監査論 【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業から独立した立場にある公認会計士が、財務諸表の信頼性を検証し担保する外部監査について、その本質と目的、手続と報告方法、さらには監査職能の資本市場への関わりについて考察する。経済学部履修者や資格試験受験志望者にとっては、これまで学んできた会計関連科目の総まとめになろう。しかしながら、本講義では会計専門職が社会に対して担う責任の拡がりを、広く考察するので、過去に会計科目を学んだことのない人であっても、興味や関心があれば積極的に受講されたい(簿記の知識が無くても授業内容は十分理解できるはずである)。講義時間中においては、監査に関わりのある社会的な視点や、会計不正事件をも広く紹介し、履修者に関心を持ってもらう意向である。

教科書 /Textbooks

八田進二編著 『(新訂版)監査論を学ぶ』 同文館出版 ISBN4-495-16973-4 (税別3,500円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

教室にて別途指示をすることがある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内は各回の授業内容に関わるキーワード：

- 第1回 : オリエンテーション～会計監査論を学ぶ意義と役立ちを考える～
- 第2回 : 会計専門職の職業倫理【会計専門職】【職業倫理】
- 第3回 : 「一般に公正妥当と認められた監査基準」について【GAAS】
- 第4回 : 「監査基準書」とその体系について【SAS】【実務指針】
- 第5回 : 監査契約と監査計画について【監査計画】
- 第6回 : 内部統制について【内部統制】
- 第7回 : 監査リスクについて【監査リスク】
- 第8回 : 監査一巡の手続について【運用テスト】【実証テスト】
- 第9回 : 監査報告書の意義とその種類について【監査報告書】
- 第10回 : 企業経営環境とゴーイング・コンサーン問題について【GC問題】
- 第11回 : 四半期レビュー報告書と保証水準について【レビュー】【保証水準】
- 第12回 : 企業改革法(SOX)とJ-SOXについて【金融商品取引法】【内部統制ルール】
- 第13回 : 日・米の公認会計士試験問題の一例紹介【CPA試験】
- 第14回 : 利益調整の動機と、粉飾決算について【粉飾決算】
- 第15回 : まとめと展望【批判会計学としての会計監査論】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果 凡そ70%、レポート 凡そ20%、その他積極性等 凡そ10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回出席を確認し、定期試験以外にレポートも課す。特に予習は要らないが、復習ができるよう、教室にては毎回の授業の内容をしっかりとメモしておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

簿記会計の知識があれば良いが、しかし履修科目前提として求めるものではない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目はいわゆる「山カケ」で単位がとれる科目ではない。履修の動機付けをしっかりと持った学生の受講を希望する。

キーワード /Keywords

財務諸表、公認会計士、金融商品取引法、内部統制、ディスクロージャー、粉飾決算

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教師の役割、教師の職務内容等に関する知識の修得と、教職についての理解と考察の過程を支援することによって、教育と教職に対する実践意欲を喚起し、同時に教育と指導のあり方について助言する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回 教育とは何かI	【学校教育】 【学習と生活】
2回 教育とは何かII	【教育】 【学校】 【生活と文化】 【教育の二つの思潮】
3回 教育の目的	【教育目的論】 【学校と学習】
4回 教育の内容	【教育課程】 【教育課程の編成原理】 【教育課程の歴史】
5回 教育の方法	【指導の本質】 【指導の方法】
6回 生徒指導のあり方	【生徒指導の前提】 【生徒指導の伝統】
7回 職業指導・進路指導	【キャリア教育】 【職業選択の基礎理論】
8回 教師本来のあり方	【教師の仕事】 【子どもの見方】
9回 生徒の生きる力を育てる教育	【生きる力】 【青少年の意識】
10回 性の教育	【思春期の発達】 【カリキュラム】
11回 教育評価	【評価の種類】 【体罰と懲戒】
12回 いのちの教育	【生と死の教育課程】 【いのちの教育の方法】
13回 身体教育	【食教育】 【排便教育】
14回 これからの教育	【学校の役割】 【中等教育】
15回 教師の「資質」とは何か / まとめ	【教師の禁句】 【指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 教育課程の意義と編成(1) 教科書・教材、学習指導要領
- 7回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 生涯学習制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携
- 11回 子育てをめぐる諸問題 子育て不安、教育と福祉
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、公民科教育における知識および技能の習得をねらいとする。まず、公民科教育とはどのようなものかという点についての理解を深めるため、「公民科」の成立過程や位置づけ、現在の教育内容に関する講義を行なう。それらの内容を踏まえ、学生たちによる「公民科」の模擬授業を行なう。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省）
『中学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年。
社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書、2003年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 公民科とは何か ~ 成立過程と位置づけ ~
- 第2回 公民科のねらいと内容
- 第3回 現代社会の課題、模擬授業
- 第4回 経済社会と経済活動、模擬授業
- 第5回 民主主義と政治のしくみ、模擬授業
- 第6回 国際社会と日本、模擬授業
- 第7回 青年期の課題と自己形成、模擬授業
- 第8回 現代の特質と倫理的課題、模擬授業
- 第9回 宗教と倫理、模擬授業
- 第10回 経済格差、模擬授業
- 第11回 環境問題、模擬授業
- 第12回 日本国憲法の性格と現状、模擬授業
- 第13回 現代社会における戦争と平和、模擬授業
- 第14回 人種・民族問題、模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 模擬授業... 40% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校時代に使用していた公民科（「現代社会」、「倫理」、「政治経済」）の教科書で、適宜、教育内容を確認することが望ましい。模擬授業については、自分の担当授業だけでなく、他の学生の授業に対する参加・評価のあり方も重要視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。前半では、新学習指導要領を取り上げ、現在の公民科教育の位置づけについて理解し、さらには教育方法論や授業理論について学習する。後半では、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、上記の知識を習得した上で、受講者は模擬授業を行う。最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説 公民編』（文部科学省）、授業の際に配布するレジュメ・資料等

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年
『中学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第3回 デューイの教育方法論、模擬授業
- 第4回 社会科初志の会の授業理論、模擬授業
- 第5回 ブルーナーの教育方法論、模擬授業
- 第6回 社会科学的手法について、模擬授業
- 第7回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第9回 社会参加の授業理論、模擬授業
- 第10回 グローバル化について、模擬授業
- 第11回 環境問題について、模擬授業
- 第12回 情報化社会について、模擬授業
- 第13回 政治・経済・法関連の重要トピックについて、模擬授業
- 第14回 規範意識について、模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

模擬授業... 50% 模擬授業の際に提出する学習指導案... 30%
授業への積極的参加・貢献度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

模擬授業はパワーポイントを使用して行うため、各自基本的なパソコン操作の技能を修得しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育も含む）における「道徳教育」について学修するためのものである。この「学校教育」における「道徳教育」については、「学習指導要領」に規定されているので、それを基礎にして、具体的な道徳教育のあり方と指導方法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
 - 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
 - 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
 - 4回 「特別活動」と道徳教育 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
 - 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【活動】
 - 6回 「道徳の時間」と道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
 - 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
 - 8回 「道徳の時間」の指導技術 【指導技術】 【指導事例】
 - 9回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
 - 10回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
 - 11回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
 - 12回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
 - 13回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
 - 14回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
 - 15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ③ 子どもたちの自治の力を育む生徒会活動、学校行事の在り方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班ノート、班活動などに視点をあてて
- 8回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班長・リーダー指導に視点をあてて
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

教育方法学【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校の教育も含む）における教育方法についての理論と具体的な方法・技術を学修する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「教育方法」とは何か 【教育方法の形態】【比喻・モデル】
 - 2回 21世紀の教育方法 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
 - 3回 「授業（学び）」の構想 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
 - 4回 授業における展開と「タクト」 【競争原理】【教授学的タクト】
 - 5回 学びを反省・評価する 【評価の方法】【自己評価能力】
 - 6回 学びのシステムのこれまでとこれから 【出席と参加】【学習規律】
 - 7回 「学び」の具体的システムづくり 【相互主体論】【受容】
 - 8回 これからの学びを支える新しいネットワーク 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
 - 9回 情報機器と教材の活用 【マルチメディア】【授業形態】
 - 10回 新しい教師への道を拓く 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
 - 11回 性教育の指導の視点 【ジェンダー】【性】
 - 12回 学習遅滞の指導 【学習遅滞】【学習障害】
 - 13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション 【発話】【聴取】
 - 14回 教育方法における「近代」と「現代」 【連続と非連続】【現代化】
 - 15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ 【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授 - 学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授 - 学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授 - 学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授 - 学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 (20%), レポート (30%), 試験 (50%) により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を修得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学校)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高等学校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
9回 子どもの人権と教育	【人権】 【自尊感情】
10回 教材研究と授業構想	【刻々の教材研究】 【学習指導案】
11回 教師の資質とは何か	【教師の資質】 【事前の準備】
12回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
14回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
15回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 第 1 回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2 回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3 回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
						○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。

さらに、不登校やいじめなど、様々な問題を出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 不登校の子どもに対する教育相談
- 12回 保護者に対する教育相談
- 13回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ問題

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、積極的生徒指導(子どもの発達支援としての生徒指導)に視点をあてて検討していくこと。
 - ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
 - ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
- 本授業のキーワードは、積極的生徒指導、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 ー 文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その1
- 5回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 - 文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その2
- 6回 生徒指導における関係諸機関との連携について - スクールソーシャルワークに視点をあてて
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サバイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達支援としての生徒指導、児童虐待、進路指導

社会科教育法C 【昼】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得と、その過程を通して教職に対する認識の深化を図る。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育の目的と社会科の役割
- 2回 地理的分野の目標と内容とその取り扱い
- 3回 世界と日本の様々な地域
- 4回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
- 5回 歴史のとらえ方と古代・中世・近世・近現代の日本と世界
- 6回 公民的分野の目標と内容とその取り扱い
- 7回 私たちと現代社会・政治・経済と国際社会の諸問題(グループ討議)
- 8回 学習指導要領の変遷と社会科の歩み
- 9回 指導計画の作成と内容の取り扱い
- 10回 資料活用と作業的・体験的な学習
- 11回 指導案の作成と留意点
- 12回 政治及び宗教に関する事項の取り扱い
- 13回 戦前・戦後の社会科教育[戦前・戦後教育改革]
- 14回 学習指導要領の総則・学習基本法施行規則
- 15回 教科目標と各分野の目標

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 30% 演習 ... 30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメと資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得と、その過程を通して教職に対する認識の深化を図る。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これからの学校教育に求められるもの
- 2回 教師に求められる資質能力
- 3回 学校の教育課程
- 4回 学習指導の評価
- 5回 生徒の実態把握と教材研究
- 6回 指導案の作成方法
- 7回 指導案の作成上の留意点
- 8回 地理的分野の学習と内容の取り扱い
- 9回 歴史的分野の学習と内容の取り扱い
- 10回 公民的分野の学習と内容の取り扱い
- 11回 模擬授業 その1 導入
- 12回 模擬授業 その2 展開
- 13回 教育基本法・学校教育法改正案の要旨
- 14回 学習基本法施行規則・地方教育行政法改正案要旨
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 … 30%、 レポート提出内容 … 40%、 授業中の質疑 応答での絶対での評価 … 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメや資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 村上 太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当する部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導【昼】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、家族、学校、地域社会等で観察される諸事象をとりあげて社会的な視点から分析をし、教育社会学の基礎的な概念を提示していきながら、教育に関する事象について、社会的な見方、考え方ができるようになることをめざす。

教科書 /Textbooks

プリント（講義レジュメ・資料）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族の諸形態と教育の機能
- 3回 子どもの社会化の課題
- 4回 学校・教室空間と教育過程
- 5回 教師文化と生徒文化の生成・葛藤
- 6回 若者と職業をめぐる課題
- 7回 学校と地域の歴史
- 8回 「地域の教育力」をめぐる課題
- 9回 生涯学習社会における学び
- 10回 友人関係における葛藤
- 11回 高度消費社会に生きる若者
- 12回 新たなメディアのなかの関係
- 13回 少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育における格差
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題（試験） 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航 (1853) から55年体制の成立 (1955) までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○岡義武『山県有朋』(岩波新書)、○岡義武『近衛文麿』(岩波新書)、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【夜】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いだろう。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。

グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なる。本講義では、(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学一年生という受講者が現在考えている「文化」を、世界各地の文化のありかたを参照することで相対化し、身の回りの現代社会について考察するひとつの手段を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
作道伸介(編)2008『近代化のフィールドワーク』東信堂
宮島喬(編)2000『講座社会学7 文化』東京大学出版会
※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を想像するために
- 第2回 異文化の「発見」：文化を考察する視点について
- 第3回 文化の基礎としての環境との<共生>
- 第4・5回 経済活動にみる文化：贈与と交換から地域通貨まで
- 第6回 資本主義の受容と貧困
- 第7回 開発の現場における「文化の差異」
- 第8・9回 個人と集団：生殖医療の時代に家族・親族関係を考える
- 第10回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第11回 ジェンダー
- 第12・13回 日常生活の中の儀礼からみえる世界観
- 第14回 宗教・呪術・占いの機能
- 第15回 まとめ：グローバル化のなかのローカルな文化と普遍的価値観

成績評価の方法 /Assessment Method

エッセイによる授業貢献20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。来年度に2年次対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、環境、共同体、社会関係

ことばの科学【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 【近代科学と現象学】
- 7回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 8回 確認テストとその解説
- 9回 生活世界論のひろがり(1) 【アーレント、人と思想】
- 10回 生活世界論のひろがり(2) 【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける政治】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している内容確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための人生のその時期、その時期での適切なストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー -】
 - 14回 健康な心と身体の行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分なりの心の健康法について、自覚して取り組んでいる実践や考え方を自分なりに整理して授業に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【夜】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の身体とのつきあい方を身につけ、心身ともに健康なライフスタイルの維持・獲得に向けて、理論の学習と実習を行う。なお、実習では、既存のルールにとらわれない誰でも楽しむことのできる運動を取り入れ、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康【生活習慣病】【運動基準・指針】
- 3回 (実習) ウォーキングと至適運動強度
- 4回 (講義) 運動と心の健康【ストレス社会】【コーピング】
- 5回 (実習) コミュニケーションを楽しむ①(ふうせんバレー)
- 6回 (実習) コミュニケーションを楽しむ②(ソフトバレー)
- 7回 (講義) 運動の継続化を目指して【行動変容】
- 8回～9回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習
- 10回 (実習) 子どもが楽しめる運動(レクリエーション)
- 11回 (実習) 中高年が楽しめる運動(バドミントン)
- 12回 (実習) 高齢者が楽しめる運動(軽スポーツ)
- 13回～14回 (講義) 健康でステキな人生を送るために
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（1）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（2）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（3）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成（1）
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成（2）
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装と体育館シューズを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信満々で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く
- 第3回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第4回 学習指導案の発表①
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表②
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジユメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①
- 第9回 模擬授業と相互観察②
- 第10回 模擬授業と相互観察③
- 第11回 模擬授業と相互観察④
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

①教育実習1を受講していること、②社会科教育法ないしは公民科教育法を受講していること、を受講の条件とします。
なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみや成り立ちを正しく理解し、地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。

この授業の目標は、現在の地球のしくみと地球史を正しく理解することを通して、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(NHKブックス, 日本放送協会), 1071頁
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861頁
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 凍りついた地球【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, 小テスト・ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

思想と現代【夜】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。
授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）（O）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィ』(日本経済評論社、2003年)(O)
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』(南窓社、2003年)(O)
L・ダイヤモンドほか『シベリアン・コントロールとデモクラシー』(刃水書房、2006年)(O)
中道『政治思想のデッサン』(ミネルヴァ書房、2006年)(O)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 開講の辞・グローバル化とデモクラシー【第三の波】【市民社会】
第2-3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
第4-5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
第6-7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
第8-9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
第10-11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
第12-13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組・・・10%、小テスト...10% レポート(任意) 20% 試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『不思議な力 夜間中学』（宇多出版企画発行）
『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 「部落問題について」
- 6 「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 「在日外国人と人権課題」
- 8 「在日コリアンについて」
- 9 「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「戦争と人権 / 女性と戦争」
- 14 「アジアの人権状況」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

授業中の私語は厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身がもつ「学ぶ権利」を十分認識して取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、なぜ「男は仕事、女は家事・育児・介護」は自然な役割だと思われているのか、なぜ男女の賃金格差があるのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（牟田和恵編）大阪大学出版会 2,520円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『岩波女性学事典』（井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編）岩波書店 4,830円
『フェミニズム理論辞典』（マギー・ハム著）明石書店 7,140円
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity, 2003 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 日本語とジェンダー-日本の戦後から現代までの歌謡曲【女言葉・男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウエイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別役割分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャルな関係】【性のダブル・スタンダード】
- 7回 学校教育の今昔-学園ものTVドラマの系譜【ジェンダー・トラッキング】【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-米映画『フローズン・リバー』【シングル・マザー】【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【家族経営協定】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-比映画『ケア・ギバー』【移住労働】【性別分業の再配置】
- 14回 テートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書と資料を事前に読んでおくこと。
ワークショップのプレゼンでは、パワーポイントを使用するので、プレゼンおよびPPT作成スキルを身につけておくこと。PPTは8枚にまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メディア表現、ジェンダー不平等な法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「グローバル化」

北九州学【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、「北九州の政治行政」を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知っとーと！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 北九州の歴史-小倉藩の治世
- 3回 北九州の歴史-小倉の五街道
- 4回 北九州の歴史-軍都小倉
- 5回 北九州市誕生
- 6回 北九州の政治
- 7回 北九州の住民自治
- 8回 北九州の教育行政
- 9回 北九州の交通行政
- 10回 北九州の環境行政
- 11回 北九州の安全対策
- 12回 北九州の福祉行政
- 13回 北九州のスポーツ行政
- 14回 北九州の観光行政
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容は一応の予定です。現在検討中です。講義内容の詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。その後、欧米から日本的経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（＝ライフタイム・コミットメント、広義には職場共同体感）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。日く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものが、こうした人々を支えるセーフティネットをもっていたと判断される。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである。

そうすると行き着くところ、社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちと資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回 【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【現代社会における二者闘争性（白と黒）】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】

現代社会と倫理【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【FLO】
- 7回 小テスト+解説
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(3)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の期末試験は、今年度より持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となる。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代の国際情勢【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を、ポストコロナリズムという現代思想の問題提起に沿って考察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』知の攻略、思想読本4 (作品社、2003) 2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2～3回 なぜ今、ポストコロナリズム七日(1)(2)
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 榎田竜蔵論文
- 11回 第III部の1、 朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、 趙慶喜論文
- 13回 第III部の3、 高橋哲也論文
- 14回 第III部の4、 野村・鄭論文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告レジュメ1回(10%)とレポート3回(90%、1回10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書に登場する概念、理論について自主的に勉強すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【夜】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当: 三宅
2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当: 伊野
3回 民主化問題を考える視座(2)		担当: 伊野
4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当: 伊野
5回 援助と民主主義: バングラデシュの事例	【援助】	担当: チョウドリ・三宅
6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動	【バングラデシュ】	担当: チョウドリ・三宅
7回 途上国と一村一品運動	【一村一品運動】	担当: チョウドリ・三宅
8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化	【グラミン銀行】	担当: チョウドリ・三宅
9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動	【韓国】	担当: 申
10回 韓国: 1990年代以降の民主化と環境政策	【環境政策】	担当: 申
11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス	【米国】	担当: 申
12回 地域社会から見たガバナンス	【地域社会】	担当: 三宅
13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当: 三宅
14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク		担当: 指名教員
15回 まとめ		担当: 三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 子供会 グループ・ワーク

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

なし。活字史料や、パワーポイントで投影した映像史料を適宜コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本評伝選・桂太郎』、○『日本外交年表並主要文書』上・下

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 西南戦争
- 第3回 日清戦争
- 第4回 日露戦争
- 第5回 第一次世界大戦とシベリア出兵
- 第6回 山東出兵(1)
- 第7回 山東出兵(2)
- 第8回 満州事変(1)
- 第9回 満州事変(2)
- 第10回 日中戦争(1)
- 第12回 日中戦争(2)
- 第13回 太平洋戦争(1)
- 第14回 太平洋戦争(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に最低限高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史【夜】

担当者名 /Instructor 福岡 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自由で豊かな暮らしを求めて、人々が都市への集住を強めた20世紀。各地で都市化が進み、農村も相応の変化を強いられてきた。これを「向都離村」という言葉で説明することがあり、都市集住がすべてバラ色ではなかったことを示してきた。にもかかわらず、この傾向は現代においても未だに続いている。果たして、人々を幻惑する都市の魅力とは何か、また農村から都市へと移動する人々が直面した困惑と持ち帰った文化的価値とは何か。

この講義では、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない生活の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。必要な資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 「都市の誘惑」 ガイダンス
- 第2回 「都市と農村 / 都会と田舎」 都市と農村のイメージ
- 第3回 「都市の言葉と話芸の誕生」 言葉から都市と農村を見る
- 第4回 「都会という感覚」 都会の指標としての祭礼
- 第5回 「都会のハビトゥス1」 出会いと社交の技法
- 第6回 「都会のハビトゥス2」 結集の理法
- 第7回 「都会のハビトゥス3」 不文律の妙
- 第8回 「都会人の気質」
- 第9回 「三つ子の魂、百まで」 ある日本画家の原風景
- 第10回 「都市の人生と漁村」 人と物の交流と人生儀礼
- 第11回 「都鄙連続論」 都市と農村の繋がりを考える方法
- 第12回 「都鄙連続論の検証」 山笠に見る文化伝播
- 第13回 「都市の再生産」
- 第14回 「都市と農村の身体性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「話を聞く」ことを重視する。しっかり授業を聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の人物を中心として講義することによって学生に知ってもらうことを目的とする。なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

4人の教員が、日本・アメリカ・インド・英国の代表的な人物について、その人物が生きた歴史と時代について語る。はじめに、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。

江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が繁栄したのか。

次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。次に今や中国とともに、次世代を握るインドの話である。まず、マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史について語る。「ガンディ」の映画を鑑賞したのち、マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?について考える。

最後は、世界大学ランキング1位を維持し続けているケンブリッジ大学を擁する英国について、「湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター」「世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ」「『イギリス病』を救った鉄の女、M.サッチャー」について語る。

教科書 /Textbooks

各回講義の資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義で取り上げるテーマや人物に関して、自伝や歴史書を図書館等で読んでおくこと。
山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで>—(ミネルヴァ書房、2008年6月)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

- 第1回 はじめに。「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と幕末・明治維新
- 第2回 上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 保科正之と江戸幕府
- 第4回 親鸞と平安・鎌倉時代
- 第5回 聖徳太子と飛鳥・奈良時代
- 第6回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
- 第7回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
- 第8回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
- 第9回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史
- 第10回 「ガンディ」の映画鑑賞
- 第11回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?
- 第12回 明治維新を側面から支援したスコットランド人、トーマス・グラバー
- 第13回 湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター
- 第14回 世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ
- 第15回 「イギリス病」を救った鉄の女、M.サッチャー—総まとめ—

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(30%)とレポート(70%)により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げるテーマや人物に関して、自伝や歴史書を図書館等で読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【ラスト・サムライ】【武士道】【幕末・明治維新】【壊滅的な藩の財政を立て直した】【儒教的経営とは】【江戸幕府の礎を築いた】家光の弟・保科正之【民衆に根ざした仏教】【平安・鎌倉時代】【一七条の憲法】【聖徳太子(厩戸皇子)】【飛鳥時代】【オバマ大統領】【ノーベル平和賞】【奴隷解放運動の歴史】【アメリカ歴代大統領】【マハトマ・ガンディ】【イギリス植民地史】【なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか】【ベアトリクス・ポター】【湖水地方】【湯布院】【ケインズと世界恐慌】【サッチャー】【英国病】

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観 【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル 【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」 【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出 【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成① 【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成② 【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成① 【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成② 【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭 【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編 【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開① 【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開② 【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史 【夜】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国の統一というと、単に国内のみの問題という向きがあるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収しつつ変容を繰り返している。また、近隣諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきており、こうした関わりは密接なものである。本講義では、東アジアを中心にその歴史の変遷を考察することにより、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにし、②さらにそれを通じて東アジア諸地域の今後のあり方を自ら模索出来る力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 中華思想・漢民族の形成 -
- 第3回 漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 冊封体制を中心に -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関わり -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と親魏倭王 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族の変遷 -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐と北方騎馬民族国家 - 唐の近隣支配体制の変遷 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20%・定期試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% 日常の授業への取組み20% レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域構造 過疎過密 産業再編成 九州 関門地域

倫理学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して「倫理」という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ--ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理(1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理(2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理(3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理(1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理(2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理(3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 小テスト+解説
- 9回 近代倫理学の誕生(1)【イギリス経験論】
- 10回 近代倫理学の誕生(2)【契約説】
- 11回 近代倫理学の発展(1)【功利主義】
- 12回 近代倫理学の発展(2)【カント】
- 13回 近代倫理学への批判(1)【ニーチェ】
- 14回 近代倫理学への批判(2)【徳倫理】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。初回の授業では「小テスト」の日程・方法について詳しい説明するので、必ず出席すること。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割を説明できるようになります。
- Webページを閲覧する際に、そのページの作成元や信頼度を判断する基準を理解できるようになります。
- データベースとはどのようなものか具体的な例に基づいて説明することができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【リスク分析】
- 8回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 9回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 10回 情報セキュリティ対策(2)【SSL】【クッキー】
- 11回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 12回 データベースの基礎(1)【正規化】【主キー】
- 13回 データベースの基礎(2)【SQL】
- 14回 データベースの基礎・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 75%
日常の授業への取り組み... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、データベース

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作(キーボードで文字を入力する、マウス操作など)ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

英語I【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング まとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course: Self introduction
- 第2回My favourite place in Japan
- 第3回My important friends
- 第4回The sports I enjoy to watch and play
- 第5回The places I want to visit
- 第6回The food I like and what I can make
- 第7回My favourite movies and actors/actresses
- 第8回Countries of the world
- 第9回What I would buy with 10 million yen
- 第10回My family
- 第11回The music I like
- 第12回What I want to have for my dinner
- 第13回What I do in the morning (routine)
- 第14回The season I like
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer holiday
- 第2回The pets I like / the animals I hate
- 第3回Health and fitness
- 第4回The crossword puzzle
- 第5回The person I want to meet
- 第6回What I want to do over New Year
- 第7回My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回Sporting heroes
- 第9回The TV programmes I like to watch
- 第10回My skills
- 第11回My future dream
- 第12回How I get the news in my life
- 第13回My three most important possessions
- 第14回My biggest worry at the moment
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語V【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 1 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年次
単位 /Credits 1単位 1単位
学期 /Semester 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class 律政夜2年 律政夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 10 回 Purchasing
- 11 回 Finances
- 12 回 Media
- 13 回 Entertainment
- 14 回 Health
- 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語I【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州
- 14回 前期のまとめ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金 貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第1課 自己紹介
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（1）
- 13回 第2課 周りにあるものについて尋ねてみよう（2）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級段階に必要な文法や基本句型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『しっかり初級韓国語』（金貞愛他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 指で指しながらいろいろ尋ねてみよう【人称・所有代名詞】
- 4回 場所や位置を尋ねてみよう【存在の有無】【助詞】
- 5回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(1)
- 6回 今日のスケジュールを話してみよう【丁寧な表現】【助詞】(2)
- 7回 1週間のスケジュールを話してみよう【動詞・形容詞の否定形】
- 8回 夏休みのスケジュールを話してみよう【願望形】
- 9回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(1)
- 10回 ホテルの予約をしてみよう【漢数詞】【年月日の言い方】(2)
- 11回 連絡先を聞いてみよう【電話番号の言い方】【補助語幹-ㄴ】
- 12回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(1)
- 13回 時間や年齢を尋ねてみよう【時間・年齢の言い方】(2)
- 14回 近況を親しみをこめて話してみよう【打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基本文字について【基本母音と基本子音①】
- 2回 書き方と発音【基本子音と基本子音②】
- 3回 書き方と発音【激音と濃音】【合成母音字】
- 4回 バッチム【終声①】
- 5回 バッチム【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 単語と音の変化【その他の発音法則】
- 9回 尋ねる時の表現（～ですか？）【指定詞の丁寧形①】
- 10回 自己・物を紹介する時の表現①（～です、～ではありません）【指定詞の丁寧形②】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現②（～といいます）
- 12回 存在の有無を尋ねる時の表現（～がありますか？～いますか？）
【存在詞のうちとけた丁寧形①】【場所をあらわす助詞】
- 13回 存在の有無を尋ねる時の表現（～に～があります。います）
【存在詞のうちとけた丁寧形②】【時を表す単語および助詞】
- 14回 物・場所を尋ねる時の表現（～は何ですか？～はどこですか？）
【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回前期のまとめ
- 2 回「これは何ですか?」①【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 3 回「これは何ですか?」②【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 4 回「日曜日に何をしますか?」①【曜日】【助数詞】【動詞・形容詞のうちけた丁寧形】
- 5 回「日曜日に何をしますか?」②【漢数詞】【時間】【月日】【電話番号】
- 6 回「何が好きですか?」①【動詞・形容詞の否定形①】
- 7 回「何が好きですか?」②【動詞・形容詞の変則】
- 8 回「週末に何をしましたか?」①【動詞の過去形】【時を表す単語】
- 9 回「週末に何をしましたか?」②【願望表現】【形容詞の過去形】
- 10 回「一週間の予定」【接続詞①】【確認表現】
- 11 回「明日は何をするつもりですか?」①【意思表現】【推測表現】
- 12 回「明日は何をするつもりですか?」②【進行や状態の継続表現】【接続詞②】
- 13 回「スープが冷たくておいしいです」①【動詞・形容詞の否定形②】【逆説表現】
- 14 回「スープが冷たくておいしいです」②【並列表現】【比較表現】
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何ですか?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音: ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最初の一步として、フランス語の基本文法を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書の引きかたはもちろん、簡単なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版]フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 冠詞
- 3回 人称代名詞(1) : 主語
- 4回 動詞êtreとavoirの活用
- 5回 否定形
- 6回 形容詞
- 7回 第1群規則動詞
- 8回 疑問形
- 9回 指示形容詞
- 10回 所有形容詞
- 11回 動詞allerとvenirの活用
- 12回 近接未来と近接過去
- 13回 前置詞à、deと定冠詞の縮約
- 14回 疑問形容詞・疑問副詞
- 15回 疑問代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

次の一歩として、フランス語の初級文法のほぼ全体を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書さえあれば、基本的なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版] フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第2群規則動詞
- 2回 比較級と最上級
- 3回 命令法
- 4回 非人称表現
- 5回 人称代名詞(2) : 目的語、強勢形
- 6回 複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 指示代名詞
- 9回 代名動詞
- 10回 単純未来
- 11回 特殊な代名詞
- 12回 半過去
- 13回 受動態
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 条件法・接続法

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語を初めて学ぶ学生向けに初歩のコミュニケーション能力を養う。

簡単なあいさつから始めて、自己紹介や家族のこと、好き嫌い、架空の自分等々について口頭・筆記での表現・理解ができるようになることを目指す。

他の目標は以下のとおり。

基本的な数字、月名、曜日、天気の違い等を覚える。

基本単語を覚え、自分で使えるようになる。

簡単な文章を多数暗記し、応用できるようになる。

適宜、必要な文法事項を習得する。

フランス語検定試験5級程度の実力を旨とする。6月に行われる検定試験5級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

M.-E. Muramatsu 『ピコティ・ピコタ』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 あいさつ、自分の名前
- 3回 自己紹介
- 4回 アルファベット。「誰か」を聞く
- 5回 いろいろな国籍を覚える。3人称単数
- 6回 架空の名前を選び、自己紹介をする
- 7回 架空の国籍を選び、自己紹介をする
- 8回 今日の天気を言う
- 9回 架空の職業を選ぶ
- 10回 日づけを言う
- 11回 誕生日を言う
- 12回 曜日を言う
- 13回 年齢を言う
- 14回 持ち物について話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

フランス語Ⅲ【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期フランス語Ⅲを受講した学生向けに、引き続き初歩のコミュニケーション能力を養う。

フランス語Ⅲで身についた内容をさらに発展させ、口頭・筆記での表現・理解ができるようになることを目指す。

他の目標は以下のとおり。

基本単語をさらに増やし、自分で使えるようになる。

簡単な文章を多数暗記し、応用できるようになる。

適宜、必要な文法事項を習得する。

フランス語検定試験4級程度の実力を旨す。11月に行われる検定試験4級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

M.-E. Muramatsu 『ピコティ・ピコタ』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。前期の復習
- 2回 自分の特徴を言う
- 3回 持ち物について話す
- 4回 両親について話す
- 5回 有名人について話す
- 6回 料理の値段を言う
- 7回 バリで住みたい地区について話す
- 8回 架空のバリの住所を決め、それについて話す
- 9回 架空のバリの住居について話す
- 10回 バリの地下鉄について知る。切符を買う
- 11回 好きな有名人について話す
- 12回 好きな物事について話す
- 13回 デパートで買い物をする
- 14回 レストランへ行く
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

フランス語Ⅲ(前期)を受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書は必要です。授業にも辞書を持参すること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を取り入れます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会のさまざまな面も学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『オラ!』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 動詞serを用いた特殊表現
- 6回 動詞estar, hay を用いた表現
- 7回 動詞estar, hay...を用いた疑問文・応答文
- 8回 時刻表現、形容詞など
- 9回 規則動詞(1)、所有形容詞
- 10回 規則動詞(2)、指示形容詞
- 11回 規則動詞(3)、指示代名詞
- 12回 動詞活用と基本表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠。聴いて話す(発音)ことを反復すること。発音はいたって簡単ですが、動詞の活用だけがやや難しいので、練習を繰り返しましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、天候表現
- 3回 天候表現、時刻表現
- 4回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞
- 5回 反復練習-日常会話表現
- 6回 間接目的格と動詞gustar
- 7回 直接目的格・間接目的格を使う文章
- 8回 再帰動詞(1)
- 9回 再帰動詞(2)
- 10回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 11回 比較級と最上級
- 12回 直説法現在完了
- 13回 命令形(1)
- 14回 日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70% 小テスト...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

商事法（企業活動に関する法）上のテーマを取り扱った「ドイツ語あるいは英語の」文献を輪読することを通して、日本と諸外国との法制度の違いや、紛争解決のあり方の違いを知ること。

教科書 /Textbooks

受講者が興味を抱いているテーマを扱っている文献をセレクトしたうえで、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ毎に、その都度、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミ運営方針の説明
受講者各自が、今一番興味を抱いている企業関連の問題について発表し、いくつかのテーマに絞り込みます。
- 第2回 テーマを決定して、それに応じたメインの文献、関連文献をセレクトします。
輪読のための準備作業：各自の担当箇所、担当順番の決定
担当箇所の内容紹介レジュメの作成・提出方法の説明
- 第3回～第15回 担当者による担当箇所の内容紹介の後、日本の状況との違いなどについて議論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、レジュメ準備の程度、発表内容、ディスカッション等、いわゆるゼミへの参加度...100%
無断欠席は、ゼミを放棄したものとみなされる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語あるいは英語の文献資料を読解するために必要かつ十分な語学力を有している場合には、「文献研究」としての本講義の受講は快適かつ有意義なものになるでしょう。また、当日に実施予定の輪読箇所を見ただけでは、当該文献の趣旨を把握することは往々にして難しいものです。

そこで、ゼミ参加者全員が、文献全体のアウトライン（少なくとも鍵となる主題文）をつかんでおくことが、ゼミを有意義なものにするうえで非常に大切になります。参加者の準備が不十分な場合には、再度、同箇所について読み直しが必要になる場合もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法学に関するドイツ文献を読み、ドイツ刑法学と我が国刑法学との異同を考え、法制度の違いを理解する。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

女高生のドイツ語読解能力に応じて、相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび受講態度によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語文法の基本を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

何をおいても「ヤル気」の問題です。この授業でドイツ語を学ぶという程度の心構えで良い。少しずつドイツ語の力がつけばよいでしょう。

キーワード /Keywords

法哲学専門演習I【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでのゼミでは、現代正義論を主題として、ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥワオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥワオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマツセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥワオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』、ハーバーマス『事実性と妥当性(上)』などを読み進めてきた。
 本年は、その延長上で、ハーバーマスの『公共性の構造転換』をテキストとして取り上げることにより、今日の正義論の中心的概念でもある「公共性（公共圏）」概念の再検討を行う。それは同時に、「市民社会」概念の再検討という課題にも関連してくることになる。

教科書 /Textbooks

ハーバーマス『公共性の構造転換(第2版)』（未来社、3800円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ハーバーマス『事実性と妥当性(上)(下)』（未来社）
- フィンリースン『ハーバーマス』(岩波書店)
- キャルホーン編『ハーバーマスと公共圏』(未来社)
- 毛利透『民主制の規範理論 - 憲法パトリオティズムは可能か』(勁草書房)
- 中岡成文『ハーバーマス』(講談社)
- 小牧治・村上隆夫『ハーバーマス』(清水書院)
- 川本隆史『ロールズ』(講談社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 現代正義論の展開構図の概観
- 第3回 ハーバーマスの理論の概観
(第4回～第14回は、上記テキストを分担して報告し、議論しながら読み進める。)
- 第4回 1990年新版への序言について
- 第5回 第1章 序論
- 第6回 第2章 公共性の社会的構造
- 第7回 第3章 公共性の政治的機能
- 第8回 第4章 市民的公共性(前半)
- 第9回 第4章 市民的公共性(後半)
- 第10回 第5章 公共性の社会的構造変化(前半)
- 第11回 第5章 公共性の社会的構造変化(後半)
- 第12回 第6章 公共性の政治的機能変化(前半)
- 第13回 第6章 公共性の政治的機能変化(後半)
- 第14回 第7章 公論の概念のために
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共性 市民社会

法制史専門演習II【夜】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中世村落の自治とその実態について考察し村掟に関する史料を輪読する

教科書 /Textbooks

1. 戦国の作法 藤木久志著 平凡社
2. 中世政治社会思想上 岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキスト等の解説
- 2回 担当者による発表と討論
- 3回 担当者による発表と討論
- 4回 担当者による発表と討論
- 5回 担当者による発表と討論
- 6回 担当者による発表と討論
- 7回 担当者による発表と討論
- 8回 担当者による発表と討論
- 9回 担当者による発表と討論
- 10回 担当者による発表と討論
- 11回 担当者による発表と討論
- 12回 担当者による発表と討論
- 13回 担当者による発表と討論
- 14回 担当者による発表と討論
- 15回 担当者による発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 50% 参加の程度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者以外の受講者も必ず予習し、報告に対する質問事項、問題点を考えておくこと

履修上の注意 /Remarks

高校日本史程度の知識があった方が理解しやすいでしょう

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習I【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

夜間主の憲法専門演習Iにおいては、マスメディアに関する判例を中心に研究する。参加者が条文・学説・判例を整理して、報告・討論することを通じて、マスメディア判例に関する理解を深めることを目的とする。

しかし、それよりも、公共的な問題について、大学における演習という公共的空間（ないし擬似公共的空間）において、「調査」「報告」「討論」することを通じて、一人の市民・社会人として将来必要とされる素養を身につけていただきたいと考えている。従って、専門的知識を習得するという事もあることながら、学生らしい自由で闊達な議論をしていただきたいと切に願っている。自分の意見を遠慮することなく主張し、相手の意見を真摯に聞いたうえで議論するという、ある意味では学生だけに許される経験を体験して欲しい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)
- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 判例研究
- 3回 判例研究
- 4回 判例研究
- 5回 判例研究
- 6回 判例研究
- 7回 判例研究
- 8回 判例研究
- 9回 判例研究
- 10回 判例研究
- 11回 判例研究
- 12回 判例研究
- 13回 判例研究
- 14回 判例研究
- 15回 判例研究

成績評価の方法 /Assessment Method

判例研究 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自担当の報告準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習II【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習IIにおいては、最新の人権判例について、参加者が条文・学説・判例を整理して、報告・討論することを通じて、「人権論」に関する理解を深めることを目的とする。

しかし、それよりも、公共的な問題について、大学における演習という公共的空間（ないし擬似公共的空間）において、「調査」「報告」「討論」することを通じて、一人の市民・社会人として将来必要とされる素養を身につけていただきたいと考えている。従って、専門的知識を習得するという事柄もさることながら、学生らしい自由で闊達な議論をしていただきたいと切に願っている。自分の意見を遠慮することなく主張し、相手の意見を真摯に聞いたうえで議論するという、ある意味では学生だけに許される経験を体験して欲しい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)
- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 判例研究
- 3回 判例研究
- 4回 判例研究
- 5回 判例研究
- 6回 判例研究
- 7回 判例研究
- 8回 判例研究
- 9回 判例研究
- 10回 判例研究
- 11回 判例研究
- 12回 判例研究
- 13回 判例研究
- 14回 判例研究
- 15回 判例研究

成績評価の方法 /Assessment Method

判例研究 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自担当の報告準備

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習I【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政法の判例を素材として、判例の読み方や扱い方を学び、行政法についての理解を深めることをねらいとする。行政法分野全体から比較的新しい判例を選び、順次検討する予定である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。判例その他の資料は複写して配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同上『行政判例百選II(第五版)』(同上)
- 『平成〇〇年度重要判例解説』(各年版、有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(運営方針の説明)
- 2回 取り上げる判例の説明
- 3回～15回 判例を読む
(判例を順次読み進めながら、討議を行う。判例の一部について、参加者に報告を求めることがある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 60% 討議への参加状況(報告を含む。) ... 40%
(出席が総授業回数の3分の2に満たない者は不合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配付資料を事前に読んでおくこと。
報告を求められた事柄についてはレジユメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習I【夜】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第6版]』(有斐閣)2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山中敬一著『刑法概説I(総論)』(成文堂)2008年10月、2500円+税
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税
立石二六編著『刑法総論30講』(成文堂)2007年4月、2800円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態、テーマの決定
第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、レポートの評価による総合評価(授業態度50%、レポート評価50%)。欠席および受講態度の悪さは減点とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑法犯罪論」で学んだことを復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく議論し合える明るい雰囲気になりたい。積極的な発言を期待しています。

キーワード /Keywords

刑法専門演習II【夜】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第6版]』(有斐閣)2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山中敬一著『刑法概説I(総論)』(成文堂)2008年10月、2500円+税
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税
立石二六編著『刑法総論30講』(成文堂)2007年4月、2800円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態、テーマの決定
第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、レポートの評価による総合評価(授業態度50%、レポート評価50%)。欠席および受講態度の悪さは減点とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑法犯罪論」で学んだことを復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

とにかく、楽しく議論し合える雰囲気になりたい。積極的な発言を期待しています。

キーワード /Keywords

国際法専門演習I【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、いわゆる「国際問題」に関連する「事例」や「判例（国内判例も含む）」等の研究を通じ、国際社会を規律する主要な法体系としての「国際法」が、規範の面で、またそれを担保するシステムの面で、どのような現状に置かれているのか、また、国際政治や国際経済などどのようにかかわってきているのか、その理解をより一層深めていくことを目的とします。また社会人基礎力として必要とされる諸能力の涵養を目指します。

教科書 /Textbooks

松井芳郎『ベーシック条約集』（東信堂・最新版）
必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，係決め
- 第2回 リサーチの仕方
- 第3回 特定課題テーマの提示と調査
- 第4回 フリー・ディスカッション
- 第5回 学生が選定するグループ課題①
- 第6回 グループ準備（テーマ調査）
- 第7回 グループ準備（主張等の整理）
- 第8回 グループ準備（プレゼン資料の作成）
- 第9回 発表等
- 第10回 学生が選定するグループ課題②
- 第11回 グループ準備（テーマ調査）
- 第12回 グループ準備（主張等の整理）
- 第13回 グループ準備（プレゼン資料の作成）
- 第14回 発表等
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実際の指導は選抜時より始めます。予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

国際法専門演習IIとセットで受講してください。
4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の夢の実現に向かってがんばってください。

キーワード /Keywords

【事例 / 判例研究を通じた国際法の基本的運用力の涵養】 【社会人基礎力の涵養】

国際法専門演習II【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、学生が社会に出る / 出ようとするときに、国際法ゼミで勉強してきたことを少しでも活かすことができるようにするためのプログラムを用意します。つまりなぜこの仕事・進路を選ぼうとしているのですかとの問いに対し、大学の国際法ゼミで勉強してきたなかで○○の点に興味を持ったからですと明確に答えられるようにするためのプログラムです。ここまでやりましたと胸を張って言えるものを、頑張っ一緒に作って行きましょう。

教科書 /Textbooks

必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，役職決め
- 第2回 国際法ゼミとの関連でのキャリア研究：グループ分け
 - Group A: 自治体と国際法
 - Group B: 企業と国際法
 - Group C: 国際機関と国際法 など
- 第3回 グループによる予備調査①
- 第4回 グループによる予備調査②
- 第5回 精読文献等の選定・提出（各グループ）
- 第6回 文献精読①「自治体と国際法G」（全員）
- 第7回 同②「企業と国際法G」（全員）
- 第8回 同③「国際機関と国際法G」（全員）
- 第9回 グループ作業（プレゼン準備）
- 第10回 グループ作業（プレゼン準備）
- 第11回 グループ作業（プレゼン準備）
- 第12回 Group Aの発表
- 第13回 Group Bの発表
- 第14回 Group Cの発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

国際法専門演習Iとセットで受講してください。4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

夢の実現に向かってがんばってください。

キーワード /Keywords

【キャリアと国際法】

民法専門演習I【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：「契約法に関する重要判例の検討～じっくり考える民法解釈～」。本演習では、民法の財産法分野、なかでも、契約法分野の重要判例の検討を通じて、契約法理論の理解を深めることを目的とする。また、受講生同士の議論や教員との議論を通じて、自身の見解（法的判断）を、他者に分かりやすく、説得力あるかたちで正確に発信する力を養うことも本演習の目的である。議論への積極的参加が本演習における義務である。

教科書 /Textbooks

- ①中田裕康ほか編『民法判例百選II 債権[第6版]（別冊ジュリストNo.196）』（有斐閣、2009年）
- ②中野次雄編『判例とその読み方（三訂版）』（有斐閣、2009年）
- ③最新版の六法（できれば判例つきの六法の方が望ましい）
- ④民法（契約法または債権各論）の基本書・体系書（受講生が普段使用しているもの）
※上記「4点セット」を必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(※以下の授業計画・スケジュール等は、ゼミ受講人数等により左右されるので、あくまで予定である。)
 ※初回授業時に、代表的判決を紹介する。その中から報告する判決を選択してもらう。報告形式は、受講人数が5名以下の場合には一人で報告。6名以上の場合、受講ゼミ生を3ペアに分けて報告を担当してもらう。いずれにせよ、報告者（報告ペア）は当然のこと、報告に当たっていない受講生も、積極的に議論に参加することが要求される。報告者（報告ペア）は、採り上げた判決について、(1) 事実関係、(2) 訴訟経過、(3) 最高裁判所の判決理由、(4) 争点の所在・従来の学説や判例（理論）と報告判決との関係、(5) 調査官解説や判例評釈で示されている見解、(6) 報告判決についての報告者（報告ペア）の分析結果（判決理由中のどの部分が「判例（結論命題）」か。また、採り上げた判例の射程範囲なども検討してもらう。）を明示しなければならない。報告者（報告ペア）以外の受講生は、上記(1)～(6)について、質問・指摘などを報告者（報告ペア）に対して浴びせなければならない。その他、ゼミの詳細な運営方針については、初回時に説明・協議する。

※最終授業終了時に、報告した判決についての「判例評釈」をレポートとして提出してもらう。

- ※第1回 ガイダンス
- 第2回 報告順・報告する判決の決定
- 第3回～第14回 報告・議論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告の内容など...80%
- ※レポート（判例評釈）の内容...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書②をゼミ開講後、できる限り早い段階で通読しておくこと。報告の準備などを入念に行うのは当然のことである。また、できれば、民事訴訟法の学修も進めておいてもらいたい（自学習レベルでよい。）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2011年度福本民法ゼミ（夜）は1学期のみの開講ですが、毎回真剣勝負の白熱した議論を期待しています。

キーワード /Keywords

民法専門演習II【夜】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、「消費者取引をめぐる諸問題と法律」をテーマとして掲げる。
履修者は、英会話教室の中途解約や、ヤミ金融からの金銭貸借、欠陥建売住宅の購入、マルチ商法、他人によるクレジット・カードの無断使用など、消費者と事業者の間で締結された契約において、消費者を取り巻くトラブルの解決のために民法が果たしている役割を、判例の検討を通じて考えることになる。
また、最新の消費者取引問題に関する話題も提供する。

教科書 /Textbooks

指定なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に担当者が適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から3回にわたり、本演習の概要や、消費者契約法制定の経緯と現在の状況や民法との関係などについて解説する。
その後、配布資料に挙げた判例の中から興味関心のあるものを選んでもらう(報告担当とスケジュールの決定)。
4回から15回まで、毎週1人1件、自分が選んだ判例について検討する。報告は1人あたり30分以内で行ってもらう。その後、受講者全員でその日の検討判例の争点および最高裁の判断の是非について議論するとともに、報告者のレジюмеやプレゼンテーション、主張などに対する評価(良かった点・悪かった点)について発言してもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートを課す(本文10000字以上)。その他、平素の演習における授業態度、発言、報告などを総合して評価するが、レポート未提出者に単位は与えない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は、報告日までに判例を精読し、関連判例や学説を整理しつつレジюмеを用意し(人数分コピーをすること)、報告を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ、演習時の議論において「無言厳禁」を原則とするなど、要求度が高いことを付言しておく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習が、受講者にとって、社会生活において「誰もが消費者取引におけるトラブルに巻き込まれる危険性がある」ことを強く認識してもらう契機となればと思っている。

キーワード /Keywords

消費者判例の精読 法解釈方法論

企業法専門演習I【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業「金融ファイナンス」に関する法的問題を取り扱った文献や判例の分析・検討を目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献は各自のテーマ毎に適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献は各自のテーマ毎に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミ運営方針の説明、判例研究・事例研究の意義を理解する。
 第2回 各自が選択を希望する判例・事例等について、選択にあたっての問題意識を確認したり、明確化したりする。
 第3回 選択しようとしている判例に関連する裁判例や判例解説がどの程度あるのかを調べる。
 研究対象にしやすい判例かどうかを見極める。
 担当判例の決定、報告要旨(レジュメ)作成の方法についての説明、報告順番の決定。
 第4回～第15回 各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論
 (1)判例研究の場合：
 担当者が、事案の概要、判決要旨、争点に関する学説・判例の状況などを一通り報告します。
 その後、担当者は、当該判例の位置づけ(射程距離)などについて、問題提起を行います。
 それを受けて参加者全員で議論します。
 (2)文献紹介の場合：
 担当者が、当該文献の概要について一通り報告します。
 その後、担当者は、当該文献の論旨展開のあり方についての評価・批評などを行います。
 それを受けて参加者全員で議論します。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート作成を含むゼミへの参加度... 100%
 (無断欠席はゼミ放棄とみなします)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者は、報告発表の要旨=レジュメを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、2号館4階2-414研究室前の廊下にあるテーブルの上に提出しておいてください。
 その他の参加者については、上記のコピーを受け取っておき、事前に目を通して、問題点・争点等を把握した上でゼミに参加することをが重要です。

履修上の注意 /Remarks

* 原則として、企業法専門演習IIとセットで受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習I【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習II【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業「金融」に関わる法律問題を対象とする判例・論文等の分析・検討。
本演習は、受講者がゼミ形式の授業をすでに経験し、法律文献の読み方についての基礎知識があることを前提に実施されるものです。参加者が選択し、報告を行った文献・判例について期末にレポートを作成することが最終目標となります。

教科書 /Textbooks

テキストは、特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自が選択した判例・文献に応じて、その都度、参考文献を指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミ運営方針の説明、判例研究・事例研究の意義を理解する。
第2回 各自が選択を希望する判例・事例等について、選択にあたっての問題意識を確認したり、明確化したりする。
第3回 選択しようとしている判例に関連する裁判例や判例解説がどの程度あるのかを調べる。
研究対象にしやすい判例かどうかを見極める。
担当判例の決定、報告要旨(レジюме)作成の方法についての説明、報告順番の決定。
第4回～第15回 各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論
- (1)判例研究の場合：
担当者が、事案の概要、判決要旨、争点に関する学説・判例の状況などを一通り報告します。
その後、担当者は、当該判例の位置づけ(射程距離)などについて、問題提起を行います。
それを受けて参加者全員で議論します。
- (2)文献紹介の場合：
担当者が、当該文献の概要について一通り報告します。
その後、担当者は、当該文献の論旨展開のあり方についての評価・批評などを行います。
それを受けて参加者全員で議論します。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告内容・議論内容・レポートを総合する、ゼミへの参加度...100%
(無断欠席はゼミ放棄とみなされる場合があります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者は、報告発表の要旨=レジюмеを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、2号館4階2-414研究室前の廊下にあるテーブルの上に提出しておいてください。
その他の参加者については、上記のコピーを受け取っておき、事前に目を通して、問題点・争点等を把握した上でゼミに参加することが重要です。

履修上の注意 /Remarks

*原則として、「企業法専門演習I」とセットで受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論【夜】

担当者名 徳永 達哉 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、契約中心の法化社会へ移行しつつある現代社会において必要とされている基本的な法的知識を理解することを目標とします。また、法学についての基本的な考え方を習得することも講義のねらいとします。講義では、日常的な事例を挙げて説明します。日常生活が如何に法に密接に結びついているかを理解してもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

六法 (出版社の指定はありません)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

法律用語辞典 (出版社の指定はありません)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法学を学ぶにあたって「闘争」を意識する。
- 2回 社会規範について、法と道德との違い。
- 3回 法源、六法、法令の調べ方と読み方。
- 4回 判例の調べ方と読み方。
- 5回 裁判制度と法曹
- 6回 民事訴訟と刑事訴訟
- 7回 裁判員制度
- 8回 経済生活と法1(民法と契約の種類)
- 9回 経済生活と法2(契約と債務不履行)
- 10回 経済生活と法3(民法の意思表示)
- 11回 経済生活と法4(クーリングオフ)
- 12回 家族と法
- 13回 国家と法1(社会契約としての公法)
- 14回 国家と法2(人権と国家権力)
- 15回 国家と法3(違憲審査権)

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度(20%) + 知識の確認課題(40%) + レポート課題(40%)を総合的に評価します。
※受講態度は減点方式で評価します。私語・途中入退室・携帯電話など講義妨害行為を広く減点対象としております。講義の1回目で詳細を解説し9回目に再度確認します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は教科書に則して進めますが、情報量が非常に多いです。耳慣れない用語は予め辞書などで調べておいてください。
受講後に気になる用語があれば必ず辞書などで再確認してください。

履修上の注意 /Remarks

範囲が広いため講義の速度が速いです。一瞬でも聞き逃しますと講義について来れなくなりますので、集中力を切らさないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代法曹論I【夜】

担当者名 /Instructor 迫田 学 / sakoda manabu / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

裁判官、検察官、弁護士を総称して「法曹」といいます。裁判員制度が始まり、市民と法曹とが協働する時代となりました。本講義では、少年事件、刑事事件、労働事件、ハンセン病訴訟、薬害C型肝炎訴訟など具体的事件を通じて、法曹のものの考え方や法律実務の様子について学んでいただくことを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは、進捗に応じて変更する場合があります。

- 1回 オリエンテーション 法曹とは
- 2回 刑事裁判の基礎 1
- 3回 刑事裁判の基礎 2
- 4回 裁判員制度
- 5回 少年事件 1
- 6回 少年事件 2
- 7回 憲法の基礎 1
- 8回 憲法の基礎 2
- 9回 ハンセン病違憲国家賠償訴訟 1
- 10回 ハンセン病違憲国家賠償訴訟 2
- 11回 薬害C型肝炎訴訟 1
- 12回 薬害C型肝炎訴訟 2
- 13回 B型肝炎訴訟
- 14回 労働法
- 15回 司法改革と法曹の果たすべき役割

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の成績を中心に総合評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

法や政治、裁判に関する新聞記事に関心を持って読んでみてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法的なものの考え方を身につけるためには、外国語を学ぶように基本的な用語を理解して使えるようになる必要があります。本講義ではその入門部分を学んでいただければと思います。

具体的事件については、映像をごらんいただき、理解を深めていただく予定です。

キーワード /Keywords

法社会学【夜】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法社会学は、実定法解釈学とは異なる視角から、広義の法現象を観察・分析し、言語化する学問です。みなさんが普段学んでいる法解釈学が、法システムの「内部」に関する学知だとするならば、法社会学は、法システムをその「外部」から意味づけていく学知であるといえ、法や規範が、社会の中で、いかなる意味を纏っているのかにつき、多様なアプローチを用いつつ考察していくのが大きな特徴です。

「自明（＝当たり前）」と思っていたことでも、ちょっとだけ視点をずらせば、まったく違った見え方になる—こういった経験は、多少なりとも、みなさんお持ちではないでしょうか。それと同じように、法社会学というメガネを通して眺めてみれば、日々の現実が、実は、さまざまな仕組みの複雑な関係の上に成立していることが見えてきます。本講義を通じて、まずはこの「自明性を相対化する思考」を実感していただければと思います。

でもそれは、社会の裏側を知るためでも黒幕（！）を暴くためでもありません。ましてや、他人を批判・非難するためのもでもありません。わたしたちの社会のなかで生じる現象は、どんな些細なことであれ、決して一枚岩ではないことを知ること、そして現実への単純な意味づけを求めてしまいがちな自分自身の感性をリフレクシヴに高めていくこと、さらにそうした現実に応答しうるための柔軟な思考を磨くこと、これらをみなさんが日々主体的に実践していくことをいくらかでもお手伝いできれば、本講義の目的の大半は達成されたこととなります。

もし私たちの社会が単純明快に見えるとすれば（ちなみに「実は裏で○×が糸を引いている！」類の陰謀観もまた、ある意味究極の明快さ＝単純さを持ってますよね）、それを自明視させている「仕掛け」こそが問われるべきでしょうし、ひょっとしてそれは観察者自身のメガネが曇っているからなのかもしれません。

目先の効用・有効性とは距離をとった地点から、法的・社会的現象を理論的に思考する。「何でそんなことを考える必要があるのか」「決まりきっているではないか」という地点を「あえて」踏み越え / 追い込み考えてみる。そんな知的 / 時間的余裕をもてることこそ「大学生の特権」だとすれば、本講義はまさにその「特権」を最大限に行使してゆく、ということになるのでしょうか。このように、講義のねらいはいささか抽象的です。少なくとも、定型の正しい情報の教授 / 暗記を期待する向きにはそぐわないと思います。ポイントは、講義を聴き終えた時に「多様な柔軟な思考」のノリや勘どころをどのくらい「実感」できるか—ですが最終的には、それはみなさん方一人ひとりの日常「実践」にかかっています。

受講生には、こうした法社会学的思考の多元性やその意義を理解してもらい、それを以って法解釈学的な知見を豊饒化してもらおうとともに、日々の生活の中での問題発見・問題構築の力を養っていくことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。テーマごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション（講義の進め方等についての説明）
- 2回 法社会学的観察とは何か（1）【法システムの「内部」と「外部」という視点】
- 3回 法社会学的観察とは何か（2）【法社会学的アプローチの多元性】
- 4回 法社会学的観察とは何か（3）【法社会学の学問的出自と歴史的系譜】
- 5回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽（1）【フリーライダー問題の「かたち」】
- 6回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽（2）【「正解」の出ない社会問題への対処】
- 7回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽（3）【ゲーム理論】を援用した対処とその問題
- 8回 いまどきの権力と法システム（1）【古典的権力観】のせま
- 9回 いまどきの権力と法システム（2）【規律型】から【環境管理型】へ
- 10回 いまどきの権力と法システム（3）【「正常 / 異常」の分出】と法システムの関係性
- 11回 フェミニズムと法（1）【ラジカル・フェミニズム】のインパクト
- 12回 フェミニズムと法（2）あなた自身の【イマジナリーな領域】へ
- 13回 近代法主体像の臨界（1）【嫌煙権訴訟】判決と社会実態の乖離
- 14回 近代法主体像の臨界（2）【たばこ病訴訟】にみる近代法主体像の臨界
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論述式の定期試験（70%）と毎講義ごとのレスポンスペーパー（30%）により評価します（より詳しくは初回講義時に説明します）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

抽象的・論理的思考を厭わないでください。いつけん「あたりまえなこと」を前に、それが「なぜ / いかにして」あたりまえになっているのかを、折に触れて考えるようにしてください。

法社会学【夜】

履修上の注意 /Remarks

初回の講義において、講義の運営方法や法社会学という学問分野の「ノリ」の一端を紹介しますので、お聞き逃しの無いように願います。なお、同一プリントの再配布はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、法学の隣接科目に興味があり抽象思考を厭わない方々を歓迎します。また、(授業)理解と(情報)暗記を同一視される向きには全くそくいません(蛇足ながら、この点前もってつよくお伝えしておきます)。正解を憶えるのではなく、アレコレ考えてゆくことにやぶさかでない方、いっしょに「頭の柔軟体操」をしましょう。

キーワード /Keywords

法哲学【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会が抱える諸問題や実定法学が投げかける具体的な諸問題を考える上で、思考枠組みとしての法理論は不可欠である。人間の共同生活を考える上で不可欠なものとしての法を捉え直すための、基本的な視座を探究することが、本講義の目的とするところである。

教科書 /Textbooks

○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂、2200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳、濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房）
- 平野仁彦、亀本洋、服部高宏著『法哲学』（有斐閣）
- 長谷川晃、角田猛之編『ブリッジブック法哲学』（信山社）
- 田中成明『法理学講義』（有斐閣）
- 大橋智之輔、三島淑臣、田中成明編『法哲学綱要』（青林書院）
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法哲学とは ～ 概要説明
- 第2回 法と道徳① ラートブルフの法律を越える法
- 第3回 法と道徳② ハート・フラー論争
- 第4回 法と道徳③ 悪法論 ～ ドイツの戦後処理をめぐって
- 第5回 法と道徳④ ハート・デブリン論争 ～ 法による道徳の強制
- 第6回 法と道徳⑤ 理論史1 ～ カント
- 第7回 法と道徳⑥ 理論史2 ～ ラートブルフ
- 第8回 法と強制① ～ ケルゼンの純粋法学
- 第9回 法と強制② ～ 法と合意形成
- 第10回 法・社会・国家① ～ エールリッヒ・ケルゼン論争
- 第11回 法・社会・国家② ～ M・ヴェーバーと形式法の実質化
- 第12回 法・社会・国家③ ～ ハーバーマスと法化
- 第13回 法と生命 ～ 安楽死・尊厳死
- 第14回 まとめ①
- 第15回 まとめ②

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前には、テキストの該当箇所を読み、講義後には各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

「法思想史」を2年次に受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法と道徳 法と強制 ケルゼン ハート

憲法人権論 【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における人権理論について概説するとともに、そのことを通じて現代日本社会における問題についても検証する。人間には国家・社会によっても侵してはならない「自分だけの領域」があるはずである。そして、このような「自分だけの領域」の範囲について考えることが「人権論」だと考えている。講義全体のキーワードは【現代日本社会と人権】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権総論
- 第2回 人権享有主体
- 第3回 特別権力関係論・私人間効力
- 第4回 幸福追求権
- 第5回 平等原則
- 第6回 精神的自由①(信教の自由)
- 第7回 精神的自由②(表現の自由総論)
- 第8回 精神的自由③(表現の自由各論)
- 第9回 精神的自由④(知る権利)
- 第10回 経済的自由
- 第11回 社会権①
- 第12回 社会権②
- 第13回 人身の自由
- 第14回 参政権
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法機構論 【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における統治機構の構造について概説するとともに、そのことを通じて現代日本の政治システムについても検討する。1946年の日本国憲法制定によって、「国民主権」を基調とする政治体制が選択されたとはいえ、「民主主義」あるいは「権力分立」の理想型は一樣なものではない。更には、現実の社会・経済・文化的要素も政治実践の在り方に大きな影響を与えうる。本講義では、日本国憲法における民主主義制度を、理論と実践との関連を意識しながら概説していく。講義全体のキーワードは【民主主義】と【権力分立】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 統治総論① - 統治機構総論
- 第2回 統治総論② - 民主主義の歴史
- 第3回 統治総論③ - 立憲主義の展開
- 第4回 統治総論④ - 日本憲法史
- 第5回 国民主権と象徴天皇制
- 第6回 国会(立法権)① - 国会・議院の構成
- 第7回 国会(立法権)② - 国会・議院の権限
- 第8回 内閣(行政権)① - 内閣制度と行政権
- 第9回 内閣(行政権)② - 行政システムの変貌
- 第10回 裁判所(司法権)① - 司法権の範囲と限界
- 第11回 裁判所(司法権)② - 裁判所制度と違憲審査制
- 第12回 選挙制度・政党制度 - 選挙制度改革と政党国家化
- 第13回 地方自治 - 地方自治制度の根幹と展開
- 第14回 総括
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法総論【夜】

担当者名 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ「行政を規律する法システムの基本原理」

今日の行政の活動はわれわれの生活の隅々にまで及び、われえあれの生活自体もまた行政の活動に大きく依存している。そのような行政の活動を規律する法システムとしての行政法の基本原則について学ぶことがこの講義の内容である、具体的には、法律による行政統制の基本原則、行政の組織と機関、行政の活動過程の統制、行政活動における市民(私人)の権利保障、行政活動の実効性を確保する手段等がその内容である。

教科書 /Textbooks

手島孝他編『新基本行政法学』(2011年予定、法律文化社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同上『行政判例百選II(第五版)』(同上)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 第1回 行政法とはどのようなものか | 第16回 行政行為・行政処分の意義 |
| 2回 行政法の成立とその構造 | 17回 行政行為・行政処分の効力 |
| 3回 行政法の法源 | 18回 行政行為・行政処分の瑕疵 |
| 4回 行政法の法源(その2) | 19回 行政契約 |
| 5回 法律による行政の原理 | 20回 行政指導 |
| 6回 法律による行政の原理(その2) | 21回 行政計画 |
| 7回 行政手続法 | 22回 行政調査 |
| 8回 行政手続法(その2) | 23回 行政活動の実効性確保手段の意義 |
| 9回 行政主体の意義と種類 | 24回 行政上の強制執行 |
| 10回 行政機関 | 25回 行政罰 |
| 11回 行政組織 | 26回 即時強制 |
| 12回 権限の委任と代理 | 27回 その他の手段 |
| 13回 行政機関相互の関係 | 28回~30回 まとめ |
| 14回 行政の行為形式論 | |
| 15回 行政立法 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験90% 課題10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法は応用的科目であるから、憲法、民法、刑法を履修していること(履修中を含む。)が望ましい。専門科目であるから、当然ながら、予習・復習がないと理解は困難である。

履修上の注意 /Remarks

行政法総論は、国家補償法、行政訴訟法、地方自治法等の他の行政法科目を履修するために必要不可欠な科目である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国家補償法【夜】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政府の活動に起因する損害を補填するシステムについて理解することをねらいとする。

教科書 /Textbooks

手島孝・中川義朗編『基本行政法学〔第3版〕』（2005年、法律文化社）
※行政法総論で使用した教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小早川光郎ほか編『行政判例百選II〔第5版〕』（2006年、有斐閣）
- 塩野宏『行政法II〔第四版〕』（2005年、有斐閣）
- 宇賀克也『行政法概説II』（2006年、有斐閣）
- 西莖章『国家補償法概説』（2008年、勁草書房）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国家補償の意義
- 2回 国家賠償の意義
- 3回 公権力の行使に係る国家賠償（1）
- 4回 公権力の行使に係る国家賠償（2）
- 5回 公の営造物の設置管理に係る国家賠償（1）
- 6回 公の営造物の設置管理に係る国家賠償（2）
- 7回 賠償責任者
- 8回 民法の適用
- 9回 損失補償の意義
- 10回 補償の要否（1）
- 11回 補償の要否（2）
- 12回 補償の内容（1）
- 13回 補償の内容（2）
- 14回 補償の谷間と結果責任
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80% 課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法総論を履修済みであることが望ましい。
当然ながら予習・復習が必要である。
(復習のための課題提出を求める。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

犯罪の発生から、捜査、公判（裁判）を経て、刑の執行に至る刑事司法過程において、刑法は、犯罪と刑罰（制裁）に関する法である。この刑法を考察の対象とする刑法学の課題は、どのような行為が犯罪として刑罰という重大な不利益を科されるのか、あるいはどのような行為であれば犯罪とはされないのかという、犯罪の根拠と限界とを明らかにし、犯罪の成否に関する判断基準（規範）を定立することにある。殺人罪や窃盗罪といった、個別の具体的な犯罪の成立要件を考察する法領域が刑法各論（刑法犯罪各論I・II）である。これに対して、この講義が対象とする刑法総論は、すべての犯罪に共通する、犯罪の一般的な成立要件の体系（犯罪論体系）を考察する法領域である。この意味で、刑事法の起点となる科目である。

具体的事例をもとにして講義を展開する。犯罪の成否に関する一般的な法理論を体系的に考察していくなかで、刑法解釈論における基本的テーマ、重要なテーマについて、ときには問題の背景にある思想にまで分け入って、検討を進めていく。論理的思考力を習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。テキストの選択は受講者の任意に委ねる。
各自が使用する基本書（著者を問わない。）及び最新の六法を必携のこと。
（参考）山中敬一『刑法概説I総論』（成文堂・2008.10）
※初回ガイダンスにおいて、基本書について説明するほか、適宜、必要と思われる資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『基礎から学ぶ刑事法（有斐閣アルマ）』4版（有斐閣・2010.03）
- 井田良『講義刑法学・総論』（有斐閣・2008.12）
- 山中敬一『ロースクール講義 刑法総論』（成文堂・2005.04）

刑法犯罪論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。

- 1回 ガイダンス・刑事司法過程の全体像（犯罪の発生から、捜査、公判、裁判、刑の執行に至る刑事司法過程を概観する）
- 2回 犯罪論の基本構造、犯罪の要素、犯罪論体系（刑法の意義・役割、犯罪の意義・構成要素、犯罪論の体系を概観する）
- 3回 刑法の基礎理論(1)犯罪の本質（犯罪論）と刑罰論：新旧学派の争い
- 4回 刑法の基礎理論(2)刑罰論（応報主義、一般予防論、特別予防論）
- 5回 刑法の基礎理論(3)違法論（違法性の本質、行為無価値論と結果無価値論、可罰的違法性）
- 6回 刑法の基礎理論(4)罪刑法定主義（意義と派生原則）
- 7回 行為と構成要件（行為の意義、構成要件論、構成要件要素）
- 8回 実行行為と不能犯・構成要件的结果
- 9回 不作為犯
- 10回 因果関係論(1)条件関係
- 11回 因果関係論(2)相当因果関係・因果関係の諸問題
- 12回 正当行為・被害者の承諾
- 13回 緊急行為(1)正当防衛（過剰防衛・誤想防衛）
- 14回 緊急行為(2)対物防衛・偶然防衛
- 15回 緊急行為(3)緊急避難（過剰避難・誤想避難）
-
- 16回 刑法の基礎理論(5)責任論（責任主義、責任の本質、責任能力、期待可能性）
- 17回 原因において自由な行為
- 18回 故意論（故意の種類、未必の故意）
- 19回 過失論（過失の意義と種類、新旧過失論、信頼の原則）
- 20回 錯誤論① 具体的事実の錯誤
- 21回 錯誤論② 抽象的事実の錯誤
- 22回 未遂罪と予備罪・実行の着手
- 23回 中止犯
- 24回 共犯論の基礎（正犯と共犯、共犯論の基礎）
- 25回 間接正犯
- 26回 共同正犯（共同正犯の処罰根拠、共同正犯の本質）
- 27回 共謀共同正犯・承継的共同正犯
- 28回 狭義の共犯（教唆犯・幫助犯）
- 29回 共犯の諸問題（共犯からの離脱、共犯と身分）
- 30回 罪数論・科刑論（犯罪の個数とその基準、一罪と数罪、罪数処理）

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメを配布する予定である。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習（基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。）・復習（講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。）を十分に行うようにしよう。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講した後に、「刑法犯罪各論I・II」、「刑事訴訟法総論・各論」、「犯罪学」及び「刑事司法政策I・II」を受講することを勧める。また、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 犯罪論

刑事訴訟法各論【夜】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法には、捜査、公訴、公判、裁判、上訴などの手続段階がありますが。それぞれの手続段階には、それ独自の重要性がありますが、その手続段階の中でも、捜査を取り上げて、条文の解釈などを行い、それを詳細に検討していきます。

教科書 /Textbooks

(主テキスト) 松尾浩也著「刑事訴訟法(上巻)」新版(弘文堂、2800円税別)
(副テキスト) 庭山・岡部編「刑事訴訟法(第3版)」(青林書院、3800円税別)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

田宮裕編「刑事訴訟法」北樹出版、三井誠著「刑事手続法I・II・III」(有斐閣)、田口守一著「刑事訴訟法(第5版)」(弘文堂、3780円)、福井厚著「刑事訴訟法講義(第4版)」(法律文化社、3900円税別)、○鴨「刑事訴訟法の基本理念」(九大出版会)、上口・後藤他「刑事訴訟法(第4版)」(有斐閣、2205円)、井上・川出他「刑事訴訟法判例百選(第8版または第9版)」(有斐閣、2520円)、三井他編「刑事法辞典」信山社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 刑事手続の概要
- 2回 捜査の意義
- 3回 捜査の主体
- 4回 捜査の方法
- 5回 身体拘束の概要
- 6回 通常逮捕・緊急逮捕
- 7回 現行犯逮捕
- 8回 勾留
- 9回 逮捕・勾留の諸問題 【事件単位の原則】
- 10回 逮捕・勾留の諸問題 【別件逮捕】
- 11回 証拠収集の概要
- 12回 令状による捜索
- 13回 令状による押収
- 14回 令状によらない捜索・押収
- 15回 検証・鑑定

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

主として、復習に重点を置いて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策I 【夜】

担当者名 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに現代日本の刑事制裁の特色および問題点、並びに刑事司法制度の構造と機能について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書 /Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策【第2版】』（成文堂、2011年4月予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①警察庁編『平成22年度 警察白書』（ぎょうせい、2010年）
- ②法務省法務総合研究所編『平成22年度 犯罪白書』（佐伯印刷、2010年）
- ③内閣府『平成22年版 犯罪被害者白書』（佐伯印刷、2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 刑事政策の概念 【教科書 第1講 1-15頁】
- 2回 刑事政策の歴史 【教科書 第2講 16-42頁】
- 3回 刑事政策の動向 【教科書 第3講 43-55頁】
- 4回 犯罪予防 【教科書 第4講 56-72頁】
- 5回 刑事制裁 【教科書 第5講 73-84頁】
- 6回 刑事司法・少年司法機関の役割(1) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 7回 刑事司法・少年司法機関の役割(2) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 8回 刑事司法・少年司法機関の役割(3) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 9回 犯罪被害者の支援と法的地位【教科書 第7講 111-126頁】
- 10回 死刑 【教科書 第8講 127-141頁】
- 11回 自由刑 【教科書 第9講 142-157頁】
- 12回 財産刑 【教科書 第10講 158-169頁】
- 13回 保安処分 【教科書 第11講 170-188頁】
- 14回 予備日(実務家による特別講義予定)
- 15回 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「犯罪学」「刑事司法政策II」とあわせて受講すればわかりやすい。毎回、テキストの指定された箇所を事前に読みこんでおくこと。

刑事法関連科目のうち、「刑法」「刑事訴訟法」をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

実務家による特別授業を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策II 【夜】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに犯罪者処遇および更生保護の分野における問題点ならびに現代日本社会において関心の高いいくつかの重要犯罪を選んでその現状と刑事政策的対応の在り方について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書 /Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策【第2版】』（成文堂、2011年4月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○法務省法務総合研究所編『平成22年度 犯罪白書』（佐伯、2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 犯罪者の処遇 【教科書 第12講189-203頁】
- 2回 施設内処遇(1) 【教科書 第13講204-233頁】
- 3回 施設内処遇(2) 【教科書 第13講204-233頁】
- 4回 社会内処遇 【教科書 第14講224-243頁】
- 5回 わが国の犯罪情勢【教科書 第15講 244-261頁】
- 6回 個別犯罪と対策(1) 交通犯罪 【教科書 262-279頁】
- 7回 個別犯罪と対策(2) 薬物犯罪 【教科書 280-293頁】
- 8回 個別犯罪と対策(3) 来日外国人犯罪 【教科書 294-305頁】
- 9回 個別犯罪と対策(4) 組織犯罪 【教科書 306-318頁】
- 10回 個別犯罪と対策(5) 高齢者犯罪 【教科書 319-331頁】
- 11回 個別犯罪と対策(6) 企業犯罪 【教科書 332-343頁】
- 12回 個別犯罪と対策(7) 性犯罪 【教科書 344-358頁】
- 13回 個別犯罪と対策(8) 家庭内・近親者間犯罪 【教科書 359-383頁】
- 14回 予備日(実務家による特別講義予定)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「犯罪学」「刑事司法政策I」とあわせて受講すればわかりやすい。毎回、テキストの指定された箇所を事前に読みこんでおくこと。

刑事法関連科目のうち、「刑法」「刑事訴訟法」をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

実務家による特別講義を一回予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法総論【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の社会生活は、基礎法である民法だけでなく、それに加えて広範な社会法によって規律されている。現代社会法は、労働法、社会保障法、衛生法などの法分野を包摂し、日本国憲法25条の生存権の具体化と関連の深い法分野である。近年の経済社会の変動を背景にして、福祉国家の発展のために、社会法に寄せられる国民の期待には大きなものがある。この授業では、人権が尊重される民主的な福祉社会、安心して暮らせる豊かな社会、相互の尊重で支えられる共生社会ないし包摂的社会など、現代社会における人々の社会生活の向上のために、社会法が果たしている役割と、そのために開発されてきた社会法独自の法的方法およびそれぞれの法分野の特徴を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

ワープロで作成したテキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

河野正輝他編「社会保障論」法律文化社、浜村彰他著「ベーシック労働法」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会法とは
- 2回 市民法から社会法へ 近代法の変容と社会立法の発生 [工場法、救貧法、労働者保険]
- 3回 近代法原理と20世紀的憲法 [契約自由、市場原理、公共の福祉]
- 4回 社会法の意義と役割 [朝日訴訟、労働権、社会保障制度審議会勧告]
- 5回 社会法の体系と法的特徴 [公的規制、公的給付、特別私法]
- 6回 福祉国家の公法と私法の社会性 [積極国家、民法1条、社会サービスの法律関係]
- 7回 現代社会と貧困 [ワーキングプア、見えない貧困、非正規労働者、ホームレス]
- 8回 労働法の体系と目的 [労働条件の最低基準、団結権]
- 9回 所得保障法の体系と目的 [生活費の保障、特別費用の保障]
- 10回 社会サービス法の体系と目的 [医療・介護・福祉サービス]
- 11回 衛生法の体系と目的 [医事法、予防衛生、環境衛生]
- 12回 社会権の保護と救済 [権利擁護、審査請求、労働審判]
- 13回 経済社会的背景の転換と社会法の変容 [規制緩和、給付削減]
- 14回 諸外国の社会法改革の動向 [アクティベーション、プライベートイゼーション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講前に参考文献の関係箇所を一読しておくこと、講義内容が解りやすい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会サービス法【夜】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものと考えられるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。これをどのように分類するかについては、統一的な分類方法・基準はない。本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、介護、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、介護保険法の改正、障害者自立支援法の制定・改正、福祉領域における契約制度の導入など、制度の根本的改革が行われており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。本講義は、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジユメで進行予定。ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保障① ～医療供給体制～
- 第3回 医療保障② ～医療保険の保険関係と給付構造～
- 第4回 医療保障③ ～医療保険の保険給付①～
- 第5回 医療保障④ ～医療保険の保険給付②～
- 第6回 医療保障⑤ ～医療保険の財政～
- 第7回 医療保障⑥ ～高齢者医療に関する法～
- 第8回 社会福祉① ～社会福祉の法体系とその展開～
- 第9回 社会福祉② ～社会福祉の給付方式①～
- 第10回 社会福祉③ ～社会福祉の給付方式②～
- 第11回 社会福祉④ ～サービス利用の法律関係①～
- 第12回 社会福祉⑤ ～サービス利用の法律関係②～
- 第13回 社会福祉⑥ ～福祉サービスの提供体制
- 第14回 社会福祉⑦ ～福祉サービス利用者の権利擁護システム～
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100%）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・「社会保障法」としての一体的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が非常に強いので、「契約法」「不法行為法」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとっては高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労使関係法 【夜】

担当者名 /Instructor 柳澤 旭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人口の約半数（5400万人）を占める雇用労働関係は、私たちの生活の基盤である。労働者と使用者との労働条件をめぐる法は、労働関係法として多様な法律からなっているが、その中でも、労働組合と使用者とをめぐる労使関係法を理解することがこの講義の目的である。具体的には労働組合とは何か。団体交渉とはどのようなことを行うのか。ストライキを行うとはどういうことか。これらの基本的な問題を取り扱う。しかし労働組合を中心とした労使関係は、現実の日本社会では重要であるが、組織率の低下も顕著であり、その役割も低下しているのが現状である。そこで講義では、労働法全体の中で労使関係の役割を常に意識しながら問題を見ていくことにしたい。

教科書 /Textbooks

野田進編『判例 労働法入門』（2011年、有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊『労働判例百選（8版）』（2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 労使関係法と労働法全体の見取り図
2. 労使関係の当事者としての労働組合
3. 労働組合法と労働基準法
4. 団体交渉
5. 団体行動
6. 団体行動と賃金
7. 組合活動
8. 労働協約
9. 不当労働行為I
10. 不当労働行為II
11. 労働委員会と裁判所
12. 労働組合の現在と未来
13. 労働法における労使関係法
14. 労働委員会と裁判所
15. 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

基本的には定期試験の成績による。レポート提出、出欠状況も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に次回の講義についての課題を与えるので、講義のときに説明できるようにしておいてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

新聞記事を講義資料として使うことが多いので、日々の新聞記事について、気を付けてチェックしておいてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は一方的なものでなく、学生諸君に質問や意見を述べてもらうことにしたい。氏名を指名されたら「わかりません」という言葉は、この講義では使ってはならない禁句（タブー）である。このことの意味は講義の冒頭で理解してもらえたいと思います。

キーワード /Keywords

憲法、27条、28条、労働基本権、労働組合、団体交渉、組合活動、争議行為、労働協約

独占禁止法【夜】

担当者名 高場 俊光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の我が国経済は、高度寡占化、政府規制、違法なカルテル等により市場機能が十分発揮できない状況にあり、競争理念がますます重要視されてきている。そのような中で、独占禁止法がどのような切り口で競争を回復・維持しようとしているのかを、法理論面から考える。これにより、自由競争経済の中で、どのような競争が正しい競争であるかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

「独占禁止法」（講義開始後、各受講生にグループウェア上の教材をプリントアウトしてもらう。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『テキスト 独占禁止法(再訂二版)』(波光 巖他 青林書院 ¥4,935)
- 『ベーシック経済法 独占禁止法入門(第3版)』(有斐閣アルマ)(川濱 昇他 有斐閣 ¥1,995)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ『それは独占禁止法違反です①』 【競争の意義・目的】
- 2回 ビデオ『それは独占禁止法違反です②』 【独占禁止法の目的・構成・沿革】
- 3回 不当な取引制限 【カルテル】【談合】【一定の取引分野】【競争の実質的制限】
- 4回 " 【公共の利益】【行政指導】【共同事業】
- 5回 " 【事業者団体によるカルテル】【課徴金】
- 6回 私的独占
- 7回 不正な取引方法 【一般指定】【特殊指定】
- 8回 " 【取引拒絶】【差別的取扱い】
- 9回 " 【事業活動の不当拘束】
- 10回 " 【不当な顧客誘引・取引強制】【取引上の地位の不当利用】【取引妨害】
- 11回 国際取引と独占禁止法
- 12回 企業結合 【市場集中】【水平合併】【垂直合併】【株式保有】【役員兼任】
- 13回 " 【一般集中】【持株会社】【企業集団】【独占的地位】
- 14回 独占禁止法の運用手続
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%。平常の学習状況... 20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独占禁止法は、経済の動きに対し一定の枠組みを与えるものであるから、どのような経済状態に対しどのように適用されるかを実践的に把握するとよく理解できる。したがって、多くの事例を図解したテキストを使用する。したがって、事例の図解を予め勉強してきて欲しい。

履修上の注意 /Remarks

- 1、講義の1、2回目に見るビデオは、概要を知るためであるから、必ず出席して欲しい。
- 2、教材のプリントアウトは講義の進行より先行して行い、予習をしておいて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容は、経済社会で頻繁に出てくる事項が多い。したがって、身近な問題として興味を持って勉強して欲しい。

キーワード /Keywords

独占力(市場支配力) カルテル 談合 不当廉売 流通系列化 特約店制度 再販売維持制度
優越的地位の濫用 合併 持株会社 公正取引委員会 課徴金

国際法II【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認
- 第3回 国家と承認制度：政府承認
- 第4回 国家の基本的権利
- 第5回 国家の基本的義務
- 第6回 まとめ

第II部「陸・海・空と国際法」

- 第7回 陸と国際法
- 第8回 海と国際法：海上交通
- 第9回 海と国際法：海洋資源
- 第10回 空と国際法
- 第11回 まとめ

第III部「国際法主体としての個人」

- 第12回 人権の国際的保障
- 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.7%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

国際取引法【夜】

担当者名 /Instructor 大隈 一武 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際取引法は、単独法として存在するものではない。企業実務において展開されてきた実務先行で、学問としてはまだ確立していない分野である。企業実務における経験から、それを国際契約法、海外投資・企業経営関係法、通商法の3つに分類して授業を行う。

教科書 /Textbooks

なし。プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大隈一武『国際契約法入門』(中央経済社・1996)
外務省経済局監修『世界貿易機関を設立するマラケシュ協定WTO』(日本国際問題研究所・1997)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際契約：英米法契約理論-例えば、【約因】、【コモンロー】、【衡平法】理論・判例検討
- 2回 契約条件と国際貿易条件【インコタームズ】、契約約款などを検討
- 3回 国際取引と制限：【OECD賄賂禁止条約】、【輸出管理ワッセナー取り決め】、歴史的展開
- 4回 国際契約書の起草：海外工事請負契約UNCITRALガイド参照、契約書のドラフティング
- 5回 国際取引諸条約(国際海上物品運送・国際物品売買条約【CISG】など)や荷為替信用状規則【L/C】など
- 6回 海外進出：投資・企業経営-単独進出と企業買収・合併など実務的な展開と内容を検討
- 7回 企業経営：株式会社・【パートナーシップ】の異同を理解し、海外合併事業の方法論、実務
- 8回～9回 投資協定、投資保証、多国間投資保証機関【MIGA】、【OECD多国籍企業ガイドライン】
- 10回 通商法：自由貿易地域と関税同盟の異同、実態、国際的動向、わが国の対応などを検討
- 11回 ブロック経済と世界貿易機関【WTO】：上記10との関連で、WTOの調整・問題点を検討
- 12回～14回 GATTからWTOへ：WTOの組織、諸協定：【紛争解決のメカニズム】
- 15回 【OECD】、【IBRD】、【IMF】などの国際機関の機能と役割：WTO以外の重要な国際機関の機能と役割を理解し、わが国の対応のあり方についても検討

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%
なお、出席が授業回数の3分の2に満たない場合は期末試験の受験資格を認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族法【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思いがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講説親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社（2007年8月）3,000円、水野紀子他編著『家族法判例百選（第7版）』有斐閣（2008年10月）2,400円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助＝泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 3,800円、○二宮周平『家族法〔第2版〕』新世社 3,100円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻】【婚約】【内縁】
- 3回 婚姻制度②【婚姻】【婚約】【内縁】
- 4回 婚姻制度③【婚姻】【婚約】【内縁】
- 5回 離婚制度①【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 6回 離婚制度②【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 7回 離婚制度③【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 8回 親子制度①【実子】【養子】【親権】【後見】
- 9回 親子制度②【実子】【養子】【親権】【後見】
- 10回 親子制度③【実子】【養子】【親権】【後見】
- 11回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 12回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 13回 法定相続制度②【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 14回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」「民法総則」、「物権法」を既に履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。「債権総論」と併せて受講することをお勧めします。講義には必ず六法を持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

債権総論【夜】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちの生活においては、常に何らかの債権が発生しています。(例えば、スーパーで買い物をした場合など)。この講義では、債権について一般的に規定している「債権総論」と呼ばれる部分について学習します。

教科書 /Textbooks

有斐閣のSシリーズの債権総論

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 民法典の債権編の概観、債権とは何か
- 2回(週) 債務と責任、種類債権
- 3回(週) 履行の強制
- 4回(週) 債務不履行(履行遅滞)
- 5回(週) 債務不履行(履行不能、不完全履行)
- 6回(週) 損害賠償の範囲とその調整
- 7回(週) 受領遅滞、債権者代位権
- 8回(週) 債権者代位権の転用
- 9回(週) 詐害行為取消権
- 10回(週) 弁済
- 11回(週) 相殺
- 12回(週) 債権の譲渡性
- 13回(週) 債権譲渡の対抗要件
- 14回(週) 多数当事者の債権関係
- 15回(週) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

俗に言うレジュメ等は、一切、配布しないので、とにかく自分で、ノートや教科書に、担当者が話したことを書くこと。「民法総則」及び「物権法」が履修済であることが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

債権

民事訴訟法総論【夜】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法の内、判決手続に関する基本的かつ体系的な知識について解説します。民事訴訟法各論を履修する前に、民事訴訟法総論を履修することが望ましいです。

この科目を履修することにより、民事訴訟法の基本原則、重要単語を理解することができるようになります。

教科書 /Textbooks

最初の授業時に紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 民事訴訟とは 【各種訴訟】 【判決手続】
- 第2回 訴訟手続の概要について 【手続の流れ】
- 第3回 当事者 【当事者能力】 【訴訟能力】
- 第4回 裁判所 【裁判権】 【管轄】
- 第5回 訴えの提起 【訴えの種類】 (小テスト)
- 第6回 訴えの利益 【訴えの利益】 【当事者適格】
- 第7回 争点整理手続1 【弁論準備手続】
- 第8回 争点整理手続2 【弁論準備手続】
- 第9回 口頭弁論1 【処分権主義】 【弁論主義】
- 第10回 口頭弁論2 【口頭弁論】 (小テスト)
- 第11回 証拠1 【証拠】
- 第12回 証拠2 【証明責任】
- 第13回 訴訟の終了1 【判決】 【既判力】
- 第14回 訴訟の終了2 【既判力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献等を利用して、授業の予習、復習をかかさないようにすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倒産処理法 【夜】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

債務者が経済的に破綻状態になったときには、利害関係人の利害を公平に調整する必要が生じます。この利害関係人との利益を調整することを目的とする法体系を、倒産法といいます。近年の経済状況の激変を受け、倒産法制度の改革が現在進んでいます。本講義を受講することにより、倒産処理の中心となる破産法についての知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

宗田親彦編 『やさしい倒産法 [第七版]』 (法学書院) 2 6 0 0 円 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、最初の講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倒産とは、 【破産】、【民事再生】、【会社更生】
- 2回 破産手続の概要
- 3回 手続の開始、 【裁判所】、【破産管財人】
- 4回 債権の行使方法I 【債権の届出】
- 5回 債権の行使方法II 【債権の確定】
- 6回 担保権の行使 【担保権】
- 7回 相殺権の行使 【相殺権】
- 8回 否認権の行使 【否認権】
- 9回 取戻権の行使 【取戻権】
- 10回 双務契約の処理 【売買契約】
- 11回 賃貸借契約、雇用契約等の処理 【賃貸借契約】、【雇用契約】
- 12回 配当、免責、手続の終了 【免責】
- 13回 民事再生法について
- 14回 会社更生法について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自主的に予習・復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法I【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の機関(1)【株主総会(1)】
- 6回 株式会社の機関(2)【株主総会(2)】
- 7回 株式会社の機関(3)【代表取締役と取締役会(1)】
- 8回 株式会社の機関(4)【代表取締役と取締役会(2)】
- 9回 株式会社の機関(5)【監査役】【会計監査人】
- 10回 株式会社の機関(6)【委員会設置会社】
- 11回 株式会社の機関(7)【善管注意義務と忠実義務】【利益相反取引】【役員報酬】
- 12回 株式会社の機関(8)【役員等の会社に対する責任】
- 13回 株式会社の機関(9)【役員等の第三者に対する責任】
- 14回 株式会社の機関(10)【株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法II【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の譲渡】【自己株式】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式の発行】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式発行の瑕疵】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【新株予約権】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権発行の瑕疵】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【社債】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】
- 11回 株式会社の計算(3)【資本金の減少】【財務構成の変更】
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【事業譲渡】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【合併】【会社分割】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法I【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象となる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶然のリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引に「限定」されます。そして、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の基本的枠組みを理解することにあります。火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する法律問題や犯罪を取り上げながら、保険法の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成22年度版以降であることが必要です。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順に進めますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。(【】はキーワード)

- 第1回 保険制度の目的と役割 【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
- 第2回 保険契約の種類と特徴 【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
- 第3回 保険法改正の概要
- 第4回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 第5回 保険契約における告知義務 (1) 告知義務制度の背景・告知者とその相手方
- 第6回 保険契約における告知義務 (2) 告知義務の内容・告知事項
- 第7回 保険契約における告知義務 (3) 告知義務違反の効果
- 第8回 保険契約における告知義務 (4) 事例研究とまとめ
- 第9回 損害保険契約 【被保険利益】
- 第10回 損害保険契約 【保険代位】
- 第11回 各種の損害保険契約一個別の問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 第12回 生命保険契約・傷害保険に特有の問題
- 第13回 保険契約における事情変更・失効
- 第14回 保険者(保険会社)の免責と約款における免責条項の有効性
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%、授業の理解度を把握するために随時実施する小テストの結果を含む日常的授業への参加度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」を合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。また、私的生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したものも持参の上、講義を受けるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠償保険、火災保険、地震保険、医療保険

政策構想論 【夜】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

様々な政策を立案する際に前提とすべき価値や思想について検討しながら、近・未来の政治社会のありうべき姿について考察する。そのためにも、まず、政治と政策にかかわる基礎知識について論述し、次に、政策構想の具体例の分析を行う。

教科書 /Textbooks

中道寿一『政治のデザイン-政策構想論序説』南窓社 (○)。
講義内容のレジュメを配布し、理解の深化を目指す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、毎回、講義中に示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治と政治状況について【権力】【正当性】【組織化】【諸価値の配分】
- 第2回 政治と政策について【方針】【政策の諸定義】【政策科学】
- 第3回 政治と政策研究について【政策分析】【政策過程】【政策構想の必要性】
- 第4回 新しい政策研究と政策の諸局面【政策マインド】【政策価値】
- 第5回 政策価値の変化【夜警国家の政策価値】【ベンサム、ミルの政策構想】
- 第6回 政策価値の変化【福祉国家の政策価値】【ケイインズの政策構想】
- 第7回 政策型思考について【目的・手段的認識】【循環的発想】【システムの発想】
- 第8回 政策型思考について【ポリティクス型政策思考】
- 第9回 市民の政策構想について【参加革命】
- 第10回 市民の政策構想について【参加民主主義】
- 第11回 政治のデザインについて【古典モデル】
- 第12回 政治のデザインについて【社会デザイン】
- 第13回 政治のデザインについて【社会デザインの問題点】
- 第14回 市民による政策構想について【トレードオフ】【諸価値の共生】【熟議民主主義】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出：有 (任意) 平常授業中の小テスト：有 (添削および問題解説)
期末試験：有。
講義への積極的取組... 10% 小テスト... 10% 試験... 80% レポート (任意) : 20%程度の評価
これらを総合して評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治論【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生みなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。日本行政論をとっておくとより理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権

福祉国家論 【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向(どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか?)、②日本の社会保険の特徴(諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか?)。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題点
- 第9回「医療保険」 医療と規制緩和
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

年金や医療に関心をもっておいください。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

西洋政治史【夜】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、近代のヨーロッパにおいて主権国家体系が誕生し、その後紆余曲折を経て現在のEU (European Union) を生み出すことになった歴史を概観するとともに、EUにおける政策分野ごとの統合の進展を検討する。また欧州統合に対して、加盟国がどのような影響を与えてきたのか、主要国の立場の変遷についても検討する。さらに、EUの東方拡大とトルコの加盟問題についても考察する予定である。講義全体のキーワードは、EU、超国家的統合、地域統合、などである。

教科書 /Textbooks

坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』（芦書房）
坂井一成編『グローバルイゼーション国際関係論』（芦書房）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 授業内容の説明、「ヨーロッパ」とは何か
 - 2回 ヨーロッパでの主権国家体系の誕生と拡大(1)【ウェストファリア条約】
 - 3回 ヨーロッパでの主権国家体系の誕生と拡大(2)【ヨーロッパ協調】
 - 4回 ヨーロッパ統合の歴史【地域統合】【ECSC】【EEC】【EC】
 - 5回 共通外交・安全保障政策の進展史【EDC】【EPC】【CFSP】【NATO】
 - 6回 立憲体制と市民的自由の保障の拡大史【入国管理】【EU市民権】【欧州憲法】
 - 7回 教育・文化交流政策の発展史【アイデンティティ】【ソフトパワー】【ヨーロッパ文化】
 - 8回 「多様性の中の統合」の展開【補完性原理】【文化的多様性】【地域政策】
 - 9回 フランス外交とヨーロッパ統合の関係史【ドゴール主義】【国家主権】【対独関係】
 - 10回 ドイツのヨーロッパ統合への対応【半主権国家】【地方分権】【東方政策】
 - 11回 イギリスにおけるヨーロッパ政策の国内化【大西洋主義】【CFSP】【通貨統合】
 - 12回 ベネルクス3国とヨーロッパ統合の関係史【小国】【超国家的統合】【ECSC】
 - 13回 北欧諸国の対外政策と対ヨーロッパ政策の変遷【北欧協力】【福祉国家】【国民投票】
 - 14回 ヨーロッパ統合のゆくえ【欧州憲法条約】【中東欧諸国】【トルコ】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 期末筆記試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ヨーロッパに関する知識があることを前提とはしないが、多少なりともヨーロッパの政治や歴史に興味をもつことが必要である。授業前の予習は特に必要ないが、授業前後にはテキストを一読しておくことより理解が深まる。学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容を全て講義できない点に留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉政策論【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理（行政計画、政策評価、人事・組織・予算管理）など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 自治体間の保険料格差
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化）
- 第9回 「児童福祉」 男女共同参画をめぐる議論
- 第10回 「児童福祉」 児童虐待
- 第11回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第12回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第14回 「利用者保護制度」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点から2点程度減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

介護や障害者福祉に関心を持っておいください。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

環境政策論【夜】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解してもらう。われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。また、地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動など）やアメリカ、ドイツの環境問題やその対策についても考えてみる。

教科書 /Textbooks

- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ¥2,310）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ¥735）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 ¥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 ¥7,748）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など（自分の環境概念について、書いてもらう）
- 2回 公害、環境（問題）とその構造（被害者、加害者等）
- 3回 環境問題の特性とその構造（環境、社会構造と制度、技術、自然＝資源、人口）
- 4回 日本の環境問題と歴史
- 5回 環境権、環境政策の特徴1（日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国）
各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 6回 環境権、環境政策の特徴2（日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国）
- 7回 環境政策の手段（間の比較分析）1；補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 8回 環境政策の手段（間の比較分析）2；有料化、road pricing等
- 9回 自治体の環境政策（環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等）、環境自治体
- 10回 廃棄物はどこにいくのか（アジアへ、私の食卓へ、そして体へ）
- 11回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12回 地球温暖化
- 13回 生物多様性、国際環境問題(黄砂、光化学スモッグ、海ごみ)
- 14回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15回 まとめ（試験などの質問）

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・発表 - 20%、レポート - 30%、期末試験 - 50%
(レポートの未提出者は期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ生の活動・授業内容については、
ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>
申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>
を参照し、準備する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境、環境問題、環境政策（政策手段）、環境影響、国際環境問題。

都市経営論【夜】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

厳しい変革の時代を生き抜くために、企業は経営方針、意思決定の仕組み、組織の運営方法を大転換している。地方公共団体においても、政策の選択と集中によって都市経営方針を明確にし、戦略的な経営が行われるように、簡素で効率的な行政を進める行政改革・組織改革と職員の意識改革を進めている。

この講義では、地方自治体が、都市機能を高め、都市の自律的発展を目指して改革している組織・人的資源管理の現状や在り方について学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 武藤博巳編著『自治体経営改革』自治体改革2(2004)ぎょうせい
- 天野巡一編著『職員・組織改革』自治体改革6(2004)ぎょうせい
- 大住荘四郎『NPMによる行政革命-経営改革モデルの構築と実践』(2003)日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経営論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 地方自治制度と地方分権
- 4回 地方自治体の組織と権能
- 5回 都市経営と政策
- 6回 都市経営と行政計画
- 7回 都市経営と行財政改革
- 8回 地方自治体の組織原理の変化
- 9回 新しい都市経営の基本姿勢
- 10回 新しい組織管理
- 11回 新しい人的資源管理
- 12回 地方公務員の雇用環境の変化
- 13回 新しい都市経営の主体【第三セクター、指定管理者】
- 14回 新しい都市経営の主体【PFI、PPP】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方行政改革論【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、地方行政改革がなぜ必要とされているのか、そこでの改革手法としてどのような手法が用いられているのか、現在進む地方行政改革の実態と課題を論じたい。改革の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。とくに今年、自治体改革のブームともなっている「自治基本条例」を大きく取り扱うことにする。自治体の基本的なルールともいえる自治基本条例を定めるケースが増えているが、自治基本条例の将来的可能性ないし課題について考えることにしたい。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の組織【官僚制の理論】
- 3回 地方自治体の組織【自治体の特性】
- 4回 組織改革①【自治体組織の改革：係制とグループ制】
- 5回 組織改革②【自治体組織の改革：組織内分権の理論】
- 6回 組織改革③【自治体組織の改革：組織内分権の実際】
- 7回 地方公務員の改革①【公務員制度】
- 8回 地方公務員の改革②【人事管理改革】
- 9回 地方公務員の改革③【求められる公務員とは】
- 10回 行政と住民の関係①【市民参加】
- 11回 行政と住民の関係②【自治体内分権】
- 12回 行政と住民の関係③【コミュニティ自治】
- 13回 近年の課題①【自治基本条例の全体像】
- 14回 近年の課題②【自治基本条例による改革進展】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート試験...89% 特定課題...11%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は、地方自治論をすでに履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので心して受講すること。授業中の飲食・私語・携帯電話は禁止します。

キーワード /Keywords

NPO論【夜】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
狭間 直樹 / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する講師による「講義」、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

早瀬昇・松原朗『NPOがわかるQ&A』(岩波書店、2004年)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2010年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識
- 3回 第1回講演会
- 4回 福祉NPO(1)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(2)-社会福祉法人
- 7回 第3回講演会
- 8回 環境NPO(1)
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(2)
- 11回 第5回講演会
- 12回 まちづくりNPO(1)
- 13回 第6回講演会
- 14回 まちづくりNPO(2)
- 15回 講義のまとめおよびレポートについての説明

成績評価の方法 /Assessment Method

出席(授業貢献) ... 50 % レポート... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もってテキストを読む等をして授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、環境NPO、まちづくりNPO

途上国開発論 【夜】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されている。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどである。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みたい。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われているが、同じ地球に生きる人間として、途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えて欲しい。

教科書 /Textbooks

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
* 中村尚司『人びとのアジア - 民衆学の視座から』岩波新書、1994年
* 菊地京子編『開発学を学人のために』世界思想社、2001年、1900円
* 恩田守雄『開発社会学 理論と実践』ミネルヴァ書房、3800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起
- 第2回 開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発」の定義
- 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線をめぐって
- 第4回 アマルティア・センと社会・人間開発
- 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策と先進国の少子化対策
- 第6回 都市問題～インフォーマルセクターの存在
- 第7回 居住問題～スラム・スクワッター居住区
- 第8回 資源分配をめぐって（エネルギー技術のあり方）
- 第9回 環境問題～ゴミ問題を中心に
- 第10回 途上国での農村・農業問題
- 第11回 途上国での山村・漁村での林業・漁業の在り方
- 第12回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA
- 第13回 台頭するNGO～インド・バングラシユの事例より
- 第14回 地域内共生～隣人関係の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施。途上国に関するさまざまなテレビ番組の視聴。

履修上の注意 /Remarks

英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。

キーワード /Keywords

開発途上国、アマルティア・セン、環境問題、持続可能な開発

対外政策論 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスでは、資本・貿易や経済の国際化などの国際システム・レベルの要因が、先進諸国の経済政策にどのような影響を与えるのか、つまり各国は国際経済の制約下いかなる経済政策を施行し、そしてその経済政策が今度は国際システムや他国経済にどのような影響を及ぼすのかを検証する。まず資本・貿易や経済の国際化がどのような環境を創出したかを概観し、次にこの環境が諸国にいかなる制約を課するかを分析する。そしてその制約下各国政府がいかなる経済政策を施行し、その経済政策が国際システムや他国経済にどのような影響を与えるのかを検証する。

教科書 /Textbooks

Thomas Oatley. 2008. International Political Economy: Interests and Institutions in the Global Economy, 3rd ed. New York: Pearson Longman.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そういう覚悟で履修登録すること。毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 国際政治経済とは何か
3. Political Economy of International Trade Cooperation
4. Society-Centered Approach to Trade Politics
5. State-Centered Approach to Trade Politics
6. International Monetary System
7. International Monetary Arrangements
8. Society-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy
9. State-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy
10. Catch-Up and Review
11. Catch-Up and Review
12. International Finance
13. Import Substitution Industrialization
14. Market Reform
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解・授業での発言参加が50%、(2)研究論文が50%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、どれだけ積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は学期末提出の研究論文の質で決める。研究論文はA4紙にダブルスペースで13枚程度。研究論文の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、抽象的な哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。

また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらおう。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って研究を進め、論文をまとめる。当然のことながら、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

対外政策論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計、国際関係論、国際経済論を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

国際機構論I【夜】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会には、国際機構と呼ばれる数百もの組織が存在し、日常的に活動している。それらは、国家や私たちの生活にとって、どのような意味をもっているのだろうか。この講義では、国際機構の代表格である国際連合を中心にして、それらの任務、制度、実績および課題を扱う。

教科書 /Textbooks

最上敏樹『国際機構論』第2版、東京大学出版会、2006年。
初版ではなく第2版を用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。講義では資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 テキスト「はじめに」【国際機構の定義】
- 3回 テキスト第1章「国際機構小史」【ヨーロッパ協調】【国際連盟】
- 4回 国際連盟規約の解説
- 5回 テキスト第2章「国際連合」(I - III)【国連の設立】【安全保障理事会】【総会】
- 6回 同上(IV - VI)【事務総長】【経済社会理事会】【国際司法裁判所】
- 7回 国際連合憲章の解説
- 8回 テキスト第3章「国連改革」【国連改革】【安保理改革】
- 9回 同上
- 10回 テキスト第4章「地域的国際機構」【EU】【北欧共同体】【欧州審議会】
- 11回 テキスト第5章「国際機構創設の動因」【共通利益と国益】【国際機構の類型】
- 12回 テキスト第6章「構造・機能・意思決定」【国家的機関と非国家的機関】
- 13回 テキスト第7章「国際機構論の方法」【法学的アプローチと政治学的アプローチ】
- 14回 テキスト第8章「国際機構の理論化」、「結びにかえて」【国際機構の理論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地域的機構を扱う国際機構論IIも受講すれば、国際機構の全体像を把握することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構論II 【夜】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を特徴づけるものの一つに、地域的 (regional) な国際機構の発達がある。そのような機構には、例えばヨーロッパ連合 (EU)、北大西洋条約機構 (NATO)、東南アジア諸国連合 (ASEAN)、米州機構 (OAS)、アラブ連盟、アフリカ連合 (AU) 等があり、東アジア諸国間においても同様の試みが模索されつつある。それでは何故、こうした地域的な機構が要請されるのか。講義では、ヨーロッパ27カ国が加盟し、現代世界に多大な影響を与えるEUに着目して、その設立、制度、実績および課題を多面的に扱う。

教科書 /Textbooks

辰巳浅嗣編著『EU欧州統合の現在』創元社、2004年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鷲江義勝編著『リスボン条約による欧州統合の新展開』ミネルヴァ書房、2009年。
ほか講義中に指示する。講義では資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに：なぜ地域的な機構を学ぶのか
- 2回 EUの概観【EU条約】【EUの機関】【加盟国の位置と紹介】
- 3回 - 4回 ヨーロッパ地域統合の起源【パン・ヨーロッパ】【独仏和解】【ジャン・モネ】
- 5回 - 6回 ECの成立とEUへの発展【欧州3共同体】【共通政策】【市場統合】【ドローール】
- 7回 - 8回 EUの基本条約の解説【EU条約】【EU運営条約】
- 9回 - 11回 EUの「超国家的」性格とその特質【共同体方式】【欧州委員会】【理事会】【欧州議会】【欧州理事会】【欧州中央銀行】
- 12回 - 14回 EUの対外関係と課題【EU憲法】【民主主義の「赤字」】【EUとグローバル社会】【EUとアメリカ】【日本、アジアとEU】
- 15回 まとめ：主権国家はどのように解体しているのか

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国連を主な対象とする国際機構論Iも受講すれば、国際機構の全体像を把握することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者福祉論I 【夜】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められてきた。障害者自立支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、地域生活、施設利用などでの問題を取り上げながら、以下の点について吟味する。①障害者自立支援法の成立過程と法の具体的内容。②権利保障とは何かについて検討する。③また障害をもつ人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。④さらにはこれまでタブー視されてきた障害者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

小賀 久「障がいのある人の地域福祉政策と自立支援」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立支援】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【地域生活】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【ケアマネージメント】
- 5回 権利擁護システム① 【成年後見制度】
- 6回 権利擁護システム② 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 7回 権利擁護システム③ 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
- 8回 障害者福祉実践の到達点と課題① 【労働支援】
- 9回 障害者福祉実践の到達点と課題② 【生活支援】
- 10回 障害者福祉実践の到達点と課題③ 【家族支援】
- 11回 障害者福祉のこれから① 【障害者介護】
- 12回 障害者福祉のこれから② 【施設解体】
- 13回 障害者福祉のこれから③ 【地域生活支援】
- 14回 障害者福祉のこれから④ 【性の支援】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究【夜】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスはビジネス関係の読解力とライティングの養成を目標とします。(1) 英文読解力養成: 高度なビジネス誌の最近の記事を取り上げ、その内容に沿って経済、ビジネスの仕組みを解説していく。(2) ビジネスライティング養成: ビジネスライティング中心に英文作成力を養い、最終的にはロールプレイとしてある仕事のポストに関する応募書類の一環としてカバーレターやレジメを作成し、インタビューまでカバーします。

教科書 /Textbooks

1. Handouts: news articles : The Economist, Businessweek, Times, Newsweek などの最近の記事
2. Daniel R. Fusfeld. "The Age of the Economist". 洋版出版 (1.2ともこちらで用意します)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜通知する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Session 1:Class orientation
- Session 2:Reading the recent articles in The Economist1
- Session 3:Reading the recent articles in The Economist2
- Session 4:Reading the recent articles in Businessweek1
- Session 5:Reading the recent articles in Businessweek2
- Session 6:Reading the recent articles in Times1
- Session 7:Reading the recent articles in Times2
- Session 8:Reading the recent articles in Newsweek1
- Session 9:Reading the recent articles in Newsweek2
- Session 10:Reading the recent articles in Bloomberg1
- Session 11:Reading the recent articles in Bloomberg2
- Session 12:Business writing1
- Session 13:Business writing2
- Session 14:Resume writing
- Session 15:Interview

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 30 Midterm quiz:30 Final examination : 40

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既に経済、経営関係の講義を受講している場合はさらに効果的な学習ができます。日本の新聞を読み直近の話題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

かなり高いレベルの読解力が要求されますので自信のある方は力試しに参加してください。目安としてはTOEIC750-990ぐらいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

世界経済論I 【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、現実の世界経済の動きを理解するための基本的な知識を身につけることを目的とする。この授業では、貿易、直接投資および多国籍企業、国際通貨・国際金融など世界経済を成り立たせている主要な経済活動分野について学習していく。

教科書 /Textbooks

石田修・板木雅彦・櫻井公人・中本悟編『現代世界経済をとらえるVer.5』東洋経済新報社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁『新版グローバルエコノミー』有斐閣
東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 見つめてみよう、考えよう、世界のこと』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 図表で見た世界経済の概観
- 2回 国際貿易システムの課題(1)【19世紀】【戦後】
- 3回 国際貿易システムの課題(2)【WTOの成立と機能】
- 4回 国際貿易システムの課題(3)【WTOと発展途上国】【地域主義】
- 5回 国際貿易の構造と基本原理(1)【国際貿易の構造】
- 6回 国際貿易の構造と基本原理(2)【比較生産費説】【交易条件】
- 7回 国際貿易の構造と基本原理(3)【要素賦存】【グローバル生産システム】
- 8回 直接投資と多国籍企業(1)【現状】【直接投資の目的】
- 9回 直接投資と多国籍企業(2)【多国籍企業の行動様式】
- 10回 国際収支と外国為替(1)【国際収支】【国際収支とマクロバランス】
- 11回 国際収支と外国為替2【外国為替のしくみ】【為替レート】【外国為替市場】
- 12回 国際通貨・金融(1)【国際通貨】【固定相場制】【変動相場制への移行】
- 13回 国際通貨・金融(2)【国際金融市場】【金融のグローバル化】
- 14回 国際通貨・金融(3)【国際金融危機】【国際通貨システムの改革】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストおよび平常の学習状況 ... 40% 期末試験またはレポート ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、参考文献の他に、経済に関する入門書をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

世界経済論II 【夜】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、現実の世界経済の動きを理解するための基本的な知識を身につけることを目的とする。この授業では、世界経済を構成している発展途上国と先進諸国の経済を概観し、世界が抱えている諸問題を経済の視点から考察していく。

教科書 /Textbooks

石田修・板木雅彦・櫻井公人・中本悟編『現代世界経済をとらえるVer.5』東洋経済新報社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁『新版グローバルエコノミー』有斐閣
東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 見つめてみよう、考えよう、世界のこと』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 南北間格差から見た世界経済の概観
- 2回 低開発と貧困削減(1)【貧困の概念・指標】【ケイパビリティ・アプローチ】
- 3回 低開発と貧困削減(2)【開発理論の変遷】【南北問題】【累積債務と構造調整】
- 4回 低開発と貧困削減(3)【ミレニアム開発目標】【人間開発】【人間の安全保障】
- 5回 一次産品と資源・食糧問題(1)【現状】【一次産品問題の展開】
- 6回 一次産品と資源・食糧問題(2)【農産物貿易と食料供給】【多国籍企業と国際商品市場】
- 7回 国際環境政策(1)【地球環境の現状】【地球温暖化問題】
- 8回 国際環境政策(2)【京都議定書】【ポスト京都議定書】
- 9回 国際環境政策(3)【環境と貿易】
- 10回 人の移動とグローバル化(1)【移民と国際労働力移動】【アメリカ・ドイツの移民政策】
- 11回 人の移動とグローバル化(2)【社会的・経済的効果】【日本での現状】
- 12回 アメリカ経済(1)【ドル危機】【スタグフレーション】【レーガノミクス】
- 13回 アメリカ経済(2)【ニューエコノミー】【サブプライム】【アメリカ発世界経済危機】
- 14回 ヨーロッパ経済(1)【戦後の復興発展】【地域統合の展開】
- 15回 ヨーロッパ経済(2)・まとめ【通貨統合】【ヨーロッパ経済の現状】【全体の総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストおよび平常の学習状況 ... 40% 期末試験またはレポート ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト、参考文献の他に、経済に関する入門書をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1): 【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2): 【課税】
- 5回 市場と厚生(1): 余剰の概念、市場の【効率性】
- 6回 市場と厚生(2): 余剰の概念、市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1): 【余剰分析】、【価格規制】
- 8回 需給分析の応用(2): 【余剰分析】、【課税】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】費用、【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】【限界収入】、【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

経済的考え方、市場均衡、市場の効率性、余剰分析、市場構造、限界分析

ミクロ経済学II 【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を学習する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 第2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 第3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 第4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 第5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 第6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 第7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 第8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 第9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 第10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 第11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 第12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 第13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 第14回 ミクロ経済学再考、展開
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学I【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、景気循環や経済成長といった諸現象の解明をその主要な目的としている。この講義ではマクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDPの定義】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPの名目値と実質値】
- 10回 GDP決定理論(1) 【財の総需要と総供給】
- 11回 GDP決定理論(2) 【均衡GDPの決定】
- 12回 GDP決定理論(3) 【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【開放経済下の乗数効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、ケインズのな財政政策の有効性、貨幣流通量がマクロ経済に与える影響、IS-LMモデル、経済成長の基本メカニズムなどである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性について(1) 【45度線モデル】【財政政策】【均衡予算乗数】
- 3回 財政政策の有効性について(2) 【消費・貯蓄決定のライフサイクル仮説】
- 4回 財政政策の有効性について(3) 【リカードの中立命題】
- 5回 財政政策の有効性について(4) 【国債負担】
- 6回 財政政策の有効性について(5) 【財政の持続可能性】
- 7回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(1) 【ヘビーシッター組合の寓話】
- 8回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(2) 【貨幣の定義・分類】【貨幣供給】【貨幣需要】
- 9回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(3) 【流動性選好理論】
- 10回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(4) 【中央銀行】【金融政策】
- 11回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 12回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 13回 経済成長の基礎理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 14回 経済成長の基礎理論(2) 【貯蓄率】【資本蓄積】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論I【夜】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。
寡占のような経済現象に限らず、様々な分野の分析を行う予定。
2つの演習を行う。1つは、道具の操作性を高める演習。もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。
岡田章 『ゲーム理論・入門-人間社会の理解のために』有斐閣、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 産業組織論(経済学)とゲーム理論【背景の理解】
2-7回 戦略形・均衡概念とその応用【静学・利得行列・支配概念・ナッシュ均衡・数量競争・価格競争】
8-12回 展開形・均衡概念とその応用【動学・ゲームツリー・サブゲーム完全ナッシュ均衡・数量競争・価格競争】
13-15回 不完備情報・均衡概念とその応用【情報・ベイジアンナッシュ均衡・ネットワーク財】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【夜】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論である。
Industryという言葉は、昔、『市場』や『取引』という意味を持っていたようです。
現代だと、産業組織論は、市場組織論(Market Organization)と呼ぶ方が相応しいのかもしれませんが。
講義では、消費者と企業が取引する市場に注目し、効率的な取引を行うことを考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Luis Cabral. Introduction to Industrial Organization. MIT Press. 2000.
David Besanko and Ronald Braeutigam. Microeconomics. Wiley. 4 edition. 2010.
Preston McAfee. Competitive Solutions: The Strategist's Toolkit. Princeton Press. 2005.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論のコンセプト【背景の理解】
- 2-3回 ミクロ経済学の復習【費用・最適化】
- 4-5回 完全競争【ベンチマーク・余剰】
- 6-7回 寡占と公共政策【余剰分析・公正取引委員会の仕事】
- 8-9回 独占と公共政策【余剰分析・公正取引委員会の仕事】
- 10回 カルテル【公正取引委員会の仕事】
- 11-12回 市場構造分析【極限定理・無限繰り返しゲーム】
- 13回 自然独占と差別価格【余剰】
- 14回 TyingとMixed Bundling
- 15回 標準化とネットワーク外部性

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

産業組織論I・ミクロ経済学の知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識できる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解できる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(Ⅰ)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(Ⅱ)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(Ⅲ)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(Ⅳ)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(Ⅴ)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【夜】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代的地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

国際経済論I 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、不完全競争を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論IIも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 部分均衡分析(1)【消費者余剰】【生産者余剰】
- 3回 部分均衡分析(2)【自由貿易の利益】
- 4回 リカード・モデル(1)【絶対優位】【比較優位】
- 5回 リカード・モデル(2)【貿易パターン】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(1)【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(2)【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 8回 不完全競争と国際貿易(1)【独占市場】
- 9回 不完全競争と国際貿易(2)【ダンピング】【製品差別化】
- 10回 完全競争と貿易政策(1)【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 完全競争と貿易政策(2)【数量割当政策】【有効保護】
- 12回 不完全競争と貿易政策(1)【国内独占】
- 13回 不完全競争と貿易政策(2)【外国独占】
- 14回 不完全競争と貿易政策(3)【戦略的貿易政策】【幼稚産業保護】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(数回) 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、不完全競争、貿易政策

国際経済論II 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論Iも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門(経済学入門シリーズ)』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 国際収支表(1)【国民所得勘定】
- 3回 国際収支表(2)【経常収支】【資本収支】
- 4回 外国為替の基礎(1)【為替相場市場】【通貨制度】
- 5回 外国為替の基礎(2)【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 6回 外国為替取引(1)【直取引】【先渡取引】
- 7回 外国為替取引(2)【金利裁定】【通貨オプション】
- 8回 外国為替の決定理論(1)【アセット・アプローチ】
- 9回 外国為替の決定理論(2)【購買力平価】
- 10回 開放経済下の国民所得決定(1)【貿易乗数】
- 11回 開放経済下の国民所得決定(2)【需要の変化】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策(1)【マンデル＝フレミングモデル】【BP曲線】
- 13回 開放経済下のマクロ経済政策(2)【固定相場制】【財政政策】【金融政策】
- 14回 開放経済下のマクロ経済政策(3)【変動相場制】【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(回数) 40 % 期末試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
国際経済理論のロジックをしっかりと理解し、論理的思考力を身につけてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、外国為替、国民所得、開放経済下のマクロ経済政策

公共経済学【夜】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の目的は、公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について理解し、また1、2年次に学習したミクロ経済学、マクロ経済学を利用して、公共部門の経済活動について分析することです。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏『基礎コース 公共経済学』新成社（1998）○
井堀利宏『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社（2005）○
マンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社（2005）○
スティグリッツ『公共経済学』（上・下）（第2版）（2003）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN：公共経済学について
- 2回 経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習（2）【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 14回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論I【夜】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

教科書 /Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 ブルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストまたは宿題 ... 30% 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論II【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「金融論」で学習した基礎理論を応用し、バブル崩壊後の日本の銀行システムの問題点について学習する。本講義では、不良債権処理問題やBIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

教科書 /Textbooks

無し

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無し

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オーバーバンキング【日本の資金循環】
- 3回 オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
- 4回 不良債権処理問題【不良債権処理方法】
- 5回 不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
- 6回 BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
- 7回 BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
- 8回 BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
- 9回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
- 10回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
- 11回 郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化の問題点】
- 13回 郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
- 14回 サブプライム問題【サブプライム問題とは】
- 15回 サブプライム問題【証券化の問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストまたは宿題 ... 30% 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくと、講義内容が理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【夜】

担当者名 /Instructor 立石 揚志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

小峰隆夫『貿易の知識』（2版）日経文庫（2004年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志『海外直接投資とアジアの貿易循環』ふくろう出版（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 貿易とは何か。現代の貿易と経済。貿易の基礎理論
- 2回 貿易と経済・社会
- 3回 貿易と国際収支、為替レート
- 4回 貿易を巡る国際的枠組みとIMF体制
- 5回 GATTからWTO体制へ
- 6回 FTA/EPAを巡る国際的動き
- 7回 東アジア共同体構想の現状と将来
- 8回 日本経済と貿易の歩み
- 9回 貿易摩擦の変遷と日本の対応
- 10回 アジアとの生産分業が進んだ90年代以降の貿易
- 11回 貿易を巡る新しい動き
- 12回 グローバル化と反グローバル化
- 13回 直接投資の増大と貿易
- 14回 日本の貿易の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に興味をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論II 【夜】

担当者名 /Instructor 立石 揚志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

小峰隆夫『貿易の知識』（2版）日経文庫（2004年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志『海外直接投資とアジアの貿易循環』ふくろう出版（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 直接投資の増大と貿易
- 2回 日本の直接投資と貿易の変遷
- 3回 アジアを中心とするFTA, EPAの動き
- 4回 日本のFTA, EPAの現状
- 5回 東アジア共同体構想の推移
- 6回 東アジア共同体構想の歴史
- 7回 東アジア共同体の現状
- 8回 ASEANを巡る動き
- 9回 東アジア共同体の課題
- 10回 ASEAN+3, ASEAN+6
- 11回 国際経済学と国際貿易論
- 12回 自由貿易論への賛否
- 13回 国際貿易に関するトピックス
- 14回 TPPを巡る最新状況
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に興味をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論I【夜】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

奥田宏司ほか編(2009)『現代国際金融-構図と解明-』法律文化社。
なお、このテキストは国際金融論IIのテキストとしても使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

秦忠夫・本田敬吉(2007)『国際金融のしくみ』有斐閣アルマ。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。	
1回 国際収支	【複式簿記の原理】
2回 国際収支	【経常収支】 【資本収支】
3回 外国為替と国際通貨	【並為替・逆為替】
4回 外国為替と国際通貨	【基軸通貨】
5回 為替相場と円高・円安	【購買力平価】
6回 為替相場と円高・円安	【実効為替レート】
7回 戦後の国際通貨制度	【IMF】
8回 戦後の国際通貨制度	【変動相場制】
9回 発展途上国の開発金融	【世界銀行】
10回 発展途上国の開発金融	【直接投資】
11回 ドル体制の変遷	【プラザ合意】
12回 ドル体制の変遷	【世界金融危機】
13回 現代の国際金融・資本市場と金融機関	【投資銀行】
14回 現代の国際金融・資本市場と金融機関	【デリバティブ】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、学習支援フォルダにアップロードされる追加のプリントも、予習・復習の際に、必要に応じて参考にとすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

奥田宏司ほか編(2009)『現代国際金融-構図と解明-』法律文化社。
なお、このテキストは国際金融論Iのテキストとしても使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

秦忠夫・本田敬吉(2007)『国際金融のしくみ』(第3版)有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- | | |
|----------------------------------------|--------------|
| 1回 欧州通貨統合と「ユーロ体制」 | 【安定成長協定】 |
| 2回 欧州通貨統合と「ユーロ体制」 | 【ERM2】 |
| 3回 資本取引の自由化とエマージング市場国の通貨危機 | 【アジア金融・通貨危機】 |
| 4回 資本取引の自由化とエマージング市場国の通貨危機 | 【ロシア危機】 |
| 5回 東アジアの為替制度とドル、円、人民元 | 【ドルペッグ】 |
| 6回 東アジアの為替制度とドル、円、人民元 | 【不胎化介入】 |
| 7回 アメリカ発の金融危機 | 【サブプライム危機】 |
| 8回 アメリカ発の金融危機 | 【リーマンショック】 |
| 9回 欧州への金融危機の波及 | 【流動性危機】 |
| 10回 欧州への金融危機の波及 | 【ラトビア危機】 |
| 11回 危機の世界への波及と基軸通貨ドルのゆくえ | 【金融安定化法】 |
| 12回 危機の世界への波及と基軸通貨ドルのゆくえ | 【外貨準備】 |
| 13回 DVD学習(国際通貨危機に関する事例についてのNHKスペシャルなど) | |
| 14回 DVD学習内容の解説 | |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、追加の参考プリントを学習支援フォルダにアップロードするので、予習復習の際に参照すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略【夜】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
『ケースに学ぶ経営学[新版]』（東北大学経営学グループ著）有斐閣、2600円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略〈新版〉-論理性・創造性・社会性の追求-』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第 2回 経営戦略論の議論の歴史1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第3回 経営戦略論の議論の歴史2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第 4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第 8回 競争の戦略1【5フォースズ】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第 9回 競争の戦略2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第11回 戦略と企業間関係【サプライチェーン】、【ビジネスシステム】【アライアンス】
- 第12回 経営戦略と組織1【組織形態】、【事業部性】、【マトリックス組織】
- 第13回 経営戦略と組織2【組織革新】、【組織学習】【知識創造】。
- 第14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果(90%)によるが、必要に応じて学期中の小レポートの結果(10%)を加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

経営組織論 【夜】

担当者名 /Instructor 下川 進 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、経営組織論の理論的な理解を目的とする。
まず組織とは何か、そして人間と組織の関わりを考える。次に組織形態の歴史の変遷を概観する。そして、経営組織論における代表的な理論を歴史的に考察し、最後に経営組織論の今日的な理論を取り上げる。
また、理論だけでなく実際の考え方も随時取り入れ、理解を深める。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代の経営組織論』(佐久間信夫・坪井順一編著 ¥2,600)
- 『よくわかる組織論』(田尾雅夫編著 ミネルヴァ書房 ¥2,800)
- 『組織論』(桑田耕太郎・田尾雅夫 有斐閣 ¥2,100)
- 『現代ミクロ組織論』(二村敏子編 有斐閣 ¥2,400)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション, 組織の基本原則【組織の3要素】【機能と機能】
- 第2回 組織における人間【人間観】
- 第3回 組織の基本形態【スタッフ】【分権的組織】
- 第4回 現代的な組織形態【SBU】【プロセス組織】
- 第5回 人間関係論【社会人仮説】【非公式集団】
- 第6回 行動科学的理論【経済人モデル】【職務拡大】
- 第7回 バーナード理論【公式組織】【協働システム】
- 第8回 サイモン理論【意思決定】
- 第9回 企業行動理論【経営人モデル】【組織的意思決定】
- 第10回 組織行動論【ポルボシステム】【人的資源管理】
- 第11回 組織文化論【機能】【解釈】
- 第12回 組織間関係の理論(1)【外部環境】【パワー】
- 第13回 組織間関係の理論(2)【取引費用】
- 第14回 ポスト・モダンの組織論【パラダイム】【共約不可能性】
- 第15回 まとめ

授業の進行具合により変更する場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくはレポート・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」, 「マネジメント基礎論」を履修しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論 【夜】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂が公開されています。)
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ
 - 2回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務と組織の設計【分業】【調整】
 - 5回 人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 キャリア開発・人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 人事考課制度【人事考課】【目標管理】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 福利厚生制度【カフェテリア・プラン】、労使関係論の前半【企業別組合】
 - 11回 労使関係論の後半【団体交渉】、非正規従業員と人材ポートフォリオ【非正社員】
 - 12回 女性労働者と高齢労働者の問題【ダイバーシティ】【再雇用制度】
 - 13回 専門職制度・研究開発技術者の人的資源管理【プロフェSSIONAL】【R&D】
 - 14回 最近の人的資源管理学説【戦略的人的資源管理論】
 - 15回 まとめ、択一式問題演習

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% (出席は不定期に取り、単位の修得条件とする) 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくことよ。
また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語はしないこと、無断で遅刻・退席をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってほしい。
あと教科書は「改訂版」を使用するので、「初版」ではなくこちらを持参されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないであろう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずである。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれないが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえる。
なお、本科目は経営学の一分科目ではあるが、それほど専門的知識は必要としないため、地域創生学群や法学部などの学生の受講も十分に可能である。

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

企業ファイナンスI【夜】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業ファイナンスは企業の財務的意思決定（資本調達、投資、配当）を分析する学問です。企業ファイナンスIでは、企業における資金の流れと財務的意思決定に関するさまざまな基礎知識を学習し、財務的意思決定が会計数値にどのように反映され、またどのような影響を与えるかを学習します。さらに、日本企業の財務的意思決定の特徴や経営者に最適な財務的意思決定を行わせるためのメカニズム（コーポレート・ガバナンス）について学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読んで奥までわかる コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社、2009年。
(注意) 2009年発行の改訂版を使用します。2004年発行の初版は内容が若干異なりますので、注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション：企業の財務的意思決定とは？ 【投資】 【資本調達】 【配当】
- 第2回：企業ファイナンスの世界(a) 【レバレッジ効果】 【流通市場】
- 第3回：企業ファイナンスの世界(b) 【1株当たり利益】 【キャッシュフロー】 【減価償却費】 【内部留保】
- 第4回：投資の基礎知識 【設備投資】 【金融投資】 【ROA】
- 第5回：資本調達の基礎知識1(1)：自己資本調達(a) 【IPO】 【創業者利得】 【新株発行】 【公募時価増資】 【第三者割当増資】
- 第6回：資本調達の基礎知識1(2)：自己資本調達(b) 【内部資本調達】 【ROE】
- 第7回：資本調達の基礎知識2(1)：負債資本調達(a) 【流動負債】 【固定負債】 【CP】 【普通社債】
- 第8回：資本調達の基礎知識2(2)：負債資本調達(b) 【転換社債】 【ワラント債】
- 第9回：配当の基礎知識 【配当性向】 【配当利回り】 【自社株買い戻し】 【株式分割】
- 第10回：日本企業の財務政策(1) 【高度経済成長期】 【自己資本比率】 【銀行借入】 【社債発行規制】 【企業の銀行離れ】
- 第11回：日本企業の財務政策(2) 【バブル経済】 【エクイティファイナンス】 【安定配当】 【不良資産】 【債務免除】
- 第12回：日本企業の財務政策(3) 【安定配当】 【配当性向】 【自社株買い】
- 第13回：コーポレート・ガバナンス(1) 【エージェンシー問題】 【取締役会】
- 第14回：コーポレート・ガバナンス(2) 【経営者報酬】 【敵対的買収】
- 第15回：コーポレート・ガバナンス(3) 【銀行によるモニタリング】 【メインバンク】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験で評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの予習・復習を十分に行い、授業で提示する練習問題を繰り返し解くこと。毎回、電卓を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

講義資料を配布し、それに沿って授業を行う。毎回、配布済のすべての講義資料を持参すること。欠席した場合は、学習支援フォルダ（マネジメント研究科に配置されている）からダウンロードすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII【夜】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業ファイナンスは企業の財務的意思決定（資本調達、投資、配当）を分析する学問です。企業ファイナンスIIでは、株式市場での価格メカニズムを理解し、株式価値を上げるためにはどのような財務政策をとるべきかを考察します。具体的には、株価の決定メカニズム、企業の資本コスト、企業の最適な投資決定・資本構成・配当政策に関する基礎的な理論を学習します

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読めて奥までわかる コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社、2009年。
(注意) 2009年発行の改訂版を使用します。2004年発行の初版は内容が若干異なりますので注意して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：企業ファイナンスの世界【期待収益率】【標準偏差】【レバレッジ効果】
- 第2回：現在価値計算【現在価値計算】【リスク・プレミアム】
- 第3回：金融商品の価格決定(1)【社債価格】【株価】【配当割引モデル】
- 第4回：金融商品の価格決定(2)【一定配当モデル】【一定成長モデル】
- 第5回：金融商品の価格決定(3)配当パターンが変化する場合の株価計算
- 第6回：金融商品の価格決定(4)【企業価値】【DCF法】
- 第7回：資本コスト(1)【自己資本コスト】【負債資本コスト】【WACC】
- 第8回：資本コスト(2)【WACC】
- 第9回：資本コスト(3)【CAPM】【 β 】
- 第10回：投資決定の基礎理論(1)【正味現在価値法】
- 第11回：投資決定の基礎理論(2)【内部収益率法】【投資の資本コスト】
- 第12回：資本構成の基礎理論(1)【MMの資本構成無関連命題】
- 第13回：資本構成の基礎理論(2)【負債の節税効果】【倒産コスト】
- 第14回：配当政策の基礎理論【MMの配当政策無関連命題】【証券税制】
- 第15回：予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

主に試験で評価するが、授業中の問題演習発表も考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの予習・復習を十分に行い、授業で提示する練習問題を繰り返し解くこと。毎回、電卓を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

企業ファイナンスIを履修していることが望ましい。
講義資料を配布して解説する。毎回、配布済のすべての講義資料を持参することが望ましい。欠席した場合は学習支援フォルダ(マネジメント研究科に配置されている)からダウンロードすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【夜】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、(2010年11月)、1,890円(当時)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計(会计学)とは何か?【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【売却時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計【売上原価について】
- 9回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 10回 原価と時価【有用性】
- 11回 資産について【資産概念の変化について】
- 12回 負債について【負債概念の変化について】
- 13回 財務会計の基礎【発生主義会計】
- 14回 会計のルール【企業会計原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中小企業論 【夜】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていくことを、本コースの目的とする。

教科書 /Textbooks

6月頃発売予定の中小企業庁編「2011年版中小企業白書」経済産業調査会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】 【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】 【問屋制下請】 【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 "
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】 【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理
 - 第13回 "
 - 第14回 "
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
出席・課題等の平常点・・・30% 期末レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コーポレートガバナンス【夜】

担当者名 /Instructor 晴山 英夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレートガバナンス（企業統治）は近年、日本でも欧米でも大きな注目を集めている。それは、ガバナンス問題が企業の在り方や存在意義にかかわっているだけでなく、企業の活力や国際競争力を左右する戦略要因になってきているからである。本講義の狙いは、会社法や経済学の成果を活用しながら、経営学の観点からその意義と課題を明らかにし、日本におけるガバナンスの改革の方向性について検討することにある。

教科書 /Textbooks

レジュメとプリントを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コーポレートガバナンスとは何か
- 第2回 企業支配論からガバナンス論へ
- 第3回 企業主権論：株主理論とステークホルダー論
- 第4回 ガバナンス方法論：内部コントロールと外部コントロール
- 第5回 エージェンシー理論とM&A
- 第6回 アメリカの内部監督システム
- 第7回 ドイツの内部監督システム
- 第8回 日本の内部監督システム
- 第9回 中国の内部監督システム
- 第10回 経営者の報酬問題
- 第11回 日本のガバナンスの功罪
- 第12回 日本のガバナンス改革：監査役設置会社の事例
- 第13回 日本のガバナンス改革：委員会設置会社の事例
- 第14回 日本の経営の再生に向けて
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（課題、小テストを含む）30%、 期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「なし」

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教師の役割、教師の職務内容等に関する知識の修得と、教職についての理解と考察の過程を支援することによって、教育と教職に対する実践意欲を喚起し、同時に教育と指導のあり方について助言する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回 教育とは何かI	【学校教育】 【学習と生活】
2回 教育とは何かII	【教育】 【学校】 【生活と文化】 【教育の二つの思潮】
3回 教育の目的	【教育目的論】 【学校と学習】
4回 教育の内容	【教育課程】 【教育課程の編成原理】 【教育課程の歴史】
5回 教育の方法	【指導の本質】 【指導の方法】
6回 生徒指導のあり方	【生徒指導の前提】 【生徒指導の伝統】
7回 職業指導・進路指導	【キャリア教育】 【職業選択の基礎理論】
8回 教師本来のあり方	【教師の仕事】 【子どもの見方】
9回 生徒の生きる力を育てる教育	【生きる力】 【青少年の意識】
10回 性の教育	【思春期の発達】 【カリキュラム】
11回 教育評価	【評価の種類】 【体罰と懲戒】
12回 いのちの教育	【生と死の教育課程】 【いのちの教育の方法】
13回 身体教育	【食教育】 【排便教育】
14回 これからの教育	【学校の役割】 【中等教育】
15回 教師の「資質」とは何か / まとめ	【教師の禁句】 【指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 学校体系
- 6回 教育課程の意義と編成(1) 教科書・教材、学習指導要領
- 7回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 8回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 10回 生涯学習制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携
- 11回 子育てをめぐる諸問題 子育て不安、教育と福祉
- 12回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導の向上を図る。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育の目的と社会科の役割
- 2回 地理的分野の目標とその取り扱い [学習指導要領]
- 3回 世界と日本の様々な地域
- 4回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 5回 歴史のとらえ方と古代・中世・近世・近現代の日本と世界
- 6回 公民的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 7回 私たちと現代社会・政治・経済と国際社会の諸問題 (グループ討議)
- 8回 学習指導要領の変遷と社会科の歩み
- 9回 指導計画の作成と内容の取り扱い
- 10回 資料活用と作業的・体験的な学習
- 11回 指導案の作成と留意点
- 12回 政治及び宗教に関する事項の取り扱い
- 13回 戦前・戦後の社会科教育 [戦前・戦後の教育改革]
- 14回 学習指導要領の総則・学習基本法施行規則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 . . . 30%
レポート . . . 40%
学習指導案 . . . 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメと資料を熟読しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法B 【夜】

担当者名 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導力の向上をはかる。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これからの学校教育に求められるもの [教師の使命感]
- 2回 教師に求められる資質能力 (グループ討議) [自己分析] [目指す教師像]
- 3回 学校の教育課程
- 4回 学習指導の評価
- 5回 生徒の実態把握と教材研究 (グループ討議) [生徒の特性・生徒との信頼関係]
- 6回 指導案の作成と問題点 その1
- 7回 指導案の作成と問題点 その2
- 8回 地理的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 9回 歴史的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 10回 公民的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 11回 高等学校学習指導要領「地歴科」の内容と取り扱い
- 12回 高等学校学習指導要領「公民科」の内容と取り扱い
- 13回 教育基本法・学校教育法改正案の要旨
- 14回 学習基本法施行規則・地方教育行政法改正案要旨
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 授業中の質疑 ... 30%
応答での絶対
評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジユメや資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育も含む）における道徳教育について学修するためのものである。この学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に規定されているので、それを基礎にして、具体的な道徳教育のあり方と指導方法について学修する。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
 - 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
 - 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
 - 4回 「特別活動」と道徳教育 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
 - 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【活動】
 - 6回 「道徳の時間」と道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
 - 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
 - 8回 「道徳の時間」の指導技術 【指導技術】 【指導事例】
 - 9回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
 - 10回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
 - 11回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
 - 12回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
 - 13回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
 - 14回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
 - 15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ③ 子どもたちの自治の力を育む生徒会活動、学校行事の在り方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班ノート、班活動などに視点をあてて
- 8回 すべての子どもの居場所となる学級づくりの課題 - 班長・リーダー指導に視点をあてて
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合掌コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職の科目です。教員をめざす学生にふさわしい、真摯な授業態度と積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、市民的スキル、自治の力

教育方法学【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校の教育も含む）における教育方法についての理論と具体的な方法・技術を学修する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「教育方法」とは何か 【教育方法の形態】【比喻・モデル】
 - 2回 21世紀の教育方法 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
 - 3回 「授業（学び）」の構想 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
 - 4回 授業における展開と「タクト」 【競争原理】【教授学的タクト】
 - 5回 学びを反省・評価する 【評価の方法】【自己評価能力】
 - 6回 学びのシステムのこれまでとこれから 【出席と参加】【学習規律】
 - 7回 「学び」の具体的システムづくり 【相互主体論】【受容】
 - 8回 これからの学びを支える新しいネットワーク 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
 - 9回 情報機器と教材の活用 【マルチメディア】【授業形態】
 - 10回 新しい教師への道を拓く 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
 - 11回 性教育の指導の視点 【ジェンダー】【性】
 - 12回 学習遅滞の指導 【学習遅滞】【学習障害】
 - 13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション 【発話】【聴取】
 - 14回 教育方法における「近代」と「現代」 【連続と非連続】【現代化】
 - 15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ 【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を修得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習1」オリエンテーション	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】 【教師の勤務】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学校)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高等学校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 学級経営について	【学級集団づくり】 【学級通信】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】 【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】 【授業記録シート】
9回 子どもの人権と教育	【人権】 【自尊感情】
10回 教材研究と授業構想	【刻々の教材研究】 【学習指導案】
11回 教師の資質とは何か	【教師の資質】 【事前の準備】
12回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
14回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
15回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 第 1 回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2 回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3 回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
						○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、①一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。

さらに、不登校やいじめなど、様々な問題を出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房 第1部

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 不登校の子どもに対する教育相談
- 12回 保護者に対する教育相談
- 13回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点30点、レポート15点、期末試験55点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをしっかりと読んで授業に参加してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を希望する学生には、それにふさわしい真摯な授業態度と活動への意欲的な参加を期待したい。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ・不登校

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、積極的生徒指導(子どもの発達支援としての生徒指導)に視点をあてて検討していくこと。
 - ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
 - ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
- 本授業のキーワードは、積極的生徒指導、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 一文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その1
- 5回 子どもの発達支援としての生徒指導の課題と方法 一 文科省編「生徒指導提要」を手がかりに その2
- 6回 生徒指導における関係諸機関との連携について - スクールソーシャルワークに視点をあてて
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サバイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%-

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5,6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達支援としての生徒指導、児童虐待、進路指導

教育心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校や家庭での教育活動にかかわる様々な問題を心理学的側面に注目して取り上げる。学習過程や、教師の役割、教師と生徒との関係性などについての考え方を身につけることを目標とする。この講義を受けることによって教育の難しさについて考える機会になることを望むと同時に、解決の一助となつてほしい。講義が中心であるが、体験しながら具体的な関わりを考えることができるような授業となっている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 オリエンテーション、学校の意義、教育の意義
- 2 回 幼児、児童の心身の発達と教育(表象世界、しつけ、不適応)
- 3 回 児童期の発達(学級崩壊等)
- 4 回 発達の個人差と障害児【障害理解】
- 5 回 発達の個人差と障害児【障害児の集団との関わり】
- 6 回 学習過程(条件づけ、強化、般化、モデリング、洞察等)
- 7 回 動機づけ(内発的動機づけ、帰属等)
- 8 回 家庭における教育【育児】【しつけ】
- 9 回 家庭における教育【教育への動機】
- 10 回 学校組織と教師(組織としての学校の特殊性、職業としての教師の特殊性)
- 11 回 教室内過程【教師生徒との関係】
- 12 回 教室内過程【生徒間関係】
- 13 回 教育評価(測定とその活用)
- 14 回 現代の教育問題について
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト ... 100%

※小テストは3~4回行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規
- 2回 生徒の懲戒
- 3回 いじめ・不登校と指導
- 4回 組織としての学校
- 5回 組織としての学校における教員
- 6回 教員の懲戒
- 7回 教員の指導力をめぐって
- 8回 教育活動と著作権
- 9回 教育情報の取り扱い
- 10回 教育情報の発信
- 11回 学校の安全
- 12回 地方教育行政と学校
- 13回 保護者・地域と学校
- 14回 保護者・地域の教育参加・連携
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等も含む参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords